

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	-	7.2	-	底部 ヘラ削り	25	良好	5YR6/6 橙色	
2	土師器	碗	-	5.2	-	外面 ヘラ削り 底部 ヘラ削り	20	良好	10YR6/3 鈍い黄橙色	

第55表 H11号住居址出土遺物観察表



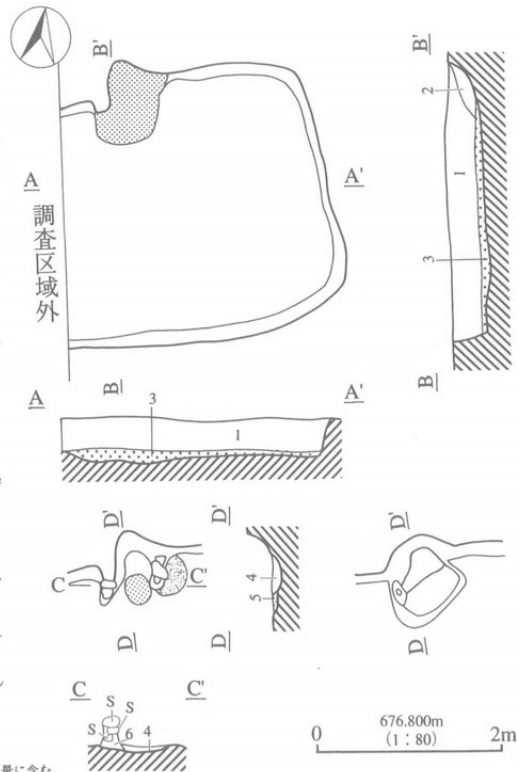
写154 H11号住居址かまど（南から）



写155 H11号住居址掘方全景（南から）

### H12号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの西端D-えー3グリットに位置し住居址の西側は調査区外となる。（調査区西側は、以前下水道工事が行われており、遺構はすでに破壊されている）北側に流れる湯川との距離は51mである。遺構は砂礫層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き単層で、石を多量に含んだ砂混じりの黒褐色土である。調査規模は南北2.62m、東西2.88m、深さ0.38m（床面）を測り、平面形は隅丸方形と思われる。壁は垂直気味に立ち上がる。床面は砂礫質でやや堅さを持ち、ピットは確認できなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、両袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から住居内に40cm入り込み、芯材として石が利用され、これ



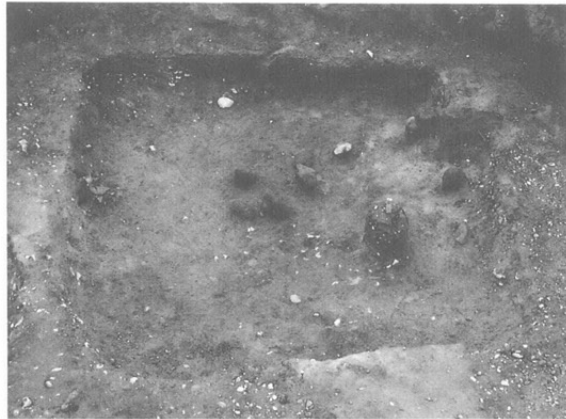
- 1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂粒、1~3cmの小石、5~15cm大の石を多量に含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂粒、焼土、1~3cm大の小石を含む。
- 3層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂粒、1~5cm大の小石を多量に含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂粒、焼土を含む。

- 5層 褐色土層 (7.5YR 4/6) 焼土層。
- 6層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂粒、粘土、焼土粒を含む。

第114図 H12号住居址実測図

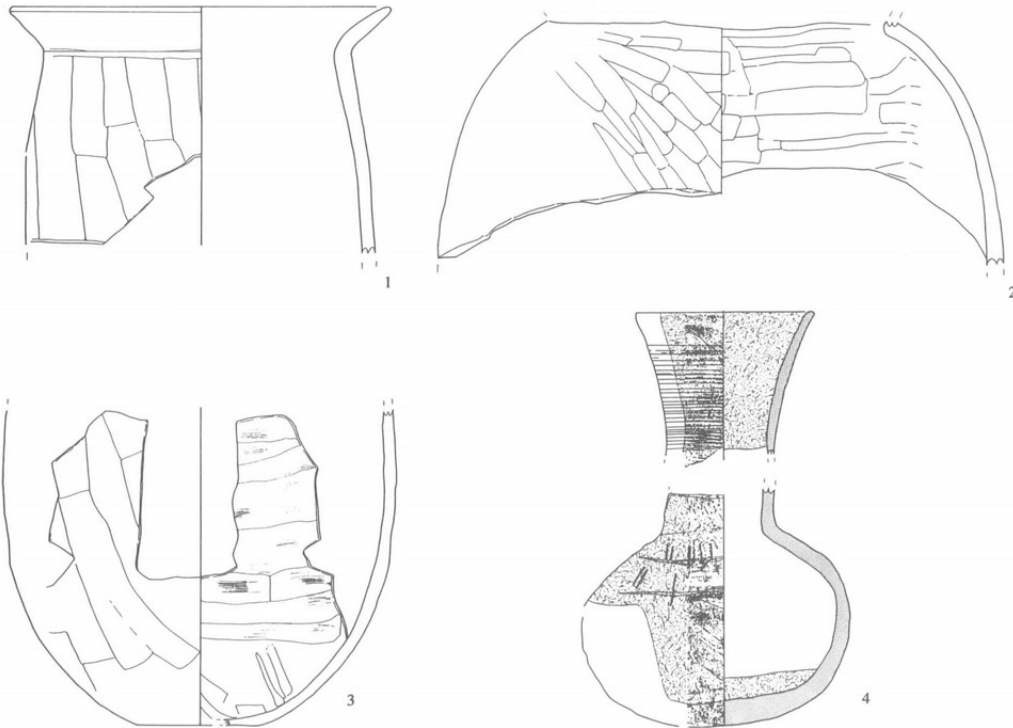
を粘土混じりの暗褐色土で覆うように構築されていた。火床はほぼ円形に掘り込まれており厚さ5cmの焼土が堆積していた。住居址の掘方は全体に8~12cm掘り込まれ、ローム粒、小石を多量に含む暗褐色土が含まれていた。

遺物は土師器の甕、高坏、須恵器の坏、長頸壺、叩き石がテンバコ2分の1箱出土している。1は土師器の甕でやや器厚が厚く、口縁の形態が「く」の字を呈し、外面にヘラ削りを施す。2は胴丸の甕で外面にヘラ削り、



写156 H112号住居址全景（東から）

内面にヘラナデを施す。3は土師器の甕の底部で、平らな底部からやや丸みをもちつつ上部へと立ち上がり、外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施す。4は須恵器の長頸壺と思われる、頸部に横方向の幾筋もの沈線、体部上面に縦方向の沈線を施す。また小破片のため図示し得なかったが底部ヘラ削りの須恵器坏も出土している。本住居址は7C末~8C初頭と考えられる。



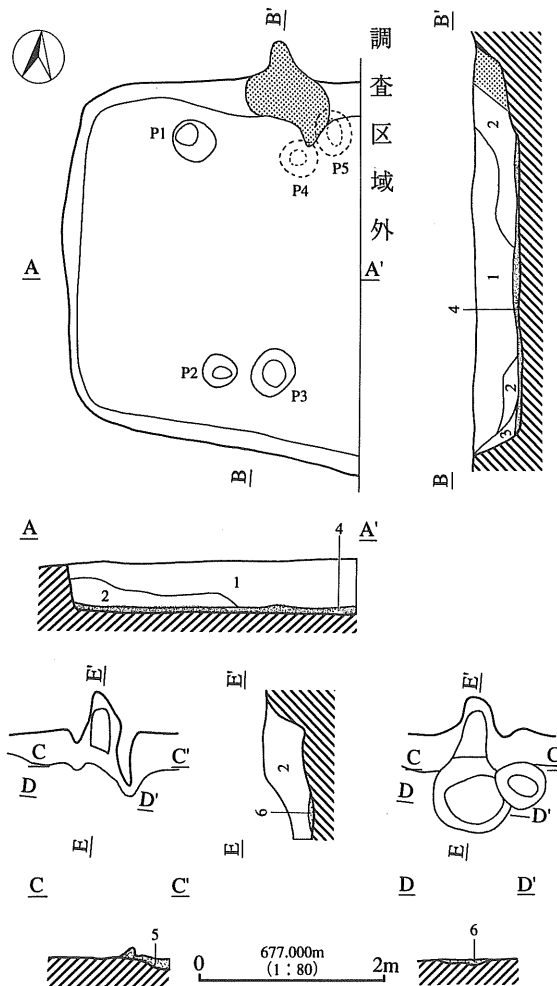
第115図 H112号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	20.3	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁70	良好	10YR8/4 浅黄橙色	
2	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	体部の 一部	良	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	甕	-	(6.6)	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	15	良好	5YR2/1 黒褐色	
4	須恵器	長頸壺	(9.8)	(5.4)	-	外面 工具による沈線	40	良好	N3/0 暗灰色	釉付着

第56表 H12号住居址出土遺物観察表

H13号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの東端D-あ-5グリットに位置し、遺構の東側は調査区外となる。北側に流れる湯川との距離は42mである。調査規模は南北3.60m、東西3.00m、深さ0.52m(床面)を測り、平面形は隅丸方形と思われる。壁は垂直気味に立ち上がり、ややしまりがある。床面は堅くほぼ平らである。ピットは床面上から3個確認できた。このうち支柱穴はP1、2と思われる。東側に存在すると思われる2個のピットは、住居址東側が調査区外のため確認できなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、袖の一部が残存していた。袖は粘土で構築されている。火床と思われる付近に焼土・炭化物は確認できなかったが、掘方において火床と思われる付近にほぼ円形の堀り込みが認められた。住居址の掘方は4~8cmの厚さで掘り込まれており、褐色土が詰め込まれていた。また、かまど付近から新たに2個のピットが認められた。



- 1層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂粒、シルトブロックを含み、粘土粒をわずかに含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂粒シルトブロックを含む。
- 3層 褐色土層 (10YR 4/6) 砂主体。暗褐色土ブロックを含む。
- 4層 褐色土層 (10YR 4/4) 貼り床。砂主体。黒褐色土、2~5cm大の小石を多く含む。
- 5層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 粘土層。黒褐色土ブロックを含む。
- 6層 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層。しまりなし。

第116図 H13号住居址実測図

内外面にミガキを施し、脚部の裾が末広がりであることがうかがい知ることができる。

出土遺物はわずかだが、ミニチュア土器の存在、内外面にミガキを施し、脚部が末広がりの高杯の存在などから本住居址は5C代と考えられる。



第117図 H13号遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	ミニチュア土器	壺	(3.8)	丸底	5.6	底部	へら削り	60	良好	5YR6/6 橙色	輪積み痕

第57表 H13号住居址出土遺物観察表



写157 H13号住居址全景 (南から)



写158 H13号住居址かまど (南から)



写159 H13号住居址かまど掘方 (南から)

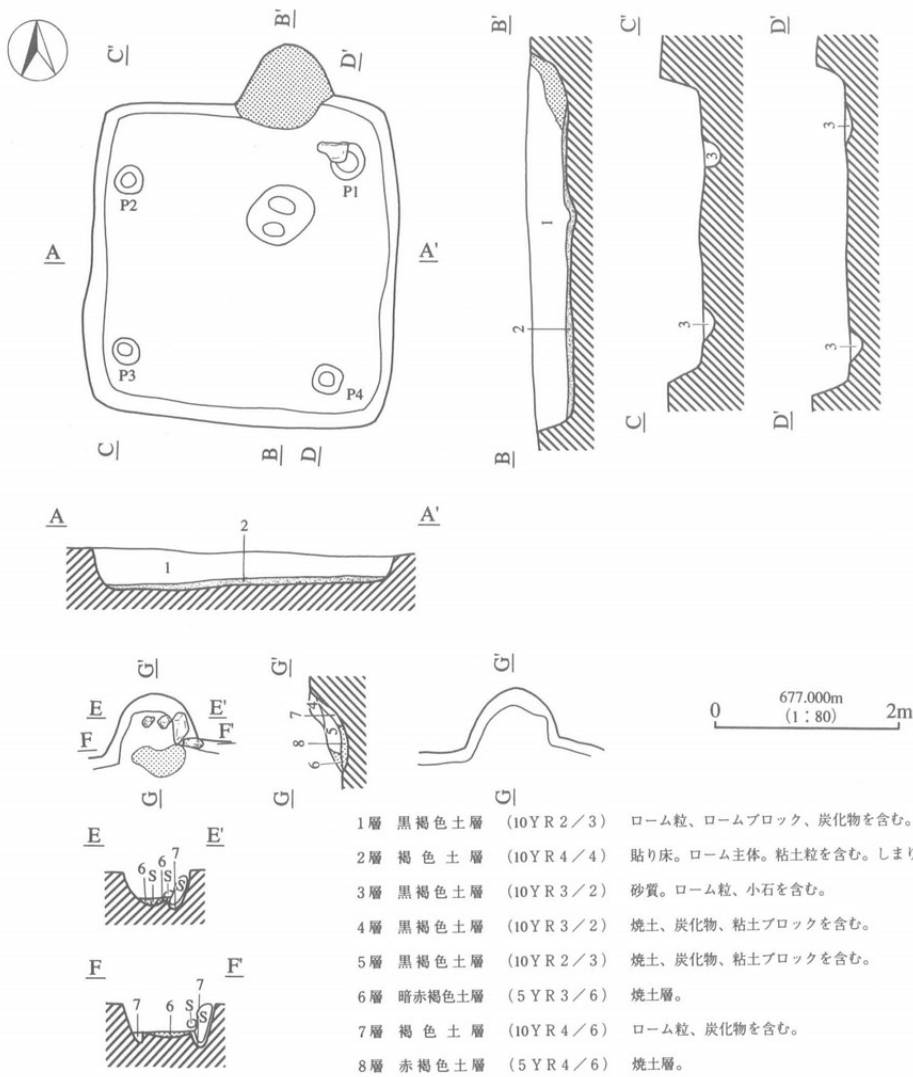


写160 H13号住居址掘方全景 (西から)

#### H14号住居址

遺構は調査区中央のやや北よりの東際付近C-コー4グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は39mである。規模は南北3.28m、東西3.30m、深さ0.45m(床面)を測る。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き単層で、砂粒を多く含んだ黒褐色土である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面はやや堅さを持ち、ピットはコーナー付近に4個確認できた。支柱穴と思われる。かまどは北壁中央のやや東よりに位置する。かまどは壁面からやや外側に張り出し、かまど東壁には壁面を押さえるように扁平な石が押さえつけられていた。火床はほぼ壁の延長線上に位置し、焼土の堆積が見られた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕、磨石がテンバコ3分の1箱出土している。1・2は須恵器の坏で平らにへら削りされた底部から、やや開き気味に口縁へと立ち上がる。3は須恵器の坏



第118図 H14号住居址実測図



写161 H14号住居址全景 (西から)



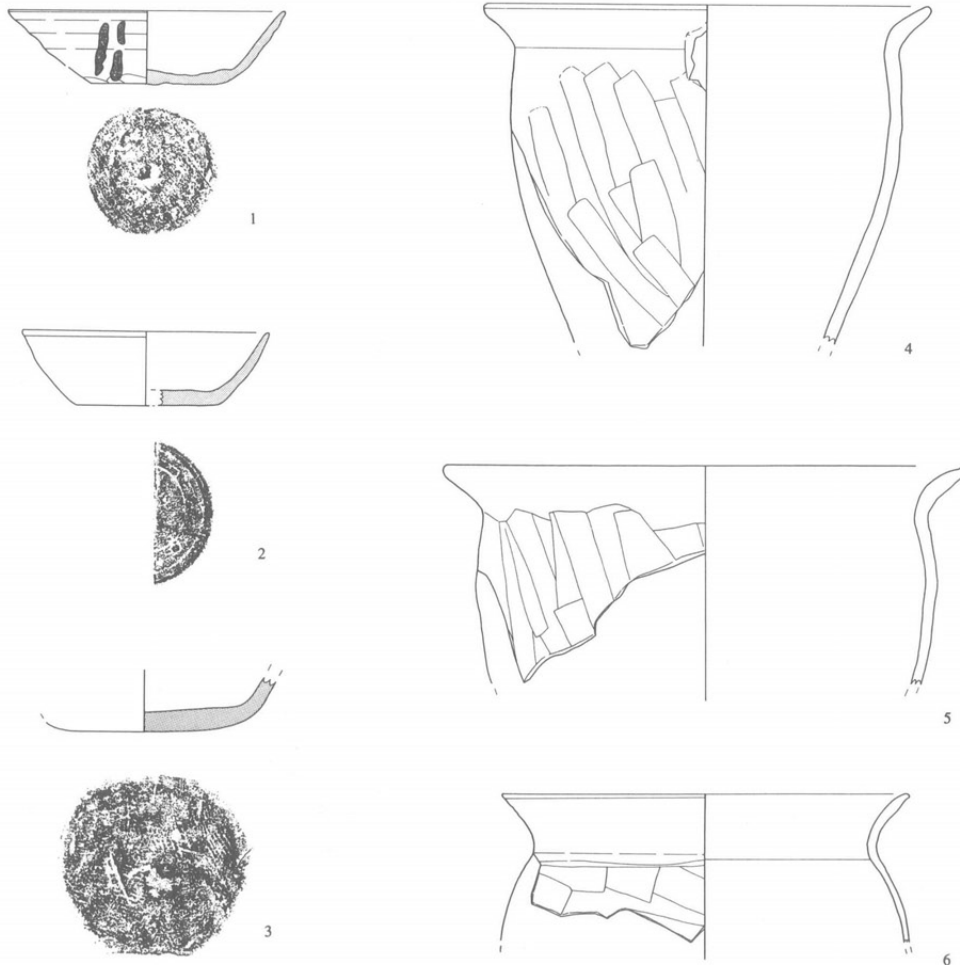
写162 H14号住居址かまど (南から)

の底部で、ほぼ平らにヘラ削りされた広めの底部を持つ。4・5は土師器の甕で口縁はやや開き気味で、形態は「く」の字を呈する。外面はヘラ削りを施す。6は土師器の甕で4・5に比べやや口がせまい。口縁の形態は「く」の字を呈し、外面にはヘラ削りを施す。須恵器の甕は小破片で表面に平行叩きを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



写163 H14号住居址掘方全景（西から）



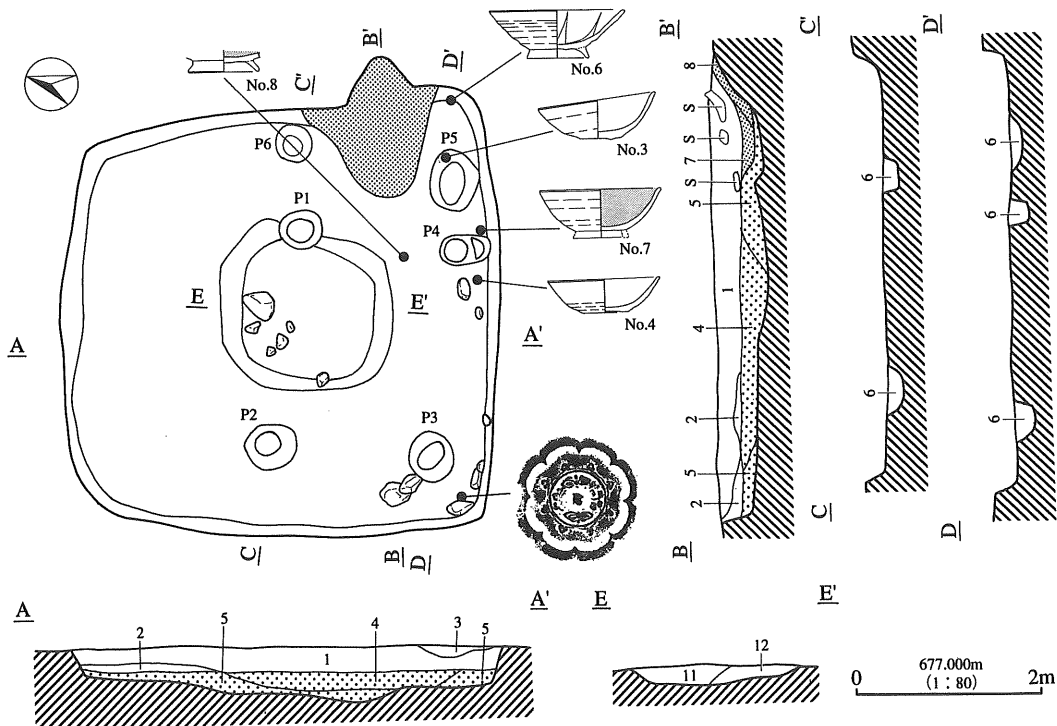
第119図 H14号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(14.8)	6.9	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	50	良好	10YR6/1 灰色	火だすき
2	須恵器	坏	(13.4)	(7.8)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部 ヘラ削り	40	良好	7.5Y6/1 灰色	
3	須恵器	坏	-	9.7	-	底部・底部周辺 ヘラ削り	底部	良好	2.5Y6/1 黄灰色	
4	土師器	甕	(24.0)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁周辺 一部	良好	7.5YR7/3 鈍い橙色	
5	土師器	甕	(28.4)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁周辺 一部	良	10YR6/4 鈍い黄橙色	
6	土師器	甕	(21.8)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁周辺 一部	良好	10YR5/6 赤色	

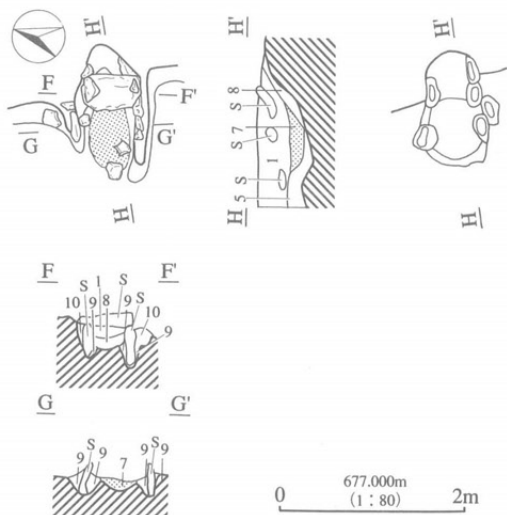
第58表 H14号住居址出土遺物観察表

### H15号住居址

遺構は調査区中央の東際C-C-7グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は46mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き3層である。1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土で、2層は地山の砂粒を多く含む褐色土、3層は黒褐色土である。規模は南北4.44m、東西4.40m、深さ0.34m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がり、ややしまりがある。床は全体的にやや堅さをもち、中央付近にあさい窪みが存在する。ピットは6個確認できた。このうち支柱穴はP1～P4と思われる。かまどは東壁の南側に位置する。袖は東壁から住居内に120cm入り込んでおり、芯材に石を利用し、し



第120図 H15号住居址実測図



- |     |                     |                    |
|-----|---------------------|--------------------|
| 1層  | 黒褐色土層 (10YR 3/2)    | ローム粒、炭化物を含む。       |
| 2層  | 褐色土層 (10YR 4/4)     | ローム、小石1~3cm大を多く含む。 |
| 3層  | 黒褐色土層 (10YR 2/3)    | ローム粒を含む。           |
| 4層  | 褐色土層 (10YR 4/4)     | ローム主体。黒褐色土を含む。     |
| 5層  | 暗褐色土層 (10YR 3/4)    | ローム主体。小石多くバミスも含む。  |
| 6層  | 黒褐色土層 (10YR 3/2)    | ローム粒、2~5cm大の小石を含む。 |
| 7層  | 褐色土層 (10YR 4/6)     | 焼土層。炭化物、粘土粒を含む。    |
| 8層  | 暗褐色土層 (10YR 3/3)    | 焼土、炭化物を含む。         |
| 9層  | 暗褐色土層 (10YR 3/3)    | ローム粒を含む。しまりややあり。   |
| 10層 | にぶい黄褐色土層 (10YR 4/3) | 炭化物、焼土粒を含む。        |
| 11層 | 褐色土層 (10YR 4/4)     | ローム主体。炭化物を含む。      |
| 12層 | 暗褐色土層 (10YR 3/3)    | ローム粒、炭化物を多く含む。     |

第121図 H15号住居址かまど実測図

まりのある暗褐色土に覆われていた。また東壁の延長線上付近には扁平な大型の天井石が認められた。火床は住居址東壁面のやや内側に位置し、焼土の堆積が認められた。掘方は床面から14~22cm堀り込まれており褐色及び暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、灰釉陶器、鏡、磨石がテンバコ5分の1箱出土している。中でも鏡は、県内では初と思われ、全国的には10例内外の報告がある奈良時代の花卉双蝶八花鏡で、今回一般的な住居址から出土しているのは注目すべき点である。出土土器のうち土師器の甕、須恵器の坏、甕は小破片のみで、今回図示し得たのは土師器坏を中心とした9点である。1・2・3・4は土師器の坏で回転糸切り後無調整の小型の底部からやや内湾気味に立ち上がる。5・6・7・8は土師器の椀で内面に放射状の暗文をもつ、特に7の暗文は矢印と花びら状の暗文が施されており、特徴的である。9は灰釉陶器である。住居址は奈良時代とされる鏡の出土が認められるが、出土土器の特徴から9C後半~10C初頭と考えられる。鏡については伝世鏡と考えるのが妥当であろう。



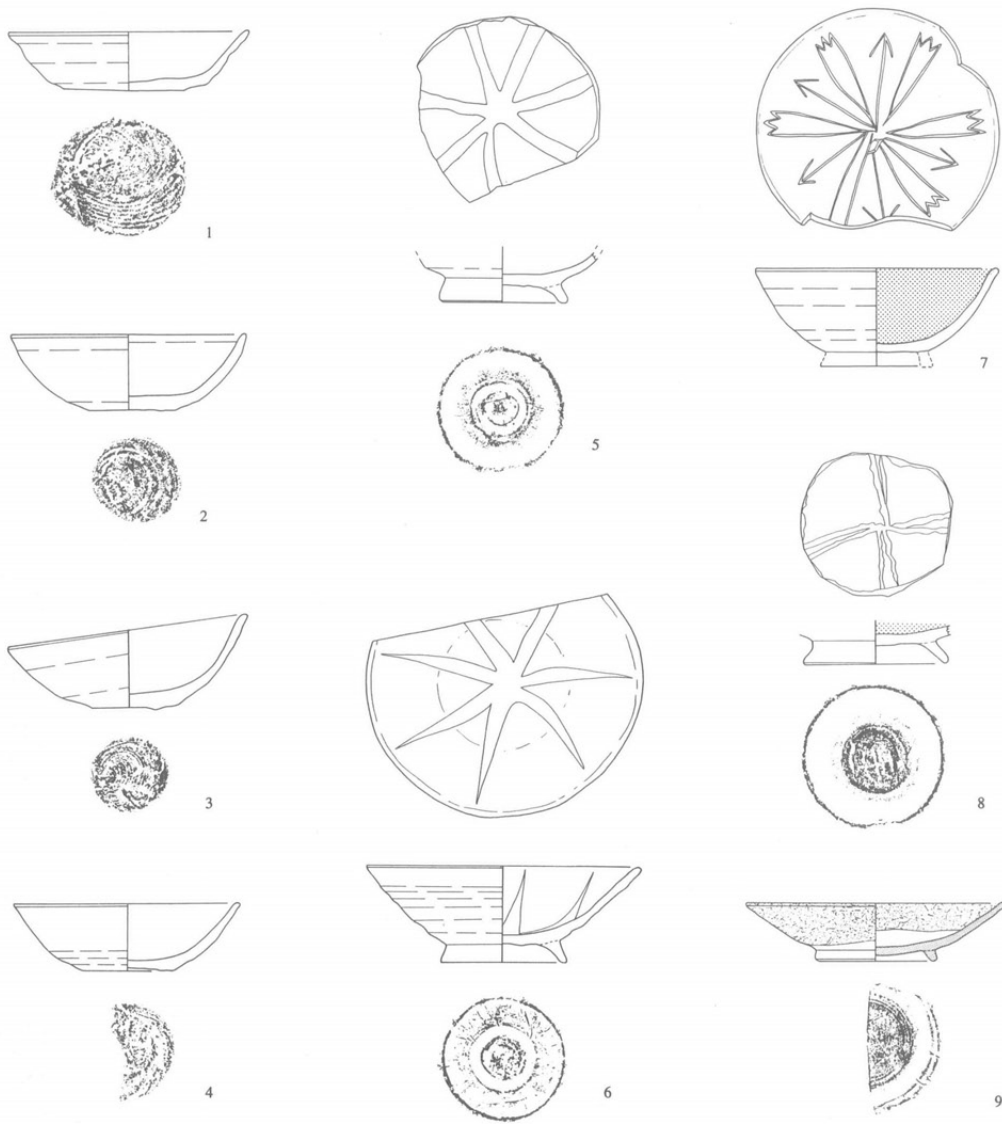
写164 H15号住居址全景（北から）



写165 H15号住居址鏡出土状況

鏡については伝世鏡と考えるのが妥当であろう。





第122図 H15号住居址出土遺物実測図



写166 H15号住居址かまど（西から）



写167 H15号住居址掘方全景（北から）

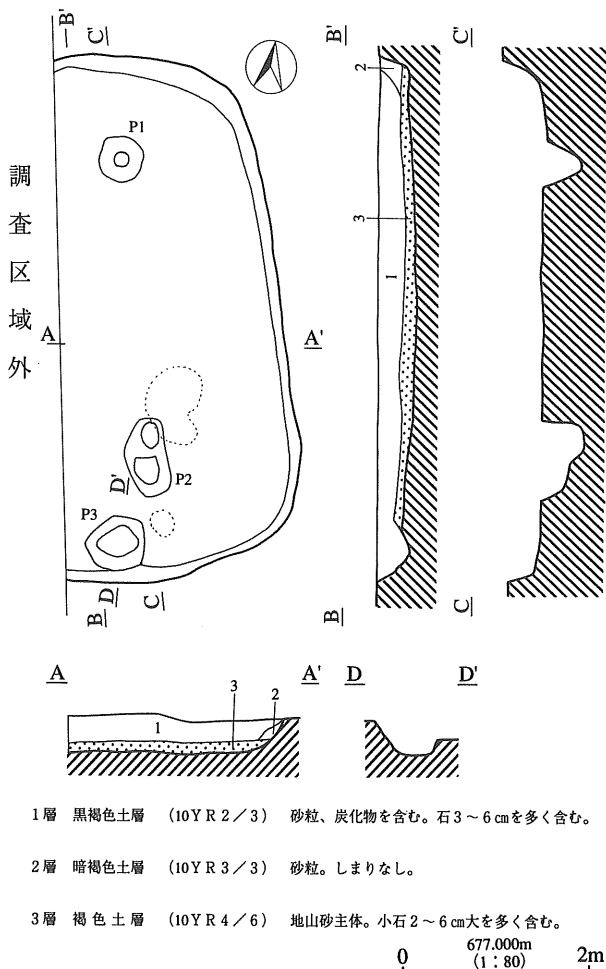
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	13.0	7.5	3.2	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	100	良好	5YR6/6 橙色	
2	土師器	坏	12.4	4.5	4.0	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	60	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	坏	12.8	4.9	4.1	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	80	良好	5YR6/6 橙色	
4	土師器	坏	12.2	5.0	3.5	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	50	良好	7.5YR5/4 鈍い赤褐色	
5	土師器	椀	-	6.9	-	内面 放射状の暗文 底部 高台張り付け	40	良好	5YR7/6 橙色	暗文
6	須恵器	椀	14.7	6.7	5.2	内面 放射状の暗文 底部 高台張り付け	80	良好	5YR7/4 鈍い橙色	暗文
7	土師器	椀	13.2	5.5	4.3	内面 黒色処理・矢印状・花卉状の暗文 底部 高台張り付け痕	85	良好	7.5YR5/6 明赤褐色	暗文
8	土師器	椀	-	7.6	-	内面 黒色処理・放射状の暗文	30	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	暗文
9	灰釉陶器	皿	(14.0)	(6.6)	3.1	底部 高台張り付け	20	良好	7.5YR7/2 明褐色	

第59表 H15号住居址出土遺物観察表

### H16号住居址

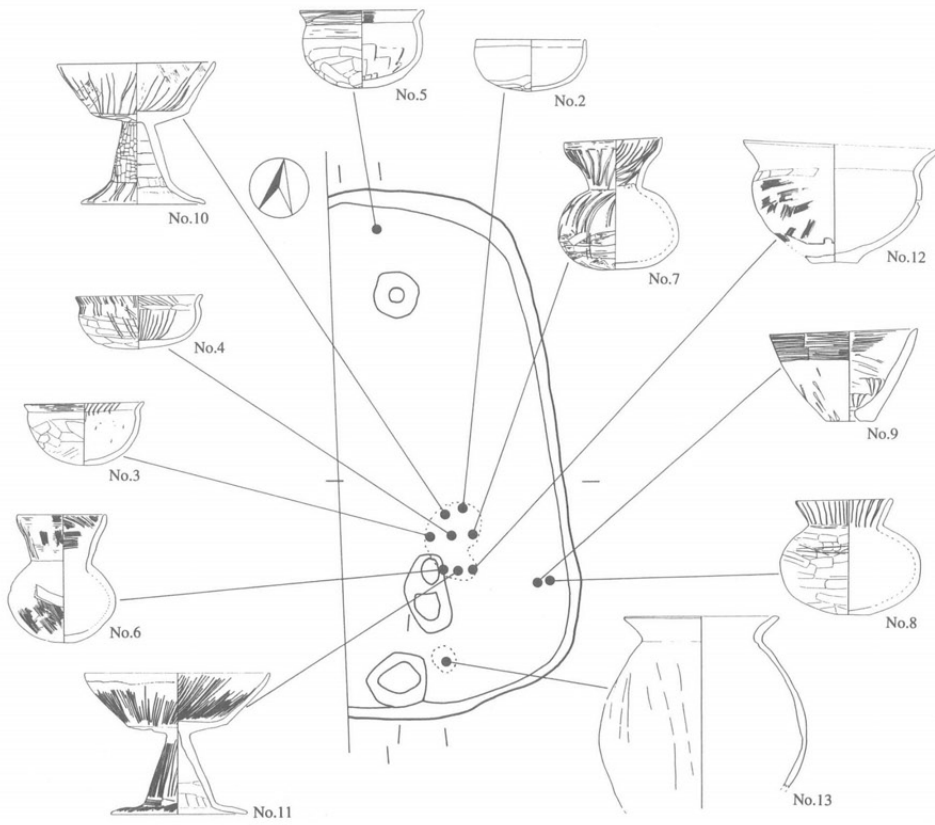
遺構は調査区中央付近の西際D-えー5グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は55mである。住居址西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており遺構はすでに破壊されている。)遺構は砂礫層に堀り込まれており、床面までの覆土は2層確認できた。1層は、砂・石を多く含んだ黒褐色土で、2層は砂を多く含む暗褐色土である。規模は調査規模で南北5.32m、東西2.44m、深さ0.24m(床面)を測る。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は砂質でややしまりがあり、床面上からは多数の土器が出土した。ピットは3個確認できた。このうち支柱穴はP1・2と思われる。かまど、炉などの施設は認められなかった。

遺物は住居址中央付近に集中して出土しており、土師器の広口壺、高坏、甕な



- 1層 黒褐色土層 (10Y R 2/3) 砂粒、炭化物を含む。石3~6cmを多く含む。
- 2層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) 砂粒。しまりなし。
- 3層 褐色土層 (10Y R 4/6) 地山砂主体。小石2~6cm大を多く含む。

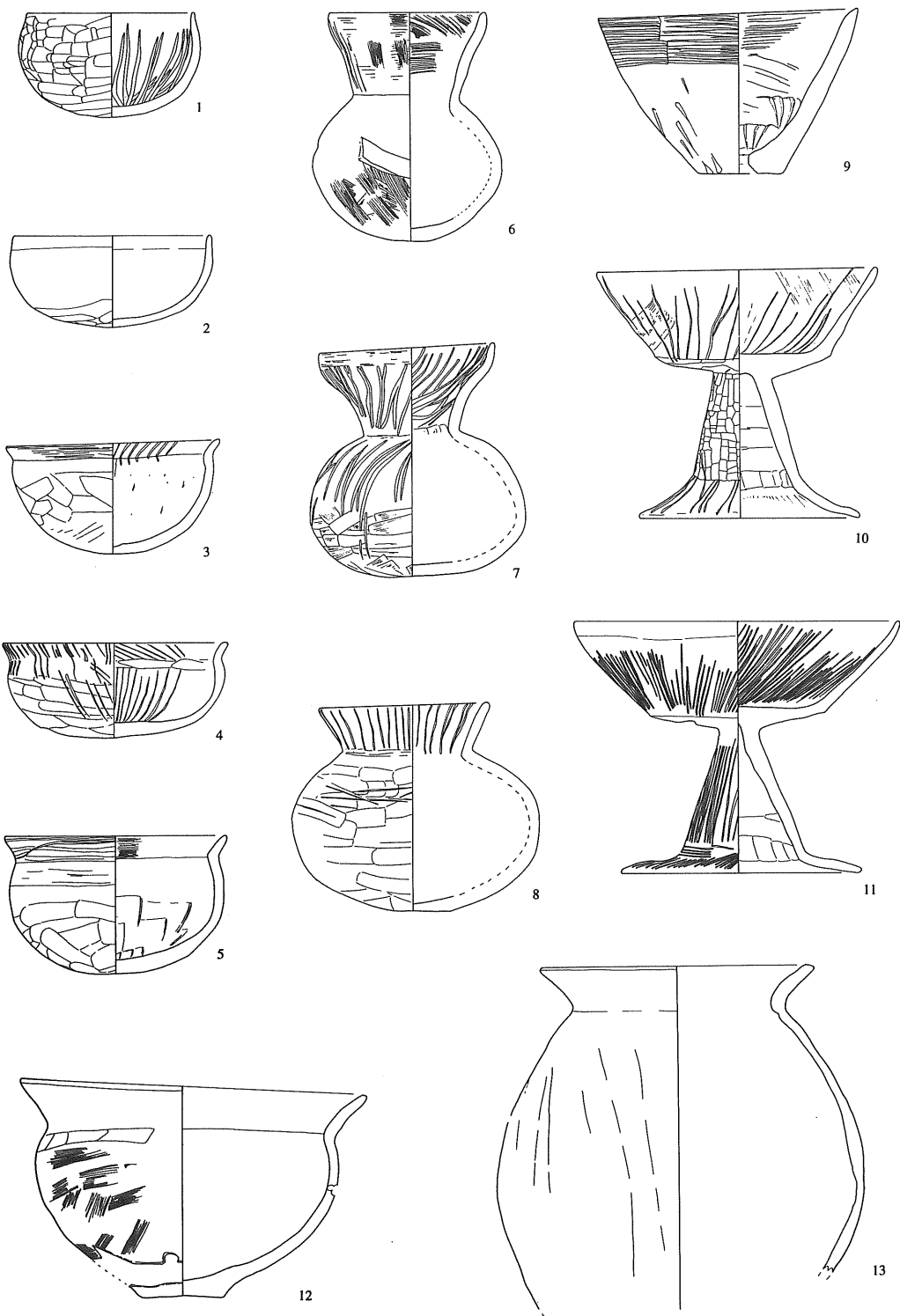
第123図 H16号住居址実測図



第124图 H16号住居址遺物出土位置图



写168 H16号住居址遺物出土状况



第125図 H16号住居址出土遺物実測図

どテンバコ1箱出土している。1～5は広口壺で、住居址からは破片を含め、多数認められた。6・7は小型丸底壺で、6は7に比して胎土が荒く、内外面にきめ細かいハケ目を施す。7の表面はへら削り、ミガキなどによりきめ細かく調整されている。8は小型の壺で直径3.50cmと小型の底部をもち、口縁内外面にミガキ、外面にへら削りを施す。9は甌で、底部は単口である。10・11は高坏で、10は11に比してやや小振り、脚部には細かいへら削りを施す。11は大きめの坏部をもち、坏部内外面、脚部外面にミガキを施す。12は鉢で口縁の形態は「く」の字である。13は甕でやや胴張りで、口縁の形態は「く」の字である。

本住居址は、これら出土遺物の特徴から5C後半と考えられる。



写169 H16号住居址全景（東から）



写170 H16号住居址掘方全景（東から）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	広口壺	10.0	丸底	6.4	外面 へら削り 内面 ミガキ	60	良好	5YR5/6 明赤褐色	
2	土師器	広口壺	11.8	丸底	5.6	外面 底部へら削り	95	良好	7.5YR6/6 橙色	
3	土師器	広口壺	13.1	丸底	7.0	外面 へら削り 内面 ミガキ	95	良好	5YR5/6 明赤褐色	内外面剝離多い
4	土師器	広口壺	13.8	丸底	6.8	外面 へら削り後ミガキ 内面頸部 へらナデ 内面 ミガキ	90	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
5	土師器	広口壺	13.4	丸底	8.4	口縁外面 細かいミガキ 内面 ミガキ 外面 へら削り	100	良好	7.5YR7/6 橙色	
6	土師器	小型壺	9.8	丸底	13.9	口縁内面 横ナデ・横ナデ 外面 ハケ目	85	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	
7	土師器	小型壺	10.5	丸底	12.6	口縁外面 ミガキ 口縁内面 ミガキ 外面 へら削り	95	良	2.5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	小型壺	10.8	丸底	14.1	口縁内外面 ミガキ 外面 へら削り後ミガキ	85	良好	2.5YR6/6 橙色	
9	土師器	甌	16.3	5.3	9.8	口縁内面 ハケ目 外面 ハケ目 内面 へらナデ	100	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	底部単口
10	土師器	高坏	17.2	13.5	14.1	坏部外面 ミガキ 坏部底部 へら削り 脚部外面 へら削り 脚部底部 ミガキ 坏部内面 ミガキ 脚部内面 へらナデ	95	良好	5YR6/4 鈍い橙色	
11	土師器	高坏	19.8	14.6	15.3	坏部外面 ミガキ 脚部外面 ミガキ 坏部内面 ミガキ 脚部内面 へらナデ	80	良好	5YR5/6 明赤褐色	
12	土師器	鉢	20.9	5.0	13.4	外面頸部 へらナデ 外面 ハケ目 内面 へらナデ	90	良好	5YR5/6 明赤褐色	
13	土師器	甕	18.3	-	-	外面 へら削り	40	良	10YR8/3 浅黄色	

第60表 H16号住居址出土遺物観察表



写171 H16号住居址遺物出土状況



写172 H16号住居址遺物出土状況

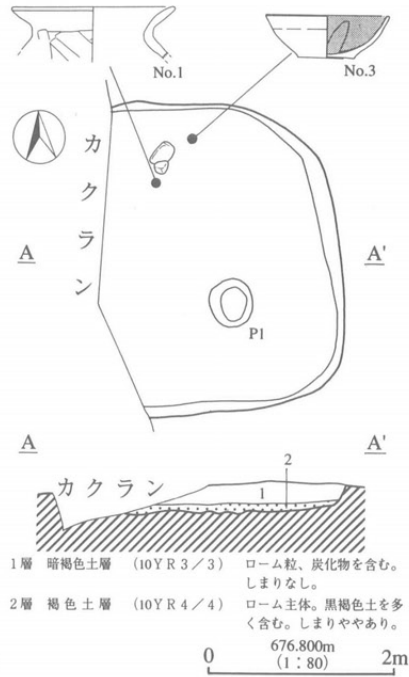
### H17号住居址

遺構は調査区の北側B-エ-5グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は30mである。住居址の西側は攪乱により破壊されている。遺構は砂礫層に掘り込まれており床面までの覆土は単層で、砂礫混じりの単層である。調査規模は南北3.20m、東西2.4m、深さ0.45m（床面）である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、周囲が砂層のため崩れやすい状態である。床面は砂質でややしまりがある。ピットは1個確認できたが、支柱穴であるかは不明である。かまどなどの施設は認められなかった。住居の掘方は床面から約8cmほど掘り込まれ、砂質の褐色土が埋め込まれていた。

遺物は、土師器の坏、甕、須恵器の坏、砥石などテンバコに5分の1箱出土している。図示できたのは3点である。

1は土師器の甕で口縁の形態は「く」の字を呈し、外面にヘラ削りを施す。2・3は土師器の坏で、回転糸切りされた平らな底部からやや内湾気味にたちあがる。3の内面は黒色処理後放射状（十字）の暗文を施し、2は内面にミガキを施す。

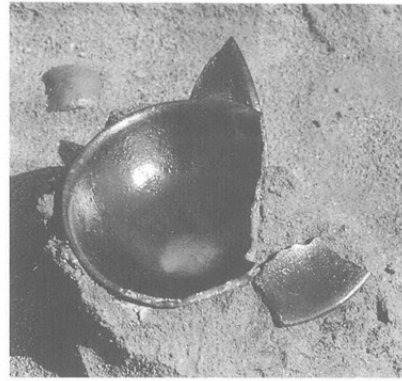
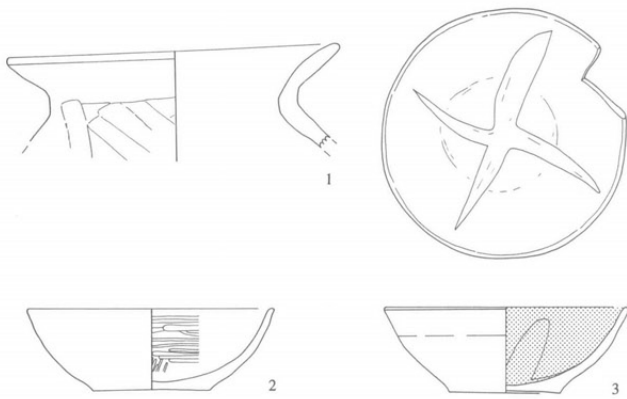
これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C中頃と考えられる。



第126図 H17号住居址実測図



写173 H17号住居址全景（南東から）



写174 H17号住居址遺物

第127図 H17号住居址出土遺物実測図

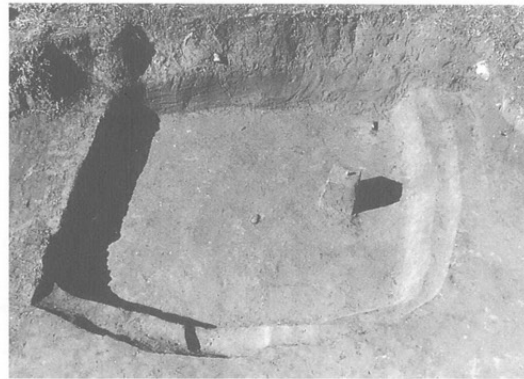
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	17.8	—	—	外面 ヘラ削り	口縁100	良好	5YR6/6 橙色	混入遺物
2	土師器	坏	13.2	6.2	4.4	底部 回転糸切り 内面 ミガキ	45	良好	10YR5/6 赤色	
3	土師器	坏	13.2	5.9	4.6	外面 横ナデ 底部 回転糸切り 内面 黒色処理・十字状の暗文	95	良好	5YR6/6 橙色	暗文

第61表 H17号住居址出土遺物観察表

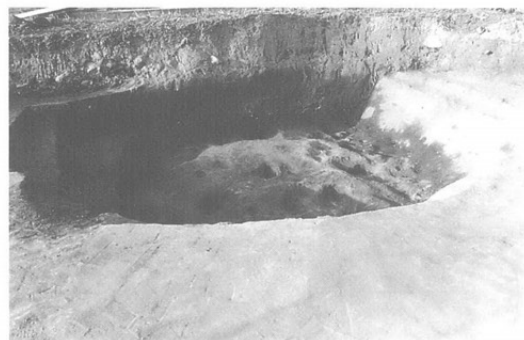
### H18号住居址

遺構は調査区のほぼ中央F-エー-1グリットに位置し、北側と西側は調査区外となる。北側に流れる湯川とはややはなれ、距離は87mである。住居は砂層に堀り込まれており、床面までの覆土は2層確認できた。ともに暗褐色土である。規模は調査規模で南北3.84m、東西4.44m、深さ0.64m（床面）を測る。壁はやや外傾し、途中にテラスを持つ。床面は堅くしまっているが、ピットは認められなかった。かまどなどの施設は確認できなかった。住居の掘方は40cmと深く掘りこまれており、暗褐色、褐色土などが埋め込まれていた。

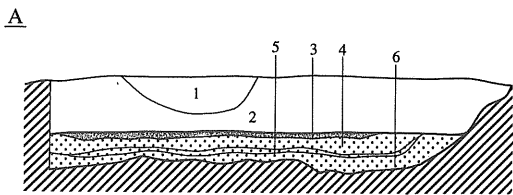
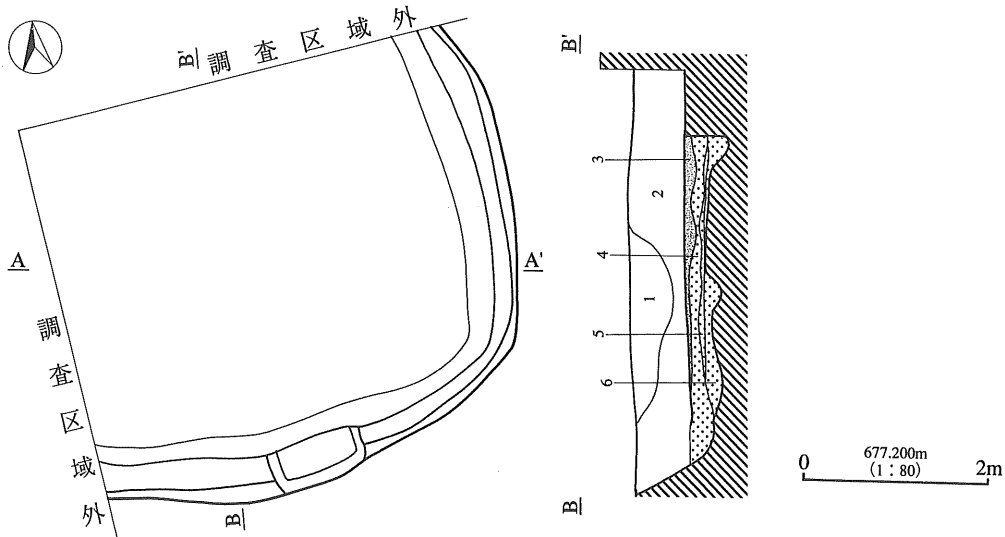
遺物は須恵器の坏、蓋、甕、土師器の甕、羽釜、砥石、磨石などテンバコに1箱出土した。1、2は須恵器の坏で底部回転糸切り後やや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。3、



写175 H18号住居址全景（南から）

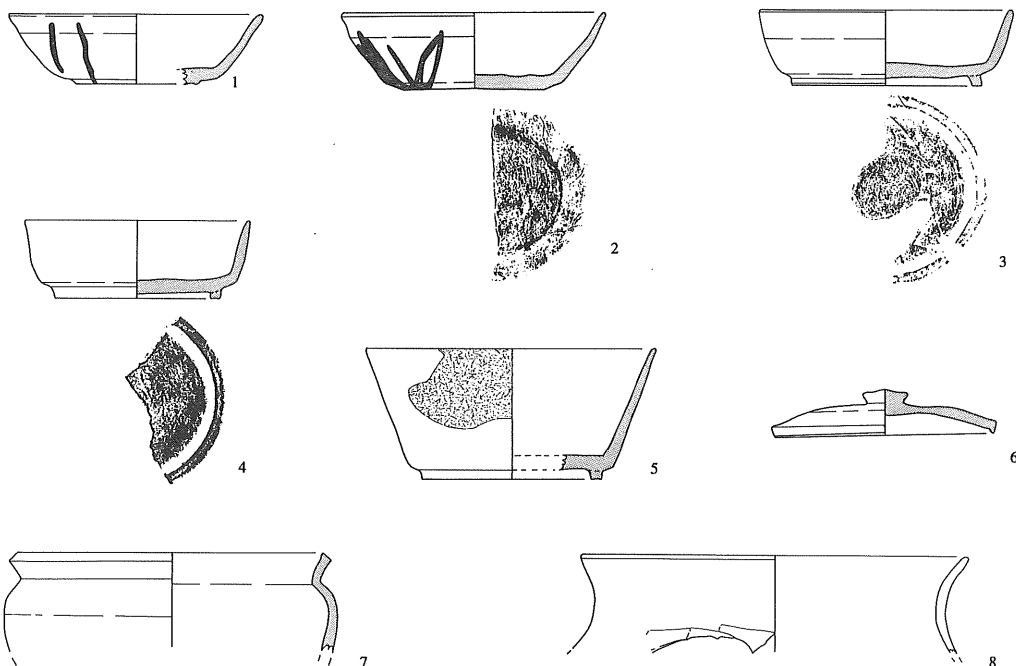


写176 H18号住居址掘方全景（南から）



- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 1層 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | 白色粒、バミス、粘土粒を含む。しまりあり。      |
| 2層 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | ローム粒、バミス、炭化物を含む。しまりややあり。   |
| 3層 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | 貼り床。ローム粒、炭化物、粘土粒を含む。しまりあり。 |
| 4層 灰黄褐色土層 (10Y R 2/4) | ロームブロックを多く含み、炭化物を含む。       |
| 5層 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | ローム粒、炭化物を多く含む。             |
| 6層 褐色土層 (10Y R 4/6)   | ローム主体。黒褐色土を含む。しまりなし。       |

第128図 H18号住居址実測図



第129図 H18号住居址出土遺物実測図



4. 5は高台付坏で広めの底部に高台が取り付けられ、やや立ち気味に口縁部に至る。5はやや深みの体部をもつ。6はやや小型の須恵器の蓋である。7は広口の須恵器甕である。8は土師器の甕で口縁付近の形態がやや「コ」の字状を呈する。これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	須恵器	坏	(13.6)	(7.3)	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	25	良好	7.5Y7/1 灰白色	火だすき
2	須恵器	坏	(14.2)	(7.4)	4.1	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	40	良好	7.5Y6/1 灰色	火だすき
3	須恵器	高台付坏	(13.6)	(5.3)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	40	良好	5YR4/1 灰色	
4	須恵器	高台付坏	(12.0)	(8.8)	3.8	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	30	良好	7.5YR4/1 灰色	
5	須恵器	高台付坏	(15.6)	(4.6)	2.5	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	20	良好	25GY4/1 暗 オリーブ灰色	自然釉
6	須恵器	蓋	12.0	—	13.9	外面 ヘラ削り	70	良好	7.5YR5/1 灰色	
7	須恵器	甕	(16.2)	—	—	外面 横ナデ	口縁 30	良好	N6/0 灰色	内面 火だすき
8	土師器	甕	(20.8)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁 35	良好	10YR5/6 赤色	

第62表 H18号住居址出土遺物観察表

#### H19号住居址

遺構は調査区中央のやや南の東端Eーけー2グリットに位置し、湯川との距離は81mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土は2層である。1層が砂粒、炭化物を含む黒褐色土で、2層は砂粒、地山の砂質土を多く含む暗褐色土である。規模は南北3.76m、東西4.24m、深さ0.38m（床面）を測り、平面形は隅丸方形で、南壁に一部張り出しをもつ。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は堅く閉まり、かまど付近を除き、全体に5～8cmの厚さで貼り床されていた。壁際には周溝が巡らされている。ピットは5個確認できた。このうち支柱穴はP1～P4である。かまどは北壁中央に構築されている。両袖は比較的残存状態が良く北壁から住居内に45cm入り込んでいる。火床は壁の直線上からやや内側に存在しており、焼土の堆積が認められ軽石製の支脚が2本横位に配置されていた。

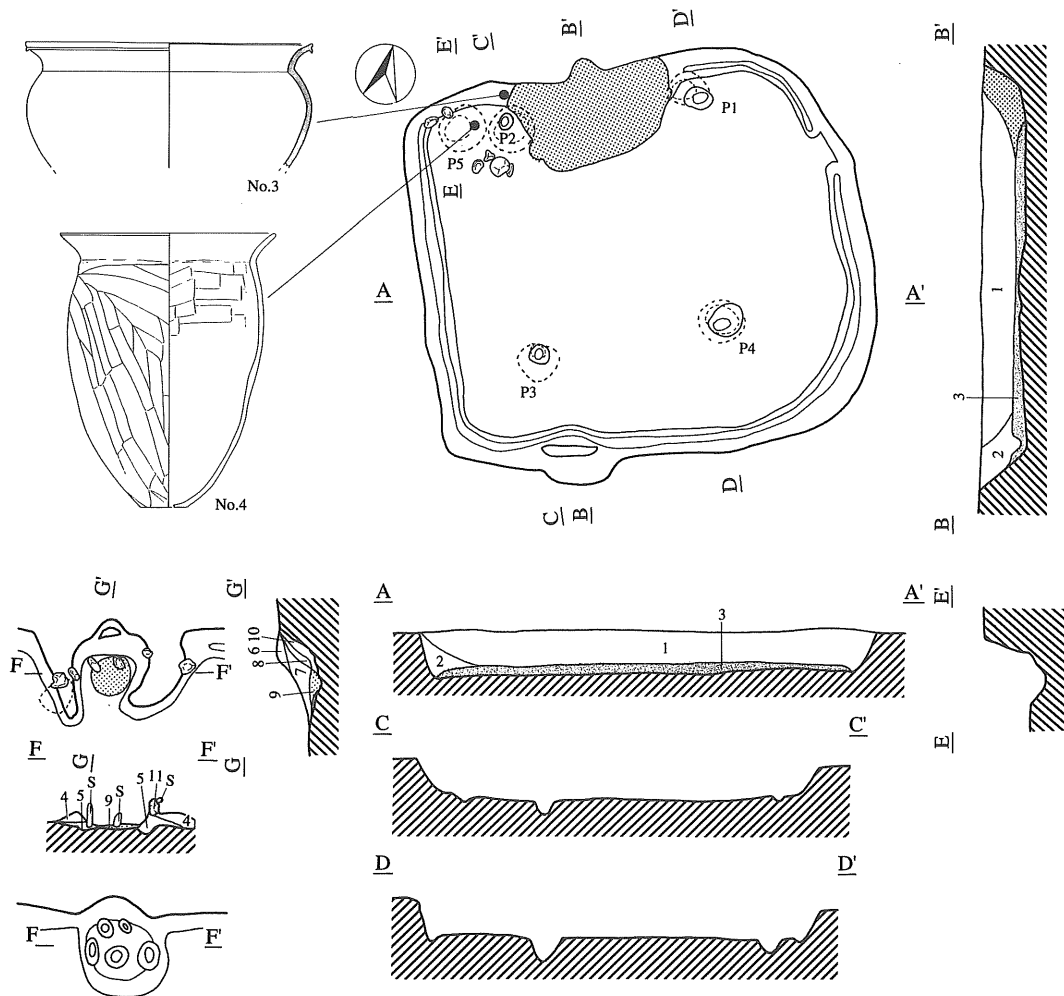


写177 H19号住居址全景（南から）

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕がテンバコに5分の1箱出土している。図示できたのは4点である。1、2は須恵器の坏で平らにヘラ削りされた底部からややひらきぎみに立ち上がり口縁部に至る。3は広口の須恵器の甕で外面にたたきを施す。4は土師器の甕で口縁の形態が「く」の字を呈し、外面にヘラ

削り、内面にヘラナデを施す。

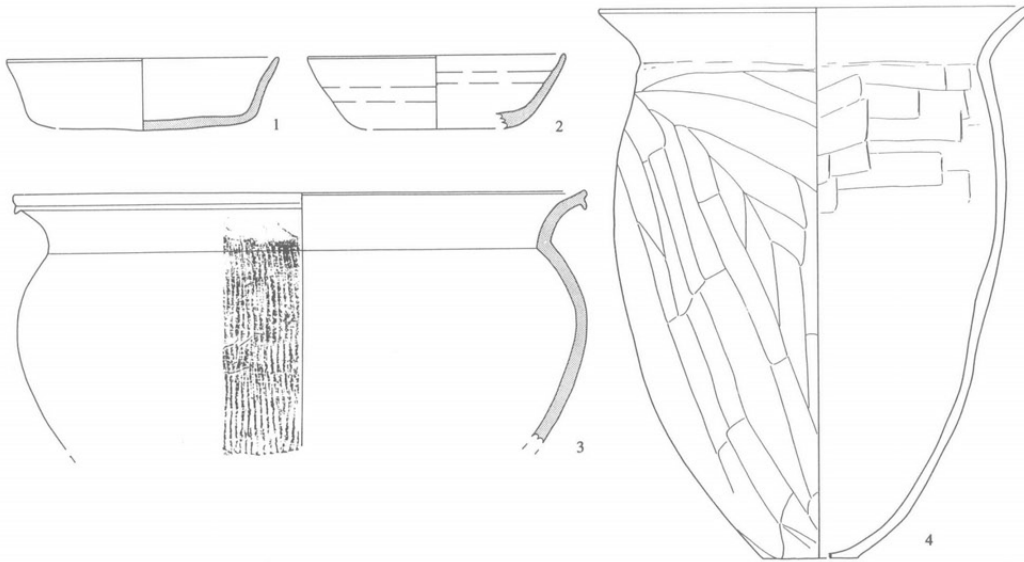
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



- |     |       |               |                     |
|-----|-------|---------------|---------------------|
| 1層  | 黒褐色土層 | (10Y R 2 / 3) | 砂粒、炭化物を含む。          |
| 2層  | 暗褐色土層 | (10Y R 3 / 4) | 砂粒シルトブロックを多く含む。     |
| 3層  | 褐色土層  | (10Y R 4 / 4) | 貼り床。砂主体。しまりなし。小石含む。 |
| 4層  | 黒褐色土層 | (10Y R 2 / 3) | 粘土ブロック、炭化物を含む。      |
| 5層  | 暗褐色土層 | (10Y R 3 / 3) | 砂粒、粘土ブロックを含む。       |
| 6層  | 黒褐色土層 | (10Y R 2 / 3) | 粘土粒、炭化物を少量含む。       |
| 7層  | 黒褐色土層 | (10Y R 2 / 3) | 粘土粒、炭化物を含む。         |
| 8層  | 暗褐色土層 | (10Y R 3 / 4) | 粘土粒、砂粒、焼土、炭化物を含む。   |
| 9層  | 赤褐色土層 | (5 Y R 4 / 6) | 焼土層。                |
| 10層 | 暗褐色土層 | (10Y R 3 / 4) | 黒褐色土多く含む。粘土ブロックを含む。 |
| 11層 | 灰褐色土層 | (5 Y R 4 / 2) | 粘土層。黒褐色土多く含む。       |

0 677.000m (1:80) 2m

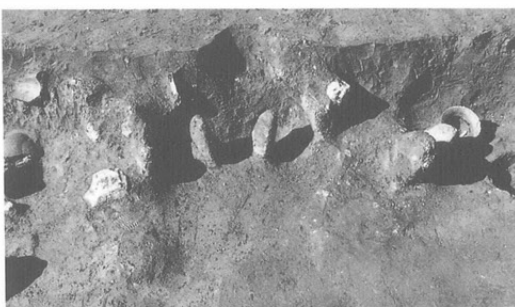
第130図 H19号住居址実測図



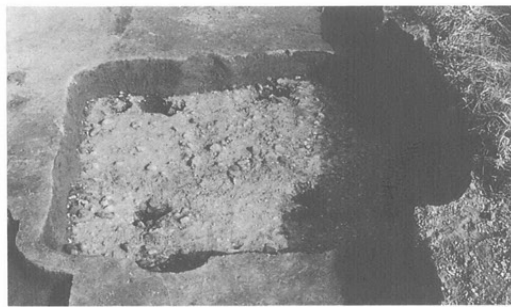
第131図 H19号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(14.6)	11.8	3.8	外面 ロクロ横ナデ 底部 ヘラ削り	70	良好	2.5Y7/2 灰黄色	
2	須恵器	坏	(14.4)	(4.2)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部 ヘラ削り	20	良好	10YR6/1 灰色	
3	須恵器	甕	(30.2)	-	-	外面 叩き	口縁~体 部の一部	良好	N4/0 灰色	
4	土師器	甕	23.2	(5.0)	29.3	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	85	良好	2.5YR6/6 橙色	

第63表 H19号住居址出土遺物観察表



写178 H19号住居址かまど (南から)



写179 H19号住居址掘方 (南から)

### H20号住居址

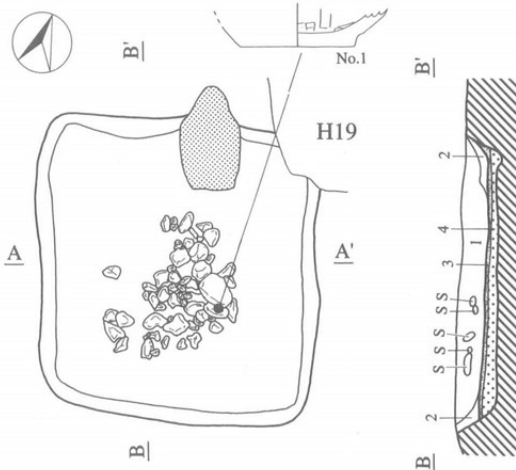
遺構は調査区中央の南よりE-3グリッドに位置しH19に切られる。北側に流れている湯川との距離は85mである。住居は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層である。1層は砂粒を含む黒褐色土でしまりがある。2層は砂粒を多く含む暗褐色土である。規模は南北2.96m、東西2.76m、深さ0.36m(床面)を測り、平面形は隅丸方形である。壁面は外傾気味に立ち上がる。床は堅く3~6cmの厚さで貼り床されており、床面中央付近には多数の石が散在していた。ピットは確認できなかった。かまどは北壁の中央からやや東によった位

置に構築され、かまどの袖の芯材と思われる石が左右に埋め込まれていた。さらにその石の手前には炊口部の天井石として使用されたと思われる長方形の扁平石が横たわっていた。火床は壁の直線上よりやや内側に位置し、焼土の堆積が認められた。住居の掘方は、ほぼ床面全体に掘り込まれており、地山の褐色土が主体として埋め込まれていた。

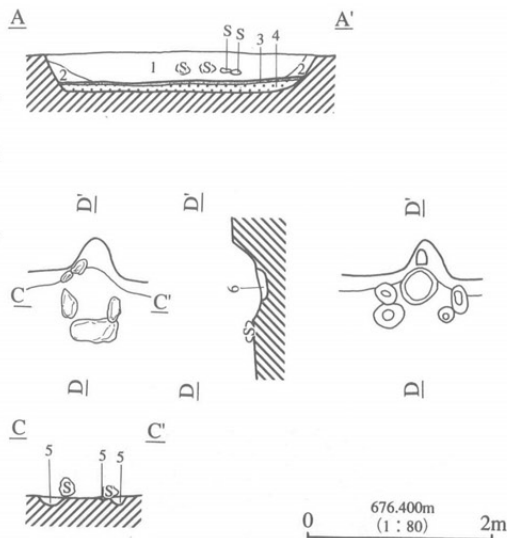
遺物は土師器の甕片などが僅かに出土した。

1は土師器の甕の底部で内面にヘラナデを施す。

本住居址は8C中頃と考えられる。



- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、ロームブロックを含む。しまりややあり。
- 2層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒、ロームブロックを多く含む。しまりややあり。
- 3層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 貼り床。しまりあり。
- 4層 褐色土層 (10YR 4/6) ローム主体。黒褐色ブロックを含む。しまりややあり。
- 5層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒を含む。
- 6層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ロームブロックを含む。しまりなし。



第133図 H20号住居址出土遺物実測図

第132図 H20号住居址実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	-	12.2	-	内面	ヘラナデ	底部90	良	7.5YR6/4 鈍い橙色	

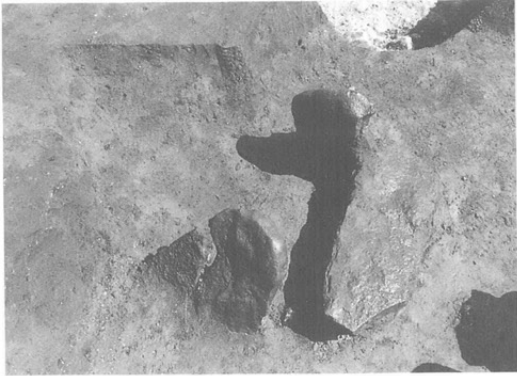
第64表 H20号住居址出土遺物観察表



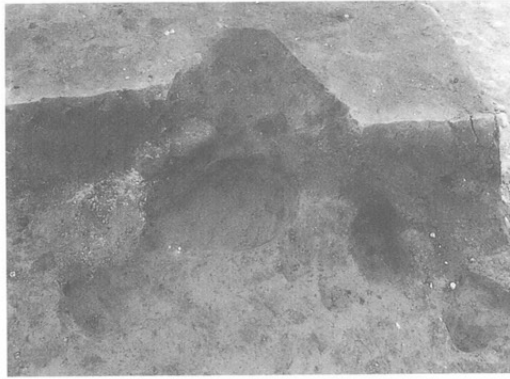
写180 H20号住居址全景 (西から)



写181 H20号住居址かまど (南から)



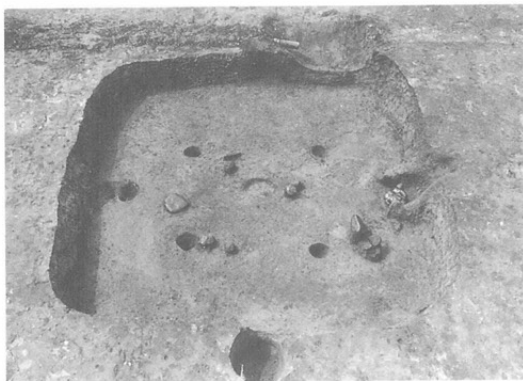
写182 H20号住居址かまど（南西から）



写183 H20号住居址かまど掘方（南から）

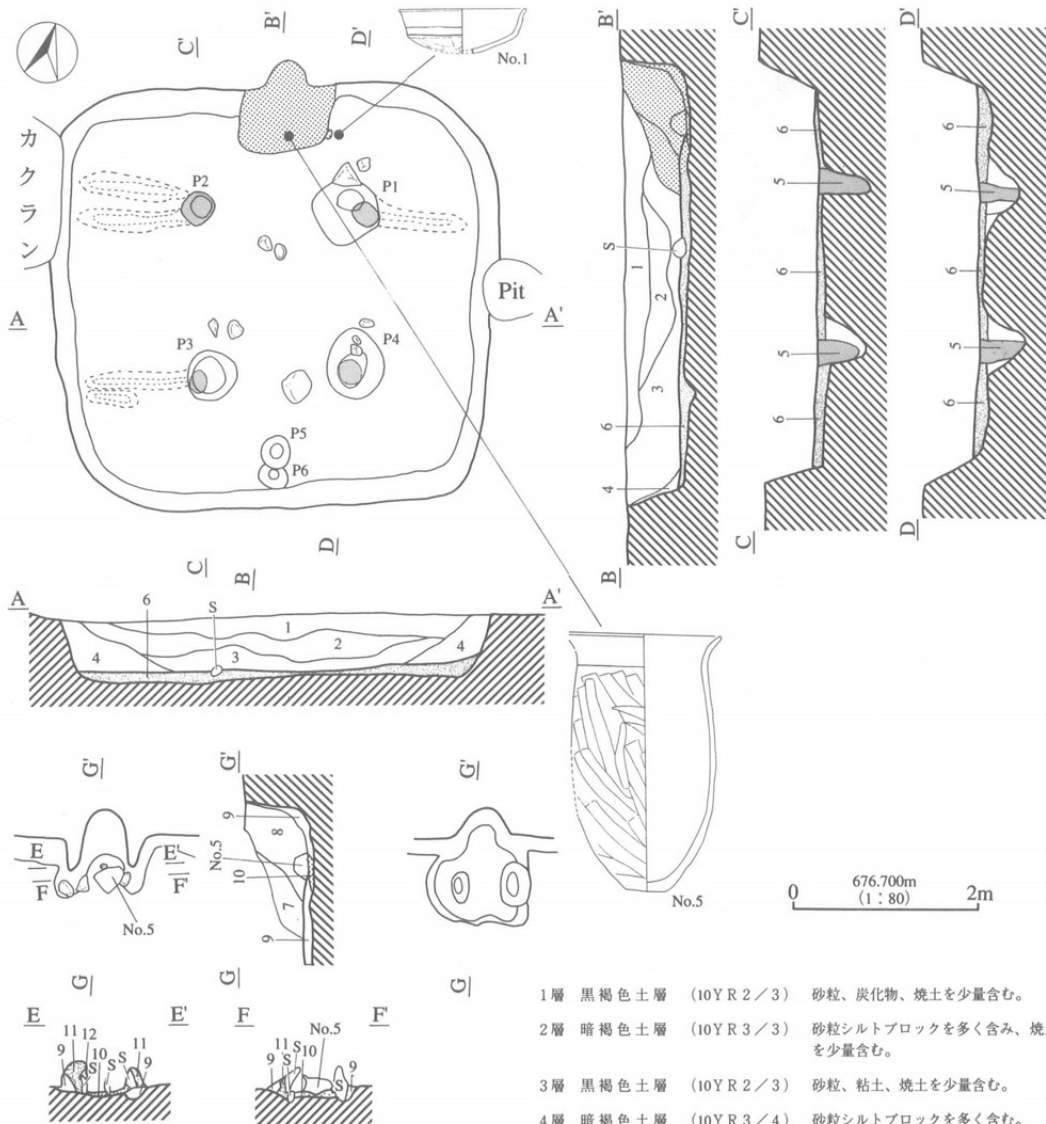
#### H21号住居址

遺構は調査区南よりの西端F-1-3グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は91mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。1層は炭化物、焼土を含む黒褐色土で、2層は焼土、地山の砂質土を含む暗褐色土である。3層は床面の直上で粘土、焼土を多く含む黒褐色土である。4層は壁際の土層で暗褐色土である。5層はかまど付近にあたり、粘土粒を多く含む黒褐色土である。規模は南北4.04m、東西4.32m、深さ0.64m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁は垂直気味に立ち上がり壁面はしまりがあり安定している。床は堅くしまり全体的に貼り床されている。ピットは大小6個のピットが確認できた。このうちP1～P4が支柱穴と思われる。P5、6は位置的に出入り口に関するピットの可能性がある。かまどは北壁の中央に構築されている。左右の袖は北壁から住居内に50cm入り込んでおり、粘土で構築されている。火床は壁の直線上から内側に位置し、ほぼ完形の甕が出土しており、土器の直下には支脚が認められた。煙道は火床からほぼ垂直的に立ち上がり北壁のわずかに外側に立ち上がる。掘方は全体的に5～8cm掘り込まれており、そこには炭化物、焼土を含んだ褐色土が埋め込まれていた。またP1、P2、P3から壁に向かって溝状の掘り込みが認められた。住居内に間仕切りが存在した可能性が考えられる。遺物は土師器の坏、甕、甑、磨石、鉄製品などがテンバコ4分の1箱出土している。1、2、3は土師器の坏で、丸底の底部から口縁部へと立ち上がり途中明瞭な稜を持つ。また2の口辺部には「<」状の調整痕らしき跡が認められる。4は甑の底部で多口式である。5、6は土師器の甕で土器の最大径が口縁部にあり、長胴の外面にはヘラ

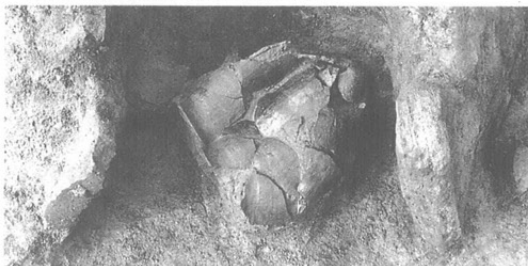


写184 H21号住居址全景（東から）

削りが施される。これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C前半と考えられる。

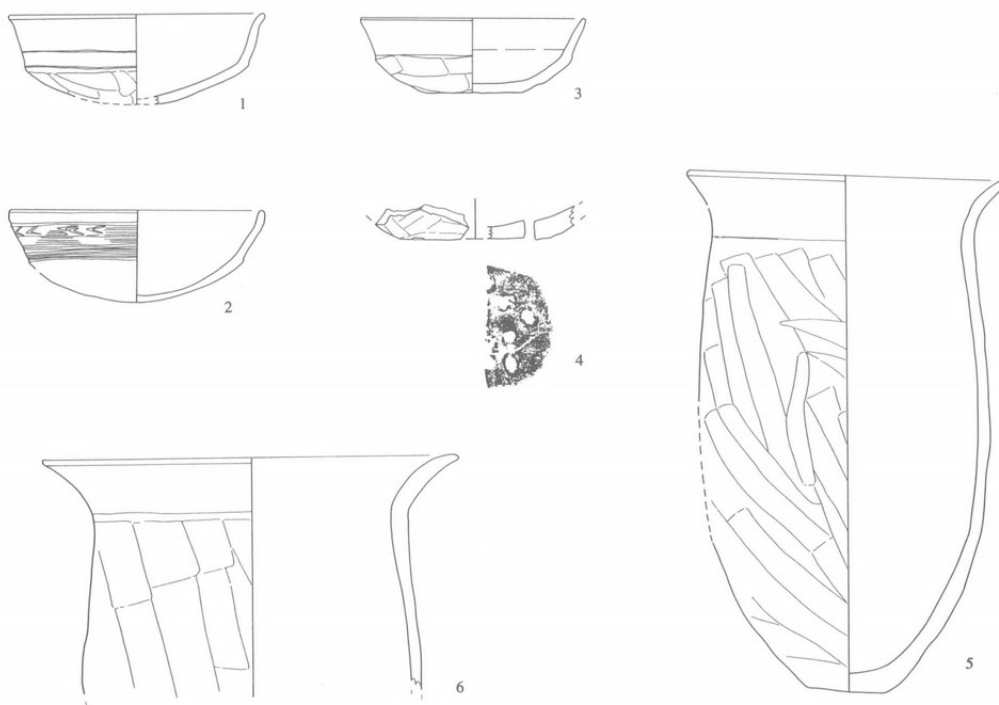


第134図 H21号住居址実測図



写185 H21号住居址かまど遺物出土状況

- |     |                   |                         |
|-----|-------------------|-------------------------|
| 1層  | 黒褐色土層 (10YR 2/3)  | 砂粒、炭化物、焼土を少量含む。         |
| 2層  | 暗褐色土層 (10YR 3/3)  | 砂粒シルトブロックを多く含む、焼土を少量含む。 |
| 3層  | 黒褐色土層 (10YR 2/3)  | 砂粒、粘土、焼土を少量含む。          |
| 4層  | 暗褐色土層 (10YR 3/4)  | 砂粒シルトブロックを多く含む。         |
| 5層  | 黒褐色土層 (10YR 2/3)  | 柱痕。しまりなし。砂粒含む。          |
| 6層  | 褐色土層 (10YR 4/4)   | 貼り床。炭化物、焼土を含む。          |
| 7層  | 黒褐色土層 (10YR 3/1)  | 砂粒、粘土粒を多く含む。            |
| 8層  | 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) | 粘土粒、粘土ブロックを多く含む、焼土を含む。  |
| 9層  | 暗褐色土層 (10YR 3/4)  | 黒褐色土ブロック、ローム粒を含む。       |
| 10層 | 明赤褐色土層 (5YR 5/6)  | 焼土層。粘土粒を含む。             |
| 11層 | 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) | 粘土層。焼土を含む。              |
| 12層 | 赤褐色土層 (5YR 4/6)   | 焼土層。                    |



第135図 H21号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	13.8	丸底	4.8	口辺 横ナデ 底部 ヘラ削り	50	良好	2.5YR3/2 暗褐色	
2	土師器	坏	(13.6)	丸底	4.9	口辺 横ナデ・「<」状文様 底部 ヘラ削り	50	良好	5Y4/1 灰色	
3	土師器	坏	12.0	丸底	4.0	口辺 横ナデ 底部 ヘラ削り	40	良好	5YR6/6 橙色	
4	土師器	甗	-	8.0	-	外面 ヘラ削り	底部50	良	7.5YR6/4 鈍い橙色	多口式
5	土師器	甗	17.8	4.2	27.2	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	85	良	7.5YR6/6 鈍い褐色	
6	土師器	甗	22.2	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁50	良好	7.5YR6/6 橙色	

第65表 H21号住居址出土遺物観察表



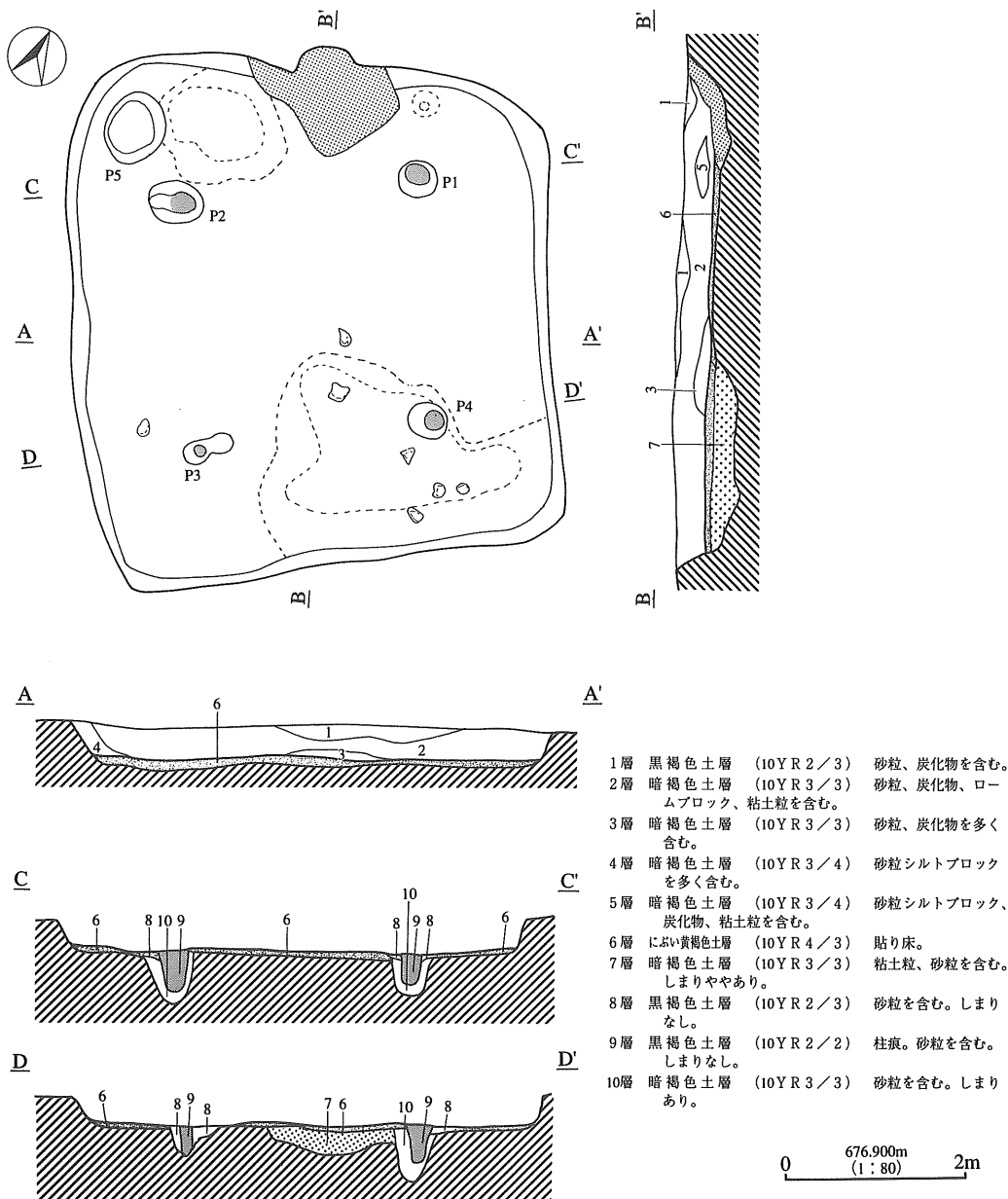
写186 H21号住居址かまど（東から）



写187 H21号住居址掘方全景（南から）

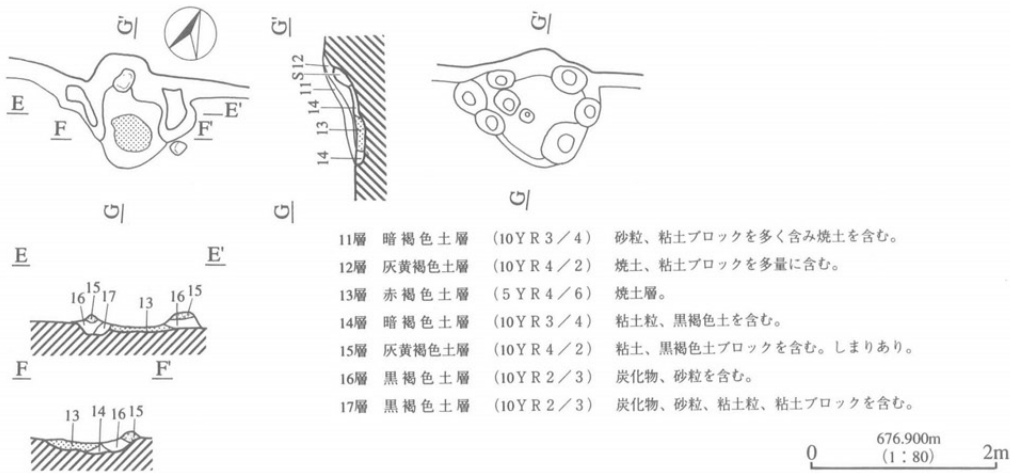
### H22号住居址

遺構は調査区南側の東際E-7に位置し、H30を切る。北側に流れる湯川との距離は95mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き、7層である。このうち1、2層が覆土の大半を占め、1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土である。2層はシルト粒、シルトブロック、粘土を含む暗褐色土である。規模は南北5.52m、東西4.96m、深さ0.40



第136図 H22号住居址実測図





第137図 H22号住居址かまど実測図

m (床面) を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は全体的に堅くしまりがあり、5~8cmの厚さで張り床されている。ピットは5個確認できた。このうち主柱穴はP1~P4と思われる。かまどは北壁中央に構築されている。左右の袖は北壁から住居内に60cm入り込んでおり、粘土で構築されている。火床は両袖に挟まれる位置にあり、焼土の堆積が認められた。煙道は火床からやや外傾気味に立ち上がり、北壁のわずか外側に立ち上がる。また、張り床の直下からは、かまどの西及び南東コーナー付近に深さ20~30cmの掘り込みが認められた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、蓋、甕などテンバコ2分の1箱出土している。1は土師器の坏で、ヘラ削りされた底部からやや湾曲気味に立ち上がり口縁部に至る。2は灰釉陶器の底部周辺で、外面に灰釉が付着している。3は須恵器の蓋で、外面上部付近にヘラ削りを施す。4は須恵器の甕の口縁部である。5、6、7、8は土師器の甕で外面にヘラ削りを施し、体部と口縁の間に明瞭な稜をもつ。9は須恵器の甕底部周辺で、体部下部にヘラ削りを施す。

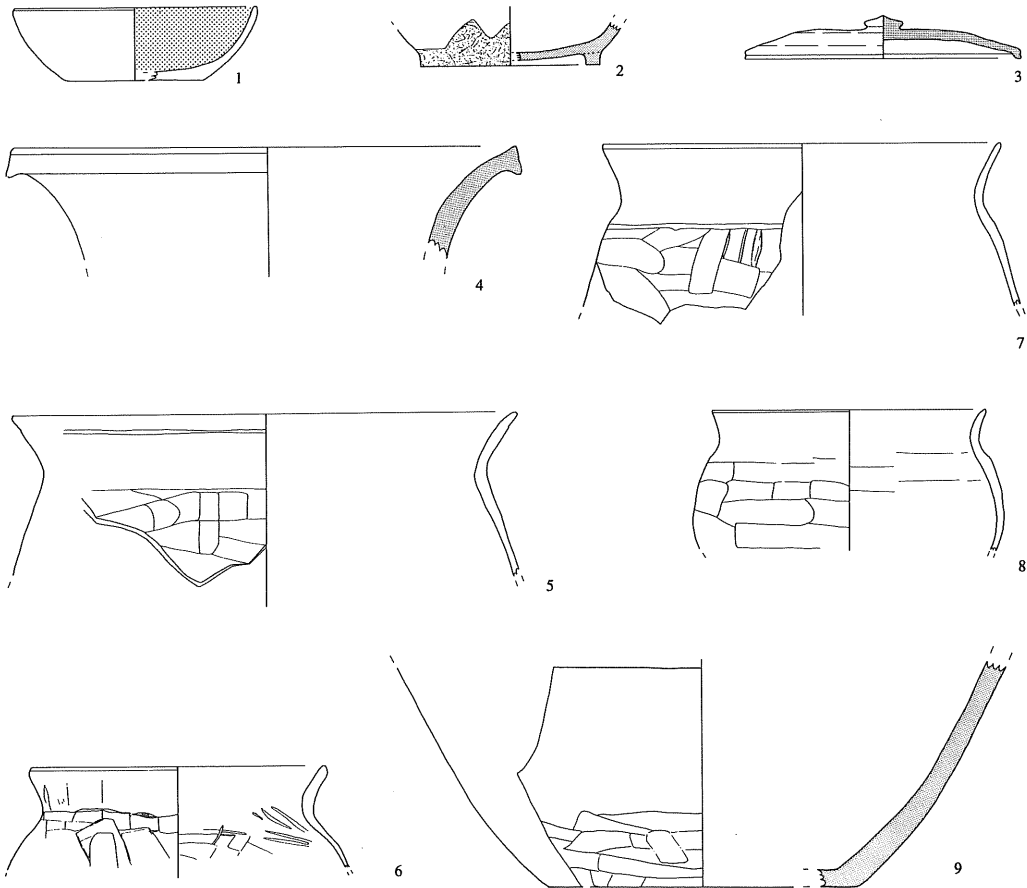
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C末~9C初頭と考えられる。



写188 H22号住居址全景 (南西から)



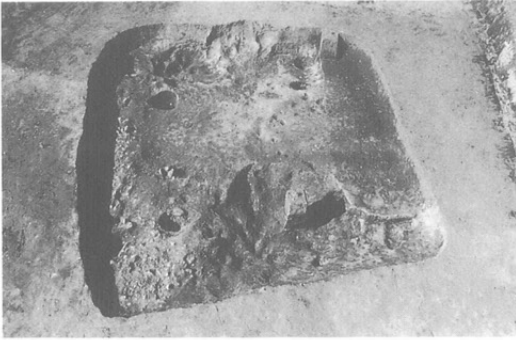
写189 H22号住居址かまど (南西から)



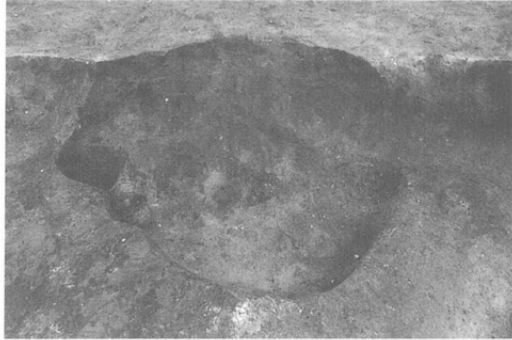
第138図 H22号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	(13.0)	(7.2)	3.9	外面 ロクロ横ナデ 内面 黒色処理 底部 ヘラ削り	45	良好	5Y7/6 橙色	
2	灰釉陶器	高台付坏	-	(9.6)	-	底部 高台張り付け	底部30	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然釉付着
3	須恵器	蓋	(14.8)	-	2.2	外面 ロクロ横ナデ・ヘラ削り つまみ張り付け	30	良好	N4/0 灰色	火だすき
4	須恵器	甕	(27.3)	-	-	口縁 横ナデ	口縁20	良好	10YR4/1 灰色	
5	土師器	甕	(27.0)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁40	良好	10YR8/4 浅黄橙色	
6	土師器	甕	(15.0)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラ削り	口縁20	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
7	土師器	甕	(21.4)	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	口縁20	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	甕	(14.8)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁35	良好	10YR5/6 赤色	
9	須恵器	甕	-	(16.6)	-	外面 ヘラ削り	底部付近の一部	良好	2.5Y5/1 黄灰色	

第66表 H22号住居址出土遺物観察表



写190 H22号住居址掘方全景（南から）



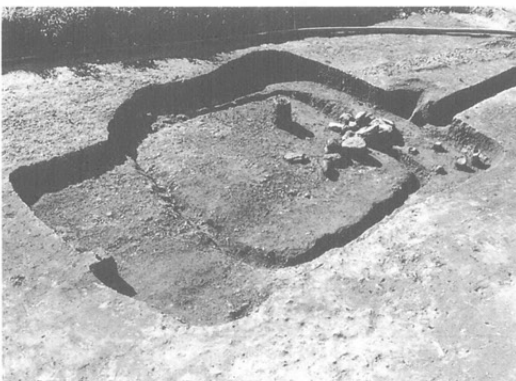
写191 H22号住居址かまど掘方（南から）

#### H23号住居址

遺構は調査区の南側F-1-7グリットに位置し、H24、25、27を切る。北側に流れる湯川との距離は77mである。遺構は砂層に掘り込まれており、床面下では、かなりの砂礫を含む。規模は南北4.12m、東西4.36m、深さ0.66m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。床面は堅く貼り床されており周囲には周溝が巡らされていた。ピットは7個確認できたが、位置的に支柱穴かは不明である。かまどは北壁中央に構築されており、扁平な石を多用し構築されていた。袖部は石が埋め込まれており、基部は粘土で固められていた。天井石は長方形の扁平な石で、火床の前後を覆うように両袖の石に架かっていた。また、かまどの天井部には一部天井石の存在しない部分があり、その直下にはほぼ完形の甕が横たわっており、焼土の堆積が見られた。この隙間が土器を火にかけてた場所であったと考えられる。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕などテンバコに3分の2箱出土している。1、2、3、4は須恵器の坏で回転糸切りされた底部からやや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。2の底部には高台張り付け痕が認められる。5は盤状坏である。7、8は土師器の甕で外面にヘラ削りを施し、土器の最大径が肩部にある。

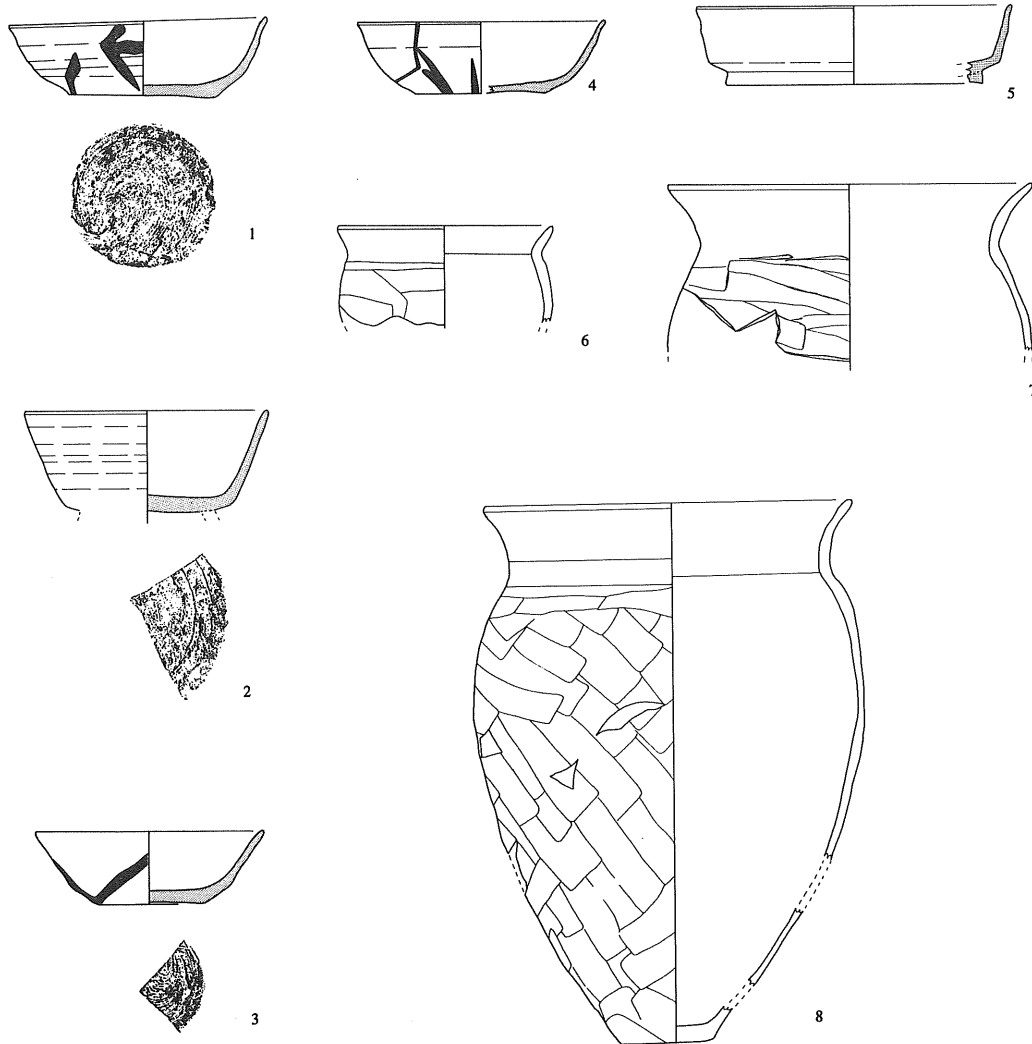
これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C前半と考えられる。



写192 H23号住居址周辺全景（南東から）



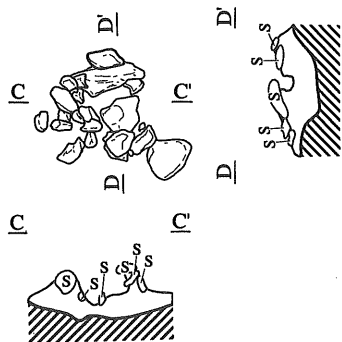
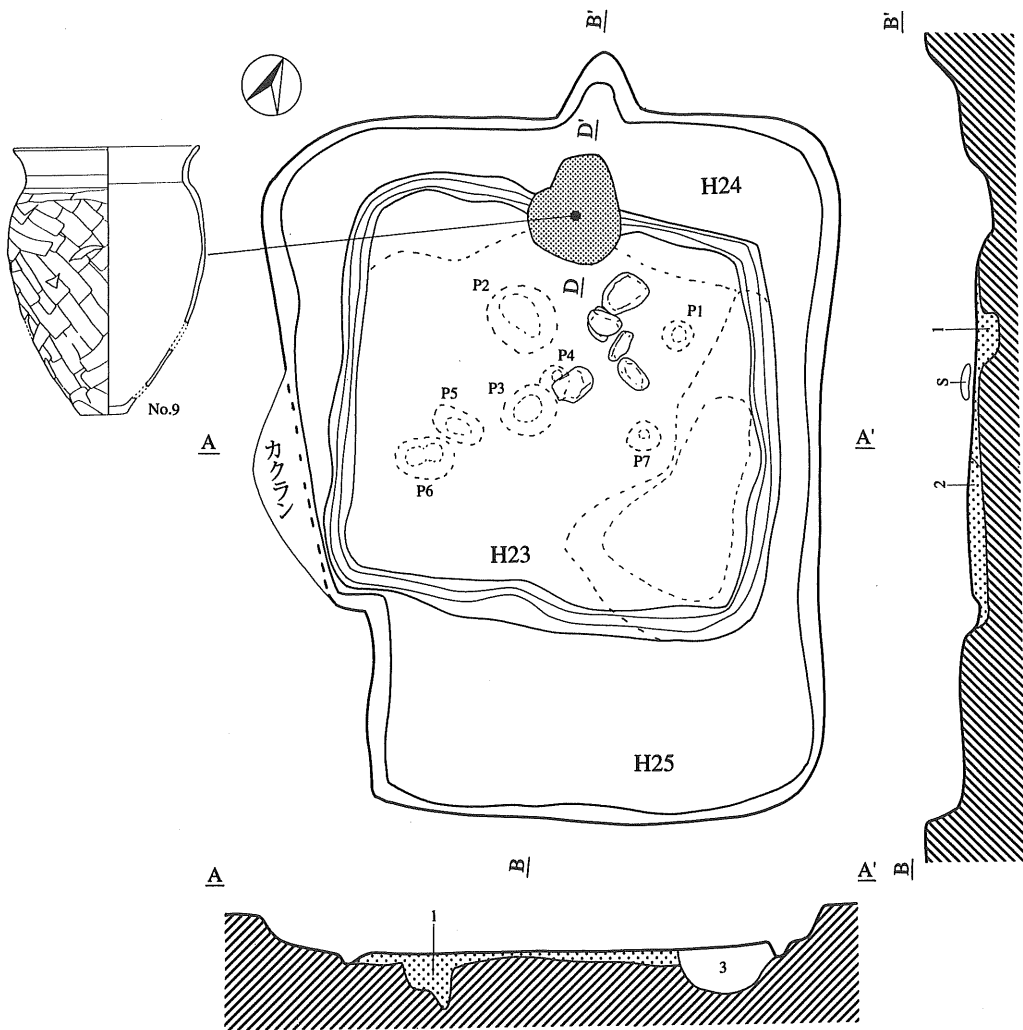
写193 H23号住居址全景（南から）



第139図 H23号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	須恵器	坏	(13.8)	(7.8)	4.3	外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	70	良好	10YR5/1 灰色	火だすき
2	須恵器	高台付坏	(12.8)	(7.2)	5.4	外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け痕あり	30	良好	N4/0 灰色	
3	須恵器	坏	(12.0)	(5.9)	3.9	外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	20	良好	10BG5/1 青灰色	火だすき
4	須恵器	坏	(13.0)	(6.8)	3.9	外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	口縁30	良好	7.5Y5/1 灰色	火だすき
5	須恵器	高台付坏	(17.0)	(13.8)	4.2	外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	15	良好	5Y6/1 灰色	
6	土師器	甕	(11.6)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁25	良好	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	甕	(19.6)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁35	良好	5YR6/6 橙色	
9	須恵器	甕	(19.8)	5.1	28.9	口縁 横ナデ 内面 ヘラ削り	90	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色	

第67表 H23号住居址出土遺物観察表



- 1層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 3) 砂粒シルトブロックを多量に含み、石 2 ~ 5 cm大を含む。
- 2層 褐色土層 (10Y R 4 / 4) 砂質。石 2 ~ 10 cm大を多量に含む。
- 3層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) 石 5 ~ 10 cm大を多く含む。

0 676.500m (1 : 80) 2m

第140図 H23号・H25号住居址実測図



写194 H23号住居址かまど（南から）



写195 H23号住居址掘方全景（南から）

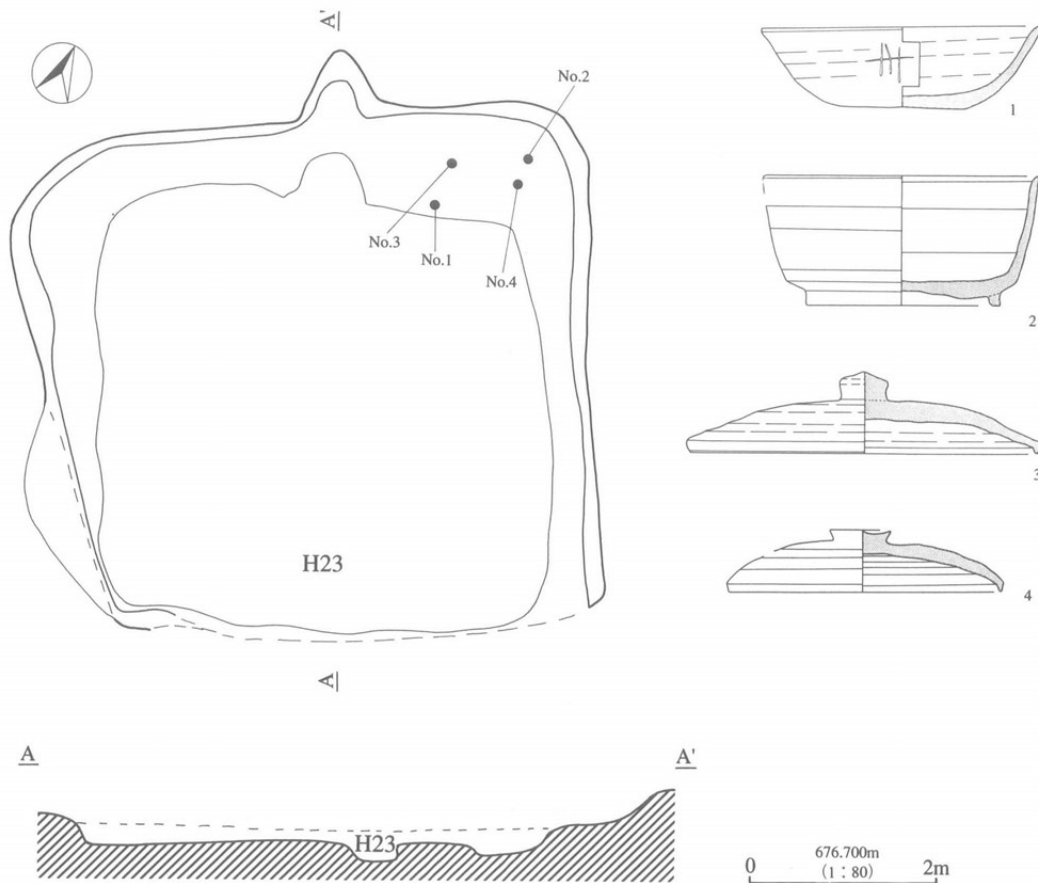
#### H24号住居址

遺構は調査区南側F-1-7グリッドに位置し、H23に切られ、H25、26、27を切る。遺構は砂層に掘り込まれている。規模は南北4.72m、東西4.36m、深さ0.36mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。床面の大半はH23号住居址によって破壊されているが、残存部分には貼り床の一部が残っていた。本住居址のものと思われるピットの確認はできなかった。かまどは北壁の中央に構築されているが、そのほとんどは破壊されており、火床に焼土が僅かに認められた。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏、蓋などが出土した。図示できたのは4点である。1は須恵器の坏で底部及びその周辺部にヘラ削りを施し、体部中央付近にヘラ記号を施す。2は須恵器の高台付坏で、張りつけされた高台付近から立ち上がり、やや外傾し直線的に口縁部に至る。器形は深みのある形状である。3・4は須恵器の蓋で、3はやや大型の蓋で宝珠形のつまみを持つ。4は3に比してやや小ぶりの蓋である。本住居址は8C中頃と考えられる。



写196 H24号住居址全景（南から）



第141図 H24号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	15.2	6.6	4.4	外面 ロクロ横ナデ 外面 ヘラ記号 底部・周辺部 ヘラ削り	80	良好	5Y6/1 灰色	
2	須恵器	高台付坏	15.0	10.5	7.0	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	70	良好	2.5Y6/1 黄灰色	
3	須恵器	蓋	18.8	-	4.4	外面 ロクロ横ナデ つまみ吊り付け	70	良好	7.5YR5/1 褐灰色	
4	須恵器	蓋	15.0	-	3.3	外面 ロクロ横ナデ つまみ張り付け	50	良好	10YR5/1 褐灰色	

第68表 H24号住居址出土遺物観察表

### H25号住居址

遺構は調査区の南F-う-6グリットに位置し、H23・24に切られる。遺構は砂層に掘り込まれている。規模は東西4.56m、深さ0.40mを測り、平面形は調査状況から隅丸方形を呈したと思われる。床面は地山の石が露出し、凹凸が激しい状態である。ピットは確認

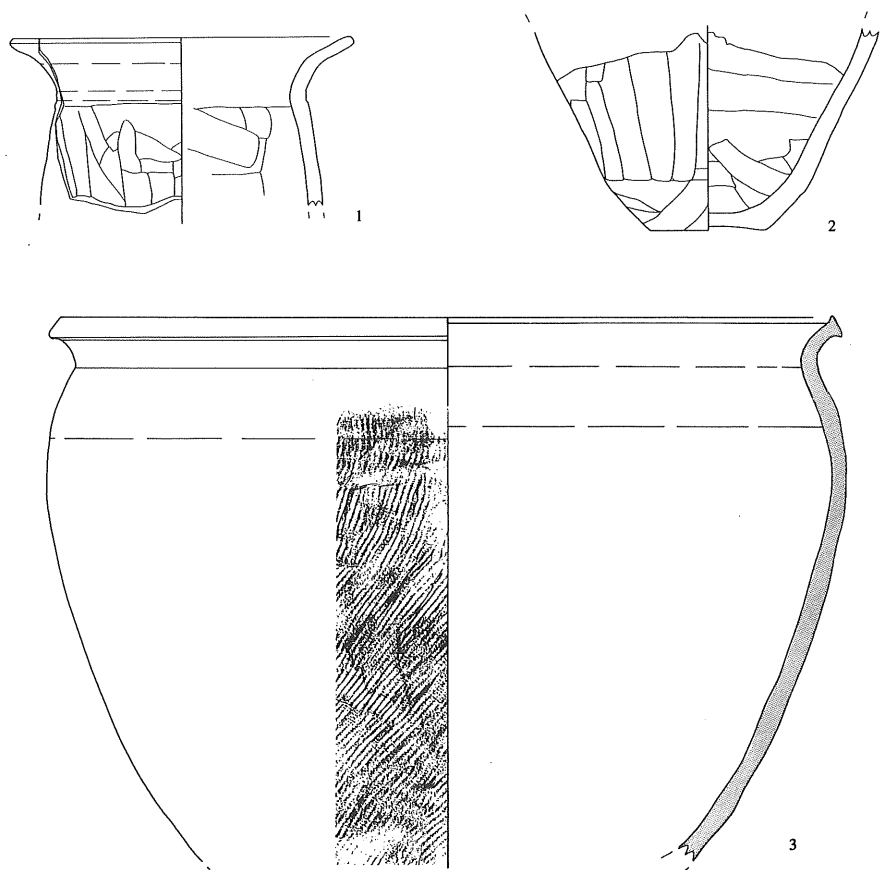


写197 H25号住居址全景（南から）

できなかった。

遺物は、土師器の甕などテンバコ6分の1箱出土している。図示できたのは3点である。1は土師器の甕で外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施し、体部と口縁の境に明瞭な稜をもつ。2は土師器の甕で、ほぼ平坦な底部からやや湾曲気味に立ち上がる体部を持つ。3は須恵器の甕で、口が広く外面にたたきを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C前半と考えられる。



第142図 H25号住居址出土遺物実測図

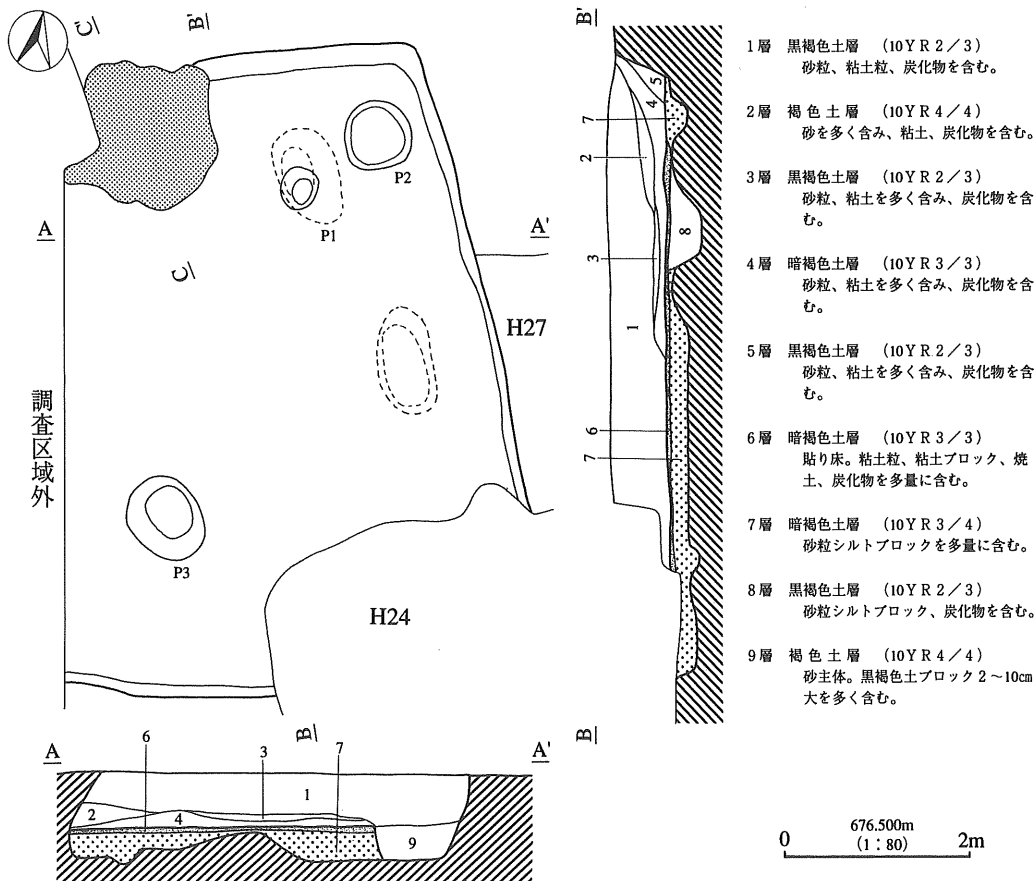
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	18.2	-	-	口縁 ロクロ横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁20	良好	7.5YR7/1 橙色	
2	土師器	甕	-	6.2	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部50	良	7.5YR6/6 橙色	
3	須恵器	甕	41.4	-	-	外面 叩き 内面 指圧痕	15	良好	N4/0 灰色	

第69表 H25号住居址出土遺物観察表

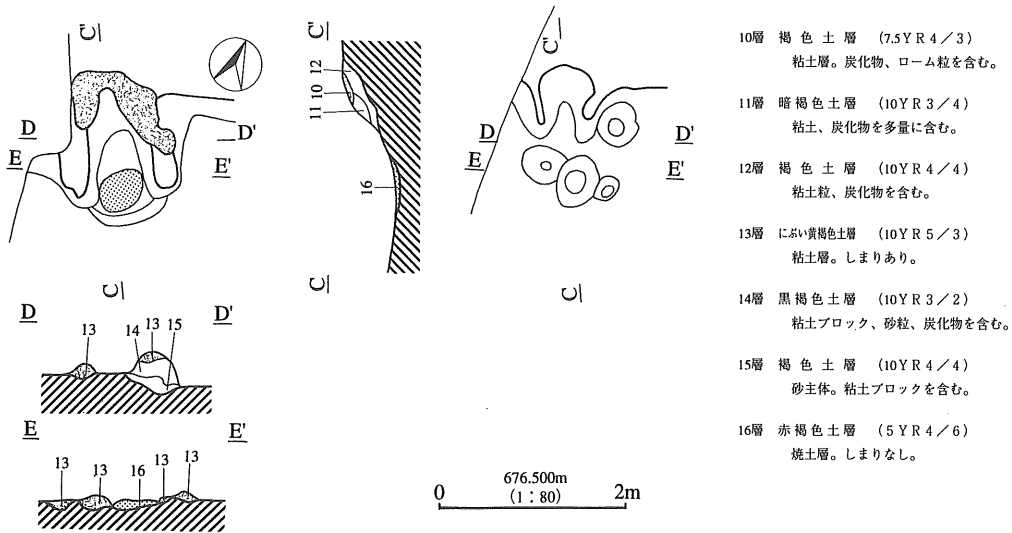


## H26号住居址

遺構は調査区南側Fーうー6グリットに位置し、H24に切られる。住居址西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており、遺構はすでに破壊されている。) 遺構は砂層に掘り込まれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。このうち1層が覆土の大半を占め、砂粒、粘土粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は調査規模で南北4.88、東西4.76、深さ0.56mを測り、平面形は北東コーナーの状況から方形と思われる。壁は僅かに外傾し立ち上がる。床面は全体的に堅く3~5cmの厚さで貼り床されていた。ピットは3個確認でき、P1、P2が住居址東側の主柱穴と思われる。かまどは、東壁の規模から北壁のほぼ中央に位置すると考えられる。かまどは粘土を多用し構築されており、両袖、煙道付近に顕著に認められた。袖は北壁から内側に入り込んでいる。火床は両袖に挟まれるように北壁の内側に位置し、焼土の堆積が見られた。住居址の掘方は床面から約20cm内外掘り込まれており、貼り床直下には地山の黄褐色ブロックを多く含んだ暗褐色土が埋め込まれていた。



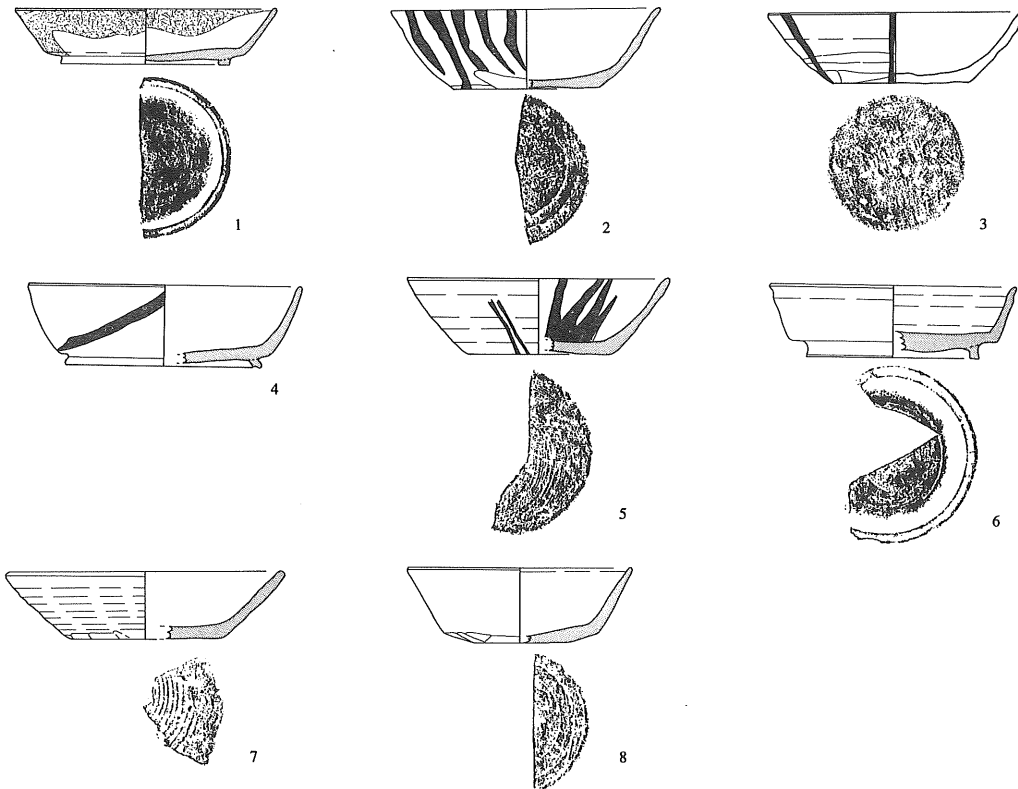
第143図 H26号住居址実測図



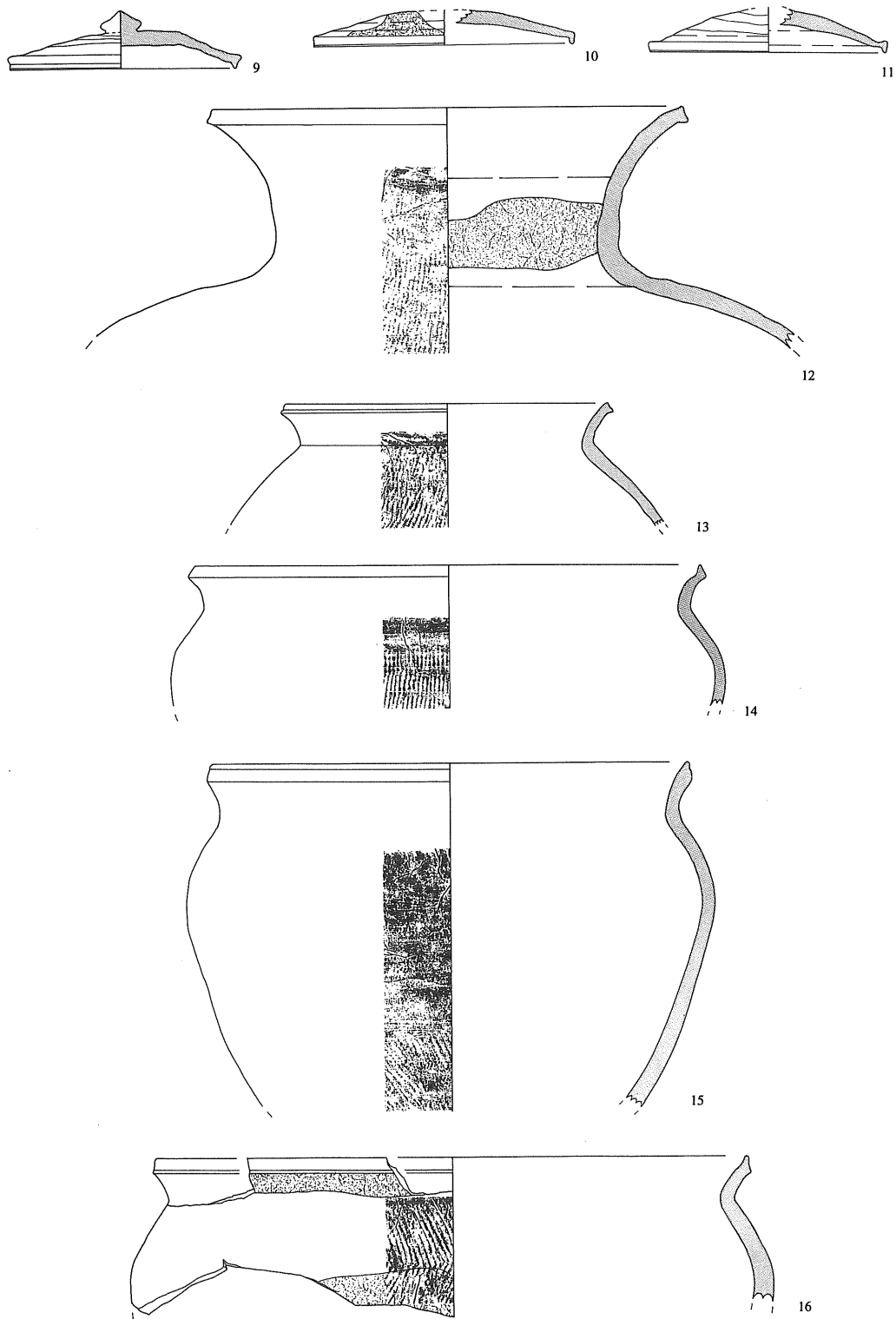
第144図 H26号住居址かまど実測図

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、蓋などテンバコに1箱出土している。1～8は須恵器の坏で、底部へラ削りを施されたものと高台張り付けのものが存在する。9～11は須恵器の蓋で外面上部にへラ削りを施す。12～17は須恵器の甕で外面にたたきを施す。

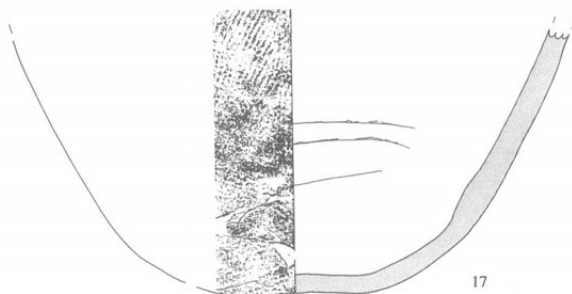
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



第145図 H26号住居址出土遺物実測図(1)



第146图 H26号住居址出土遺物実測図(2)



第147図 H26号住居址出土遺物実測図(3)



写198 H26号住居址



写199 H26号住居址掘方



写200 H26号かまど



写201 H26号遺物

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	高台付坏	14.0	8.9	3.0	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	50	良好	N3/0 暗灰色	自然軸付着
2	須恵器	坏	(14.4)	(7.8)	4.2	内外面 ロクロ横ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	45	良好	2.5GY5/1 オーリーブ灰	火だすき
3	須恵器	坏	13.6	7.2	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	90	良好	2.5GY5/1 オーリーブ灰	火だすき
4	須恵器	高台付坏	14.6	10.4	4.38	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	50	良好	N5/0 灰色	火だすき
5	須恵器	坏	(14.0)	(7.5)	4.5	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	40	良好	10YR6/1 灰色	火だすき
6	須恵器	高台付坏	(13.2)	(9.2)	3.9	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	40	良好	5Y5/1 灰色	
7	須恵器	坏	(14.8)	(7.8)	3.6	内外面 ロクロ横ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	20	良	2.5Y6/2 灰黄色	
8	須恵器	坏	(12.0)	(5.0)	4.0	内外面 ロクロ横ナデ 底部・底部周辺 ヘラ削り	20	良好	N4/0 灰色	
9	須恵器	蓋	14.0	-	3.5	外面 ヘラ削り つまみ張り付け	55	良好	N4/0 灰色	火だすき
10	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	内外面 ロクロ横ナデ 上面 ヘラ削り	35	良好	2.5Y6/1 黄灰色	自然軸付着
11	須恵器	蓋	(14.8)	-	-	内外面 ロクロ横ナデ 外面上部 ヘラ削り	35	良	10YR6/1 褐灰色	
12	須恵器	甕	(29.2)	-	-	口縁 ロクロナデ 外面 叩き 内面 ハケ目	口縁20	良好	7.5Y4/1 灰色	自然軸付着
13	須恵器	甕	(20.0)	-	-	口縁 ロクロ横ナデ 外面 叩き	口縁15	良好	7.5Y5/1 灰色	
14	須恵器	甕	(32.2)	-	-	口縁 ロクロ横ナデ 外面 叩き	30	良好	7.5Y7/1 灰白色	

第70表 H26号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
15	須恵器	甕	(30.2)	-	-	口縁 外面	30	良好	7.5Y6/1 灰色	
16	須恵器	甕	(37.2)	-	-	口縁 外面	口縁15	良好	N3/0 暗灰色	自然釉付着
17	須恵器	甕	-	8.6	-	外面 叩き	底部50	良好	10Y5/1 灰色	

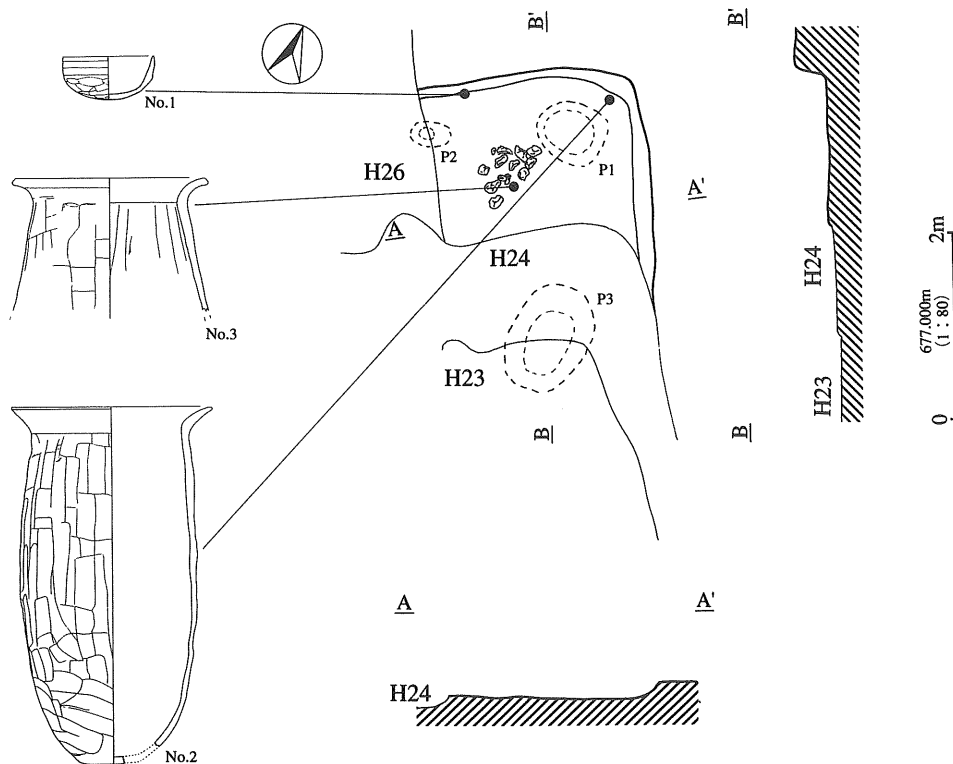
第71表 H26号住居址出土遺物観察表(2)

### H27号住居址

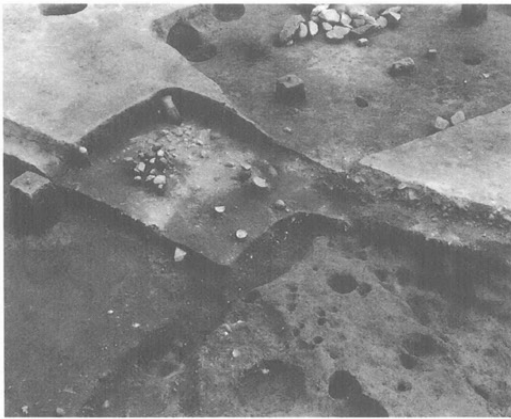
遺構は調査区南側F-1-6グリットに位置し、H24、H26に切られる。住居址の大半は破壊されており、北東コーナー付近が僅かに確認できた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。ピットは3個確認できたが支柱穴かは不明である。床面はやや堅さをもつ。かまどなどの施設は認められなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、蓋、甕などテンバコ4分の1箱出土している。図示できたのは4点である。1は須恵器の坏と思われ、底部にへら削りを施し、一見模倣坏の蓋のようにも思える。2、3、4は土師器の長胴甕で外面にへら削りを施す。

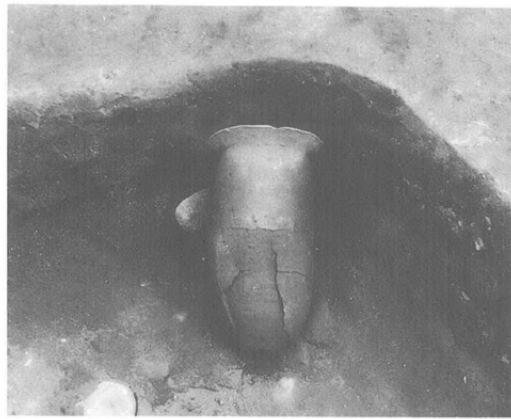
これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C中～6C後半と考えられる。



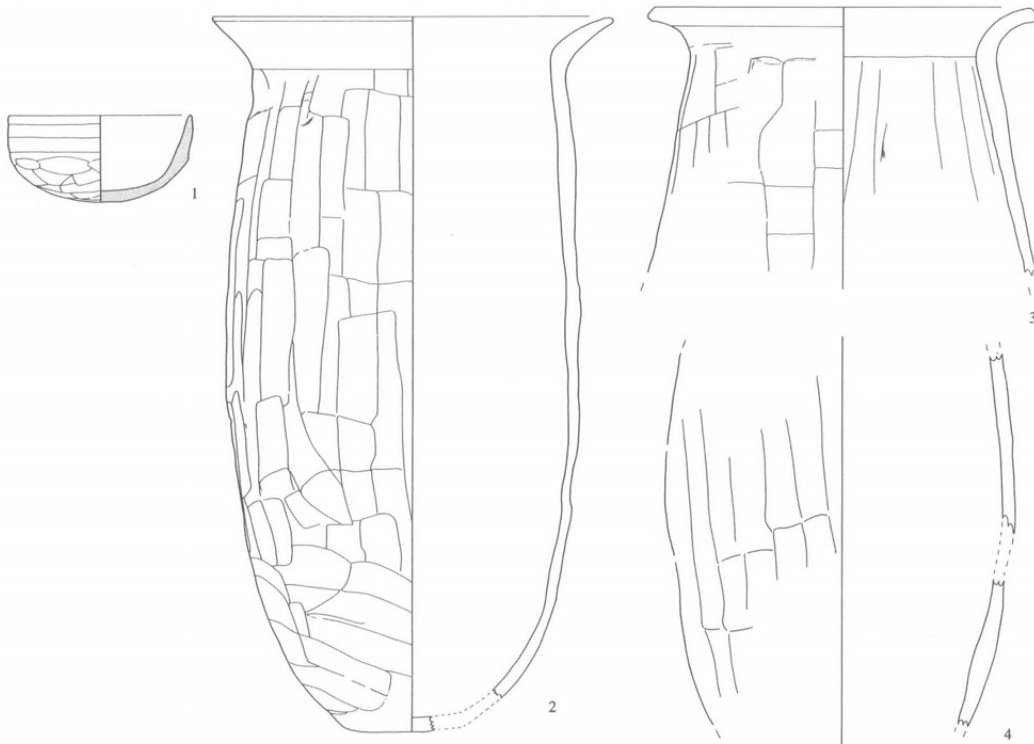
第148図 H27号住居址実測図



写202 H27号住居址全景



写203 H27号住居址遺物出土状況



第149図 H27号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	9.8	丸底	4.6	口縁 横ナデ 底部～体部にかけて ヘラ削り	95	良好	7.5YR6/1 褐灰色	
2	土師器	甕	21.5	6.0	38.5	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 底部 ヘラ削り	90	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
3	土師器	甕	21.0	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁80	良	7.5YR7/4 鈍い橙色	
4	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り	20	良好	2.5Y6/8 橙色	

第72表 H27号住居址出土遺物観察表

## H28号住居址

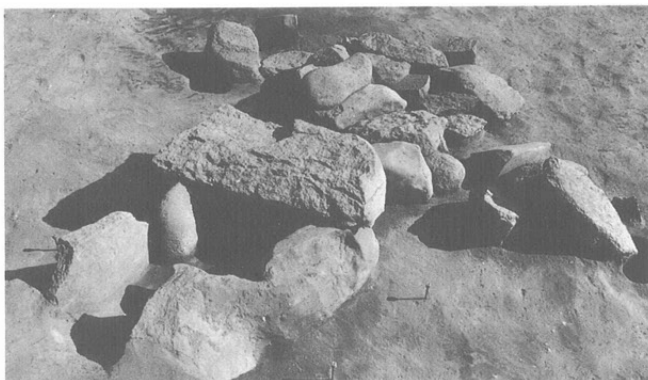
遺構は調査区南側のほぼ中央Eーこー6グリットに位置し、H22、H27に切られ、D6を切る。遺構は砂層に掘りこまれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除いて4層である。1層は軽石、炭化物を含む黒褐色、2層は軽石、炭化物を含む暗褐色、3層は床面の直上で炭化物、焼土を含む暗褐色土である。規模は南北4.92m、東西5.32m、深さ0.40m（床面）を測り、平面形はやや隅の丸い方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅く貼り床されている。ピットは8個確認できた。このうちP1～P4が主柱穴と思われ、柱痕も認められた。かまどは北壁の中央に位置し、かまど周辺には多くの石が散在していた。袖は北壁から内側に大きく入り込んでおり、袖部には石が埋め込まれていた。さらに炊口付近の袖石には長方形の扁平石がのせられ、その下には焼土の堆積が見られた。また袖に挟まれた北壁のやや内側に、支脚の存在が確認できた。掘方は全体的に8cm～12cmの厚さで掘り込まれ、暗褐色土によって埋め固められてた。遺物は土師器の坏、高坏、甕などビニール袋2袋出土しているが、いずれも小破片のため図化し得なかった。遺物は小破片の僅かなものであったが、それぞれの土器の特徴から、本住居址は5C後半～6C代と考えられる。



写204 H28号住居址全景（南から）



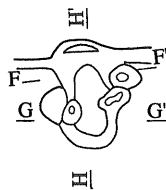
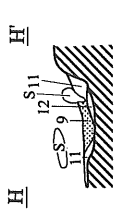
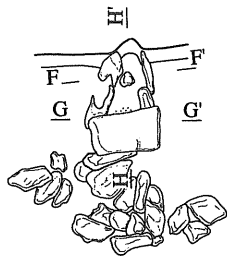
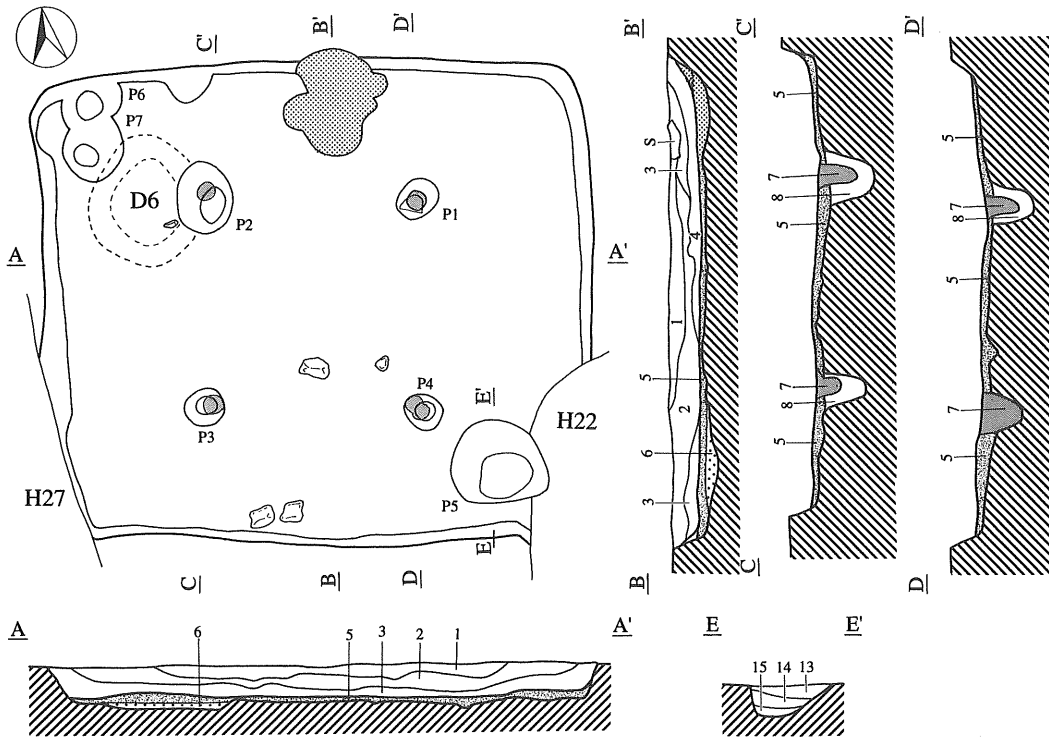
写205 H28号住居址かまど（南から）



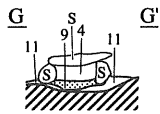
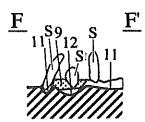
写206 H28号住居址かまど（北から）



写207 H28号住居址かまど



0 767.800m (1:80) 2m



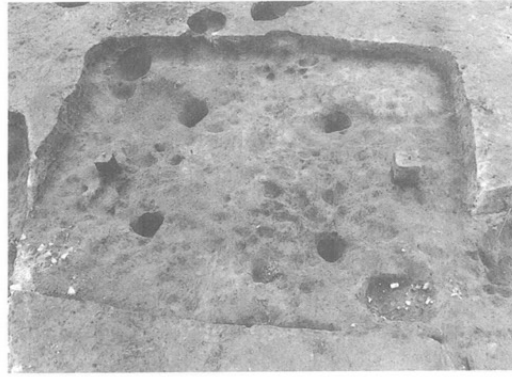
- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、軽石、炭化物を含む。しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、軽石、炭化物を含む。しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒、ロームブロック2~5cm大を含み、炭化物、焼土をわずかに含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒、ロームブロック2~5cm大を含み、炭化物、焼土、粘土を含む。
- 5層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 貼り床。黒褐色土ブロック、炭化物、焼土を含む。
- 6層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム主体。しまりややあり。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 柱痕。炭化物を含む。しまりなし。
- 8層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 黒褐色土ブロックを含む。しまりややあり。
- 9層 におい橙色土層 (5 YR 6/4) 焼土層。
- 10層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 焼土、炭化物を含む。
- 11層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物を含む。しまりややあり。
- 12層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物を含む。しまりなし。
- 13層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、炭化物を含む。
- 14層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、炭化物を含む。(13層<14層)
- 15層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂質。小石1~2cmを含む。しまりなし。

第150図 H28号住居址実測図





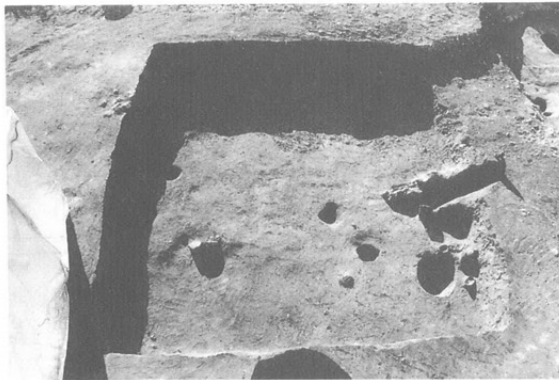
写208 H28号住居址かまど掘方



写209 H28号住居址掘方（南から）

#### H29号住居址

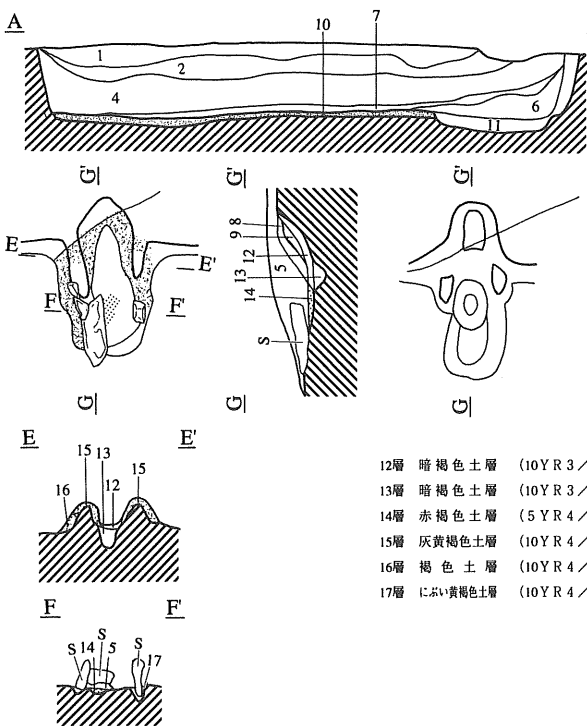
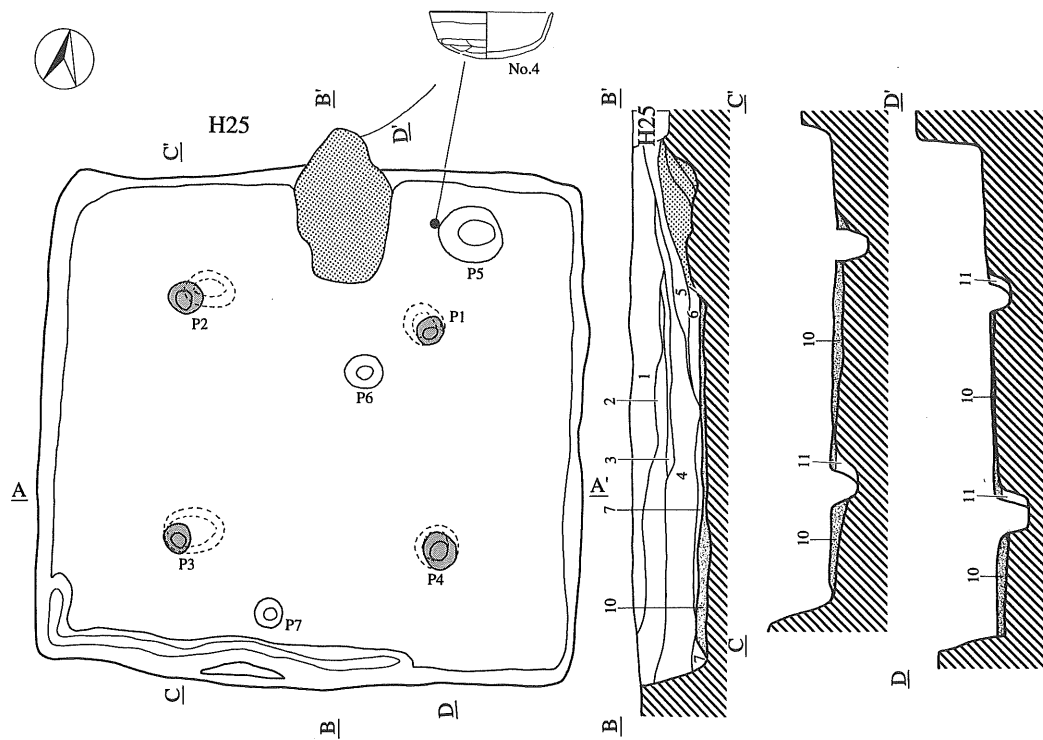
遺構は調査区南端のほぼ中央F-あ-9グリットに位置し、H25に北壁の一部を切られる。北側に流れる湯川との距離は80mである。遺構は砂層に掘り込まれており床面までの覆土はかまどの覆土を除き5層である。1層は砂粒、炭化物を含む黒褐色土、2層はシルトブロック、小石、炭化物、を含む黒褐色土、3層は炭化物を多量に含



写210 H29号住居址全景（東から）

む黒褐色土、4層は粘土、炭化物を含む暗褐色土、5層は焼土、粘土を多量に含む灰黄褐色土である。規模は南北5.20m、東西5.32m、深さ0.80m（床面）を測り、平面形は方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、ややしまりがあり安定している。床面は堅く4～6cmの厚さで貼り床されている。南西コーナー付近に一部周溝が認められた。ピットは7個確認でき、P1～P4が主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置する。袖は北壁から住居内に65cm入り込み、一部地山を残し、これを粘土で覆っている。炊口付近の袖には石が埋め込まれており、西側袖付近には天井石と見られる長方形の石が南北方向に横たわっていた。住居の掘方はかまど周辺を除くほぼ全域に8～14cm掘り込まれており、暗褐色土が埋め込まれていた。

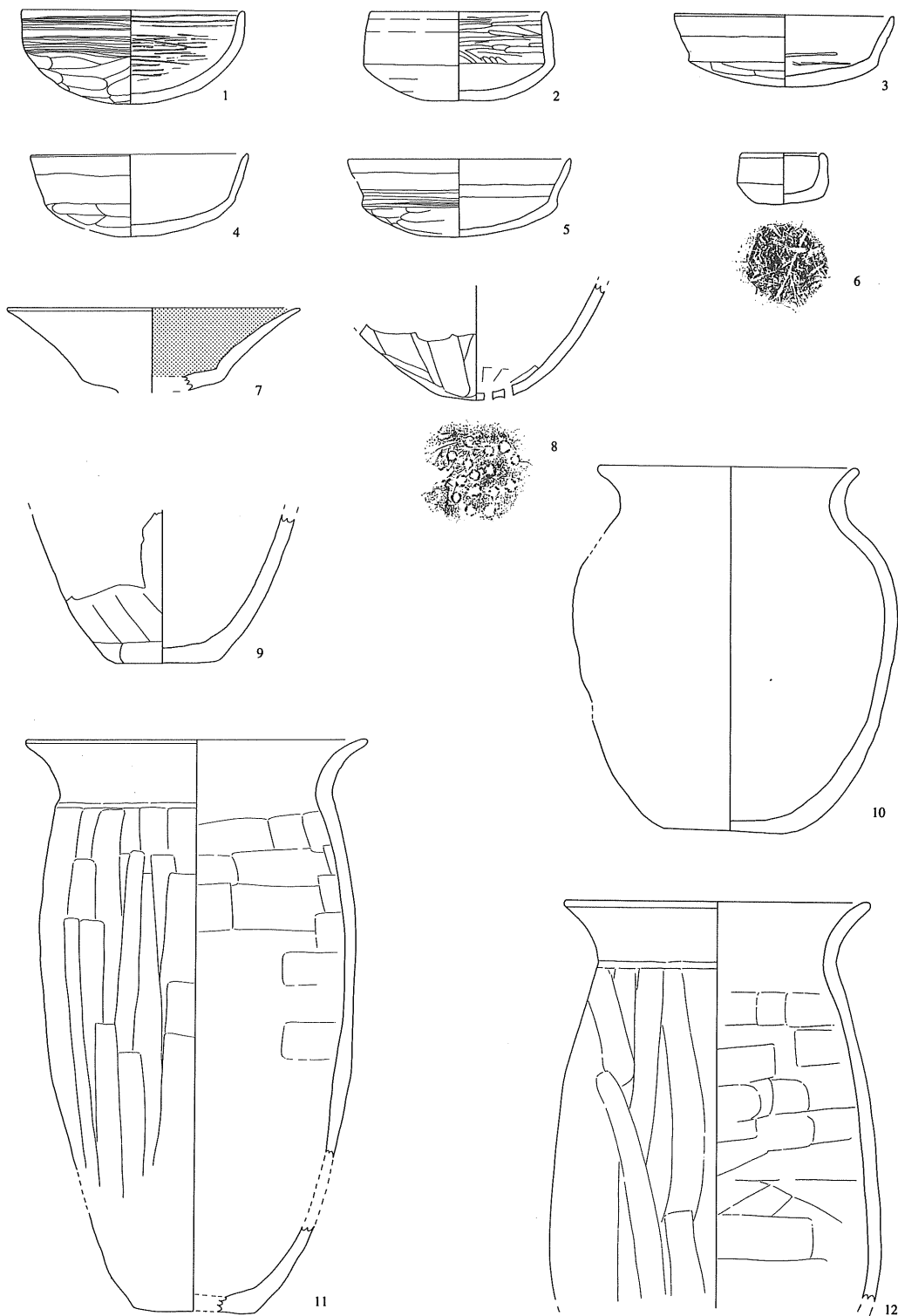
遺物は土師器の坏、甕、ミニチュア土器、須恵器の坏、蓋、壺、甕、磨り石などテンバコ1箱出土している。1～5は土師器の坏で体部に明瞭な稜を持ち、底部周辺にヘラ削りを施す。6はミニチュア土器で底部に木葉痕を持つ。7は土師器の高坏で内面黒色処理後ミガキを施す。8は甕の甕の底部で多口式である。9～14は土師器の甕で、長胴で外面にヘラ削りを施すもの、土器の最大径が肩部にありやや器厚の厚いものが存在する。これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C前半～中頃と考えられる。



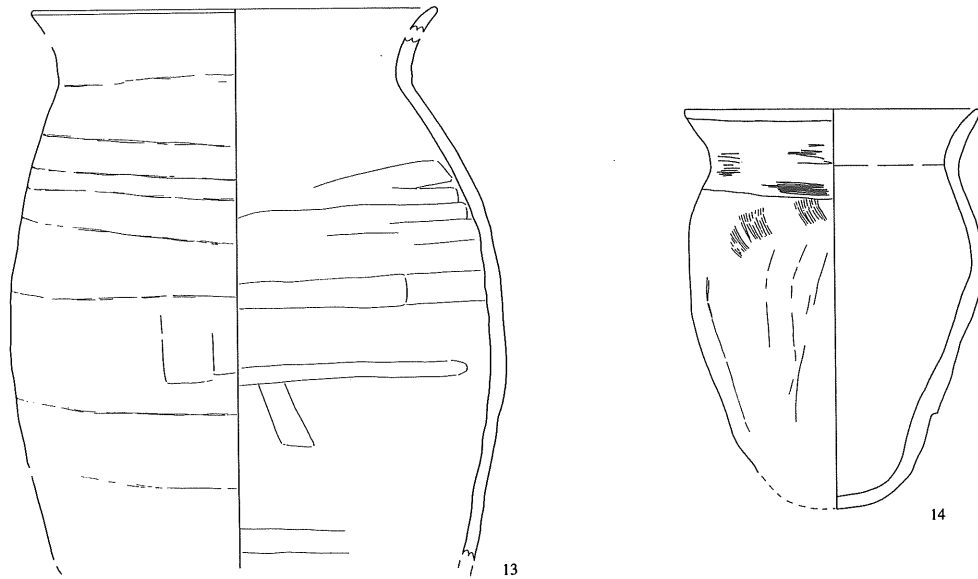
- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、炭化物を含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、ロームブロック、炭化物、小石1~5cm含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒、炭化物多量に含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 粘土粒、ローム粒、炭化物含む。
- 5層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 焼土層含む。粘土多量に含む。
- 6層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ロームブロック、粘土ブロック、焼土粒含む。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ロームブロック、炭化物を多く含む。
- 8層 褐色土層 (7.5YR 4/6) 粘土層。やや焼けている。
- 9層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ロームブロック、粘土ブロックを含む。
- 10層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 黒褐色土を含む、しまりやや少ない。貼り床。
- 11層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ロームも多く含む。炭化物含む。しまりなし。
- 12層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 焼土、炭化物、粘土、多量含む。
- 13層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 石3~5cm含む。しまりなし。
- 14層 赤褐色土層 (5YR 4/8) 焼土層。しまりなし。
- 15層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 粘土層。焼土含む。
- 16層 褐色土層 (10YR 4/4) ローム主体。粘土ブロック含む。
- 17層 ぶい黄褐色土層 (10YR 4/3) ローム粒含む。しまりなし。

0 676.700m (1:80) 2m

第151図 H29号住居址実測図



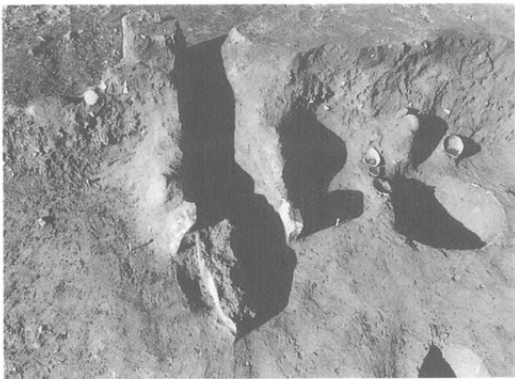
第152図 H29号住居址出土遺物実測図(1)



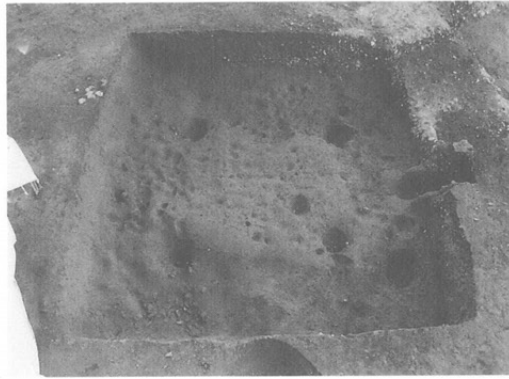
第153図 H29号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	13.7	丸底	5.7	口縁 横ナデ 内面 ミガキ 底部 ヘラ削り	60	良	10YR7/3 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	10.8	丸底	5.4	口縁 横ナデ 口縁内面 ミガキ 底部 ヘラ削り	50	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
3	土師器	坏	13.7	丸底	3.7	口縁 横ナデ 内面 ミガキ 底部 ヘラ削り	90	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
4	土師器	坏	14.4	丸底	4.38	口縁 横ナデ 底部 ヘラ削り	60	良好	7.5YR7/3 鈍い橙色	
5	土師器	坏	13.8	丸底	4.0	口縁 横ナデ 底部 ヘラ削り	50	良好	5YR6/6 橙色	
6	ミニチュア 土器	壺	5.5	丸底	3.1	底部 木葉痕	100	良	10YR8/4 浅黄橙色	
7	土師器	高坏	18.0	-	3.6	内面 黒色処理・ミガキ	坏部30	良	10YR7/4 鈍い黄褐色	
8	土師器	甗	-	3.8	4.0	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部95	良	10YR5/6 赤色	底部多口
9	土師器	甗	-	6.7	3.5	外面 ヘラ削り 内面 ヘラ削り	底部50	良好	5YR5/2 灰褐色	
10	土師器	甗	16.1	7.3	-	口縁 横ナデ 内面 ハケ目・ミガキ	70	良	10YR7/2 鈍い黄褐色	
11	土師器	甗	20.8	7.4	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	70	良	7.5YR6/6 橙色	
12	土師器	甗	19.0	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	20	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
13	土師器	甗	21.6	-	-	口縁 横ナデ、内面 ヘラナデ	25	良	7.5YR7/4 鈍い橙色	
14	土師器	甗	16.2	(5.6)	-	口縁 ヘラナデ 外面 ハケ目・ヘラ削り	70	良	10YR7/1 灰白色	

第73表 H29号住居址出土遺物観察表



写211 H29号住居址かまど



写212 H29号住居址掘方（東から）

### H30号住居址

遺構は調査区南の東際Eーけー6グリットに位置し、H22を切る。住居址の東側は調査区外となる。遺構は砂層に掘りこまれており、覆土はかまどの覆土を除き、黒褐色土の単層である。規模は南北4.70m、東西3.52m、深さ0.66m（床面）を測り、平面形はやや隅丸の方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面はかまど付近を除き全体的に4～8cmの厚さで貼り床かされている。ピットは西壁よりに2個確認できた。住居西側の主柱穴と思われる。また南西コーナー付近に深さ15cmほどの浅い土坑、南壁沿いには一部周溝らしき溝が認められた。かまどは西壁の規模から、北壁のほぼ中央に位置すると思われる。袖は北壁から住居内に80cm入り込み、粘土で構築されている。火床は袖に挟まれるように存在し、厚さ8cmの焼土が堆積していた。

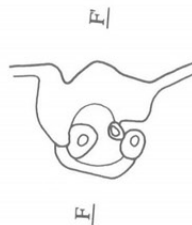
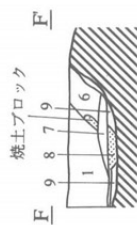
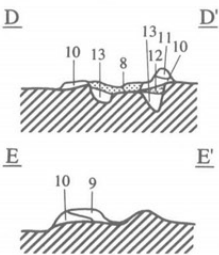
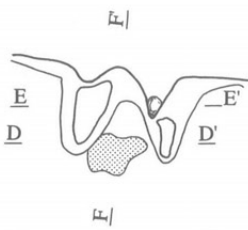
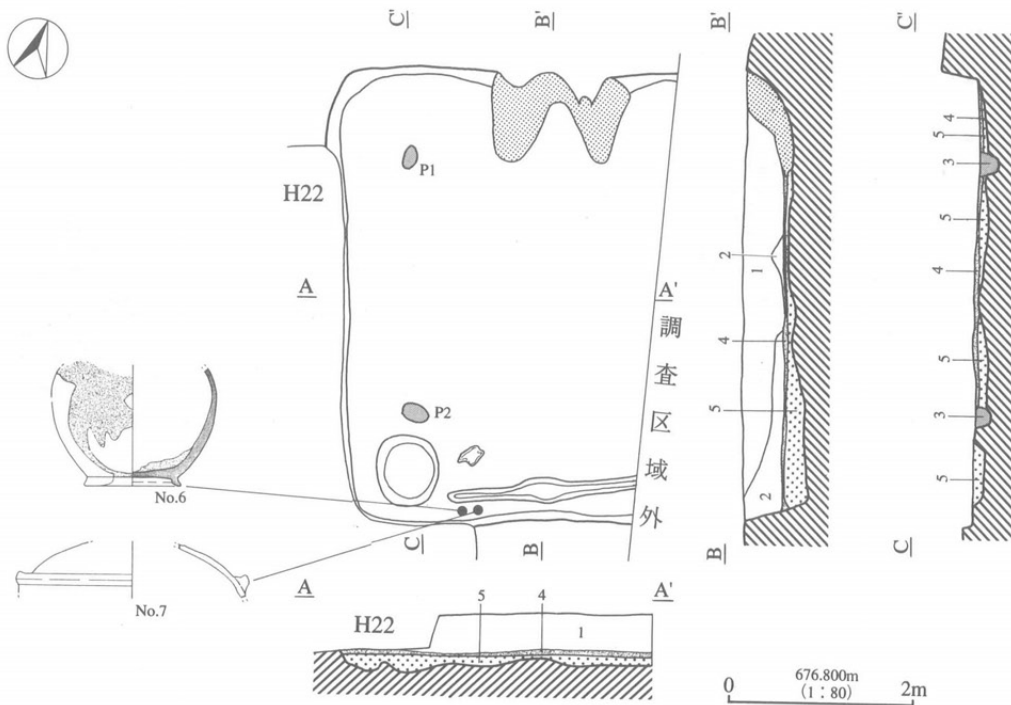
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕などテンバコ2分の1箱出土している。1は須恵器の坏で、糸切りされた底部からやや内傾気味に立ち上がり口縁部に至る。2、3、4は須恵器の蓋である。5は小型の轆轤甕で外面体部下半にヘラ削りを施す。6は須恵器の壺と考えられ、外面に自然釉が付着する。7は須恵器の壺、8は土師器の甕である。9C前半と考えられる。



写213 H30号住居址全景（南から）



写214 H30号住居址かまど（南から）

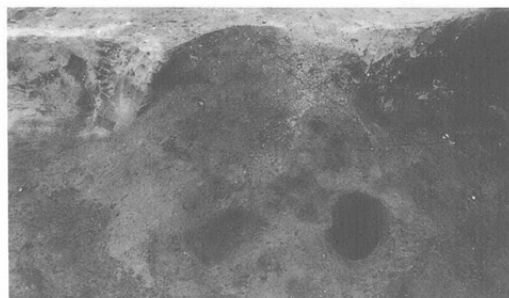


- |     |                    |                        |
|-----|--------------------|------------------------|
| 1層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3)  | ローム粒、炭化物を含む。           |
| 2層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | ローム粒、炭化物を含む。           |
| 3層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3)  | 柱痕。ローム粒含む。             |
| 4層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | 貼り床。焼土、炭化物含む。しまりあり。    |
| 5層  | 褐色土層 (10Y R 4/4)   | ローム主体。焼土、炭化物含む。        |
| 6層  | 灰黄褐色土層 (10Y R 4/2) | 粘土粒、粘土ブロックを多量に含む。      |
| 7層  | 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | 粘土粒、焼土多く含む。            |
| 8層  | 暗赤褐色土層 (5 Y R 3/6) | 焼土層。やけしまる。しまりあり。       |
| 9層  | 黒褐色土層 (10Y R 2/3)  | 焼土、焼土炭化物含む。しまりあり。      |
| 10層 | 黒褐色土層 (10Y R 2/3)  | 粘土粒、焼土、焼土ブロック含む。しまりあり。 |
| 11層 | 黒褐色土層 (10Y R 2/3)  | ロームブロック多く含む。           |
| 12層 | 灰黄褐色土層 (10Y R 4/2) | 粘土多量に含み、焼土ブロック含む。      |
| 13層 | 暗褐色土層 (10Y R 3/3)  | ローム粒含み、粘土多く含む。         |

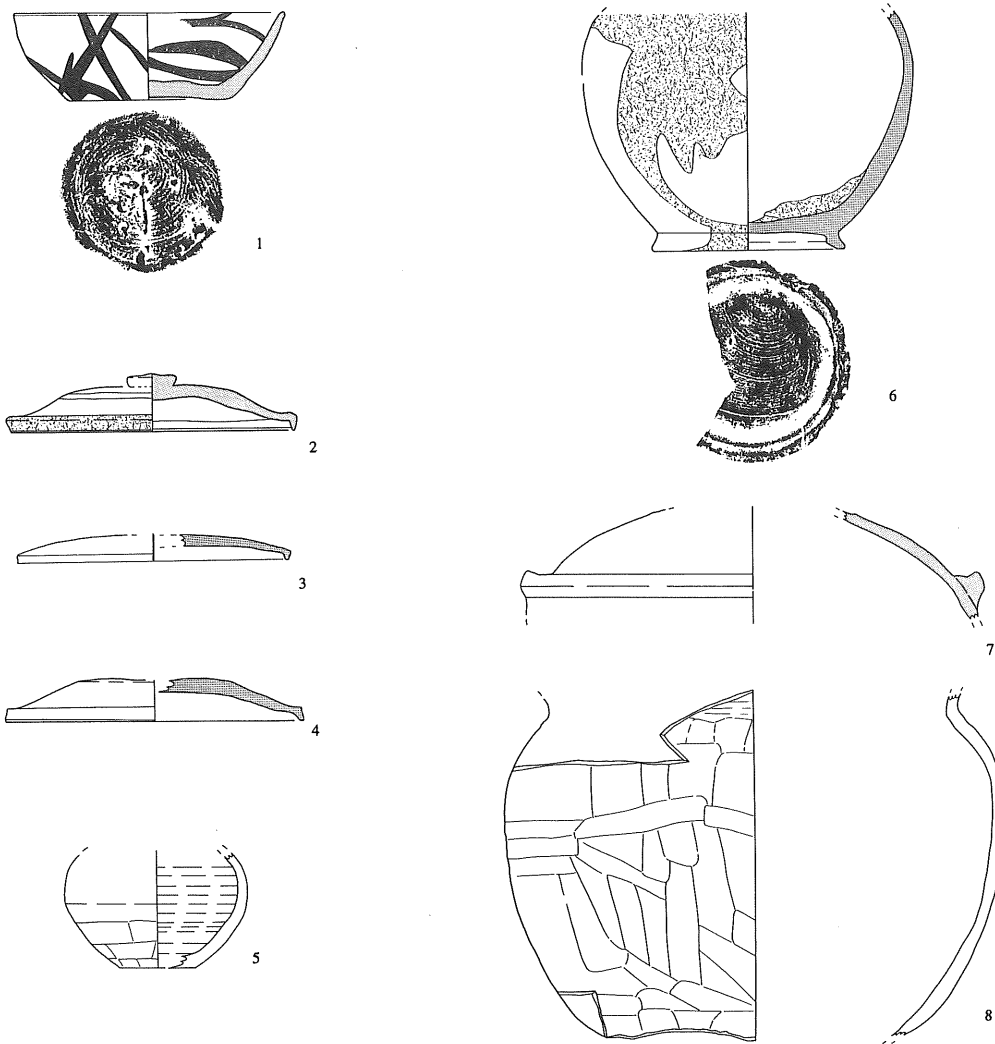
第154図 H30号住居址実測図



写215 H30号住居址掘方全景 (南から)



写216 H30号住居址かまど掘方 (南から)



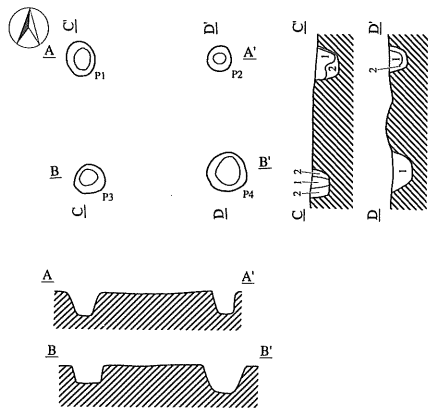
第155図 H30号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	14.4	8.2	4.5	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	100	良	N6/0 灰色	火だすき
2	須恵器	蓋	(15.2)	-	2.6	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ つまみ張り付け	10	良好	7.5YR5/1 褐灰色	自然釉付着
3	須恵器	蓋	(14.6)	-	-	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ	20	良好	N5/0 灰色	
4	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	外面上部 ヘラ削り ロクロナデ	20	良好	10Y7/1 灰白色	
5	土師器	轆轤甕	-	4.0	-	外面体部下半 ヘラ削り	25	良好	10YR5/4 赤褐色	
6	須恵器	壺	-	10.4	-	底部 回転糸切り後高台張り付け	40	良好	5RP4/1 暗紫灰色	自然釉付着
7	須恵器	壺	-	-	-	外面 ロクロナデ	体部の一部	良	N5/0 灰色	自然釉付着
8	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り	25	良	10YR7/4 鈍い黄褐色	

第74表 H30号住居址出土遺物観察表

## 第2節 掘立柱建物址（F）

### F 1号掘立柱建物址



第156図 F 1号掘立柱建物址実測図

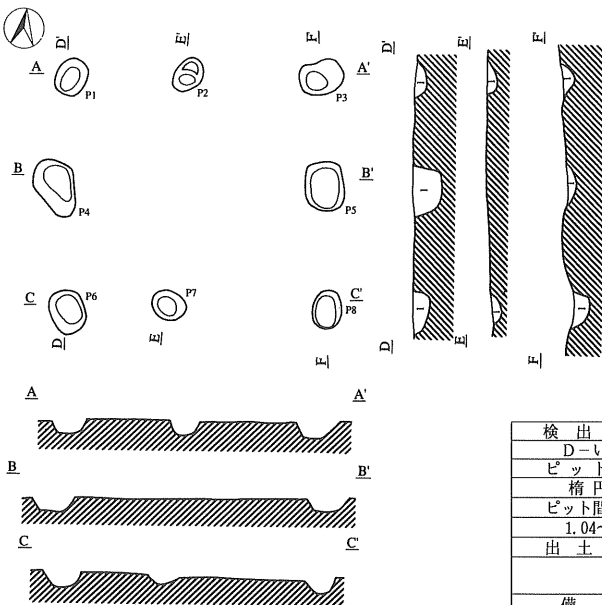
1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、パミスを含む。  
 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒多く含む。

0 676.800m (1:120) 3m

検出位置	形態	規模(間)
D-エ-7	方形	1×1
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-49×40	
ピット間隔(m)	P2-37×36	
1.32~1.70	P3-47×28	
出土遺物	P4-67×41	
備考		

第75表 F 1号掘立柱建物址観察表

### F 2号掘立柱建物址



第157図 F 2号掘立柱建物址実測図

1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、小石  
 3~6 cm 大多く含む。

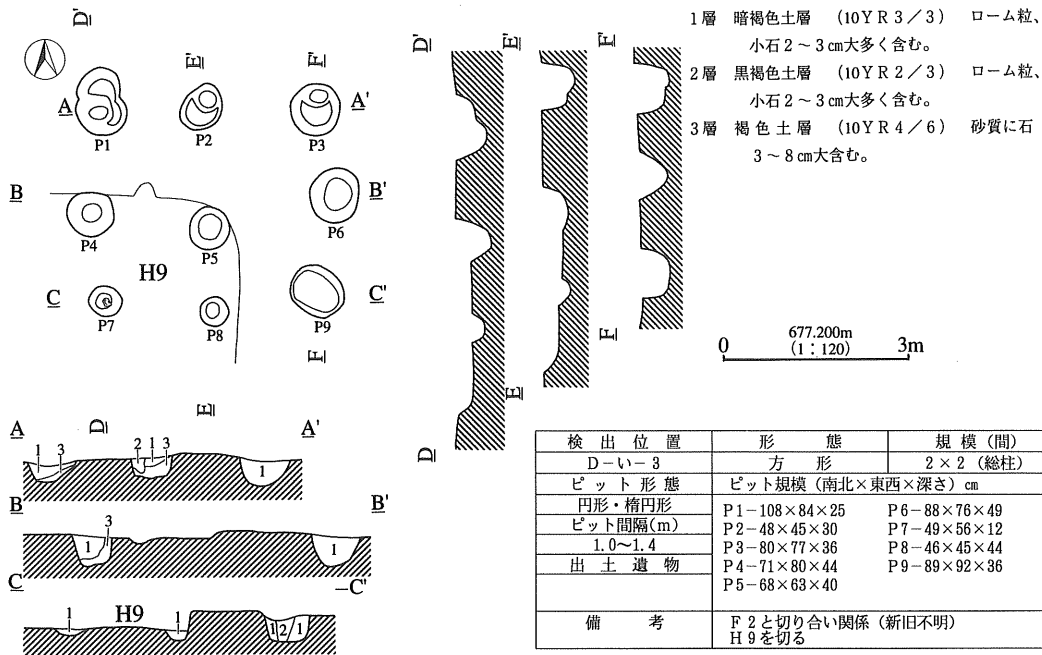
0 677.200m (1:120) 3m

検出位置	形態	規模(間)
D-い-2	方形	2×2
ピット形態	ピット規模(南北×東西×深さ) cm	
楕円形	P1-60×48×21	P5-80×65×20
ピット間隔(m)	P2-59×46×20	P6-72×58×27
1.04~2.0	P3-52×71×44	P7-28×55×16
出土遺物	P4-92×68×23	P8-60×49×20
備考		

第76表 F 2号掘立柱建物址観察表



F 3号掘立柱建物址



第158図 F 3号掘立柱建物址実測図

第77表 F 3号掘立柱建物址観察表

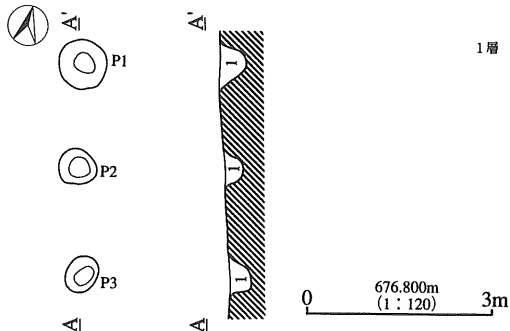
F 4号掘立柱建物址



第159図 F 4号掘立柱建物址実測図

第78表 F 4号掘立柱建物址観察表

F 5号掘立柱建物址



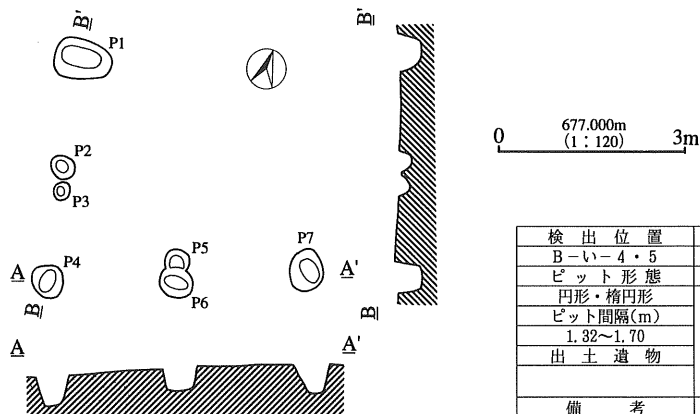
1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、小石を含む。

検出位置	形態	規模(間)
B-い-10	不明	不明
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-76×39	
ピット間隔(m)	P2-48×25	
1.16	P3-60×28	
出土遺物		
備考	形態・規模は一部調査区外のため不明	

第160図 F 5号掘立柱建物址実測図

第79表 F 5号掘立柱建物址観察表

F 6号掘立柱建物址

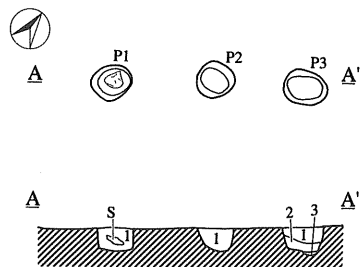


検出位置	形態	規模(間)
B-い-4・5	不明	2×2
ピット形態	ピット規模(南北×東西×深さ) cm	
円形・楕円形	P1-64×90×47	P5-47×55×37
ピット間隔(m)	P2-41×36×20	P6-36×40×25
1.32~1.70	P3-31×26×19	P7-72×56×45
出土遺物	P4-52×50×48	
備考	H1と切り合い関係	

第161図 F 6号掘立柱建物址実測図

第80表 F 6号掘立柱建物址観察表

F 7号掘立柱建物址



1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、パミスを含む。  
 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂質。ローム土を多く含む。  
 3層 褐色土層 (10YR 4/6) ローム主体。わずかに黒みをおびる。

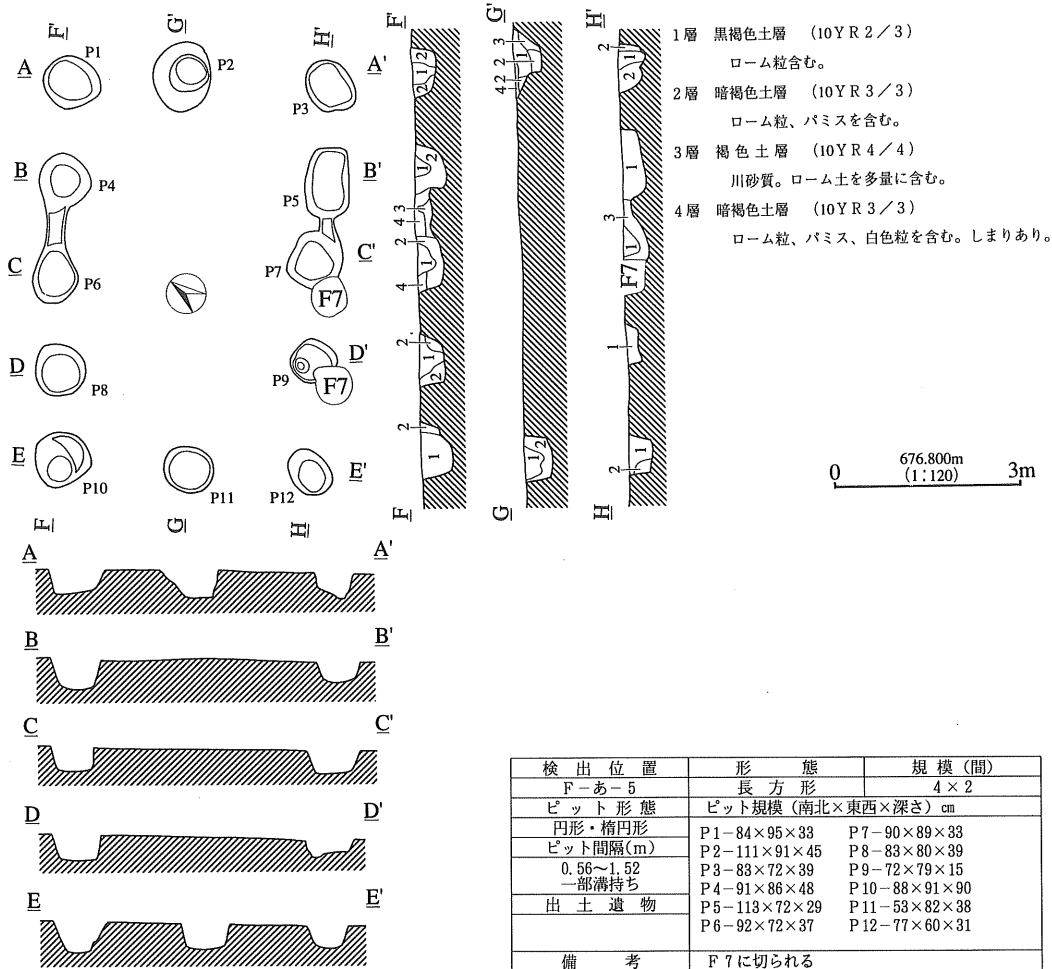
0 676.800m (1:120) 3m

検出位置	形態	規模(間)
F-あ-6	直線	2
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-64×39	
ピット間隔(m)	P2-60×37	
0.76・1.0	P3-68×45	
出土遺物		
備考	H28・F8を切る。	

第162図 F 7号掘立柱建物址実測図

第81表 F 7号掘立柱建物址観察表

F 8号掘立柱建物址

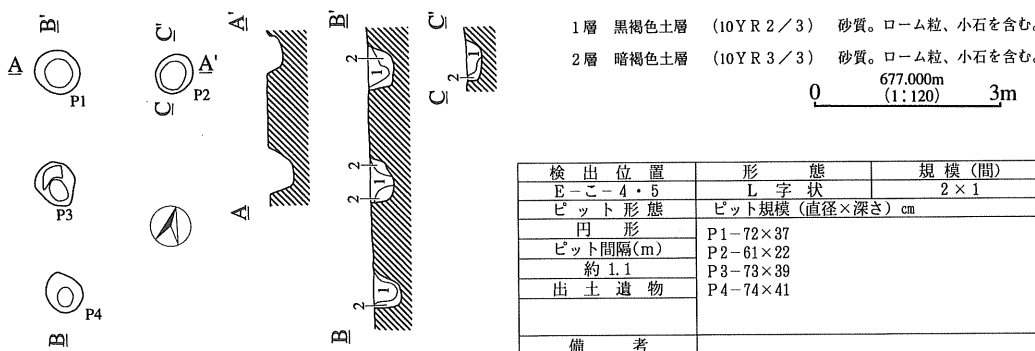


第163図 F 8号掘立柱建物址実測図

第82表 F 8号掘立柱建物址観察表

検出位置	形態	規模(間)
F-あ-5	長方形	4×2
ピット形態	ピット規模(南北×東西×深さ) cm	
円形・楕円形	P1-84×95×33	P7-90×89×33
ピット間隔(m)	P2-111×91×45	P8-83×80×39
0.56~1.52	P3-83×72×39	P9-72×79×15
一部溝持ち	P4-91×86×48	P10-88×91×90
出土遺物	P5-113×72×29	P11-53×82×38
	P6-92×72×37	P12-77×60×31
備考	F7に切られる	

F 9号掘立柱建物址

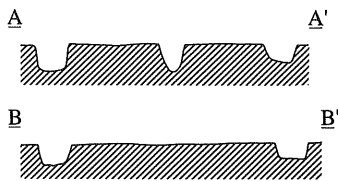
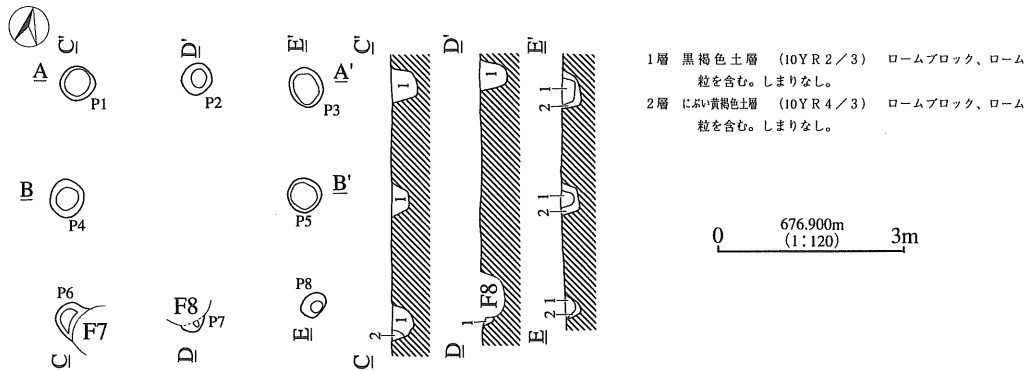


第164図 F 9号掘立柱建物址実測図

第83表 F 9号掘立柱建物址観察表

検出位置	形態	規模(間)
E-こ-4・5	L字状	2×1
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-72×37	
ピット間隔(m)	P2-61×22	
約1.1	P3-73×39	
出土遺物	P4-74×41	
備考		

F 10号掘立柱建物址

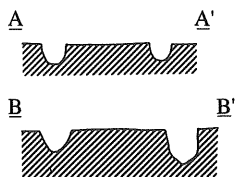
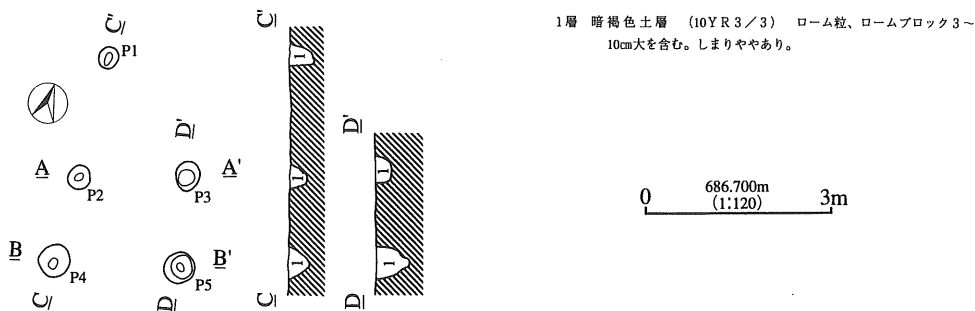


第165図 F 10号掘立柱建物址実測図

検出位置	形態	規模(間)
F-い-4	方形	2×2
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-60×41	P5-57×29
ピット間隔(m)	P2-51×44	P6-52×25
1.24~1.4	P3-61×28	P7-40×14
出土遺物	P4-58×30	P8-37×24
備考	F 8 に切られる	

第84表 F 10号掘立柱建物址観察表

F 11号掘立柱建物址



第166図 F 11号掘立柱建物址実測図

検出位置	形態	規模(間)
F-う-4	長方形	2×1
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形	P1-33×37	P4-40×25
ピット間隔(m)	P2-36×29	P5-52×50
0.96~1.28	P3-32×35	
出土遺物		
備考	H 2 1 に切られる	

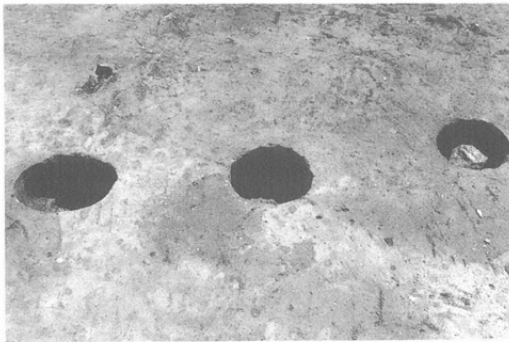
第85表 F 11号掘立柱建物址観察表



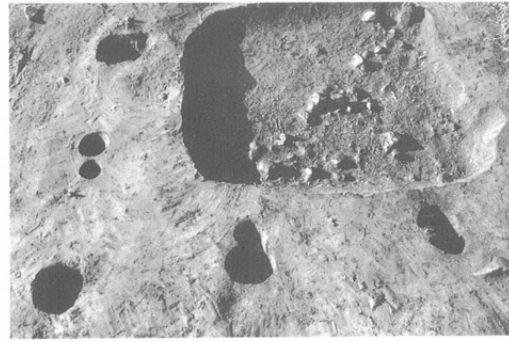
写217 F 2号掘立柱建物址



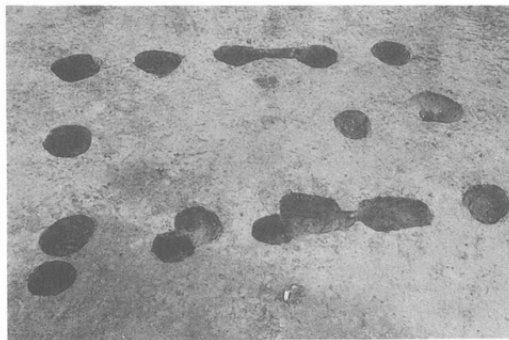
写218 F 3号掘立柱建物址



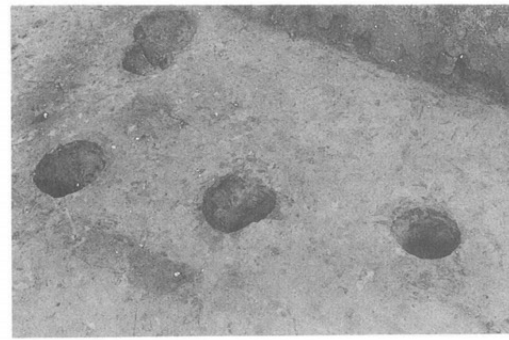
写219 F 4号掘立柱建物址



写220 F 6号掘立柱建物址



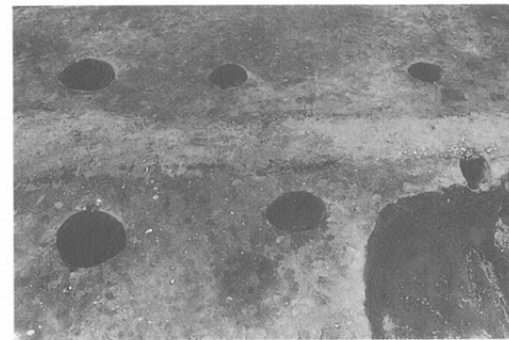
写221 F 7号・8号掘立柱建物址



写222 F 9号掘立柱建物址

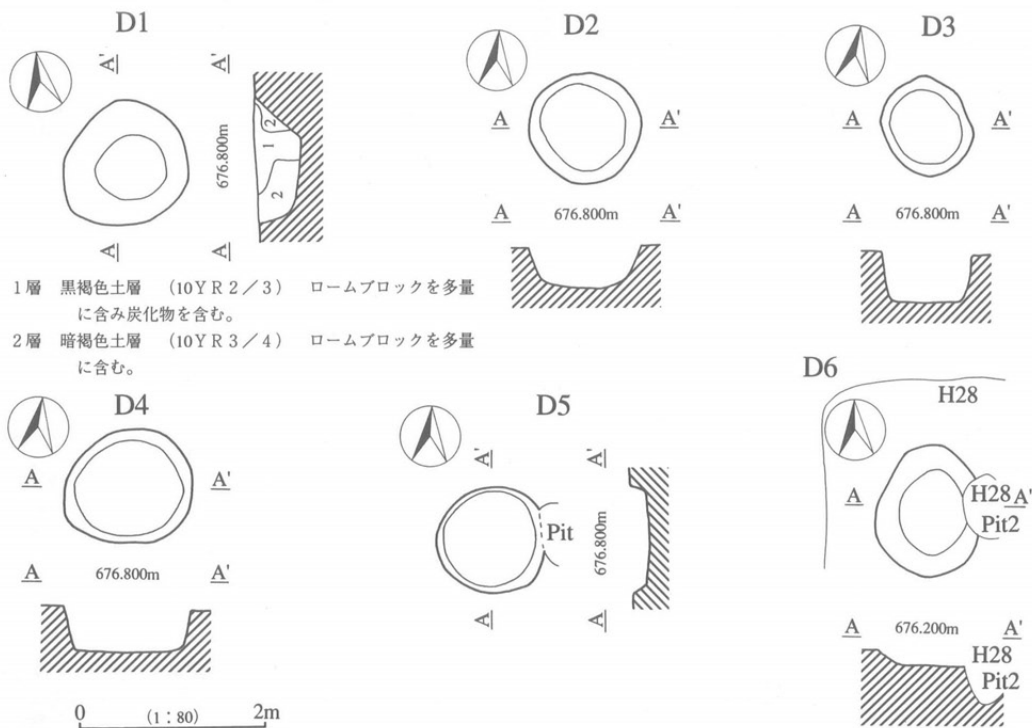


写223 F 10号掘立柱建物址



写224 F 11号掘立柱建物址

### 第3節 土坑(D)



第167図 仲田遺跡土坑実測図

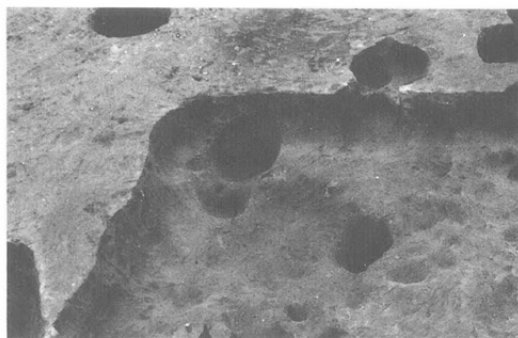
遺構名	検出位置	形態	規模(東西・南北・深さ)	出土遺物	備考
D 1	F-あ-9	円形	136・155・45		
D 2	E-こ-9	円形	120・116・51		
D 3	E-こ-9	円形	96・105・60		
D 4	E-こ-9	円形	136・125・46		
D 5	E-け-9	円形	117・116・21		
D 6	F-あ-6	円形	118・139・15	弥生土器(前期)	

(単位 cm)

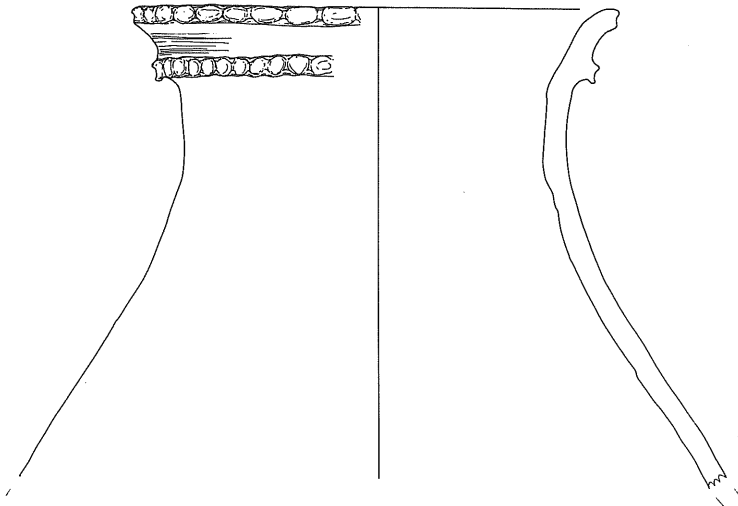
第86表 仲田遺跡土坑観察表



写225 D 1号～D 4号土坑



写226 D 6号土坑



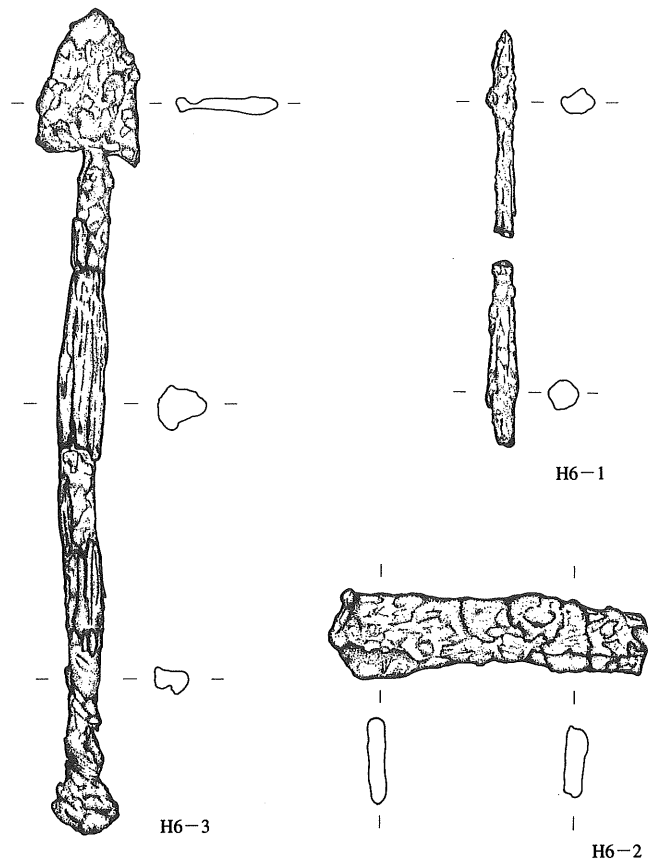
1

第168図 D 6号土坑出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	弥生土器	壺	(26.0)	-	-	外面 ミガキ 内面 ヘラナデ	口縁20	良	7.5Y6/4 鈍い橙色	

第87表 D 6号土坑出土遺物観察表

## 第4節 鉄製品

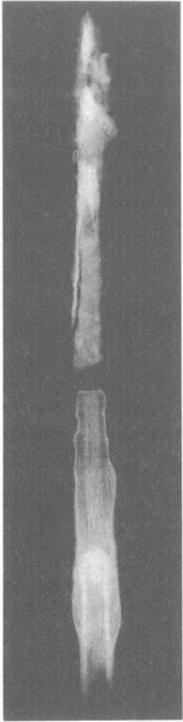


第169図 仲田遺跡出土鉄製品実測図

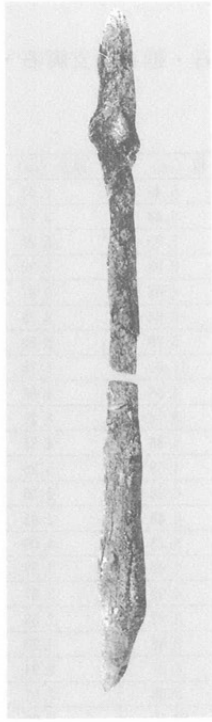
番号	出土遺構名	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	H 6	鉄鏃	15.45	—	1.16	10.68	先端・茎欠損
2	H 6	鏃	12.43	2.81	0.42	55.41	先端欠損
3	H 6	鉄鏃?	33.10	4.96	0.31	106.90	

第88表 仲田遺跡出土鉄製品観察表

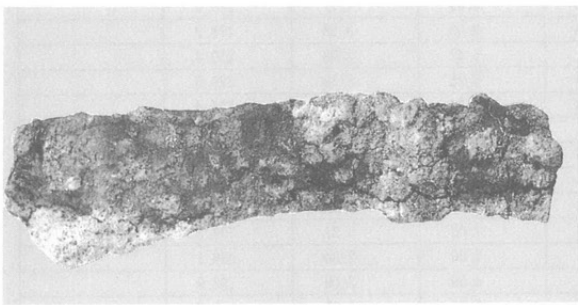




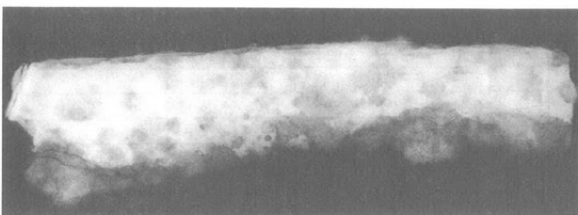
写227 H 6号鉄鍬



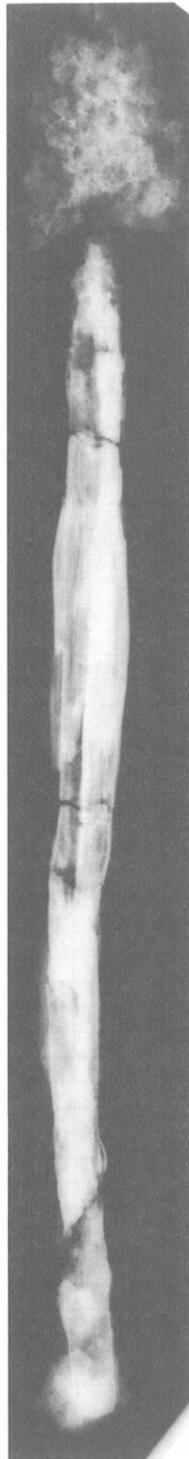
写228 H 6号鉄鍬



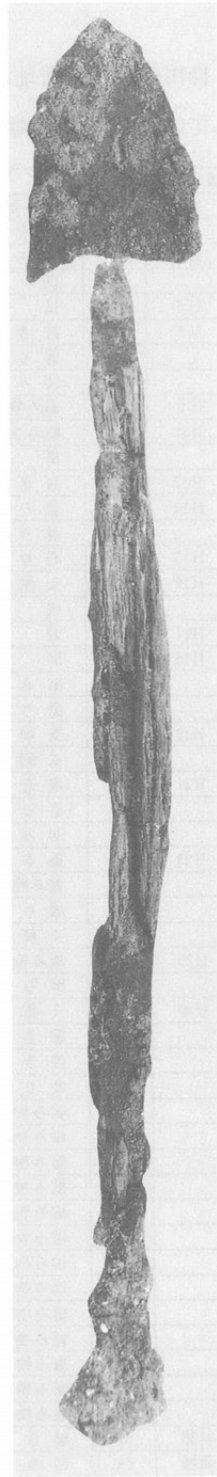
写229 H 6号住居址出土鎌



写230 H 6号住居址出土鎌



写231 H 6号出土鉄鍬



写232 H 6号出土鉄鍬

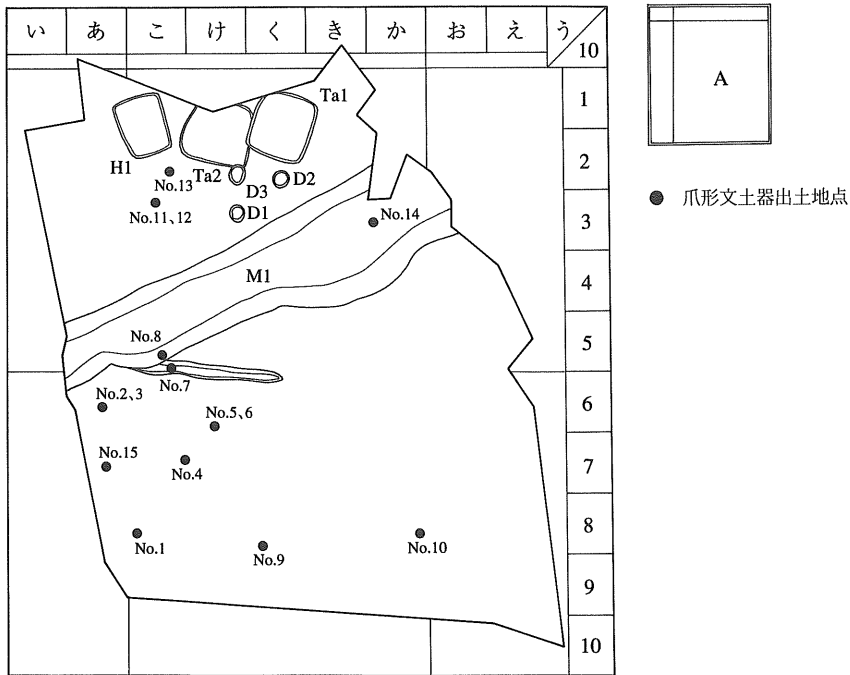
## 第5節 石製品

仲田遺跡の住居址から磨り石・敲き石・編み物石・砥石・支脚石・凹石といった石製品が出土している。(写真図版四十二～四十九参照)

遺構名	番号	名称	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
H 2	1	編み物石	輝石安山岩	10.81	5.46	2.41	206.8	
	2	磨り石	安山岩	6.23	5.48	3.74	86.7	
H 3	3	凹み石	軽石	9.71	7.75	5.27	162.0	
	4	砥石	流紋岩	5.76	3.98	3.20	83.8	
H 5	5	砥石	流紋岩	4.01	2.68	0.87	15.3	
H 6	6	敲き石	輝石安山岩	16.40	6.64	3.78	608.7	
	7	磨り石	軽石	11.49	5.79	5.32	173.4	
	8	凹み石	軽石	10.21	11.61	6.78	445.9	
H 9	9	編み物石	輝石安山岩	12.04	4.96	4.66	411.5	
H11	10	編み物石	軽石	10.75	3.74	3.21	178.2	
	11	砥石	砂岩	8.16	4.86	4.85	344.4	
H12	12	敲き石	オルンフェルス	15.09	4.58	5.20	612.2	
H14	13	磨り石	安山岩	8.22	6.34	2.56	169.8	
	14	磨り石	安山岩	4.95	5.48	4.01	137.9	
H15	15	磨り石	輝石安山岩	7.02	5.28	4.09	213.1	
H16	16	支脚石	軽石	20.75	7.49	7.37	287.0	
	17	砥石	流紋岩	6.39	4.95	3.67	178.5	
H17	18	砥石	流紋岩	5.85	3.22	1.58	43.6	
H18	19	砥石	流紋岩	16.50	3.86	4.29	501.5	
	20	敲き石	輝石安山岩	4.86	4.21	2.94	87.6	
	21	磨り石	軽石	3.87	3.08	1.01	7.1	
H19	22	支脚石	凝灰岩	27.80	13.19	6.03	2326.1	
	23	支脚石	赤色安山岩	22.85	11.35	5.40	1210.2	
H21	24	敲き石	細粒安山岩	12.69	4.08	4.31	357.1	
	25	磨り石	安山岩	10.97	6.22	4.54	298.8	
	26	凹み石	軽石	10.90	8.89	4.17	129.8	
H23	27	敲き石	輝石安山岩	13.63	3.03	3.23	175.9	
	28	編み物石	安山岩	10.91	5.42	2.68	210.4	
	29	磨り石	石英安山岩	10.66	5.28	3.33	229.6	
H26	30	支脚石	輝石安山岩	19.16	10.84	2.46	596.4	
	31	編み物石	輝石安山岩	11.31	4.85	3.06	248.3	
H29	32	磨り石	安山岩	7.55	7.14	5.38	369.3	
	33	支脚石	軽石	24.65	10.88	10.25	1434.4	
	34	敲き石	輝石安山岩	16.50	5.82	6.35	1162.9	
	35	敲き石	輝石安山岩	13.85	7.03	5.21	708.2	
	36	磨り石	輝石安山岩	13.41	7.36	2.84	448.1	
	37	編み物石	輝石安山岩	8.41	4.59	3.09	192.9	
	38	編み物石	輝石安山岩	8.41	3.38	3.85	147.6	
	39	編み物石	輝石安山岩	8.20	4.54	2.48	145.0	
	40	編み物石	輝石安山岩	8.21	5.00	2.68	199.6	
	41	編み物石	輝石安山岩	8.78	4.07	3.80	218.7	
	42	編み物石	輝石安山岩	10.10	5.07	3.01	213.7	
	43	編み物石	輝石安山岩	8.42	4.97	2.65	149.5	
	44	編み物石	輝石安山岩	8.20	4.87	1.96	159.8	
	45	編み物石	輝石安山岩	9.35	4.58	2.62	173.7	
	46	編み物石	輝石安山岩	9.43	5.50	2.70	217.1	
	47	編み物石	輝石安山岩	9.57	4.44	2.38	145.8	
	48	編み物石	輝石安山岩	8.69	4.78	2.88	193.8	
	49	編み物石	輝石安山岩	8.44	4.98	2.59	168.1	
H30	50	磨り石	軽石	9.41	6.06	2.76	88.0	
表採	51	凹み石	軽石	6.58	4.60	3.64	32.7	

第89表 仲田遺跡出土石製品観察表

## 第IV章 寺畑遺跡Ⅱ



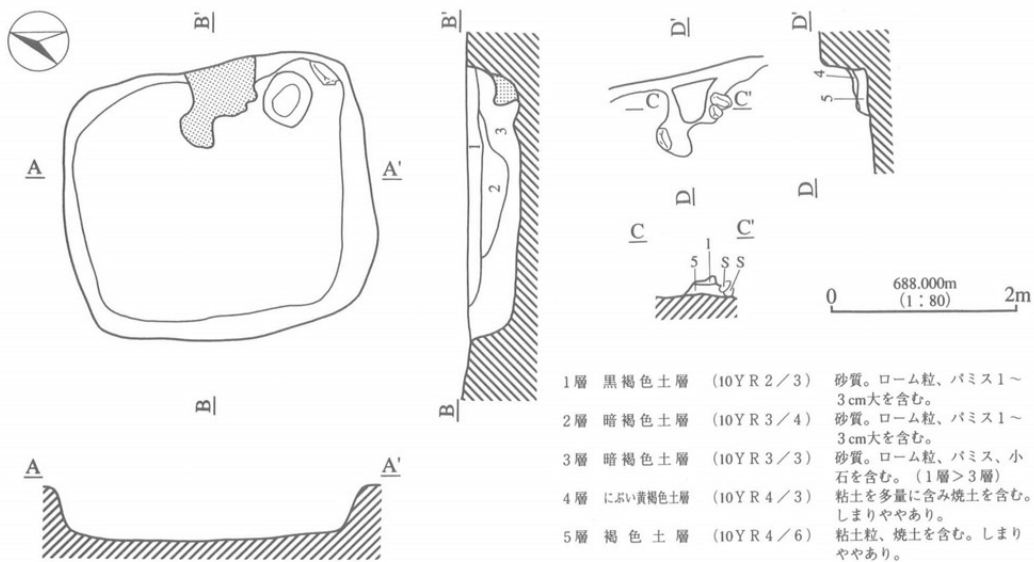
第170図 寺畑遺跡Ⅱ遺構配置図 (1 : 500)

## 第1節 竪穴住居址（H）

### H1号住居址

遺構は調査区北側、A-こ-1グリッドに位置する。規模は南北2.96m、東西3.28m、深さ0.57mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は堅いが、ピットは認められなかった。かまどは北壁の中央に位置するが、大半は破壊されている。周辺には構築の際、使用されたとと思われる多量の粘土が確認できた。

遺物は須恵器の坏・蓋・甕片等が僅かに出土した。平安時代と思われる。



第171図 H1号住居址実測図

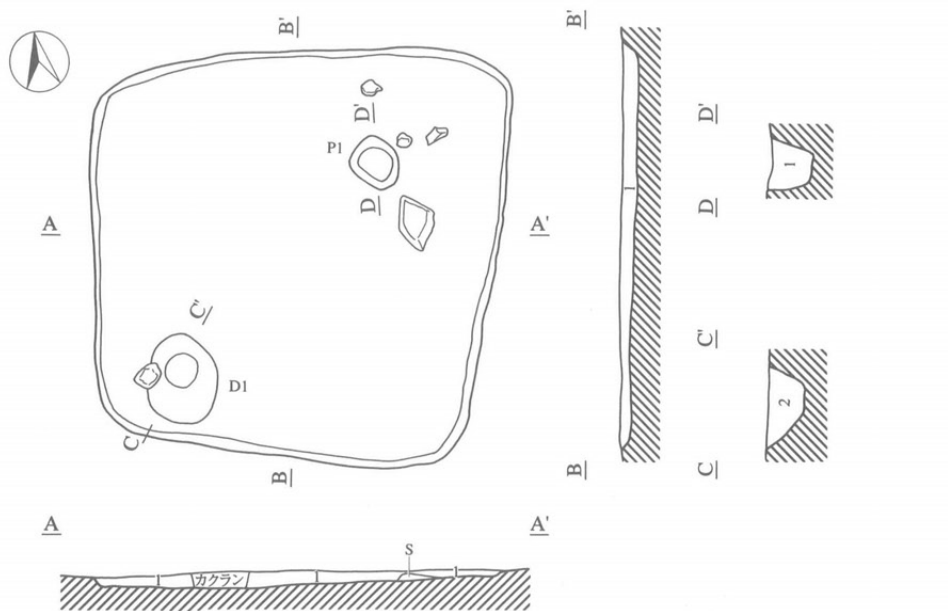


写233 H1号住居址全景

## 第2節 竪穴状遺構 (Ta)

### Ta1号竪穴状遺構

遺構は調査区北側、A-1-1グリッドに位置し、Ta2を切る。規模は南北4.4m、東西4.08m、深さ0.2mを測る。床面は堅く、ピット1、土坑1が認められた。遺物は土師器、須恵器片が僅かに出土した。



- 1層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、小石1~3cm大を含む。  
 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 砂質。ローム粒を含む。しまりなし。

0 688.500m (1:80) 2m

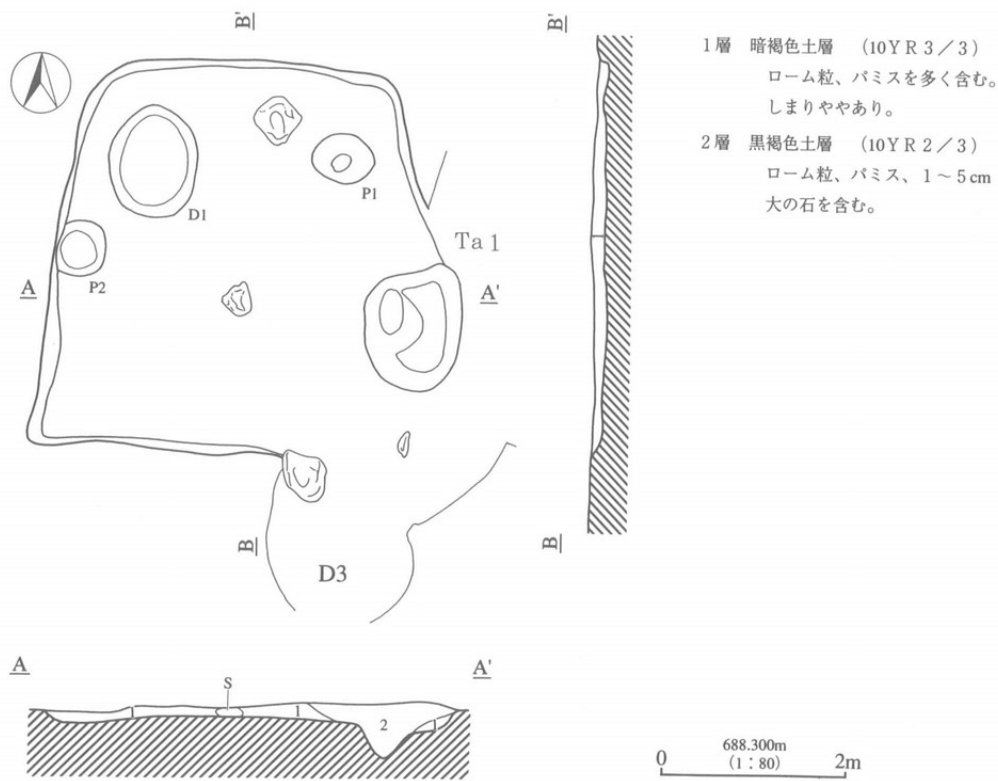
第172図 Ta1号竪穴状遺構実測図



写234 Ta1号竪穴状遺構全景

### Ta2号竪穴状遺構

遺構は調査区北端のほぼ中央、A-け-1グリッドに位置し、Ta1に切られる。規模は南北4.24m、東西3.9m、深さ0.18mを測る。床はやや堅く、ピット2、土坑1が認められた。遺物は土師器、須恵器がわずかに出土した。



第173図 Ta2号竪穴状遺構実測図



写235 Ta2号竪穴状遺構全景

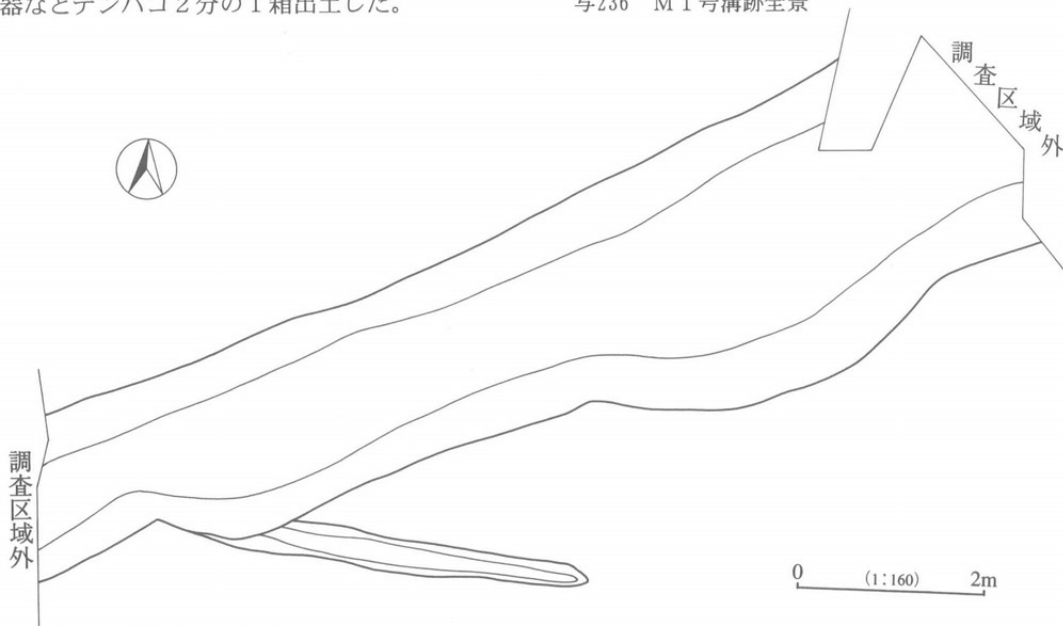
### 第3節 溝跡 (M)

#### M1号溝跡

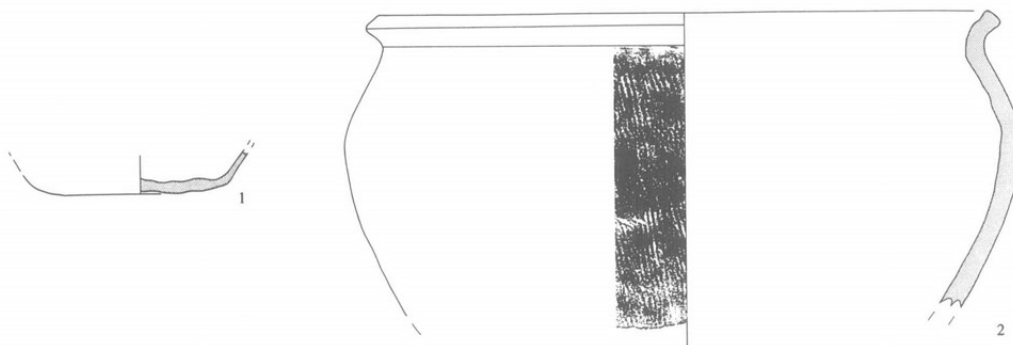
遺構は調査区の北をほぼ東西方向にのびる。長さは調査区外にのびるため不明である。幅は3～6m、深さは0.3m内外を測る。壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。覆土はローム粒、軽石を含む黒褐色土である。覆土内には流れ込みと思われる土師器の坏、須恵器の坏・甕・縄文土器、石器などテンバコ2分の1箱出土した。



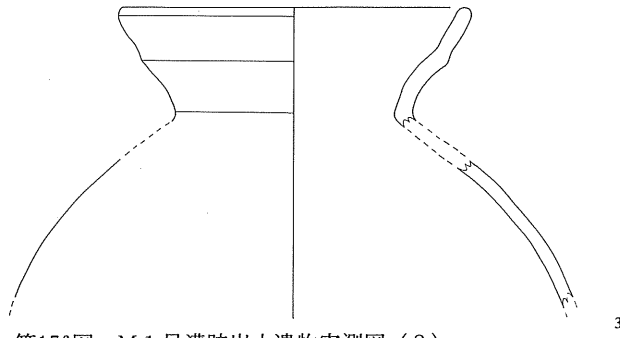
写236 M1号溝跡全景



第174図 M1号溝跡実測図



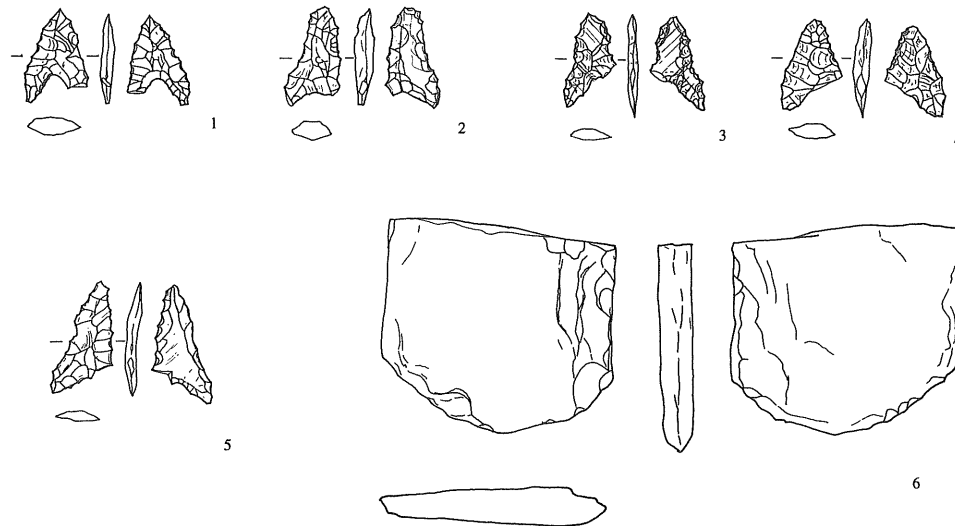
第175図 M1号溝跡出土遺物実測図(1)



第176図 M1号溝跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	-	6.5	-	底部へら削り	40	良好	7.5Y6/1 灰色	
2	須恵器	甕	34.2	-	-	口縁横ナデ 体部叩き	口縁20	良好	7.5Y6/1 灰色	
3	土師器	甕	18.4	-	-	口縁横ナデ	口縁60	良	5YR6/6 橙色	

第90表 M1号溝跡出土遺物観察表



第177図 M1号溝跡出土石器実測図

遺構名	番号	名称	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
M1	1	石鏃	チャート	2.52	1.59	0.40	1.2	
	2	石鏃	チャート	2.78	1.40	0.47	1.4	
	3	石鏃	黒曜石	2.55	1.16	0.27	0.5	
	4	石鏃	黒曜石	2.51	1.68	0.40	1.1	
	5	石鏃	チャート	3.23	1.38	0.31	1.2	
	6	石斧	輝石安山岩	5.51	6.04	0.92	51.5	

第91表 M1号溝跡出土石器観察表





写237 M1号溝跡出土黒曜石

#### 第4節 土坑 (D)



第178図 寺畑遺跡Ⅱ土坑実測図

遺構名	検出位置	形態	規模(径・深さ)	出土遺物	備考
D 1	A-け-3	円形	100・24	土師器・須恵器片	
D 2	A-く-2	円形	89・32	土師器・須恵器片	
D 3	A-け-2	円形	128・36	土師器・須恵器片	

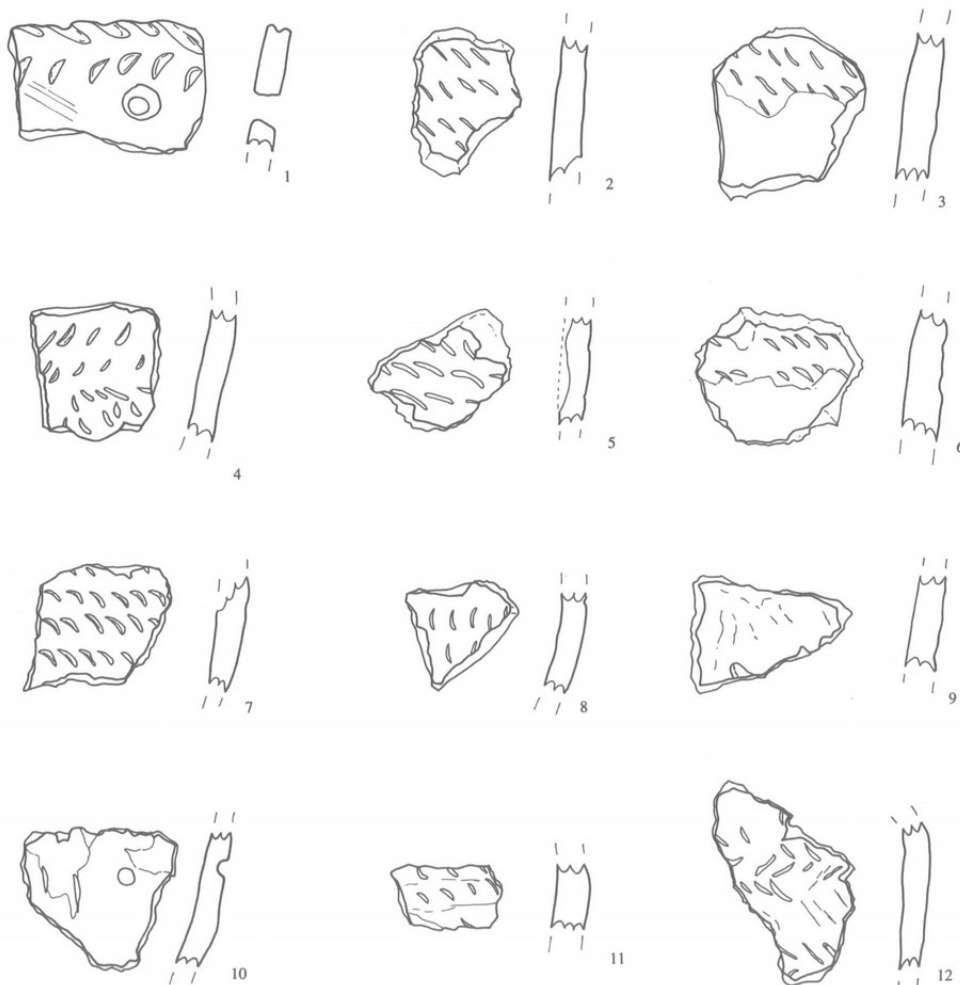
第92表 寺畑遺跡Ⅱ土坑観察表

## 第5節 遺構外遺物

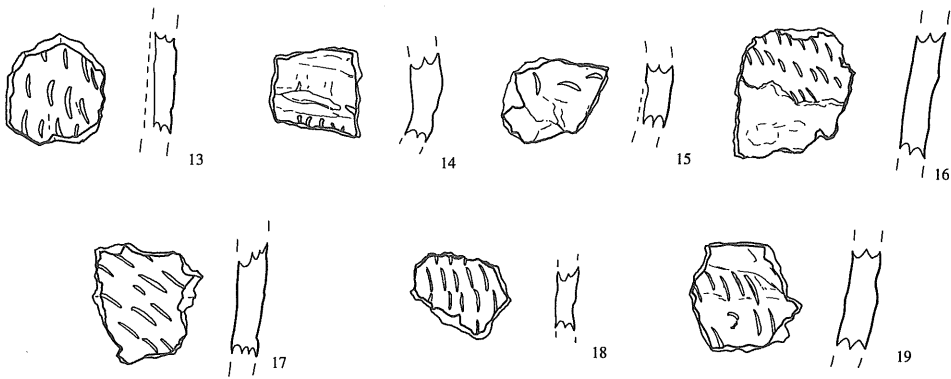
遺構外からは、検出時に土師器の甕、須恵器の坏・甕、石器、縄文土器が出土した。これらの遺物は大部分が小破片であるが、中には佐久市では最古と考えられる縄文草創期の爪形文土器が含まれている。佐久市内では平成7年佐久市都市計画課による道路改良工事に伴い、本遺跡に隣接する南側の調査が行われ、21片の爪形文土器が出土している。このため、縄文草創期の遺構の検出を一つの目的として調査を行ったが、今回も遺構の確認はできなかった。しかし、新たに19片の爪形文土器を出土した。



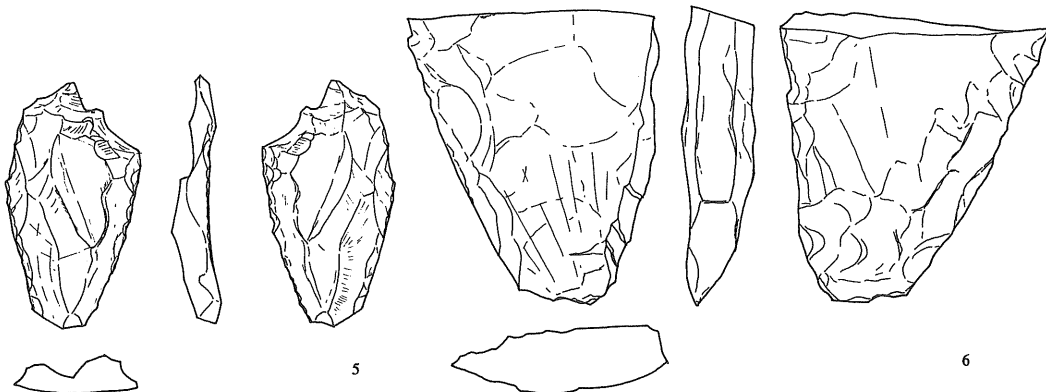
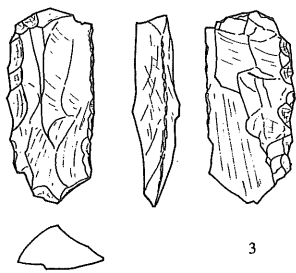
写238 爪形文土器出土状況



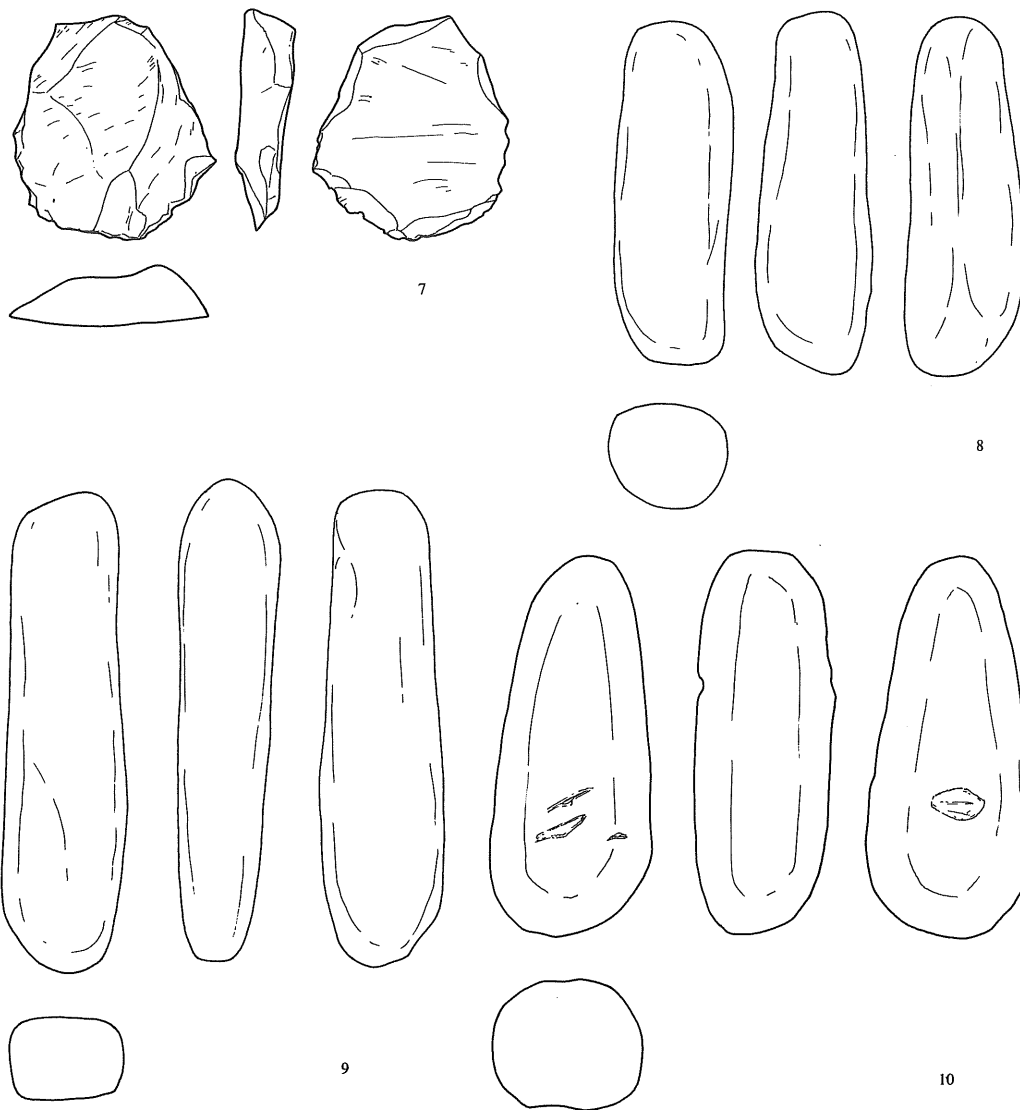
第179図 遺構外出土爪形文土器実測図(1)



第180图 遺構外出土爪形文土器実測図(2)



第181图 遺構外出土石器実測図(1)



第182図 遺構外出土石器実測図(2)

遺構名	番号	名称	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
遺構外	1	石 鏃	黒曜石	2.58	1.34	0.34	1.0	
"	2	搔 器	黒曜石	2.66	2.54	0.87	6.4	
"	3	搔 器	黒曜石	5.16	2.38	1.22	13.3	
"	4	彫刻器	黒曜石	3.35	1.72	0.99	4.50	
"	5	石 匙	チャート	6.66	3.22	0.96	19.3	
"	6	削 器	輝石安山岩	5.65	5.12	1.67	52.1	
"	7	搔 器	粘 盤 岩	7.65	6.70	1.83	105.8	
"	8	敲 き 石	輝石安山岩	9.59	3.01	2.82	101.9	
"	9	敲 き 石	輝石安山岩	12.74	3.25	2.03	170.0	
"	10	敲 き 石	輝石安山岩	10.42	4.35	3.51	236.4	

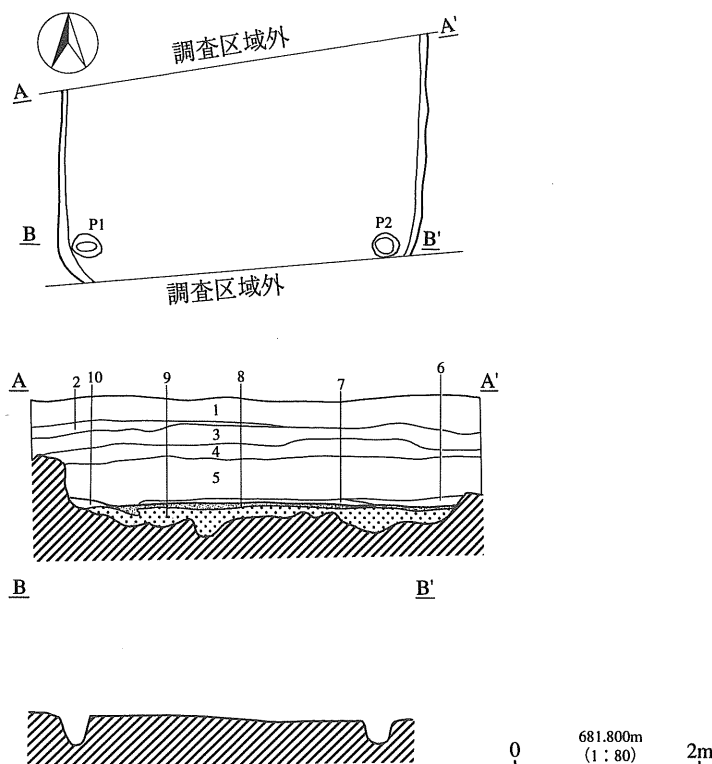
第93表 寺畑遺跡Ⅱ遺構外出土石器観察表

## 第V章 中西ノ久保遺跡 I

中西ノ久保遺跡 I は、今回の調査に先立ち平成4年発掘調査が行われた遺跡だが、同一集落と考えられるため比較遺跡として遺構・遺物の掲載を行う。今後、中西ノ久保遺跡を広範囲に考える上での参考にしていきたい。

### 第1節 遺構と遺物

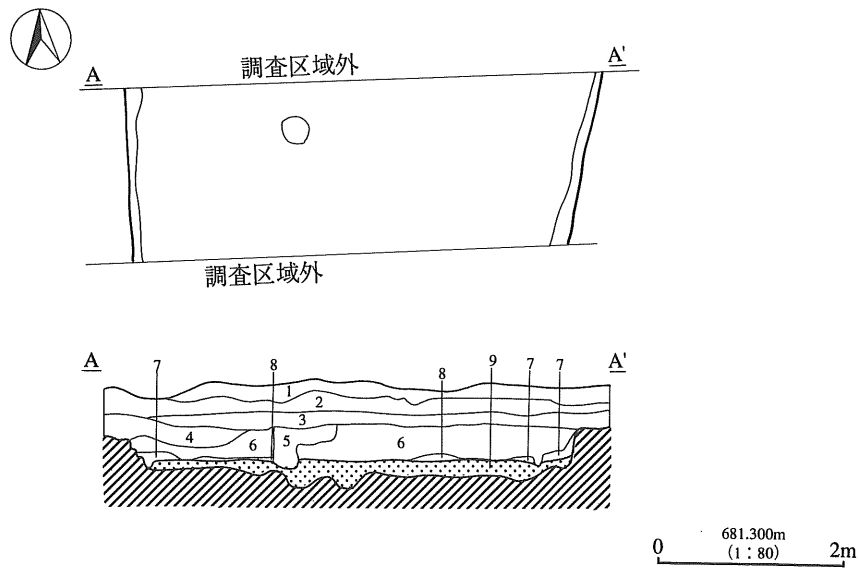
#### H1号住居址（平安時代）



- 1層 全体層序 I 層    2層 全体層序 II a 層    3層 全体層序 II b 層    4層 全体層序 III 層
- 5層 黒色土層 (7.5YR 2/1) 砂質土。径0.3~0.5cm大のパミスを多量に含む。炭を少量含む。粘質性少しあり。
- 6層 黒色土層 (7.5YR 1.7/1) 堅くしまりあり。7.5YR 4/3の粘土を含む。
- 7層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 堅くしまりあり。7.5YR 5/8の焼土・7.5YR 4/3の粘土を多量に含む。径5cm大の炭を少量含む。
- 8層 黒色土層 (7.5YR 2/1) 堅くしまりあり。粘質性あり。貼り床。
- 9層 黒褐色土層 (7.5YR 3/1) 7.5YR 5/6 (地山) ブロックを多量に含む。床下の埋め土。
- 10層 黒色土層 (7.5YR 2/1) 地山・7.5YR 5/6、径2cm大のブロックを少量含む。粘質性あり。

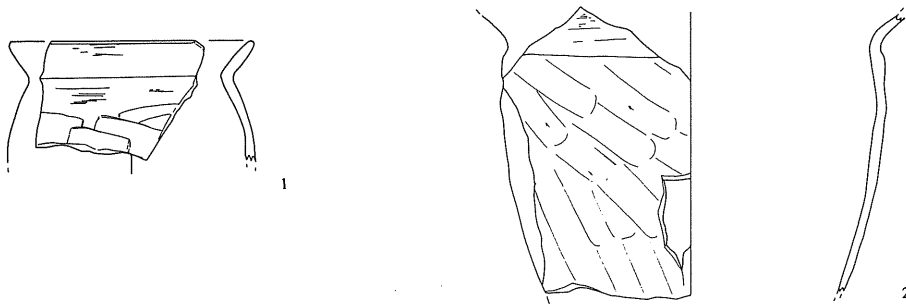
第183図 H1号住居址実測図

H 2 号住居址 (平安時代)

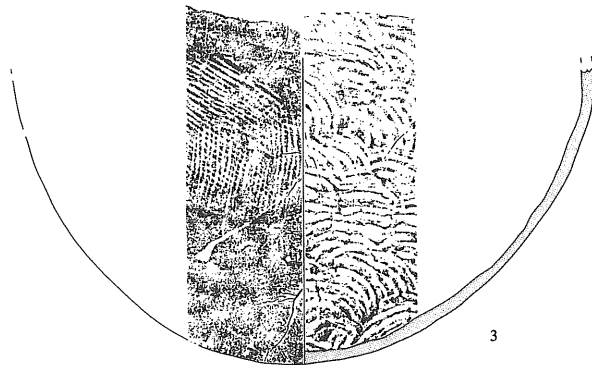


- 1層 全体層序 IIa層
- 2層 全体層序 IIb層
- 3層 灰黄褐色土層 (7.5YR 4/2) 7.5YR 2/2 ブロック・径3~10cm大の円礫を少量含む。層の下部には径0.2~1cm大の層がある。小河川。
- 4層 全体層序 III層
- 5層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 径3cm~5cm大7.5YR 5/6 (地山) ブロックを多量に含む。
- 6層 黒褐色土層 (7.5YR 3/1) 径0.5~1cm大の7.5YR 5/6 (地山) ブロック・炭を少量含む。
- 7層 黒褐色土層 (7.5YR 3/1) 径0.5~1cm大の7.5YR 5/6 (地山) ブロックを多量に含む。
- 8層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 灰・粘土を含む。
- 9層 黒色土層 (7.5YR 2/1) 7.5YR 5/6 (地山) ブロックを多量に含む。灰、粘土を少量含む。

第184図 H 2 号住居址実測図



第185図 H 2 号住居址出土遺物実測図 (1)

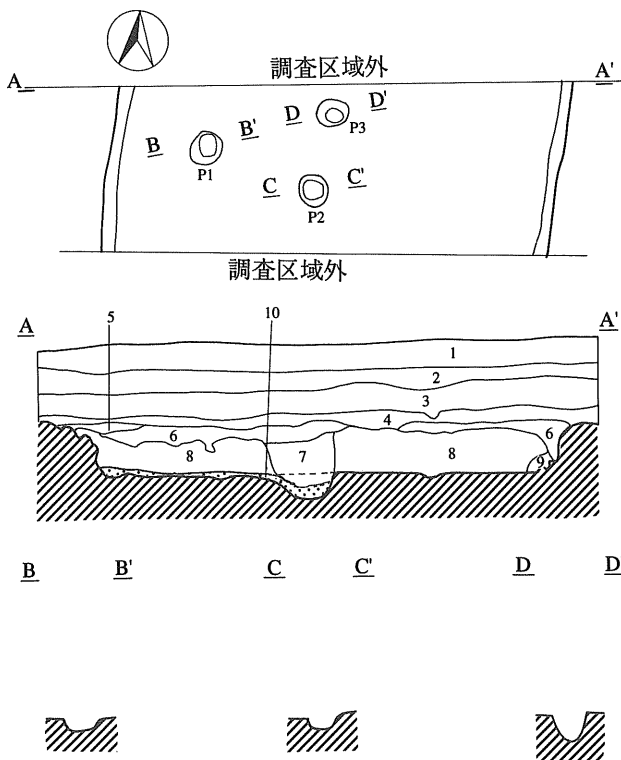


第186図 H2号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	(13.0)	-	-	外面ヘラ削り	口縁25	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラ削り	頸部・体 部の一部	良好	5YR6/4 鈍い橙色	
3	須恵器	甕	-	丸底	-	内外面叩き	底部周辺	良好	10Y6/1 灰色	

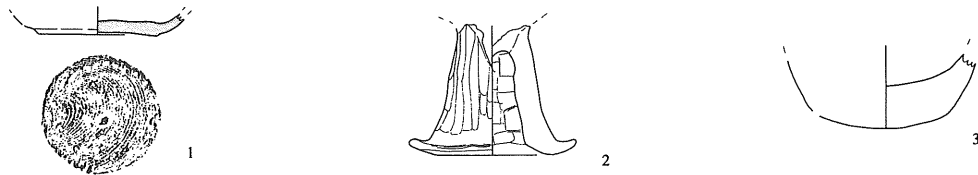
第94表 H2号住居址出土遺物観察表

H3号住居址 (住居址からは古墳・平安時代の土器が出土)



- 1層 全体層序Ⅰ層
- 2層 全体層序Ⅱa層
- 3層 全体層序Ⅱb層
- 4層 全体層序Ⅲ層
- 5層 極暗褐色土層 (7.5YR 2/3)
- 6層 黒褐色土層 (7.5YR 3/2)
- 7層 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) 径0.5~1cm大の7.5YR 6/8 (地山)を多量に含む。
- 8層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 径0.5~1cm大の7.5YR 6/8 (地山)を少量、5cm大のブロックの下部に多量に含む。
- 9層 黒褐色土層 (7.5YR 2/2) 径0.5~2cm大の7.5YR 6/8 (地山)ブロックを多量に含む。
- 10層 黒褐色土層 (7.5YR 3/1) 径1~3cm大の7.5YR 6/8 (地山)ブロック多量に含む。床下の埋め土。

第187図 H3号住居址実測図

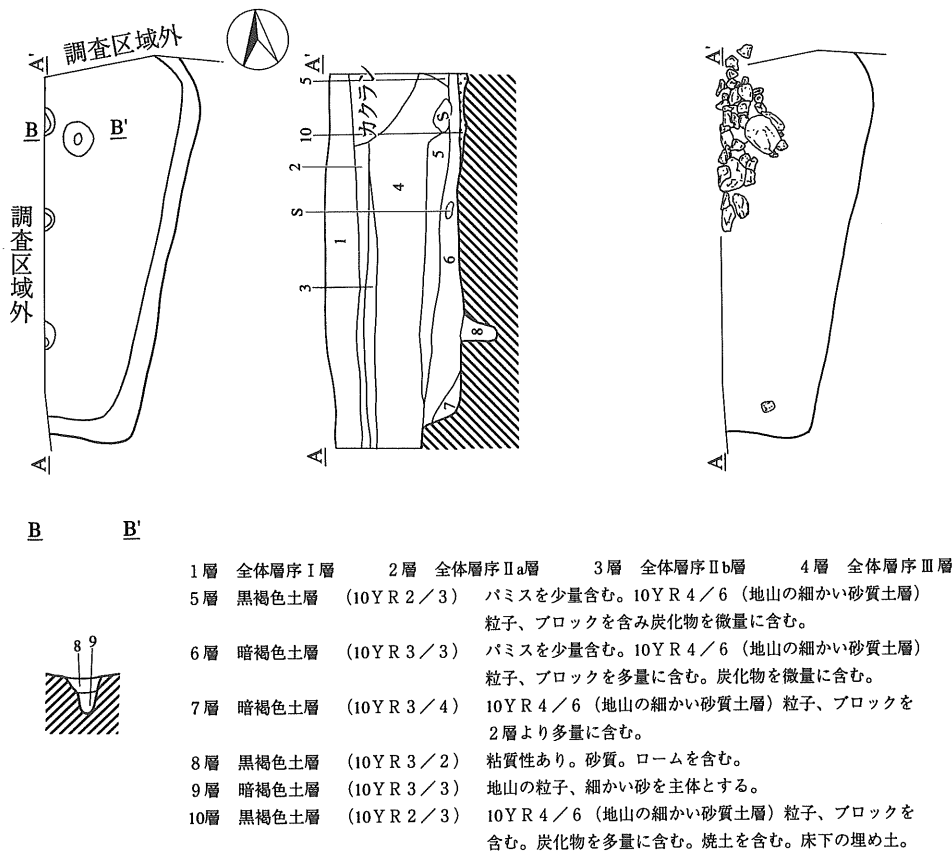


第188図 H3号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	須恵器	坏	-	6.4	-	底部 回転糸切り	20	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色	
2	土師器	高坏	-	9.0	-	脚部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	脚部30	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	甗	-	-	-	底部付近 ヘラ削り	底部30	良	5YR5/3 鈍い赤褐色	

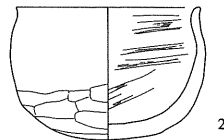
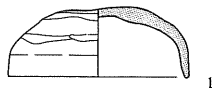
第95表 H3号住居址出土遺物観察表

#### H4号住居址



第189図 H4号住居址実測図



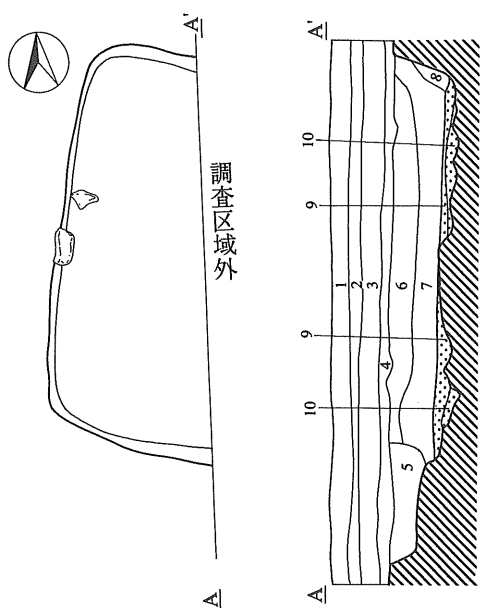


第190図 H4号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	蓋	—	9.1	3.6	内外面 ロクロナデ 外面 ロクロヘラ削り	70	良好	N6/0 灰色	
2	土師器	広口蓋	10.0	丸底	7.0	外面 底部・体部下半ヘラ削り 内面 ヘラナデ	60	良好	N3/0 暗灰色	

第96表 H4号住居址出土遺物観察表

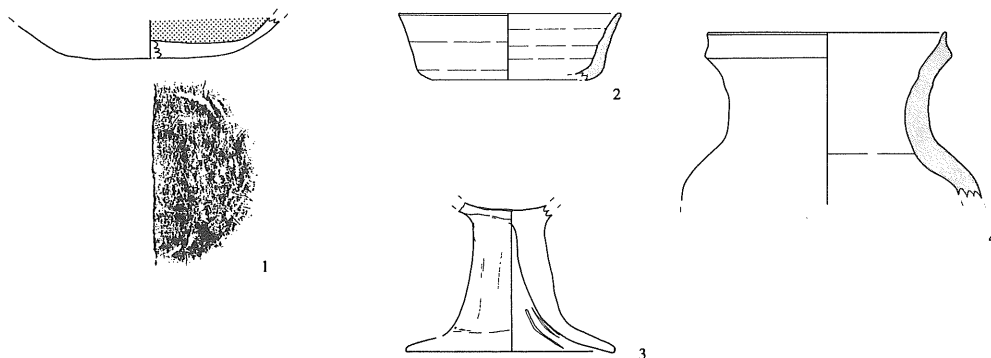
H5号住居址（奈良時代）



- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅲ層
- 4層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 2) 炭化粒子が微量に混入する。
- 5層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2) ロームブロックが混入する。
- 6層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 3) 炭化粒子、パミスが混入する。
- 7層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2) 炭化粒子、ロームブロックが混入する。
- 8層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2)
- 9層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 3) ローム粒子、ロームブロックが混入する。床下の埋め土。
- 10層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) ローム粒子を多量に含む。床下の埋め土。

0 681.200m (1:80) 2m

第191図 H5号住居址実測図

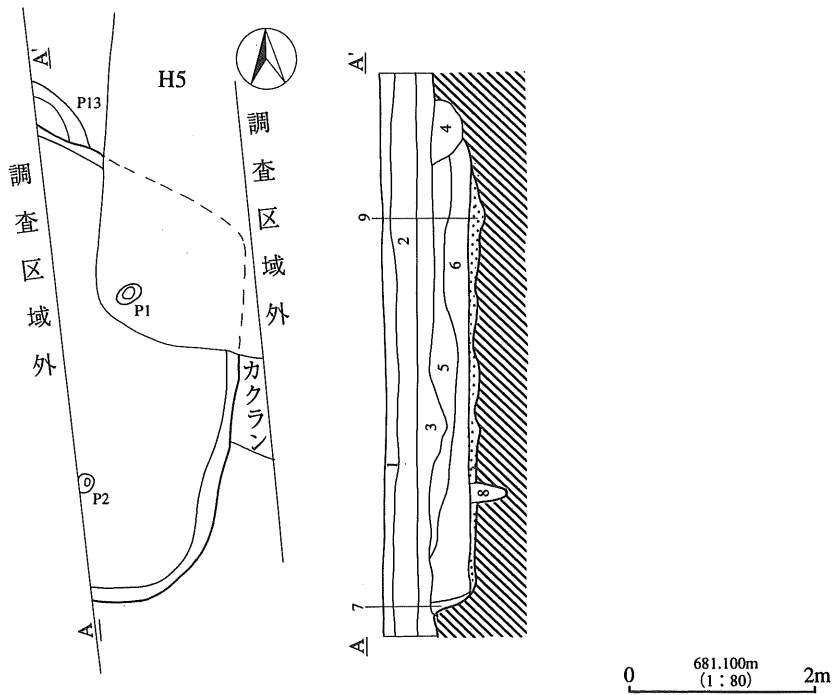


第192図 H5号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	—	(6.8)	—	内面 黒色処理	25	良好	7.5YR7/3 鈍い橙色	
2	須恵器	坏	(11.9)	(8.2)	3.5	内外面 ロクロナデ	20	良好	N5/0 灰色	
3	土師器	高坏	—	11.4	—	脚部外面 ヘラ削り	脚部70	良好	5YR6/4 鈍い橙色	
4	須恵器	壺	(12.8)	—	—		口縁15	良好	5PB7/1 明青灰色	

第97表 H5号住居址出土遺物観察表

H6号住居址



1層 全体層序Ⅱb層 2層 全体層序Ⅱd層 3層 全体層序Ⅲ層

4層 暗褐色土層 (10YR 2/3) P13の覆土10YR 4/6の地山の細かい砂層ブロック、粒子を含む。

5層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物を微量に含む。10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を少量に含む。

6層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 炭化物少量含む。10YR 4/6 (地山の細かい砂層) 粒子、ブロックを含む。

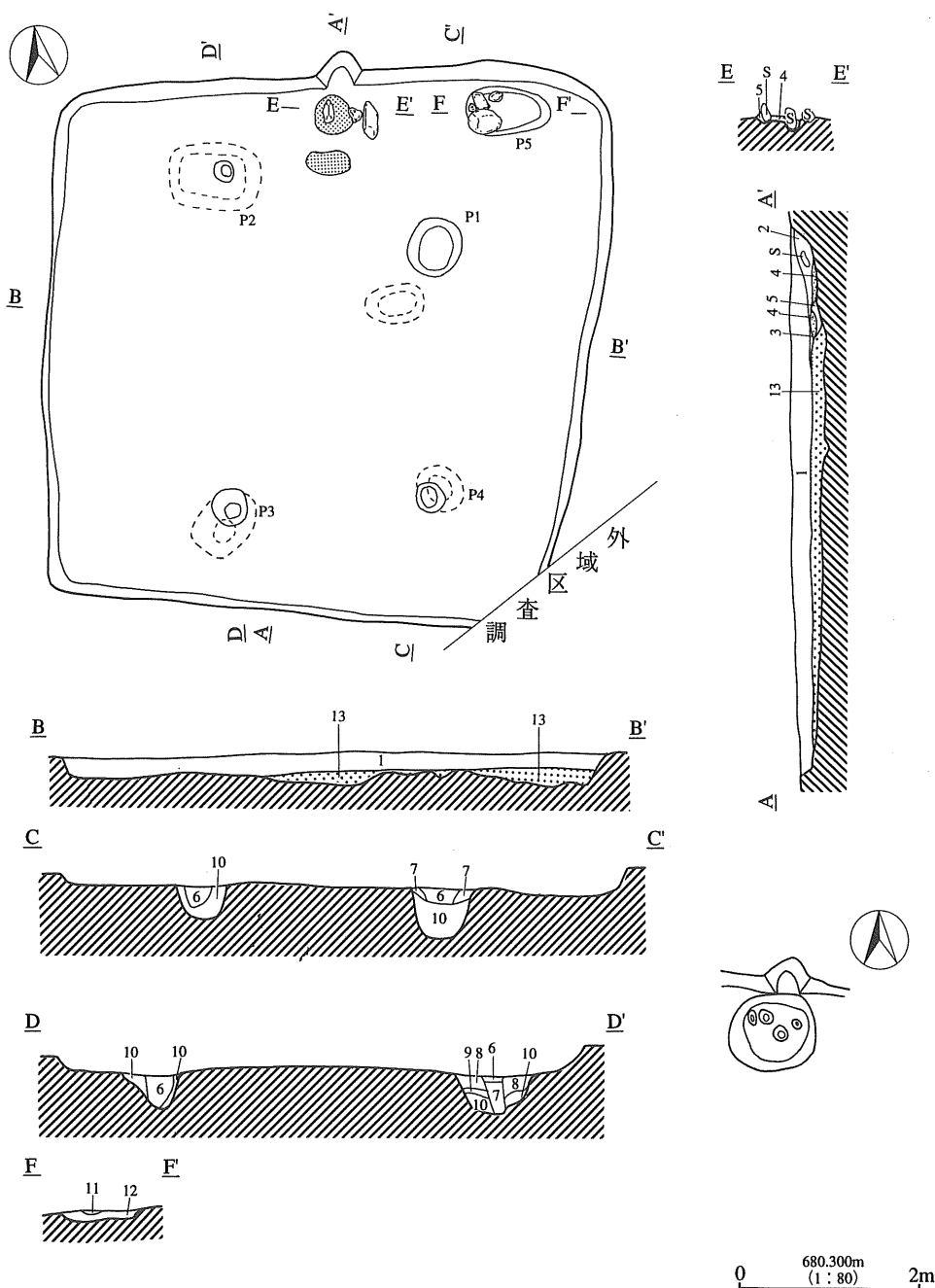
7層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂層、ブロックを多量に含む。

8層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂のブロックを多量に含む。

9層 褐色土層 (10YR 4/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂が主体。10YR 2/3ブロックが混在する。床下の埋め土。

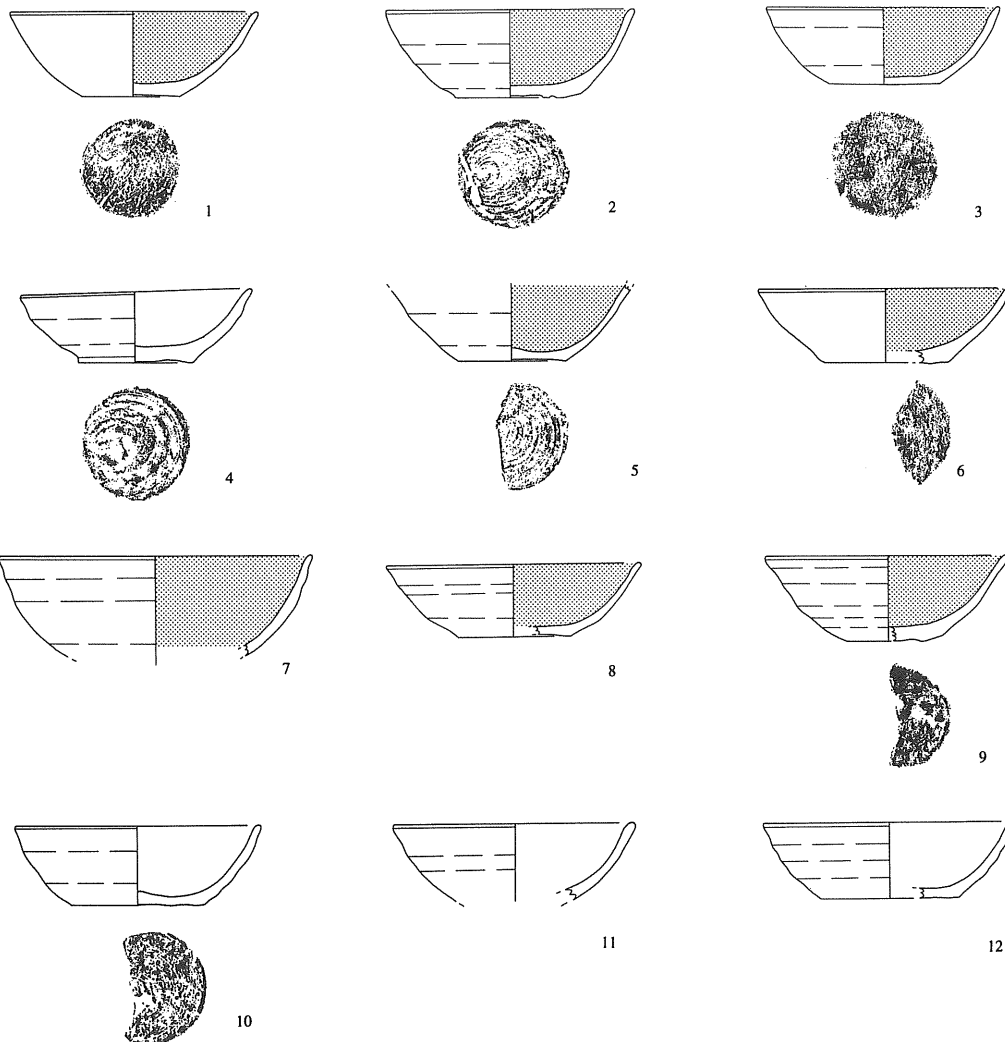
第193図 H6号住居址実測図

H 7 号住居址 (平安時代)

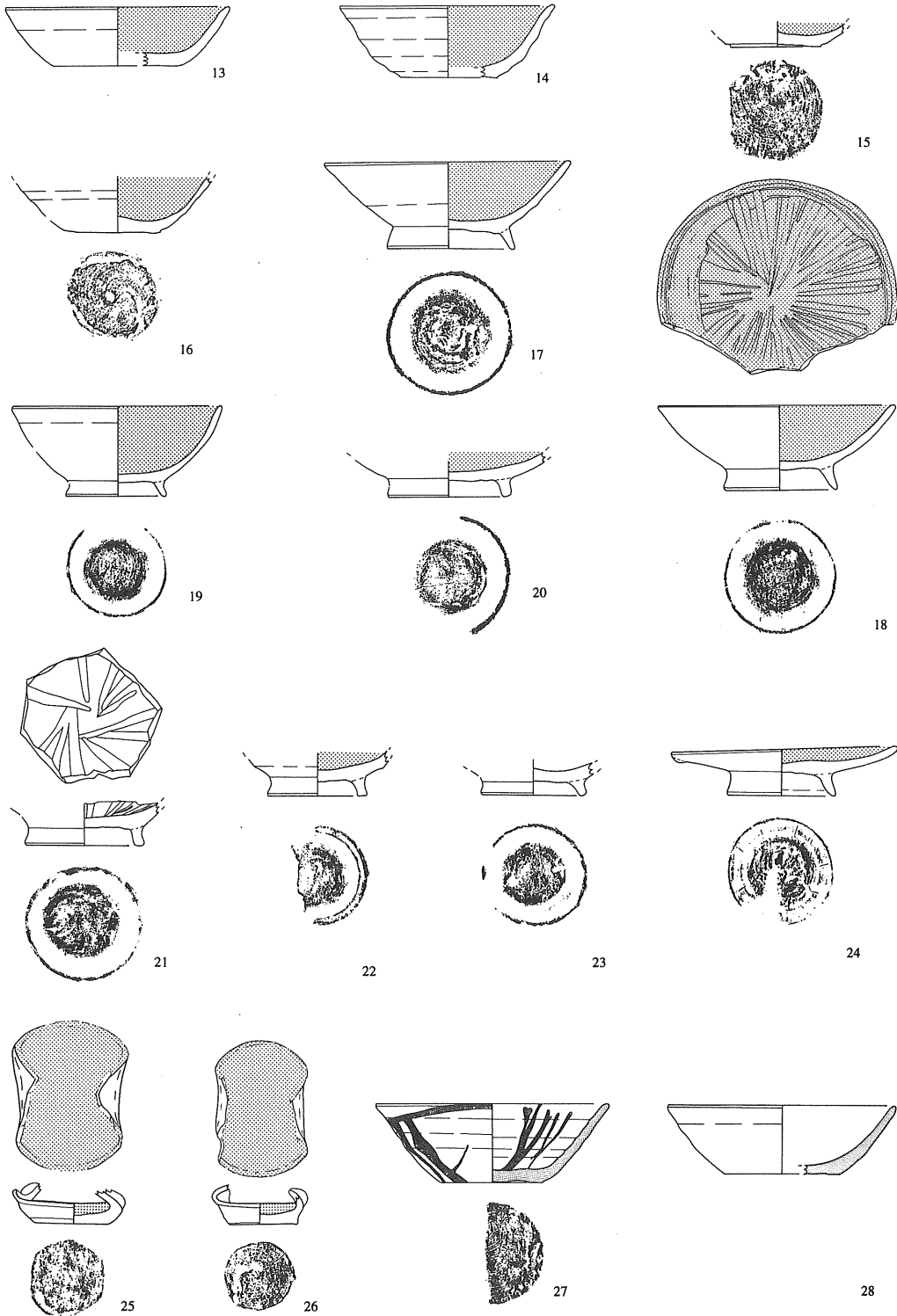


第194図 H 7 号住居址実測図

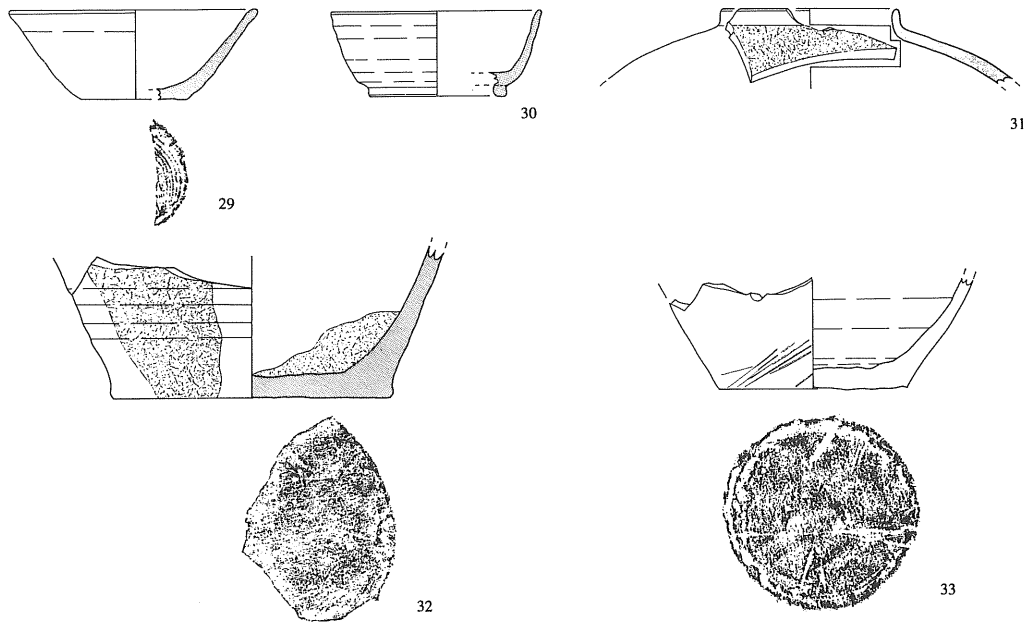
- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 粒子細かい、炭化物を含む。パミスを少量含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物、焼土を多量に含む。
- 3層 黒色土層 (10YR 1.7/1) 炭化物層
- 4層 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層
- 5層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂を多量に含む。焼土、炭化物を少量含む。
- 6層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層ブロック、粒子を多量に含む。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 10YR 4/6の地山の粒子が細かい砂質ローム、パミスを少量含む。
- 8層 黒褐色土層 (10YR 3/4) 10YR 4/6の地山の粒子が細かい砂質ロームを多量に含む。
- 9層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を少量含む。
- 10層 褐色土層 (10YR 4/4) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子が主体。
- 11層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 10YR 4/6の地山の細かい砂層粒子を多量に含む。
- 12層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 炭化物を含む。10YR 4/6の地山の細かい砂質ローム粒子を含む。
- 13層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 10YR 4/6の地山の粒子細かい砂質ローム粒子を含む。



第195図 H7号住居址出土遺物実測図(1)



第196图 H7号住居址出土遺物実測図(2)



第197図 H7号住居址出土遺物実測図(3)

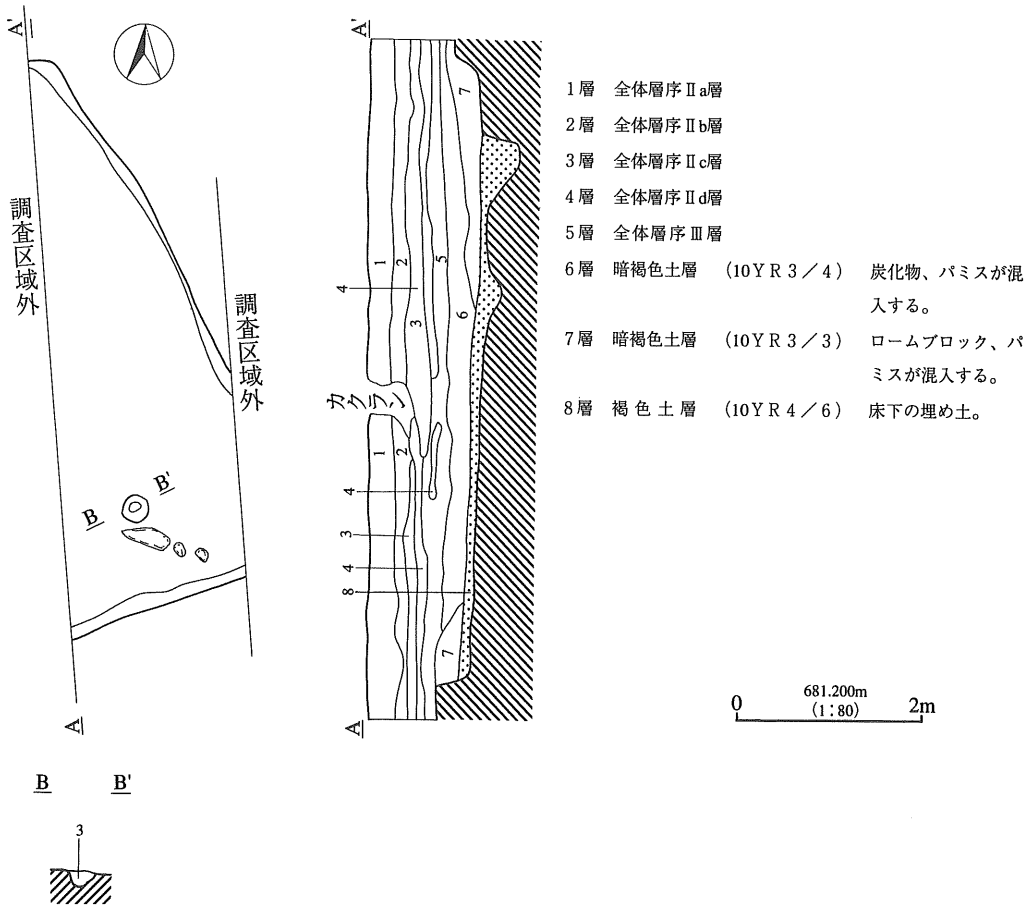
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	13.6	5.2	4.5	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	95	良好	5YR6/4 鈍い橙褐色	
2	土師器	坏	13.2	6.0	4.7	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	80	良好	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
3	土師器	坏	12.5	5.9	4.2	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	90	良好	7.5YR7/4 鈍い橙褐色	
4	土師器	坏	(12.0)	6.1	4.0	底部 回転糸切り 内面 ロクロナデ	70	良好	5YR5/8 明赤褐色	
5	土師器	坏	-	5.8	-	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	30	良好	5YR4/6 赤褐色	
6	土師器	坏	(13.6)	(6.6)	4.0	底部 ヘラ削り 内面 黒色処理	30	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	坏	(16.8)	-	-	内面 黒色処理 ロクロナデ	25	良好	10YR5/4 鈍い赤褐色	
8	土師器	坏	(13.8)	(6.0)	3.8	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	25	良好	7.5YR5/3 鈍い褐色	
9	土師器	坏	(13.2)	(4.2)	(4.1)	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	35	良好	5YR5/6 明赤褐色	
10	土師器	坏	(13.2)	(6.9)	4.2	底部 回転糸切り 内面 ロクロナデ	35	良好	5YR5/6 明赤褐色	
11	土師器	坏	(13.0)	-	-	ロクロナデ	20	良好	5YR5/6 明赤褐色	
12	土師器	坏	(13.4)	(7.3)	4.0	底部 回転糸切り 内面 ロクロナデ	25	良好	5YR5/8 明赤褐色	
13	土師器	坏	(13.8)	(7.6)	3.6	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	25	良好	10YR6/4 鈍い黄褐色	
14	土師器	坏	(13.2)	(5.4)	4.4	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	25	良好	5YR4/8 赤褐色	
15	土師器	坏	-	(5.5)	-	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	25	良好	5YR4/8 赤褐色	

第98表 H7号住居址出土遺物観察表(1)

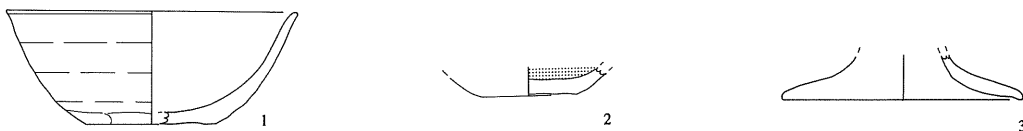
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
16	土師器	坏	-	(5.1)	-	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	30	良好	5YR4/4 鈍い赤褐色	
17	土師器	碗	14.9	7.8	4.8	内面 黒色処理・ミガキ 高台張り付け	40	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
18	土師器	碗	14.5	7.0	5.1	内面 黒色処理・放射状ミガキ 高台張り付け	70	良好	10YR7/3 鈍い黄褐色	
19	土師器	碗	(12.3)	6.2	5.4	内面 黒色処理 高台張り付け	50	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
20	土師器	碗	-	(7.5)	-	内面 黒色処理 高台張り付け	30	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
21	土師器	碗	-	(7.4)	-	内面 黒色処理・放射状ミガキ 高台張り付け	20	良好	5YR6/4 鈍い褐色	
22	土師器	碗	-	(6.0)	-	内面 黒色処理 高台張り付け	20	良好	5YR6/4 鈍い褐色	
23	土師器	碗	-	(6.4)	-	高台張り付け ロクロナデ	20	良好	5YR7/6 褐色	
24	土師器	皿	13.8	6.6	3.1	内面 黒色処理 高台張り付け	75	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	
25	土師器	耳皿	9.2	4.4	2.1	内面 黒色処理 底部 ヘラ削り	90	良好	5B2/1 青黒色	
26	土師器	耳皿	8.3	4.2	-	内面 黒色処理 底部 ヘラ削り	90	良好	5B2/1 青黒色	
27	須恵器	坏	14.3	6.2	4.8	底部 回転糸切り ロクロナデ	50	良好	N6/0 灰色	火だすき
28	須恵器	坏	(14.0)	(6.8)	(4.1)	ロクロナデ	20	良好	2.5YR5/2 暗灰黄色	
29	須恵器	坏	(13.4)	(5.6)	(4.8)	ロクロナデ	20	良好	2.5YR5/2 暗灰黄色	
30	須恵器	高台付坏	(11.3)	(7.4)	4.5	ロクロナデ 高台張り付け	20	良好	N5/0 灰色	
31	灰釉陶器	短頸壺	(9.7)	-	-	ロクロナデ	口縁15	良好	10Y6/2 オリーブ灰色	灰釉付着
32	須恵器	甗	-	(14.8)	-	ロクロナデ	底部25	良好	5B2/1 青黒色	自然釉付着
33	土師器	甗	-	10.0	-		底部100	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	

第99表 H7号住居址出土遺物観察表(2)

H 8 号住居址 (古墳・奈良時代の土器が出土)



第198図 H 8 号住居址実測図



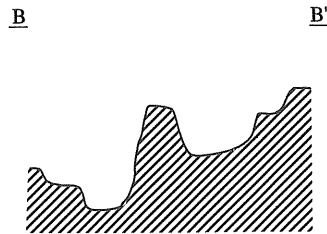
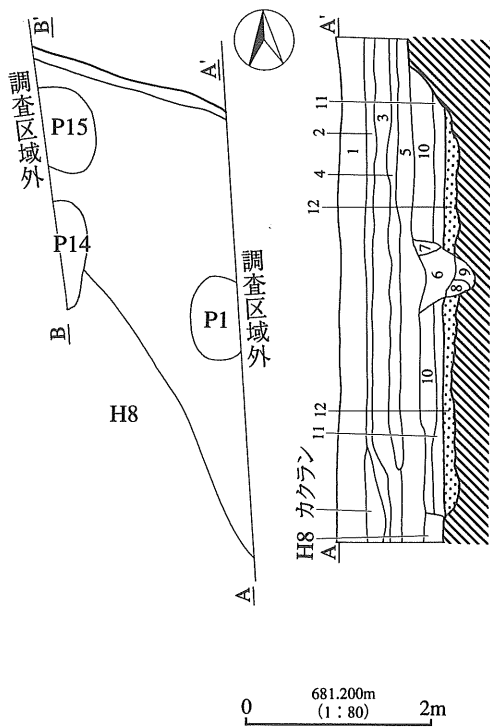
第199図 H 8 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(15.6)	(6.9)	5.8	ロクロナデ 底部周縁ヘラ削り	35	良好	10YR7/4 鈍い黄橙色	
2	土師器	坏	-	5.0	-	底部 回転糸切り 内面 黒色処理	底部50	良好	10YR5/6 黄褐色	
3	土師器	高坏	-	(13.0)	-		脚部の一部	良好	5YR6/4 鈍い橙色	

第100表 H 8 号住居址出土遺物観察表



H 9号住居址（古墳時代）



- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅱc層
- 4層 全体層序Ⅱd層
- 5層 全体層序Ⅲ層
- 6層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2) バミス、ローム粒子が少量混入する。
- 7層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) バミス、ローム粒子が多量に混入する。
- 8層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) ロームブロックが少量混入する。
- 9層 褐色土層 (10Y R 4 / 4) ロームブロックが多量に混入する。
- 10層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) バミス、ロームが多量に混入する。
- 11層 褐色土層 (10Y R 4 / 4) ローム粒子、ロームブロックが多量に混入する。
- 12層 褐色土層 (10Y R 4 / 6) 黒色土 (10Y R 2 / 2) ブロックが多量に混入する。床下の埋め土。

第200図 H 9号住居址実測図

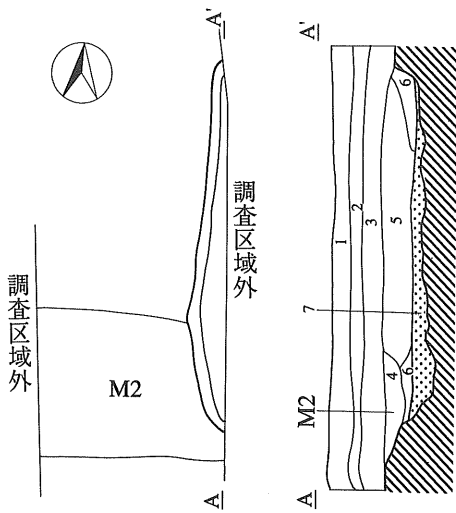


第201図 H 9号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	高坏	-	-	-	脚部外面 ミガキ 脚部内面 ヘラナデ	25	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
2	土師器	坏	11.0	-	-	外面 ヘラ削り	15	良好	5YR5/6 明赤褐色	

第101表 H 9号住居址出土遺物観察表

H10号住居址（古墳・平安時代の土器が出土）



- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅱd層
- 4層 黒褐色土層 (10Y R 2/3) 10Y R 4/6 (地山の細かい砂層) ブロック粒子を多量に含む。
- 5層 黒褐色土層 (10Y R 2/3) 径5mm以下のパミス10Y R 4/6 (地山の細かい砂層) ブロック粒子を多量に含む。
- 6層 暗褐色土層 (10Y R 3/3) パミスを少量含む。10Y R 4/6 (地山の細かい砂層) ブロックを多量に含む。粒子は細かい。
- 7層 ぬい黄褐色土層 (10Y R 4/3) 10Y R 4/6 (地山の細かい砂層) を主体として10Y R 2/3が混在する。径5mm以下のパミスを少量含む。床下の埋め土。

0 681.300m (1:80) 2m

第202図 H10号住居址実測図

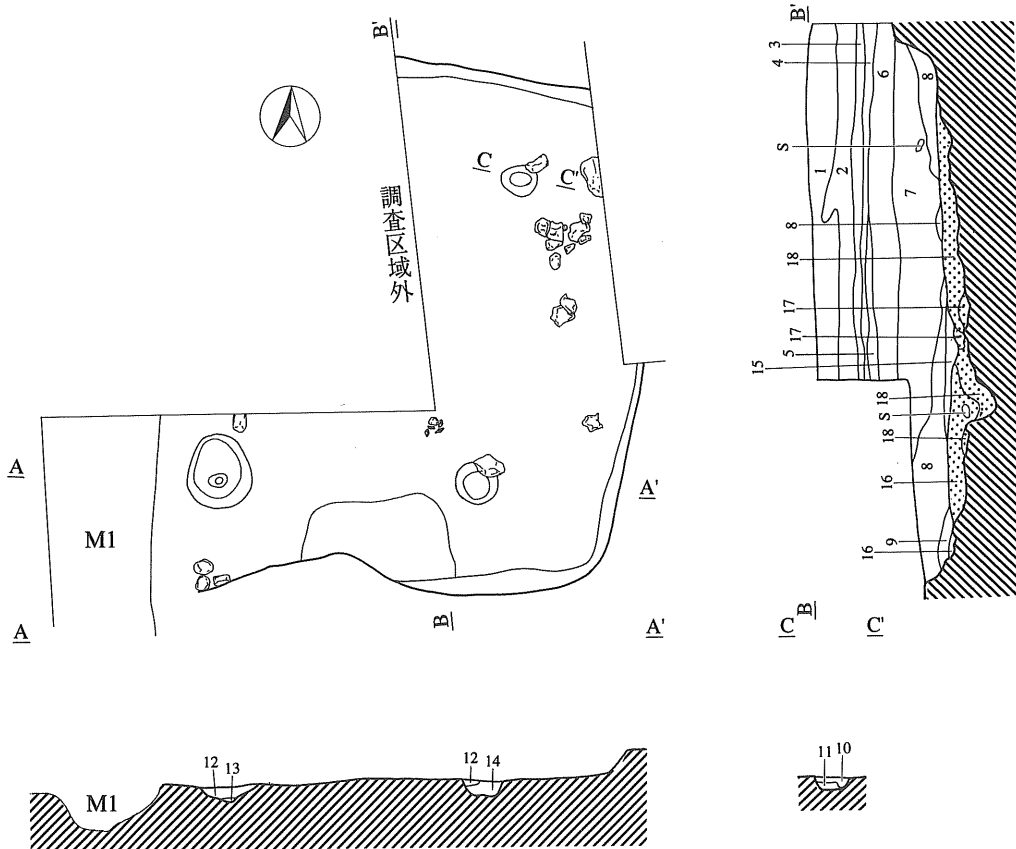


第203図 H10号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(12.8)	(6.0)	3.9	ロクロナデ 底部 回転糸切り	15	良好	10YR6/3 鈍い黄橙色	
2	土師器	高坏	-	-	-	外面 ナデ	10	良好	7.5YR7/6 橙色	

第102表 H10号住居址出土遺物観察表

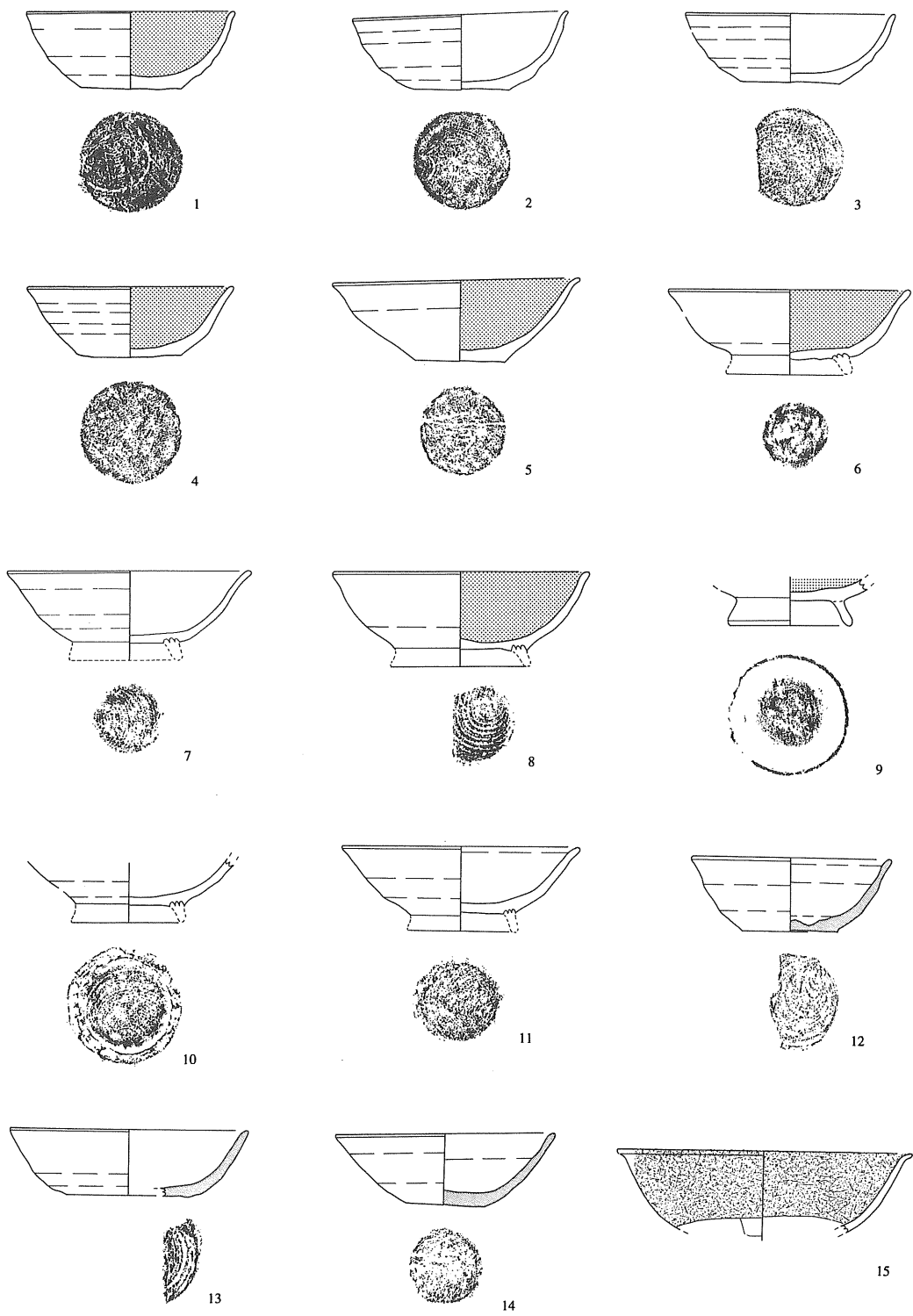
H11号住居址（平安時代）



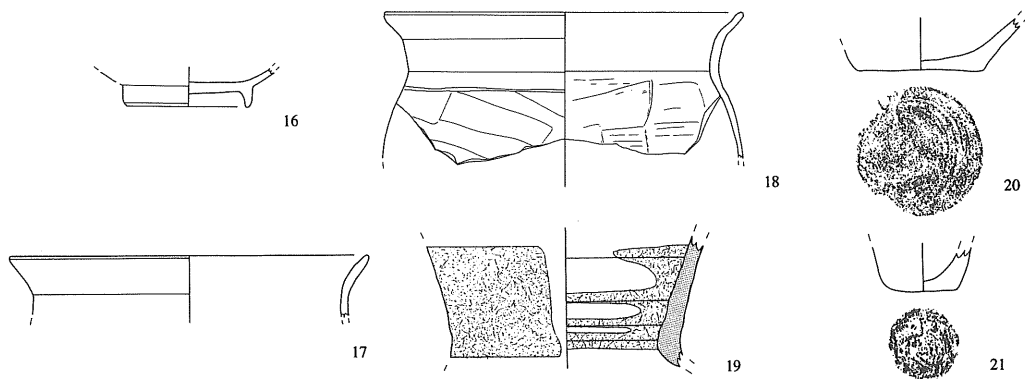
- |                        |   |            |
|------------------------|---|------------|
| 1層 全体層序Ⅱa層             | 2層 全体層序Ⅱb層                                    | 3層 全体層序Ⅱc層 |
| 4層 全体層序Ⅱd層             | 5層 灰褐色土層 (7.5YR 4/2)                          | 6層 全体層序Ⅲ層  |
| 7層 黒褐色土層 (10YR 2/3)    | 砂質・径2cm大の炭片を多量に含む。下部端に焼土ブロックが散在する。            |            |
| 8層 暗褐色土層 (10YR 3/4)    | 砂質・10YR 4/6を南壁よりにブロック状に含む。径0.5~1cm大の炭片を多量に含む。 |            |
| 9層 褐色土層 (10YR 4/6)     | 砂質・10YR 3/4をブロック状に含む。                         |            |
| 10層 暗褐色土層 (7.5YR 3/3)  | 砂質。   |            |
| 11層 暗褐色土層 (7.5YR 3/4)  | 径2~4mm大の炭を多量に含む。                              |            |
| 12層 極暗褐色土層 (7.5YR 2/3) | 砂質。   |            |
| 13層 暗褐色土層 (10YR 3/4)   | 砂質。   |            |
| 14層 暗褐色土層 (10YR 3/4)   | 砂質。径2~4mm大の炭を少量含む。                            |            |
| 15層 暗褐色土層 (10YR 3/3)   | 貼床層。径0.5~1cm大のブロック (10YR 4/6)を少量含む。           |            |
| 16層 暗褐色土層 (10YR 3/4)   | 地山 (10YR 4/6)をブロック状に多量に含む。径0.2~0.5mm大の炭を少量含む。 |            |
| 17層 褐色土層               | (10YR 4/6・10YR 4/4)の混合土。10YR 5/6をブロック状に多量に含む。 |            |
| 18層 褐色土層 (10YR 4/4)    | 10YR 3/2をブロック状に含む。                            |            |

0 681.300m (1:80) 2m

第204図 H11号住居址実測図



第205图 H11号住居址出土遗物实测图(1)

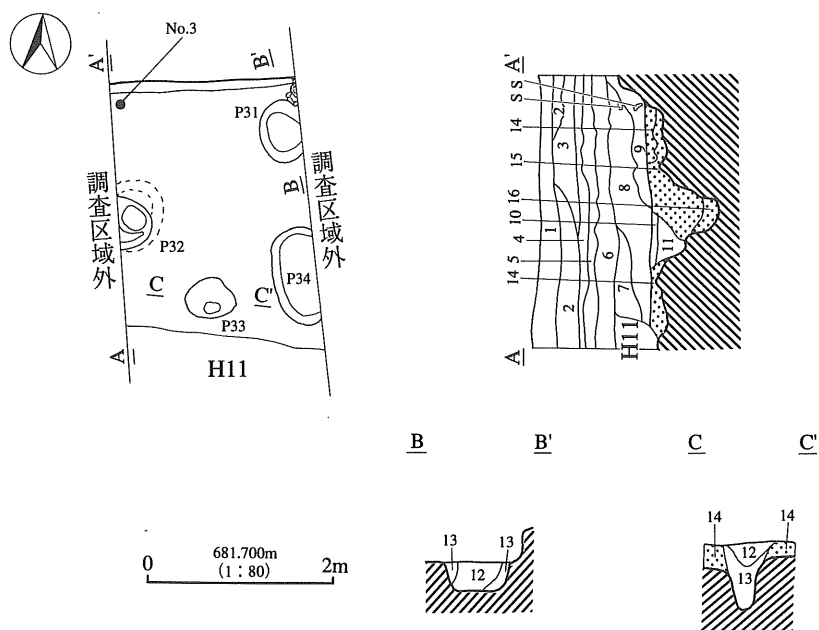


第206図 H11号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	12.6	6.1	4.7	底部 ヘラ削り 内面 黒色処理	100	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	坏	13.2	6.0	4.7	底部 ヘラ削り	95	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
3	土師器	坏	13.8	5.9	4.2	底部 ヘラ削り 内面 ミガキ	70	良好	10YR5/2 灰黄褐色	
4	土師器	坏	12.6	6.3	4.3	底部 ヘラ削り 内面 黒色処理	85	良好	10YR7/2 鈍い黄褐色	
5	土師器	坏	15.6	5.5	5.1	底部 ヘラ削り 内面 黒色処理	80	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色	
6	土師器	碗	14.7	-	-	底部 高台張り付け痕 内面 黒色処理	70	良好	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	碗	14.8	6.6 坏部	4.2 坏部	内面 ミガキ 高台張り付け痕	80	良好	10YR6/3 鈍い褐色	
8	土師器	碗	15.7	8.6	4.8 坏部	ロクロナデ 内面 黒色処理	40	良好	7.5YR6/6 褐色	
9	土師器	碗	-	7.6	-	ロクロナデ 内面 黒色処理	30	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
10	土師器	碗	-	-	-	底部 回転糸切り 高台張り付け痕	30	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	
11	土師器	碗	14.6	-	-	ロクロナデ 底部 回転糸切り	85	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
12	須恵器	坏	(12.3)	5.8	4.5	ロクロナデ 底部 回転糸切り	35	良好	10YR5/1 褐色	
13	須恵器	坏	14.3	7.6	4.1	ロクロナデ	20	良好	5YR6/6 褐色	
14	須恵器	坏	13.4	4.9	4.5	底部 回転糸切り	70	良好	10YR6/1 褐色	
15	灰釉陶器	碗	18.1	-	-	ロクロナデ	15	良好	7.5YR6/1 灰色	灰釉付着
16	灰釉陶器	皿	-	6.8	-	ロクロナデ 底部 高台張り付け	20	良好	7.5YR7/1 灰褐色	灰釉付着
17	土師器	甗	(19.2)	-	-	口縁 横ナデ	口縁25	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
18	土師器	甗	(19.3)	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラ削り	口縁25	良好	5YR4/6 赤褐色	
19	須恵器	甗	-	-	-	ロクロナデ	頸部の 1部	良好	10YR4/2 灰赤色	自然釉付着
20	土師器	碗	-	6.8	-	底部 回転糸切り	底部 100	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
21	土師器		-	3.5	-	底部 ヘラ削り	40	良好	5YR6/6 褐色	

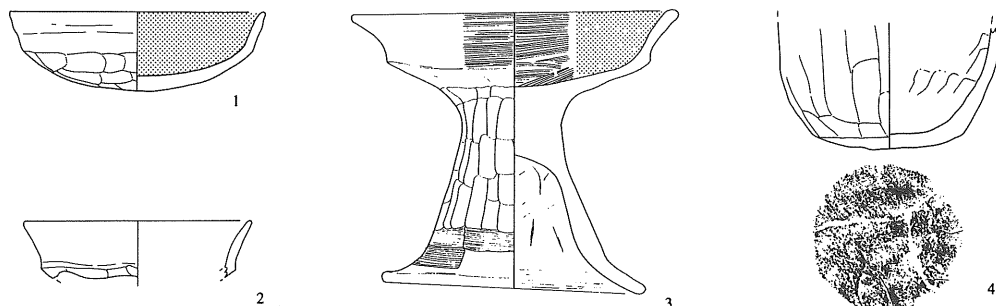
第103表 H11号住居址出土遺物観察表

H12号住居址（古墳時代）



- 1層 全体層序Ⅱa層    2層 全体層序Ⅱb層    3層 灰褐色土層 (7.5YR 4/2) 水田の畦畔
- 4層 全体層序Ⅱc層    5層 全体層序Ⅱd層    6層 全体層序Ⅲ層
- 7層 黒褐色土層 (10YR 3/4)
- 8層 黒褐色土層 (10YR 2/3)
- 9層 褐色土層 (10YR 4/6)
- 10層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 灰 (10YR 6/3) 黄褐色土 (10YR 5/6) をブロック状に含む。
- 11層 暗褐色土層 (10YR 3/4)
- 12層 暗褐色土層 (10YR 3/4) ローム粒子・炭化物少量混入する。
- 13層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ロームブロックが多量に混入する。
- 14層 暗褐色土層 (10YR 3/4)
- 15層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 灰・黒褐色土 (10YR 2/2) 黄褐色土 (10YR 5/6) をブロック状に含む。床下の埋め土。
- 16層 黒褐色土層 (10YR 2/2) 黄褐色土 (10YR 5/6) ブロックを多量に含む。粘質あり。床下の埋め土。

第207図 H12号住居址実測図

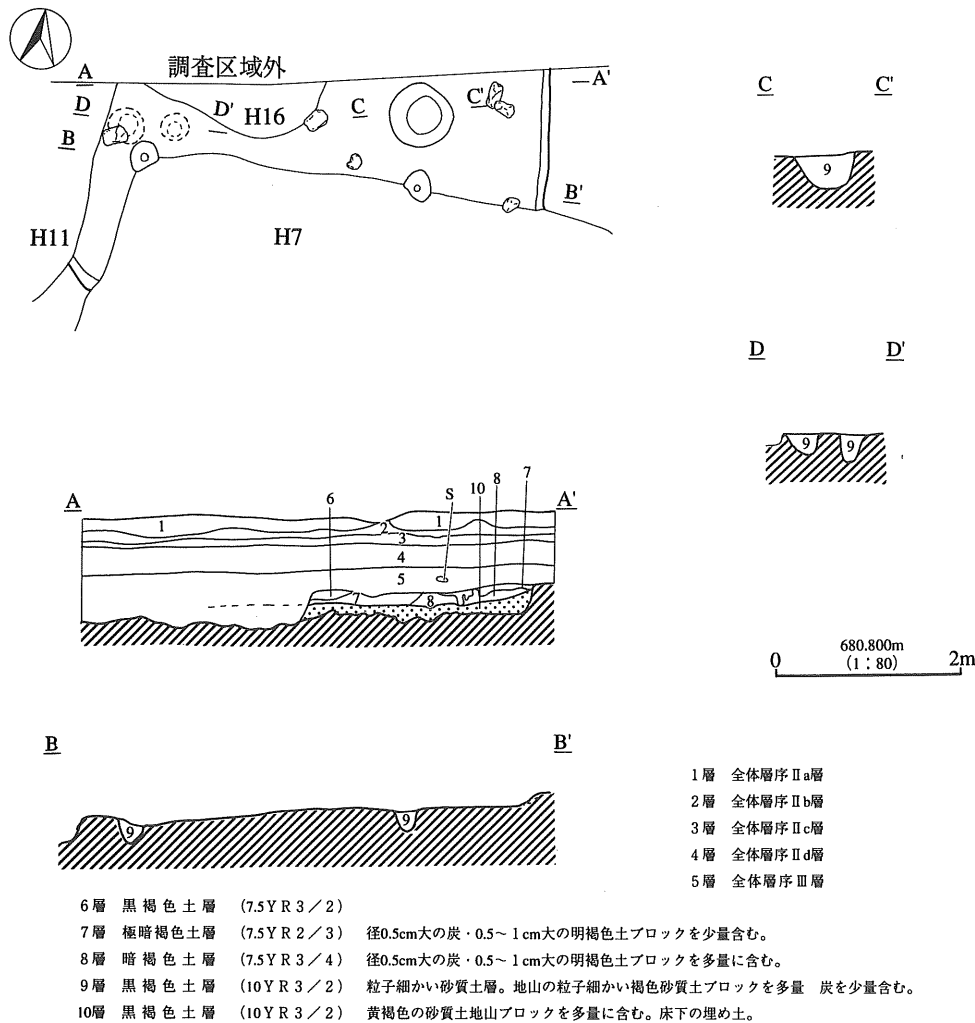


第208図 H12号住居址出土遺物実測図

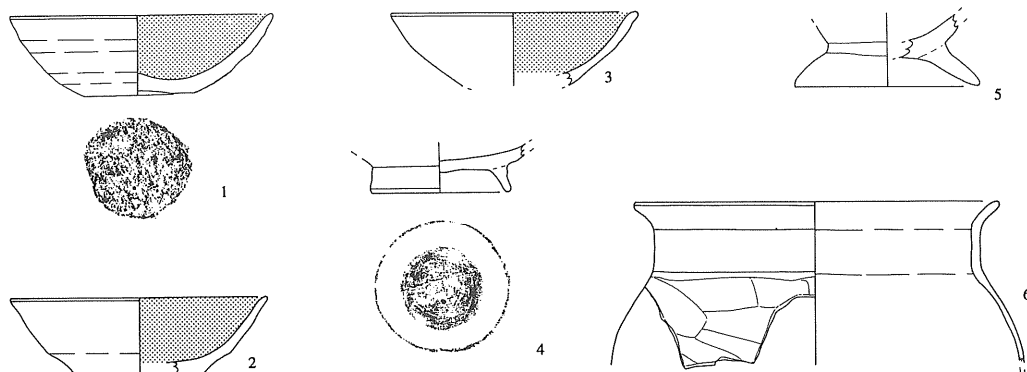
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	(13.7)	丸底	3.1	底部 ヘラ削り 口縁 ナデ 内面 黒色処理・ミガキ	40	良好	2.5YR3/2 黒褐色	
2	土師器	坏	(12.2)	-	-	底部 ヘラ削り 口縁 ナデ	35	良好	5YR7/6 橙色	
3	土師器	高坏	17.5	14.2	15.2	坏部外面 ハケ目 坏部内面 黒色処理 ・ハケ目 脚部外面 ヘラ削り・ハケ目 脚部内面 ヘラナデ・ハケ目	100	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
4	土師器	甗	-	7.7	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部 100	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色	

第104表 H12号住居址出土遺物観察表

第13号住居址 (平安時代)



第209図 H13号住居址実測図



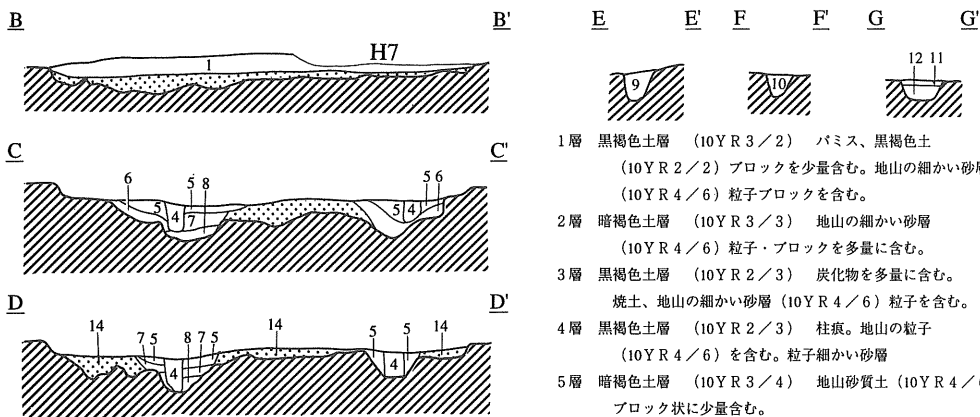
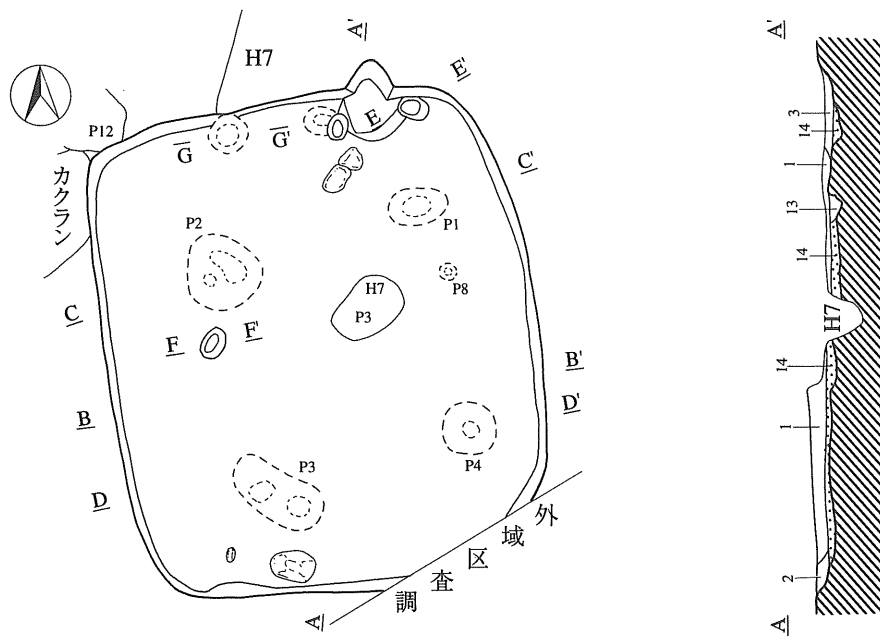
第210図 H13号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	13.9	5.8	4.2	底部 ヘラ削り 内面 黒色処理	80	良好	5YR7/3 鈍い橙色	
2	土師器	坏	(13.7)	(7.0)	4.0	ロクロナデ 内面 黒色処理	20	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	坏	13.3	-	-	ロクロナデ 内面 黒色処理	20	良好	5YR4/6 赤褐色	
4	土師器	碗	-	7.7	-	底部 回転糸切り・高台張り付け	35	良好	7.5YR8/4 浅黄橙色	
5	土師器	高坏	-	10.0	-		脚部50	良好	10YR6/3 鈍い黄橙色	
6	土師器	甕	(19.6)	-	-	口縁 ヨコナデ 外面 ヘラ削り	口縁25	良好	5YR5/6 明赤褐色	

第105表 H13号住居址出土遺物観察表



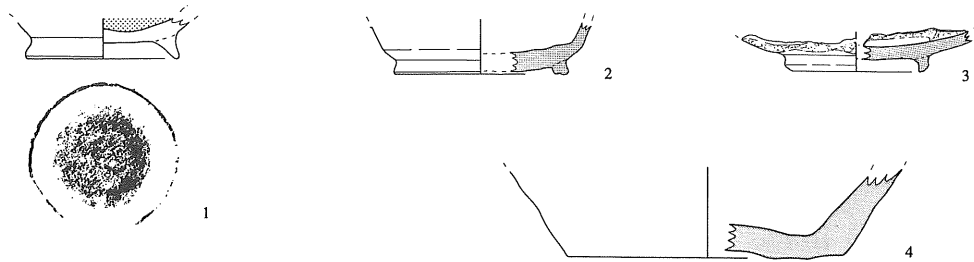
H14号住居址（平安時代）



- 1層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2) バミス、黒褐色土 (10Y R 2 / 2) ブロックを少量含む。地山の細かい砂層 (10Y R 4 / 6) 粒子ブロックを含む。
- 2層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 3) 地山の細かい砂層 (10Y R 4 / 6) 粒子・ブロックを多量に含む。
- 3層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) 炭化物を多量に含む。焼土、地山の細かい砂層 (10Y R 4 / 6) 粒子を含む。
- 4層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) 柱痕。地山の粒子 (10Y R 4 / 6) を含む。粒子細かい砂層
- 5層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) 地山砂質土 (10Y R 4 / 6) をブロック状に少量含む。
- 6層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) 焼土、暗褐色土 (7.5Y R 3 / 4) のブロックを少量、地山の褐色土 (10Y R 4 / 6) を多量に含む。
- 7層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) 暗褐色土 (10Y R 3 / 3) のブロックを含む。
- 8層 暗褐色土層 (10Y R 3 / 4) 地山の黄褐色土 (10Y R 5 / 6) のブロックを含む。
- 9層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) バミス、地山 (10Y R 4 / 6) の細かい砂層粒子を少量含む。
- 10層 黒褐色土層 (10Y R 3 / 2) 地山 (10Y R 4 / 6) の細かい砂層粒子を多量に含む。
- 11層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) 地山 (10Y R 4 / 6) のブロックを少量含む。砂質土。
- 12層 褐色土層 (10Y R 4 / 6) 暗褐色土 (10Y R 3 / 4)、地山 (10Y R 6 / 5) のブロックを多量に含む。砂質土。
- 13層 黒褐色土層 (10Y R 2 / 3) 炭、焼土、地山 (10Y R 4 / 6) を含む。
- 14層 褐色土層 (10Y R 4 / 4) 黒褐色土 (10Y R 2 / 3)、暗褐色土 (10Y R 3 / 4) をブロック状に含む。炭を少量含む。床下の埋め土。

0 680.200m (1 : 80) 2m

第211図 H14号住居址実測図

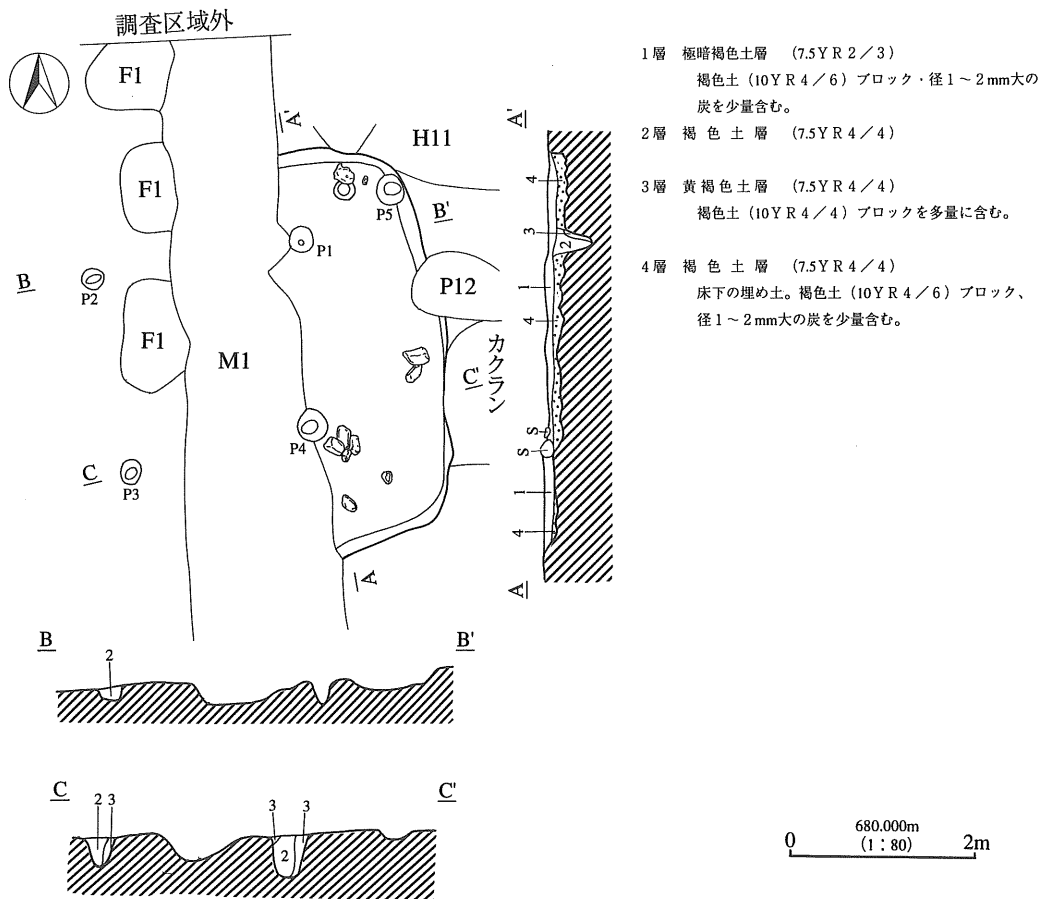


第212図 H14号住居址出土遺物実測図

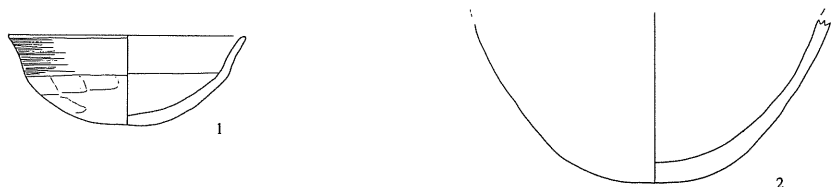
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	碗	-	8.2	-	内面 黒色処理 高台張り付け	20	良好	5YR7/4 鈍い橙色	
2	須恵器	高台付坏	-	9.4	-	底部 回転糸切り 高台張り付け	20	良好	5BG4/1 暗青灰色	
3	灰釉陶器	皿	-	7.8	-	高台張り付け	15	良好	10YR7/1 灰城色	灰釉付着
4	須恵器	甕	-	(14.9)	-	底部 ヘラ調整	底部40	良好	10YR6/1 灰色	

第106表 H14号住居址出土遺物観察表

H15号住居址（古墳時代）



第213図 H15号住居址実測図

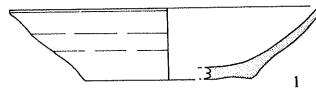
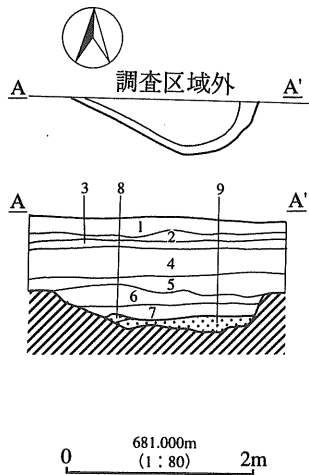


第214図 H15号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器径	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	12.7	丸底	4.7	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り	95	良好	10YR6/4 鈍い黄橙色	
2	土師器	甕	-	丸底	-		底部 100	良好	10YR6/6 明黄褐色	

第107表 H15号住居址出土遺物観察表

H16号住居址（平安時代）



第215図 H16号住居址出土遺物実測図

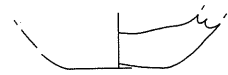
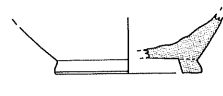
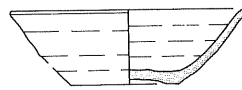
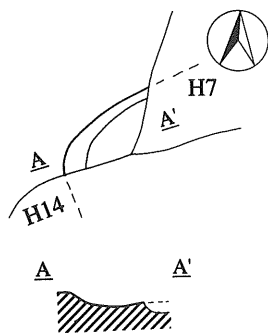
- 1層 全体層序Ⅱa層
- 2層 全体層序Ⅱb層
- 3層 全体層序Ⅱc層
- 4層 全体層序Ⅱd層
- 5層 全体層序Ⅲ層
- 6層 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) 径0.5~1cm大の炭を少量含む。
- 7層 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) 地山 (7.5YR 5/6) のブロックを少量含む。
- 8層 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) 地山 (7.5YR 5/6) のブロックを多量に含む。床下の埋め土。
- 9層 褐色土層 (7.5YR 4/3) 暗褐色土 (7.5YR 3/3) のブロックを多量に含む。床下の埋め土。

第216図 H16号住居址実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	(17.0)	(9.0)	3.8	ロクロナデ 底部 回転糸切り	20	良好	5YR6/1 灰色	

第108表 H16号住居址出土遺物観察表

H17号住居址（平安時代）



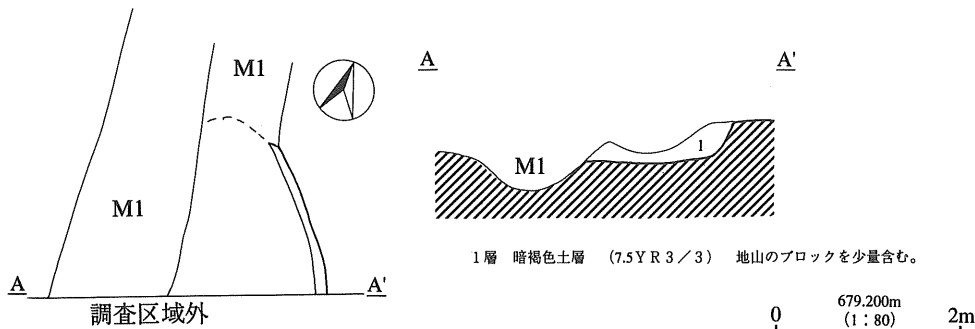
第217図 H17号住居址実測図

第218図 H17号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	12.8	5.7	4.0	ロクロナデ 底部 回転糸切り	50	良好	5Y6/2 灰オリーブ色	
2	須恵器	高台付坏	-	(7.9)	-	高台張り付け	25	良好	10Y4/1 灰色	
3	土師器	甕	-	5.0	-		底部 80	良	5YR4/8 赤褐色	

第109表 H17号住居址出土遺物観察表

H18号住居址



第219図 H18号住居址実測図

No	形態	規模 東西×南北×深さ (m)	かまど	時間	柱穴	張り床	堀方 (cm)	略 説
H 1	(方形)	3.9×(2.16)×0.44 (調査規模)	-	平安	2	○	6.0~30	住居址の北側半分・南壁付近は調査区外。壁はやや外傾。床面には張り床が認められる。住居北南側の両コーナー付近に主柱穴と思われるピットが2個認められる。かまど位置は不明。
H 2	-	4.72×(1.85)×0.31 (調査規模)	-	平安	-	-	8.0~28	住居址の北・南は調査区外。壁はほぼ垂直。床面には僅かに灰・粘土が認められた。ピットなし。かまど位置は不明。
H 3	-	4.8×(1.80)×0.50 (調査規模)	-	古墳 Or 平安	3	-	8.8内外	住居址北・南は調査区外。壁はほぼ垂直。床面は平坦。ピットは3個認められる。主柱穴かは不明。かまど位置は不明。堀方は床面の北側を薄めに彫り込んでいる。
H 4	(方形)	(1.24)×(2.08)×0.37 (調査規模)	-	古墳	4	-	7.0内外	住居址西・北は調査区外。壁はやや外傾。床に集石。ピットは4個認められ、P1・2は主柱穴と思われる。かまど位置は不明。堀方は床面北側の狭い範囲で掘り込まれている。
H 5	(方形)	(1.76)×(1.76)×0.48 (調査規模)	-	奈良	-	-	18~25	住居址の東は調査区外。壁はやや外傾。床は平坦でピットは認められない。かまど位置は不明。堀方は床面中心を一部除き掘り込まれている。
H 6	(方形)	(4.8)×(2.2)×0.40 (調査規模)	-	-	2	-	8.0~20	住居址西は調査区外。北東コーナーはH5に切られる。壁はやや外傾。床はほぼ平坦。ピット(主柱穴)は2個認められた。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 7	方形	5.96×5.72×0.23	北壁 中央	平安	5	-	10~25	住居址はやや隅丸の方形。床はほぼ平坦でピットは5個認められた。P1~4が主柱穴と思われる。かまどは北壁中央に構築され、火床付近に焼土の堆積が認められた。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 8	(方形)	(2.0)×(3.95)×25 (調査規模)	-	古墳 Or 平安	1	-	12~35	住居址西・南東コーナーは調査区外。壁はやや外傾。床は平坦で、ピットは1個(主柱穴)認められた。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 9	-	(2.0)×(4.8)×0.25 (調査規模)	-	古墳	-	-	20内外	住居址西・東は調査区外で、南はH8に切られる。北壁は外傾。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 10	-	(0.40)×(4.08)×0.36 (調査規模)	-	古墳 Or 平安	-	-	5~25	住居址東側の大半は調査区外で、M2を切る。壁はやや外傾。調査規模が僅かで、床の状況、ピットは確認できなかった。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 11	(方形)	(4.96)×5.56×0.42 (調査規模)	-	平安	3	○	20~50	住居址北西・北東付近は調査区外。西側はM1に切られる。壁はやや外傾。床面は凹凸があり、中央付近は張り床と認められる。ピットは3個(主柱穴)認められた。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 12	-	(2.08)×(2.72)×0.24 (調査規模)	-	古墳	4	-	20内外	住居址西・東側は調査区外。南はH11に切られる。壁はほぼ垂直。床面はほぼ平坦。ピットは単純ピットが4個認められた。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 13	-	(4.64)×(2.16)×23 (調査規模)	-	平安	3	-	30内外	住居址北は調査区外となる。西はH11、南はH7に切られる。壁はほぼ垂直。床面はやや凹凸があり、ピットは3個認められた。主柱穴かは不明。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域が掘り込まれる。
H 14	方形	4.52×5.24×22	北壁の 東より	平安	8	-	5.0~35	住居址はやや隅丸の方形で、H7を切る。床はほぼ平坦。ピットは床面上からは確認できなかったが、堀方状態から8個認められた。P1~4が主柱穴と思われる。かまどは北壁の東よりに位置する。焼土は認められなかった。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 15	(方形)	3.40×4.4×0.08 (調査規模)	-	古墳	5	-	5.0~15	住居址の中央はM1・F1に切れ、西側の壁は確認できない。床はやや凹凸が見られる。ピットは5個認められた。P1~4が主柱穴と思われる。かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域が掘り込まれる。
H 16	(方形)	(1.92)×(0.72)×25 (調査規模)	-	平安	-	-	5.0~18	住居址北側の大部分は調査区外。ピット・かまど位置は不明。堀方は確認できた。床面全域にわたり掘り込まれる。
H 17	(方形)	(0.96)×(0.48)×15 (調査規模)	-	平安	-	-	-	住居址の大半はH7・H14に切られる。ピット、床面、かまど位置などは不明。堀方なし。
H 18	(方形)	(1.52)×(1.90)×20 (調査規模)	-	-	-	-	-	住居址南は調査区外。西側の大半はM1に切られる。床はほぼ平坦。ピット、かまど位置不明。堀方なし。

第110表 中西ノ久保遺跡 I 住居址観察表

## ま と め

中西ノ久保遺跡Ⅱは湯川の右岸段丘面上に位置し、湯川との比高差は12mを測る。調査区の周辺は本文中にも明記した通り、遺跡の密集地として知られ、一段上面の台地上には北西の久保遺跡、西一本柳遺跡、東一本柳遺跡等が所在し弥生時代中期から平安時代の遺構・遺物が発見されている。また、中西ノ久保遺跡Ⅱ以前に行われた中西ノ久保遺跡Ⅰ（第Ⅴ章掲載）の調査においても多数の遺構・遺物が認められ、その時期は古墳時代から平安時代のものが中心となっている。

今回調査対象となった中西ノ久保遺跡Ⅱにおける検出住居址の時期は、その出土遺物から時代分けすると6c代はH26、31、32、33、41があげられ、H32が中頃、その他は6c後半と考えられるが、H33には混入か、5c代の遺物も認められた。7c代にはH19、27、30、38、39、42、47があげられ、H38、47は中頃、H30、39、42は後半、H19、27は末～8c初頭に入るものと考えられる。8c代には初頭以降、H20、21、22、34、36、37、43、44、45、46があげられ、H21、22、43、が前半、H20、37が中頃、H44、45、46が後半～9c初頭、H34、36が末～9c初頭と考えられる。9c代初頭以降にはH18、H35があげられH18が9c中～後半、H35が9c末～10cと考えられる。

以上の結果から、中西ノ久保遺跡Ⅱでは6c～10c前半の古墳時代から平安時代の遺構が認められ、この中でも8c前後の遺構が多いように感じられた。これは中西ノ久保遺跡Ⅰと同様の状況である。遺物的には弥生時代後期から平安時代に至る土器等の出土が認められるが、今回の調査からは、上段の遺跡群に多数認められる弥生時代の遺構の存在は確認できなかった。周辺地域の状況を考えると、今後、同一段丘面上に弥生時代の遺構が確認される可能性も考えられる。しかし、中西ノ久保遺跡の所在する段丘面上は一段上面の台地に比べ弥生時代の比率が非常に少ないように感じられる。

仲田遺跡は湯川の左岸段丘面上の湯川との比高差6mの低地帯に位置する。このため以前は遺構の存在が不鮮明な地域であった。しかし、試掘調査を行った結果、古墳時代から平安時代に至る住居址の存在が多数認められたため調査を開始した。

今回調査対象となった仲田遺跡における検出住居址の時期は、その出土遺物から時代分けすると5c代はH6、13、16、28があげられ、H6、16が後半、H28は5c後半～6c代と考えられる。6c代は初頭以降H8、27、29があげられ、H29は6c前半～中頃、H27は6c中頃～後半、H8は6c後半と考えられる。7c代はH12、21があげられ、H21が7c中頃、H12が7c末～8c初頭と考えられる。8c代には初頭以降、H4、14、18、19、20、22、24、25、26があげられ、H25が前半、H4、14、18、19、20、24、26が中頃、H22が末～9c初頭と考えられる。9

c代は初頭以降、H1、2、3、9、15、17、23、30があげられ、H2、3、9、23、30が前半、H17が中頃、H1が後半、H15が後半～10c初頭と考えられる。

以上から、仲田遺跡において、現時点では5c後半から10c初頭に至る住居址が存在しており8、9c代の比率が高いように感じられた。これは湯川の対岸に位置する中西ノ久保遺跡の結果と近いものであった。遺物は弥生時代から平安時代に至る土器・金属製品・石器等の出土が認められた。これらの中には非常に興味を引くものが出土しており、特筆すべき遺物として、県内では初めてと思われる白銅鏡（H15号出土）、「一一寺」の墨書を持つ須恵器の坏（H1号出土）、佐久市で初めての弥生時代前期の壺（D6号出土）をあげることができる。

寺畑遺跡は湯川の左岸に形成された段丘面上に位置し、今回調査を行った仲田遺跡南側の一段上面の台地上にあたる。本遺跡は平成7年道路建設工事に伴い、調査区の南側が調査され、佐久市では最古とされる縄文時代草創期の爪形文土器が出土している。調査は、縄文草創期の遺構確認を一つの目的としていたが、今回の調査からも草創期の遺構は認められなかった。しかし新たに爪形文土器が19片出土した。また本遺跡からは他に平安時代の住居址1、竪穴状遺構2、溝、土坑が確認された。

#### 考 察 — 仲田遺跡出土八花鏡・墨書土器を中心に—

本遺跡出土の遺物中には、いくつか興味深いものが含まれている。特に、H15号住居址（9c後半）出土の白銅鏡（花卉双蝶八花鏡）はもっとも注目すべき遺物である。鏡は、直径7.6cmと小型で、外区には八つの瑞雲、内区には蝶、花卉がそれぞれ一対、鈕を取り囲むように配置されている。地は無地である。（花卉双蝶八花鏡の地には無地・霞地の2種が発見されている）铸造年代は奈良時代とされ、主に畿内以東に10点内外の存在が確認されている。出土地は、畿内周辺では三重県鳥羽市・奈良県奈良市・滋賀県大津市、関東・東海は茨城県・静岡県、最北は東北の秋田県秋田市があげられる。そしてこれらの鏡は、神社の伝世鏡あるいは寺院関係から出土したものが多数を占めていることから「花卉双蝶八花鏡」は寺院的要素の強い鏡とされている。（注1）今回、仲田遺跡で出土した鏡は、平安時代の、一般的な住居址から出土しているが、鏡の他にも見慣れない暗文を施した土師器椀、灰釉陶器など装飾性の強い特徴的な土器も認められた。何か特別な理由でもあるのだろうか、今後の課題の一つとなっている。

つぎにH1号住居址（9c後半）出土の須恵器だが、土器自体は平安時代よく使用されている須恵器の坏である。しかし、この坏の表面には「一一寺」と興味深い文字が墨で記されていた。漢字3文字が認められるが、頭2文字についてはわずかながらその字体が認められるものの、現

在確実性がないため「ー寺」としている。おそらく寺院名が記されていたのではないだろうか。

ここで佐久における古代寺院についてみると、文献には「日本三代実録」貞観八年二月二日の条に「信濃国伊奈郡寂光寺、筑摩郡錦織寺、更級郡案養寺、埴科郡屋代寺、佐久郡妙楽寺を定額寺に列する」と記されている。これをみると9C後葉、佐久郡内に妙楽寺と称する寺院の存在が見受けられる。また、遺物的には、佐久市の行った分布調査によって、長土呂地積の西北付近一帯から古瓦（布目瓦）の破片が発見されている。（注2）さらにこの地域に所在した工場敷地内から川原寺式に酷似する「復弁八葉蓮華文鏡瓦（軒丸瓦）」が工場造成に伴う残土内から採取されている。（注3）現在、佐久市出土の鏡瓦（軒丸瓦）はこの1点と考察するにはあまりにも少ない資料ではあるが、佐久平周辺に於いて古代寺院を考える上で貴重な資料の1つになったことは間違いないであろう。

このように佐久平付近における古代寺院の存在を裏づける資料は僅かながら認められるが、現在その正確な位置、伽藍配置等はつかめていない状態である。

今回出土した鏡、墨書土器は、寺院の存在を考えるには乏しいかもしれないが、同一遺跡から、寺院的要素の強い「鏡」の出土、寺名と思われる墨書を持つ土器の出土が、9c後半～10c初頭の住居址から出土していることを考えると、この時代、仲田遺跡付近に存在すら忘れられた寺院的建物が存在していた可能性が推察できる。またこの遺物の出土した住居址の時期は、先に述べた妙楽寺が文献上に現れる時期とほぼ同一時期であることは注目される。しかし、寺名と思われる墨書の頭2文字は報告では「ー」としているが、漢字の字体がわずかに認められ、「妙楽」とは読みがたい。このことから、寺院の名称変更がない限り佐久平には定額寺に指定された妙楽寺とは別の寺院が存在していたとも考えられる。また仲田遺跡の所在する一段上面にあたる台地は字名を「寺畑」と称し、付近に供養塚・十三方といった寺域を思わせる字名が多いことは興味深い。参考までに付近の地積図を載せておく。

今回は、住居址出土の遺物から、寺院存在の可能性を示したにすぎず、寺院址によく認められる古瓦の散布、礎石、基壇等は付近の調査からも確認されていない。このため、これらはいくまでも筆者の奇抜な推察と考えてもらいたい。

（注1）片山 昭悟 奈良時代の鏡 千二百年前にあこがれた文様 1994

片山 昭悟 奈良時代の鏡研究

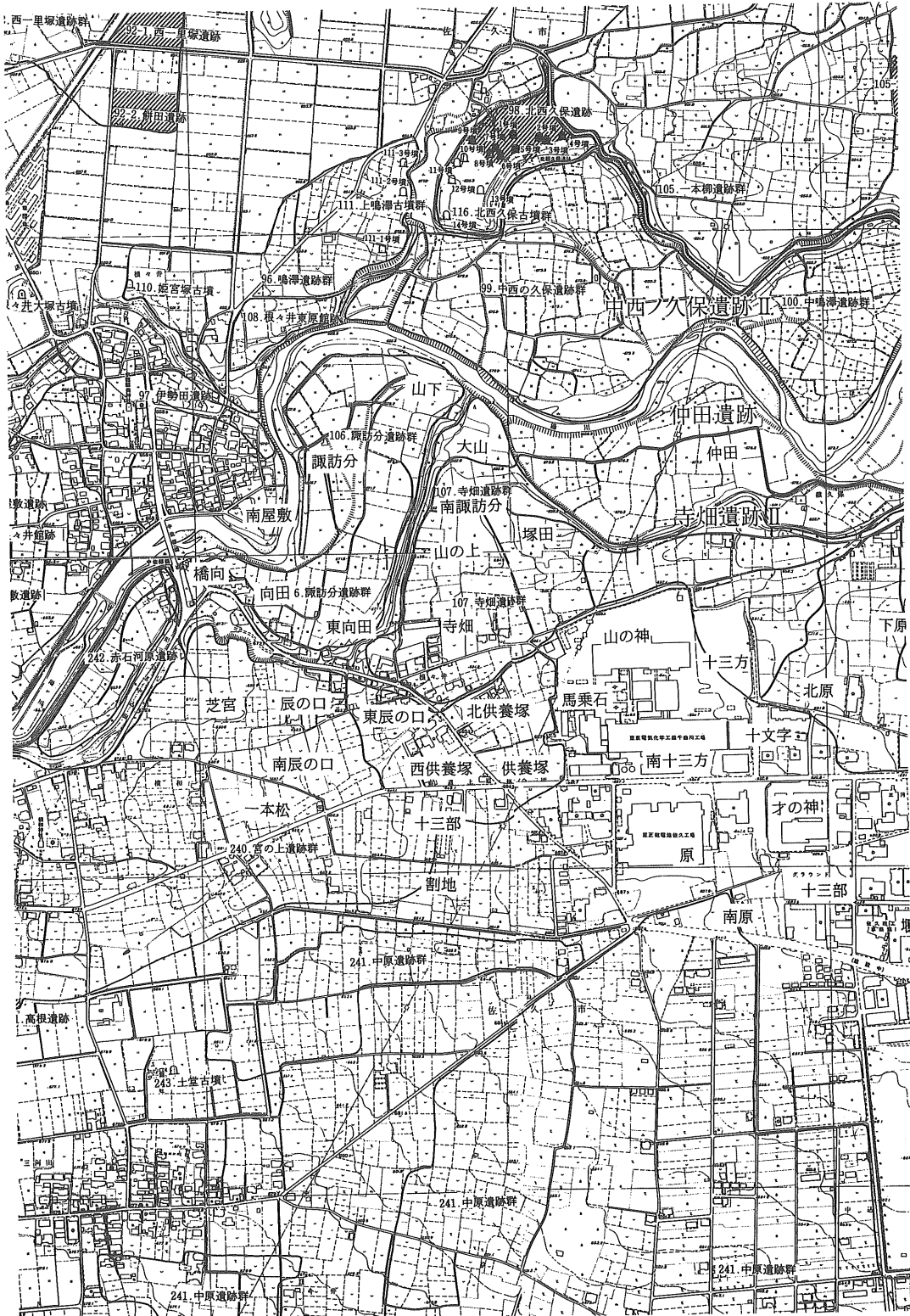
－兵庫県栗群山崎町金谷出土 瑞雲双鸞八花鏡のルーツをもとめて－ 1996

（注2）佐久市志刊行会 佐久市志 歴史編（一）原始・古代

（注3）宇賀神 誠司 佐久考古通信 NO 61

－佐久市長土呂出土の軒丸瓦－佐久地方における寺院の草創－





第220図 仲田遺跡周辺地横図

中西ノ久保遺跡Ⅱ  
写真図版



写239 中西の久保遺跡全景



写240 中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景（1）



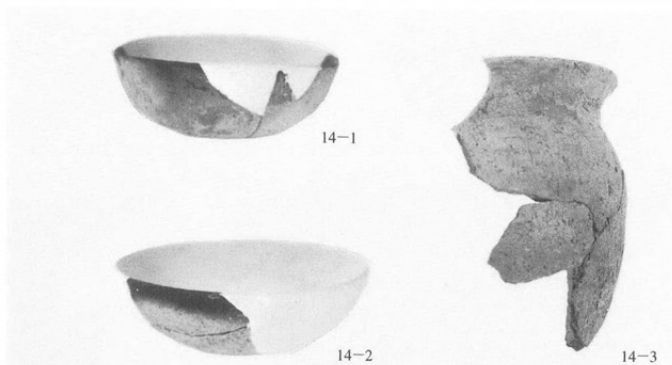
写241 中西の久保遺跡Ⅱ調査風景（2）



写242 中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景（3）



写243 H 1号住居址出土遗物



14-1 14-2 14-3

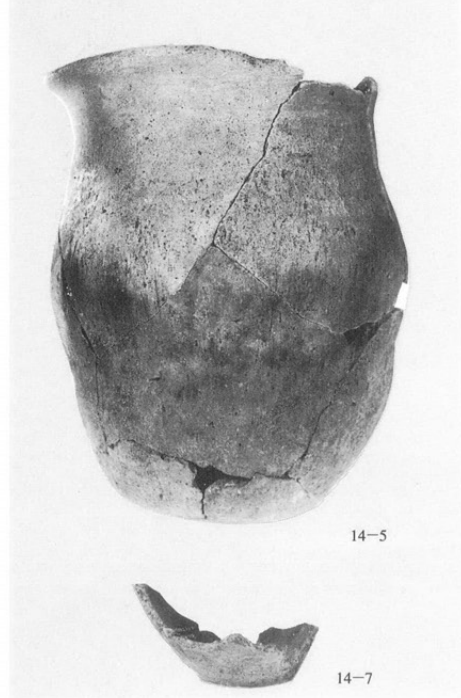


14-4



14-6

写244 H19号住居址出土遗物



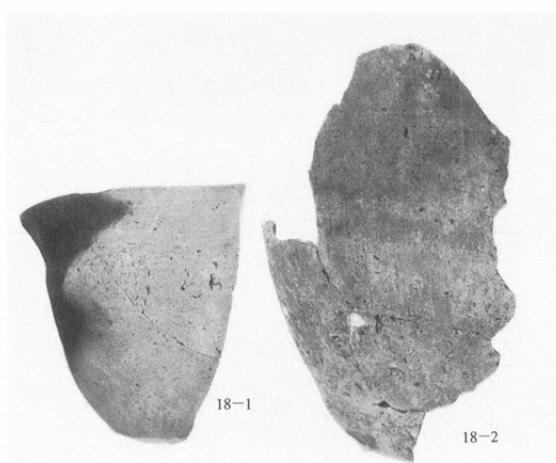
14-5

14-7



16-1

写245 H20号住居址出土遗物

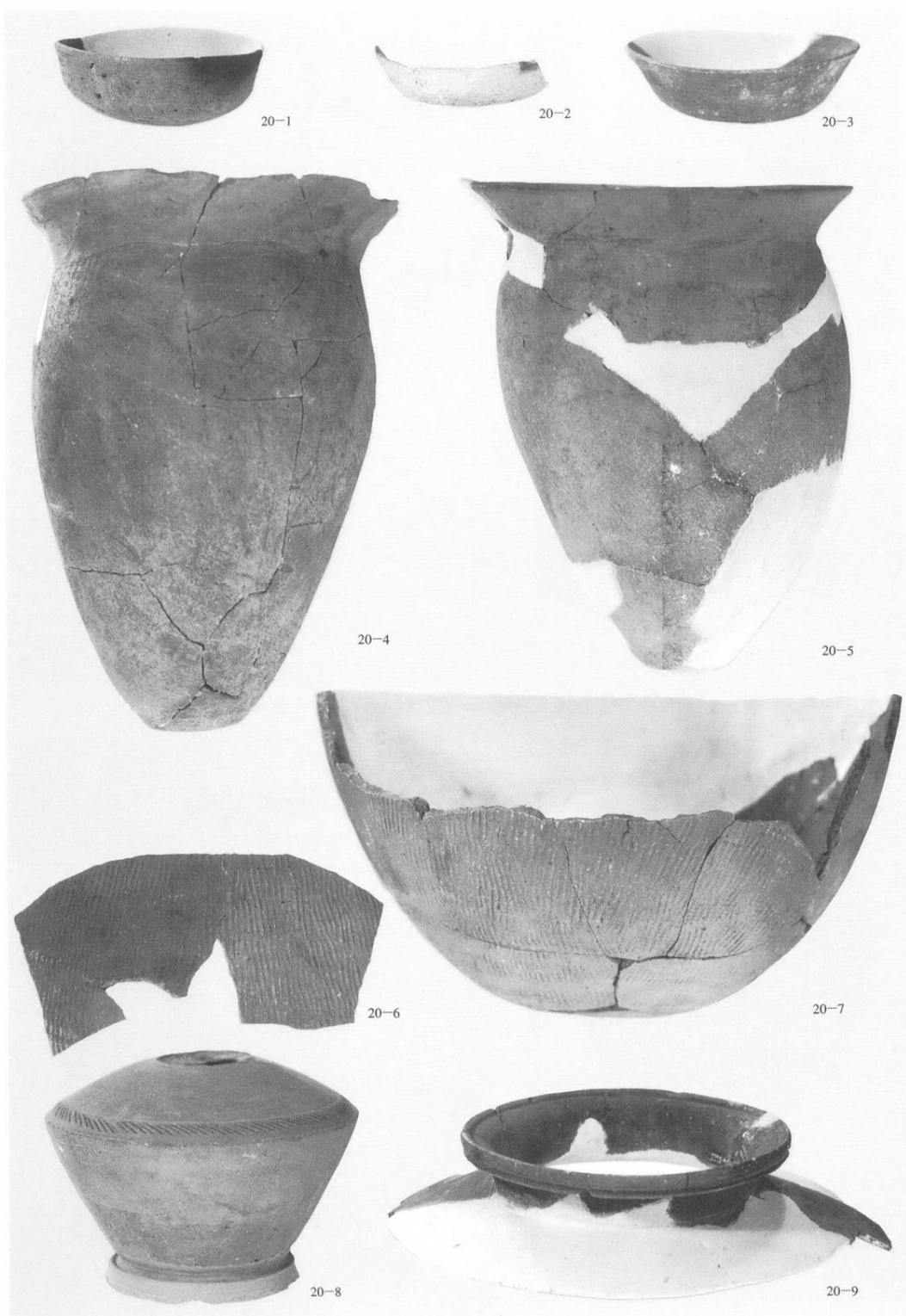


18-1

18-2

写246 H21号住居址出土遗物

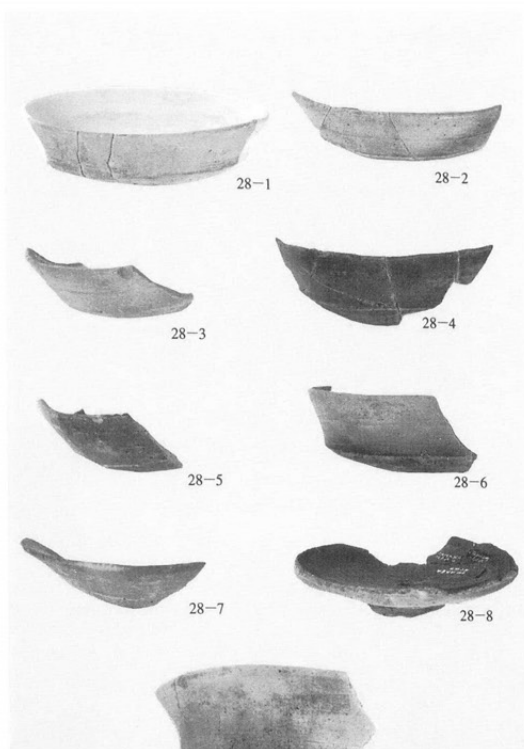
图版四



写247 H22号住居址出土遺物

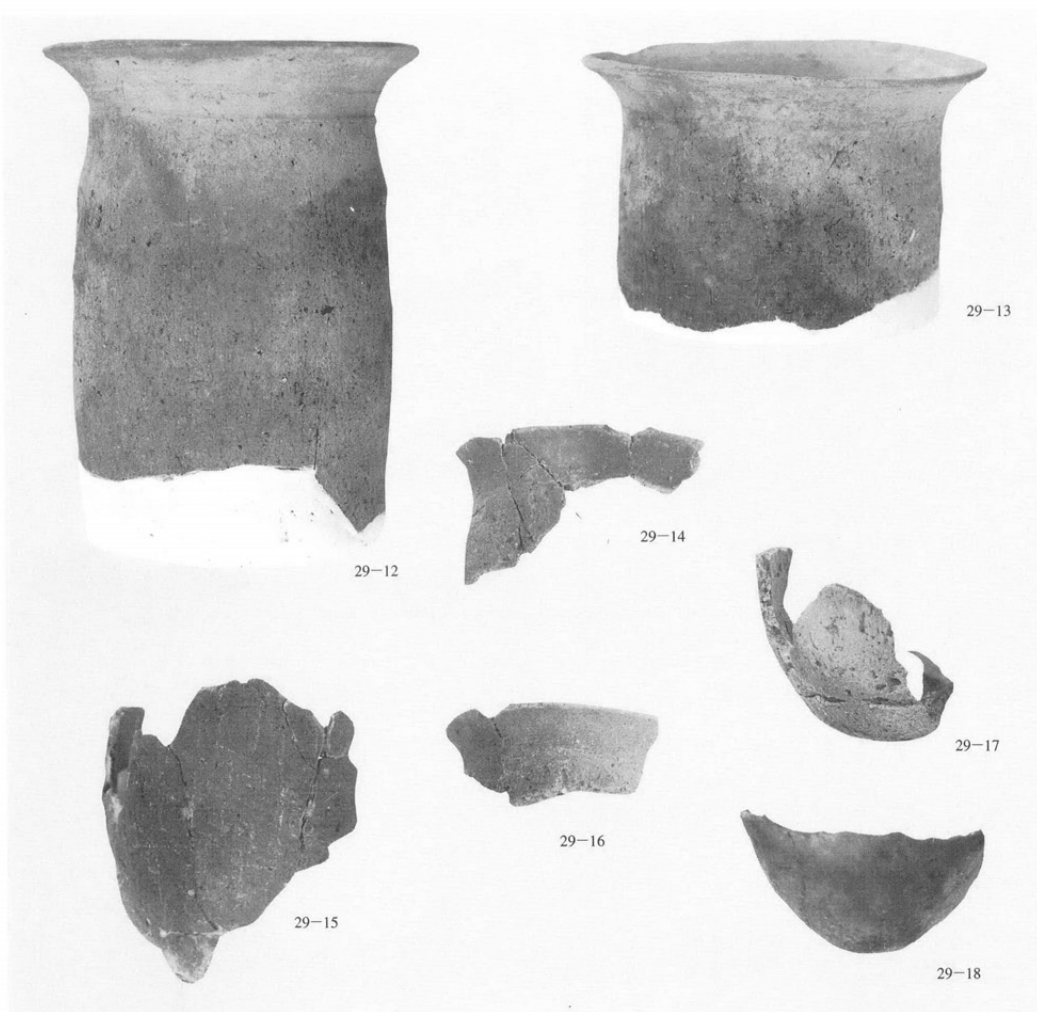


写248 H25号住居址出土遺物

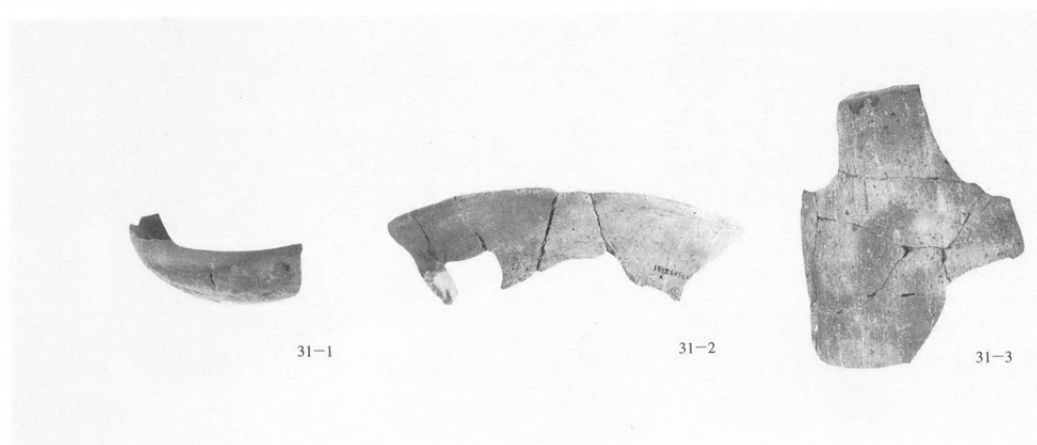


写249 H26号住居址出土遺物 (1)

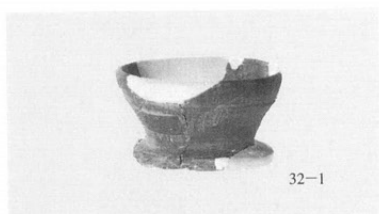
图版六



写250 H26号住居址出土遗物(2)

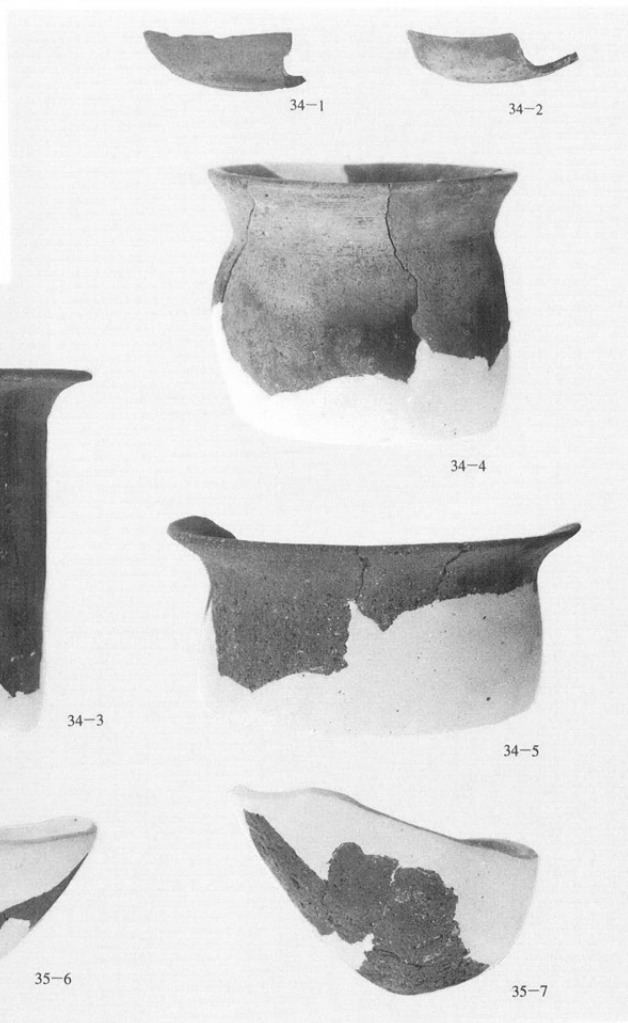


写251 H27号住居址出土遗物



32-1

写252 H28号住居址出土遺物



34-1

34-2

34-4

34-3

34-5

35-6

35-7

写253 H30号住居址出土遺物



38-1

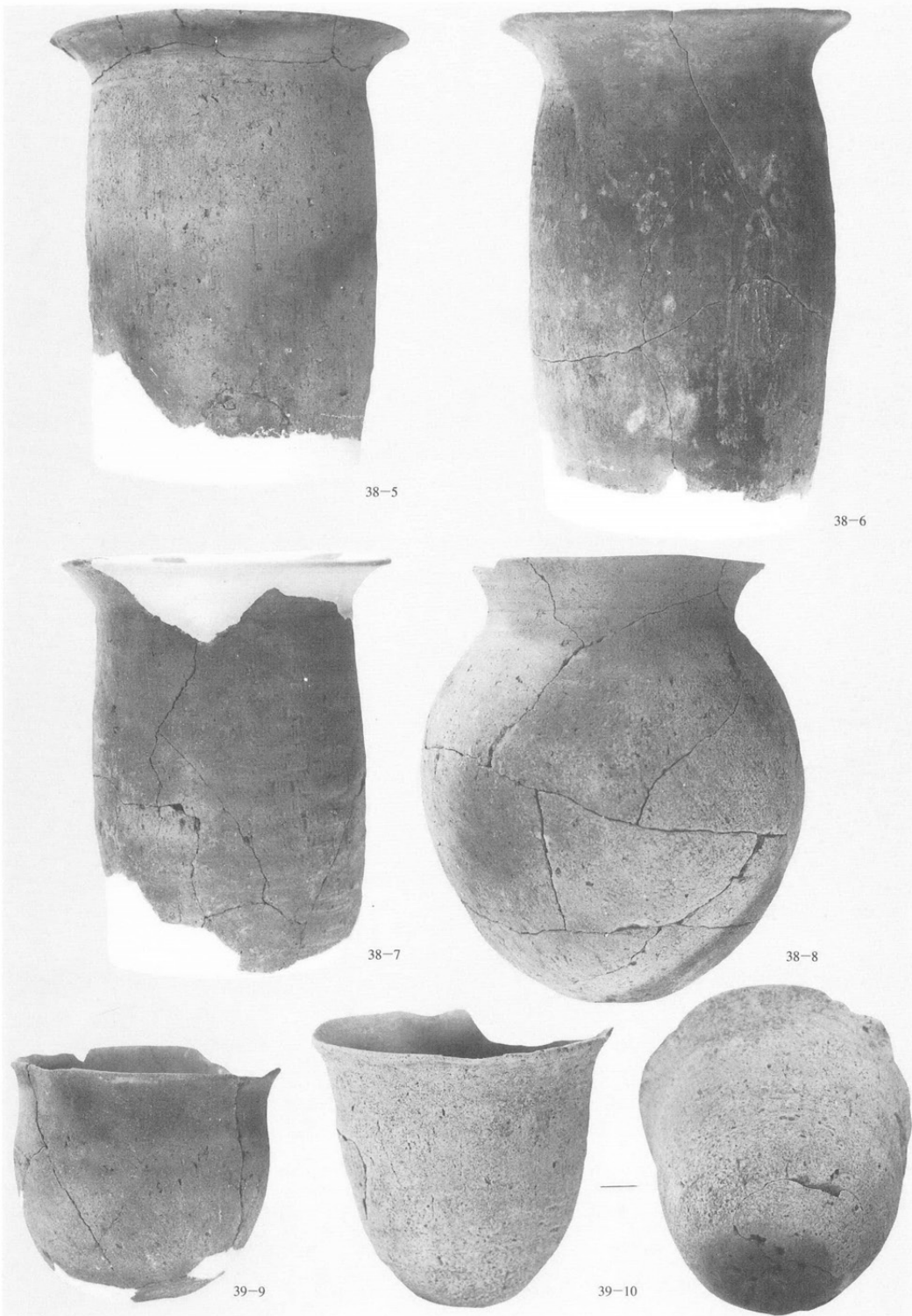
38-3

38-2

38-4

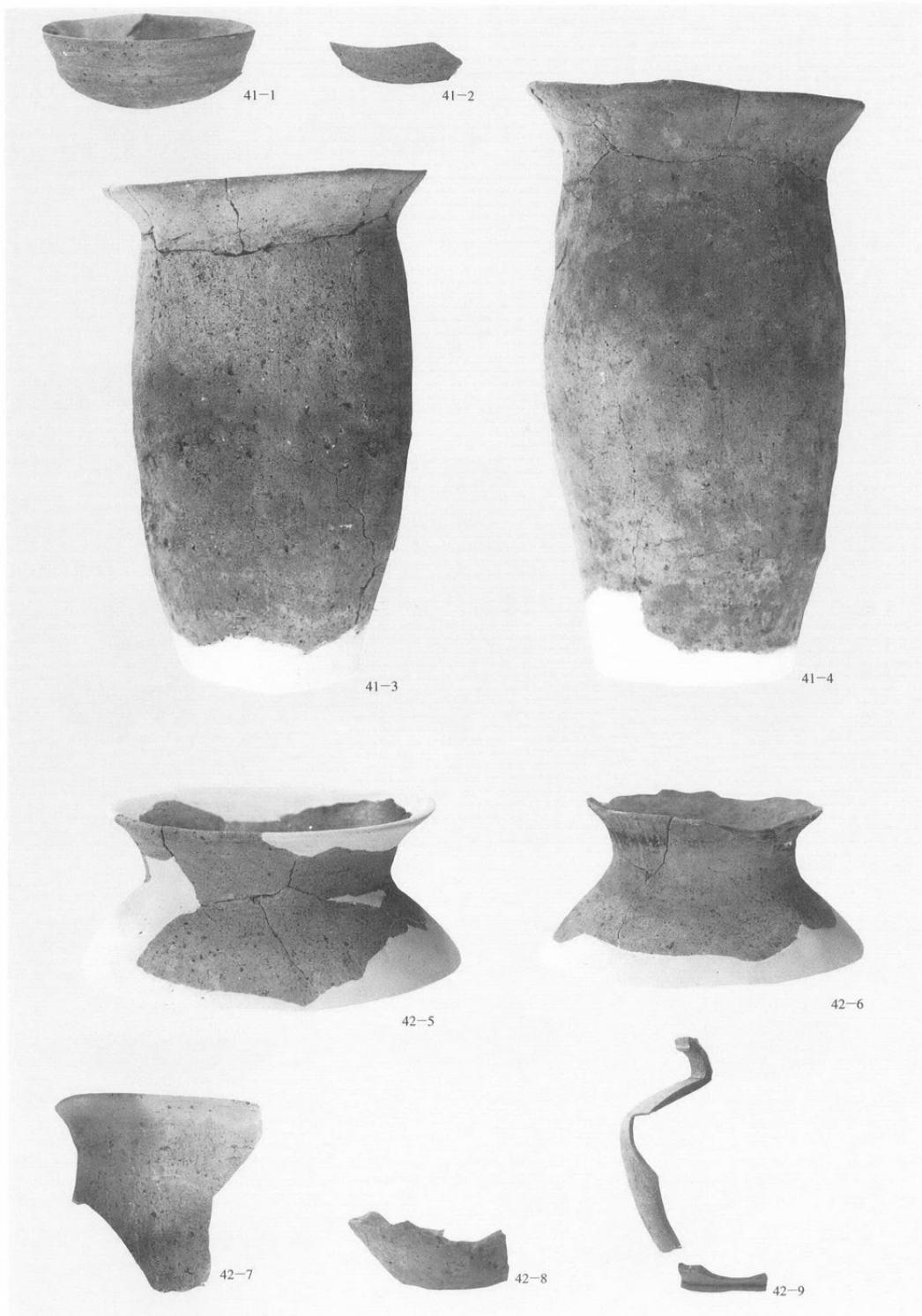
写254 H31号住居址出土遺物 (1)



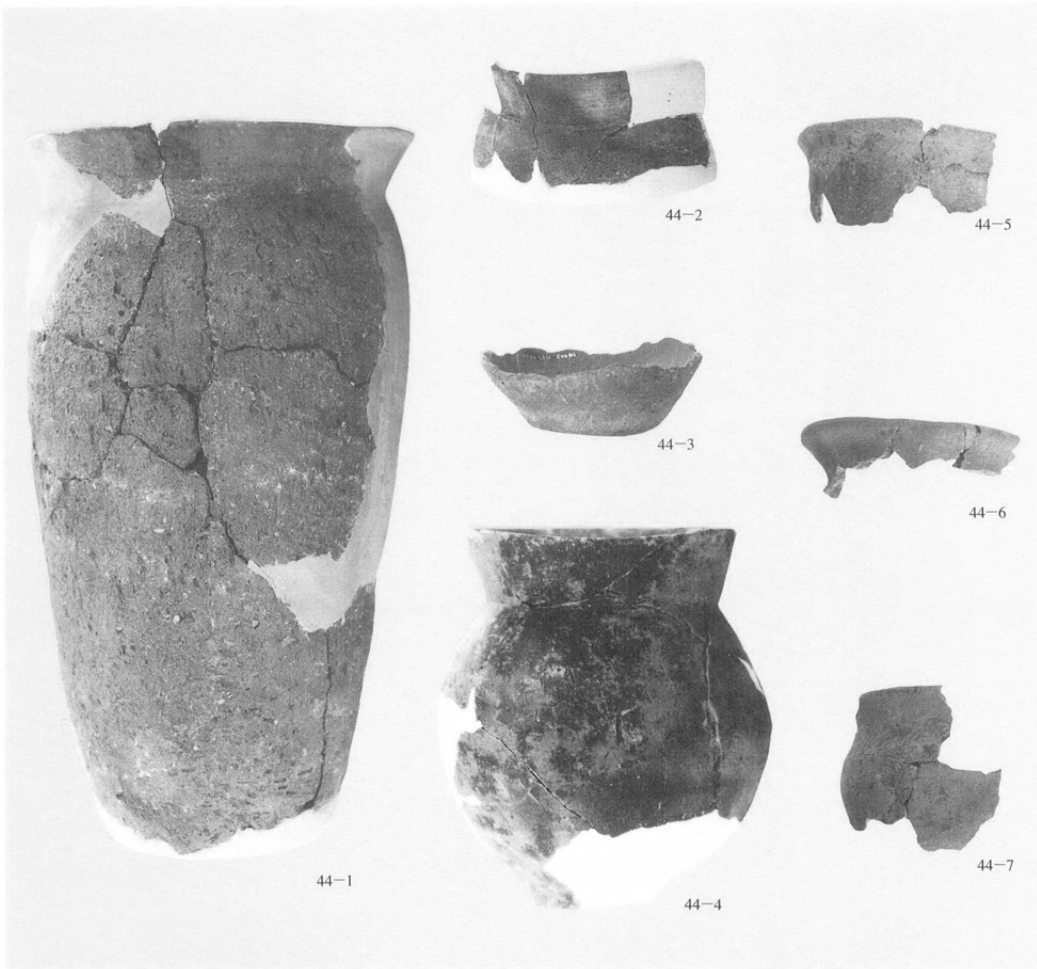


写255 H31号住居址出土遺物（2）

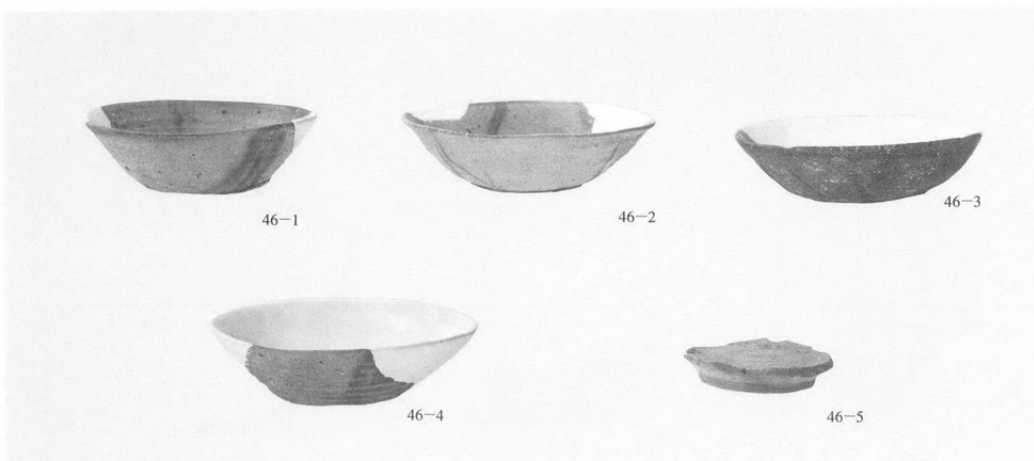
图版九



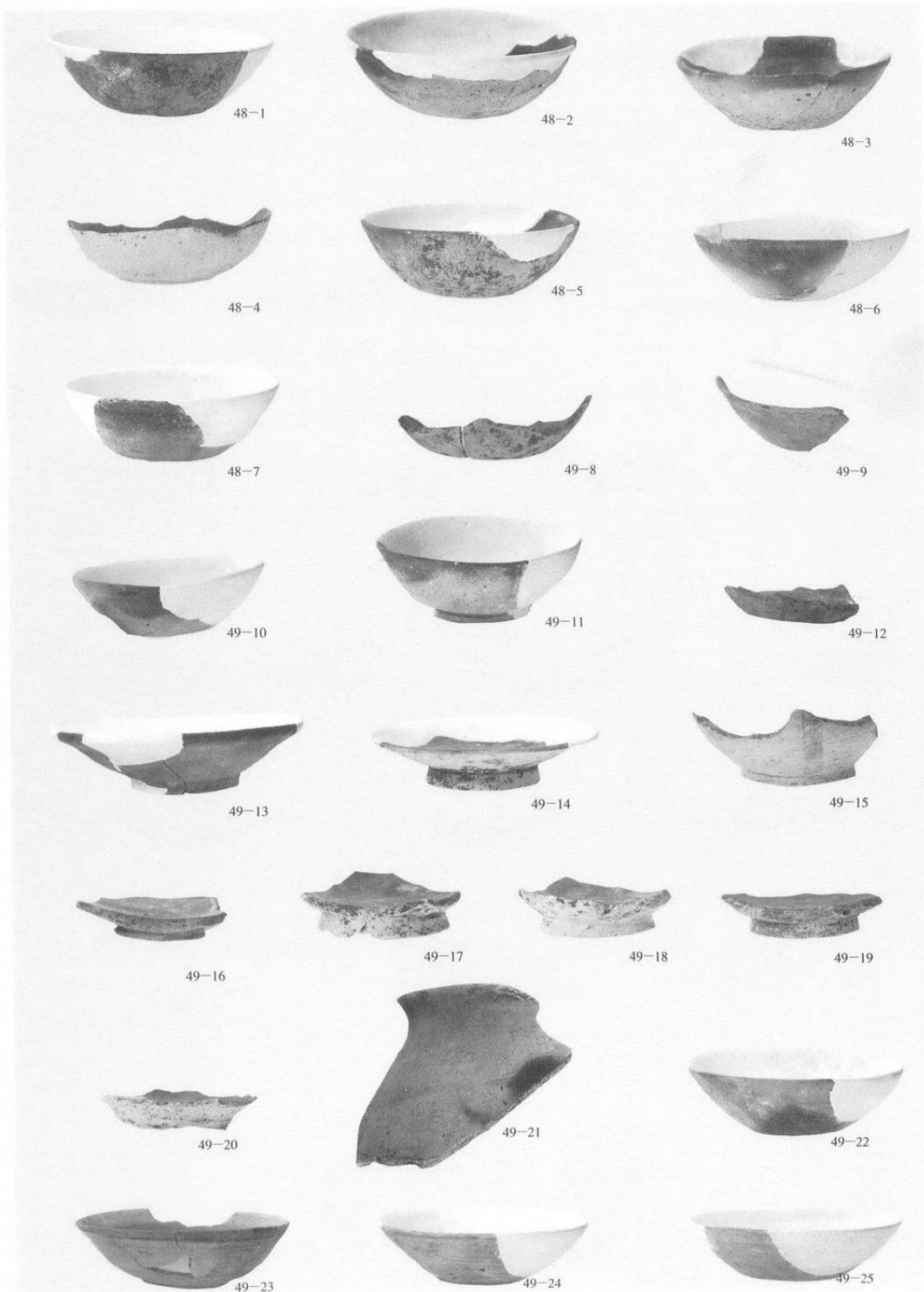
写256 H32号住居址出土遺物



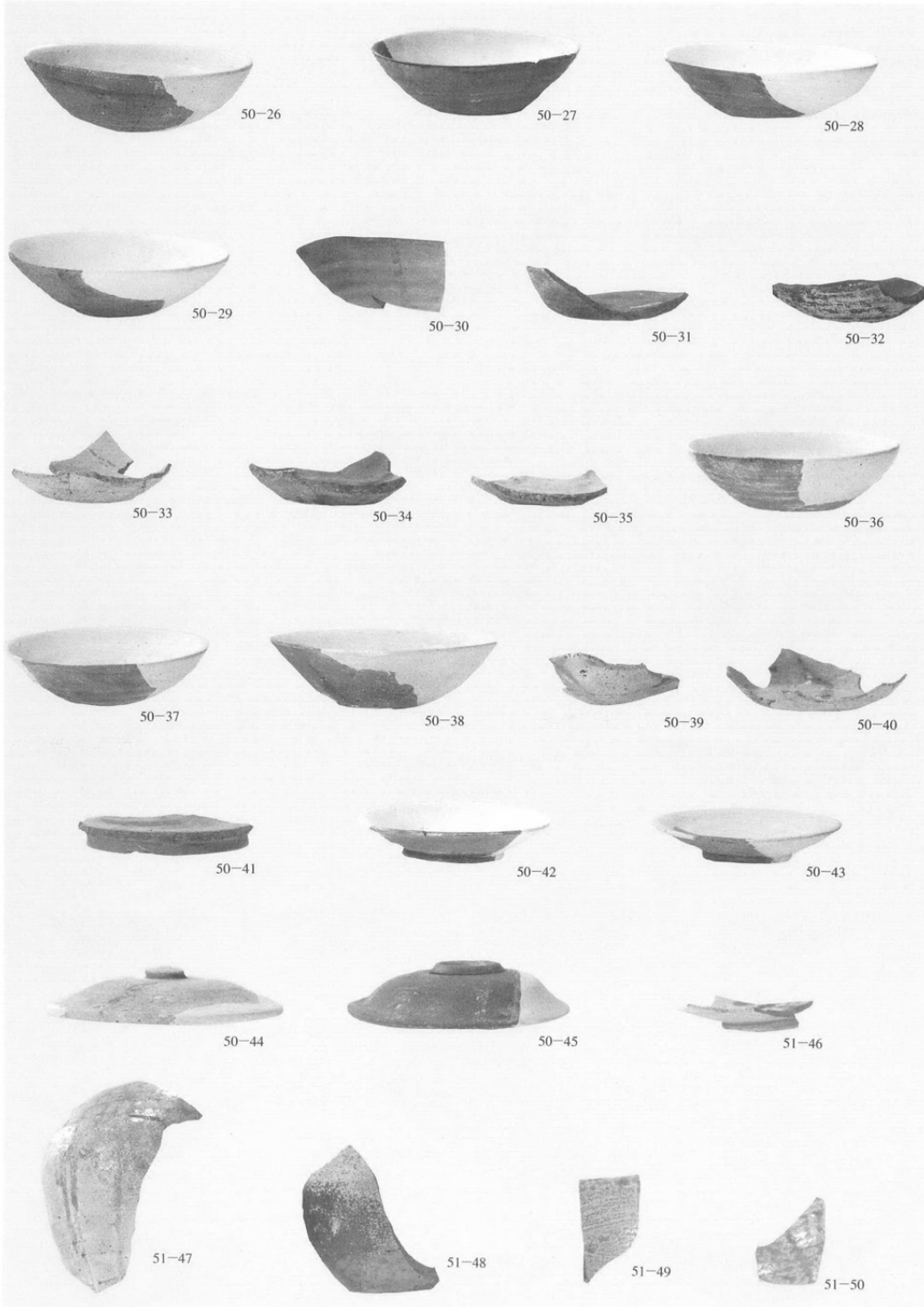
写257 H33号住居址出土遺物



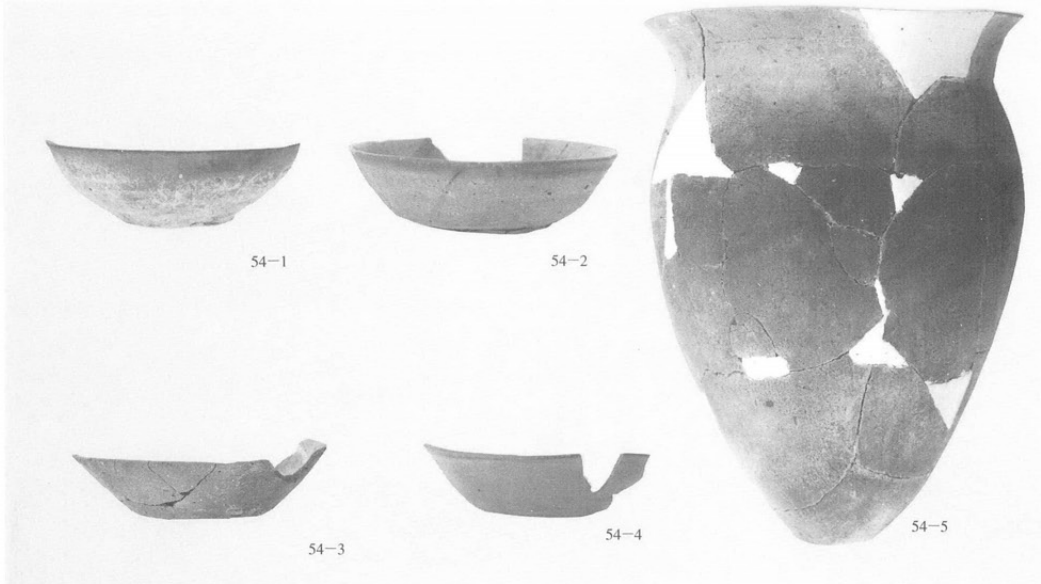
写258 H34号住居址出土遺物



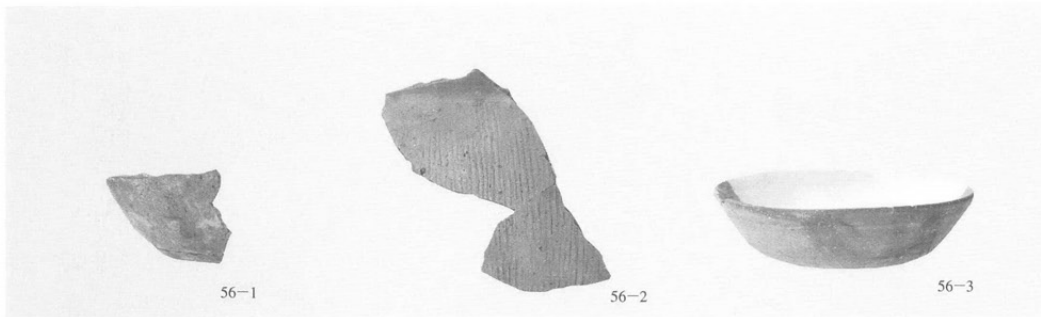
写259 H35号住居址出土遺物（1）



写260 H35号住居址出土遺物(2)



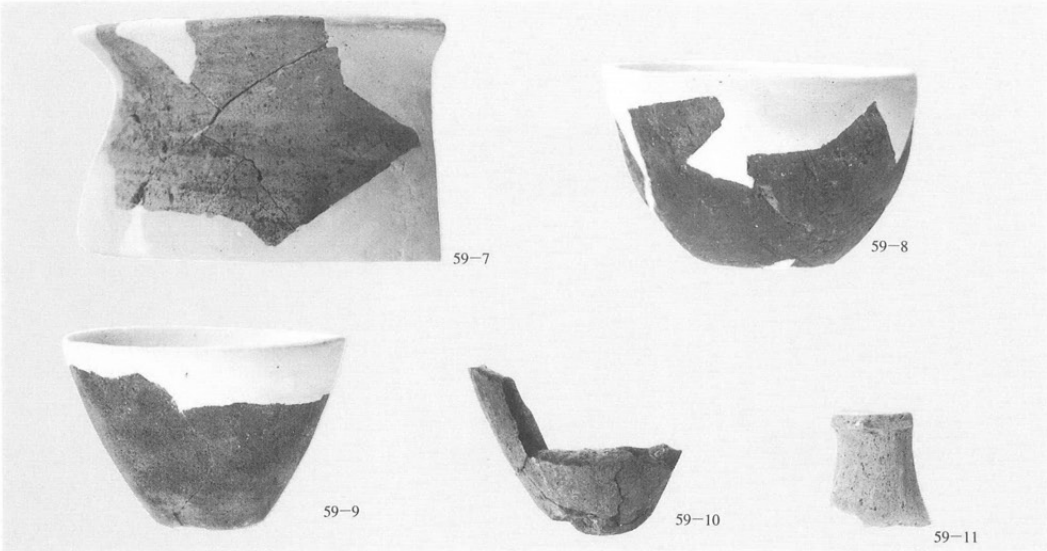
写261 H36号住居址出土遺物



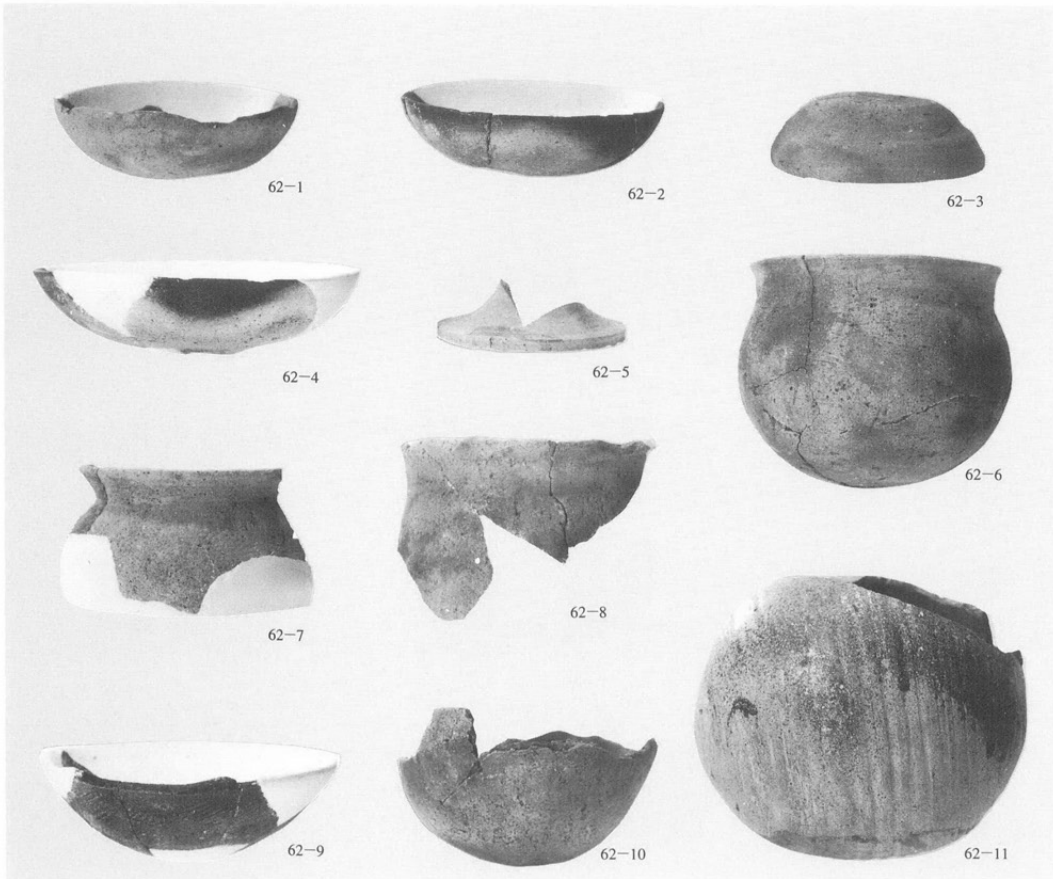
写262 H37号住居址出土遺物



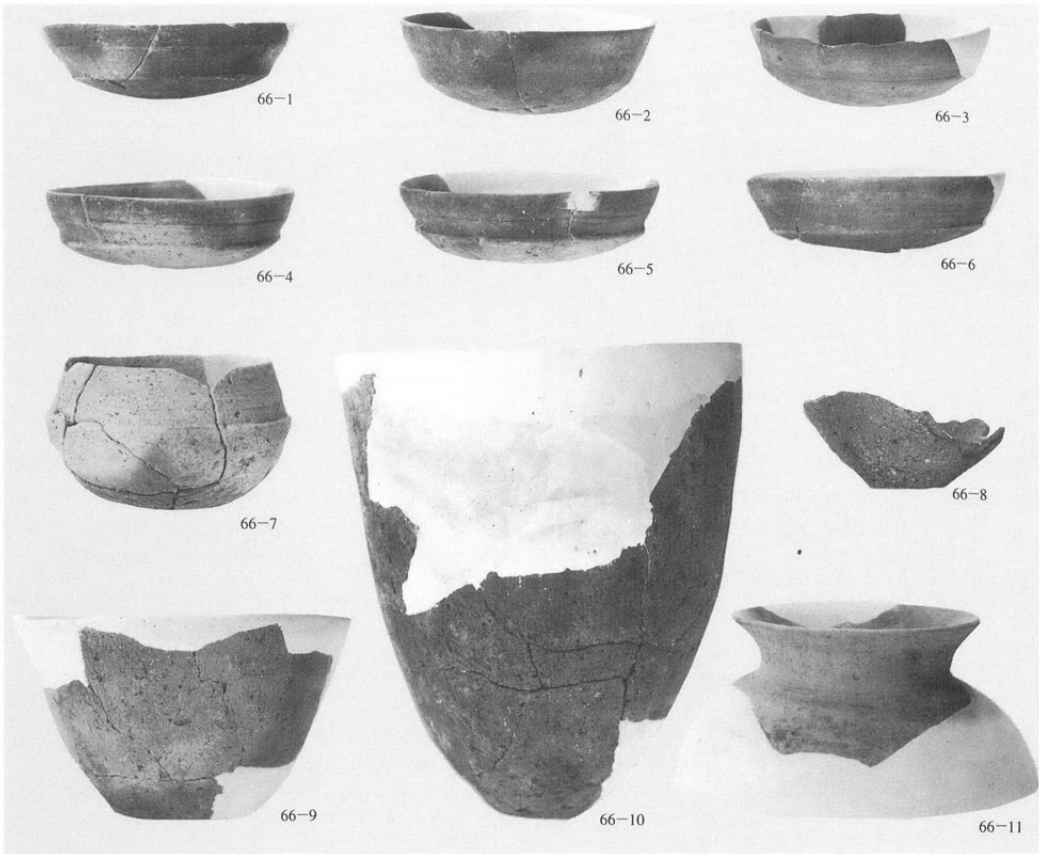
写263 H38号住居址出土遺物 (1)



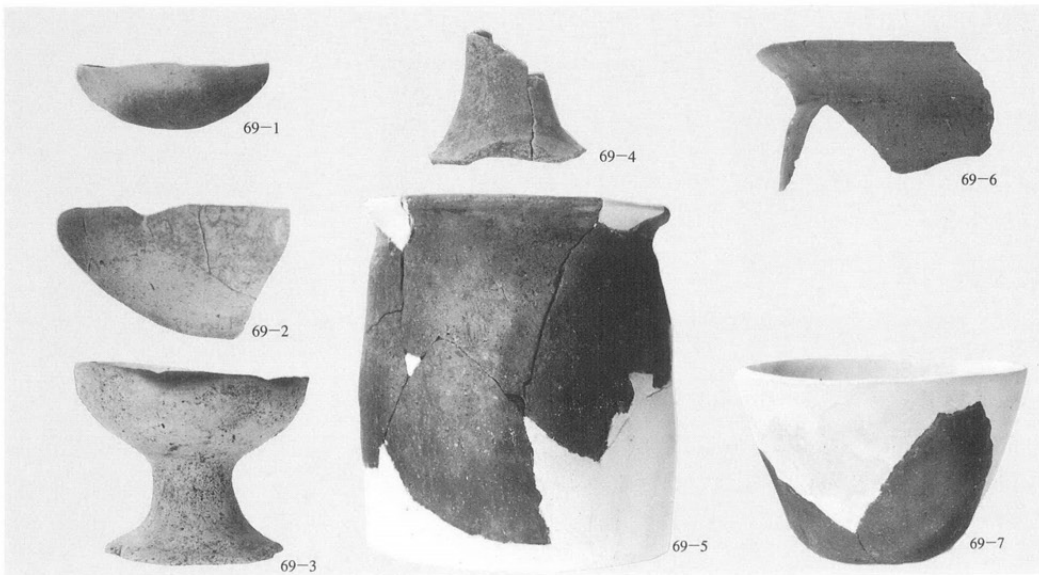
写264 H38号住居址出土遺物 (2)



写265 H39号住居址出土遺物



写266 H41号住居址出土遺物

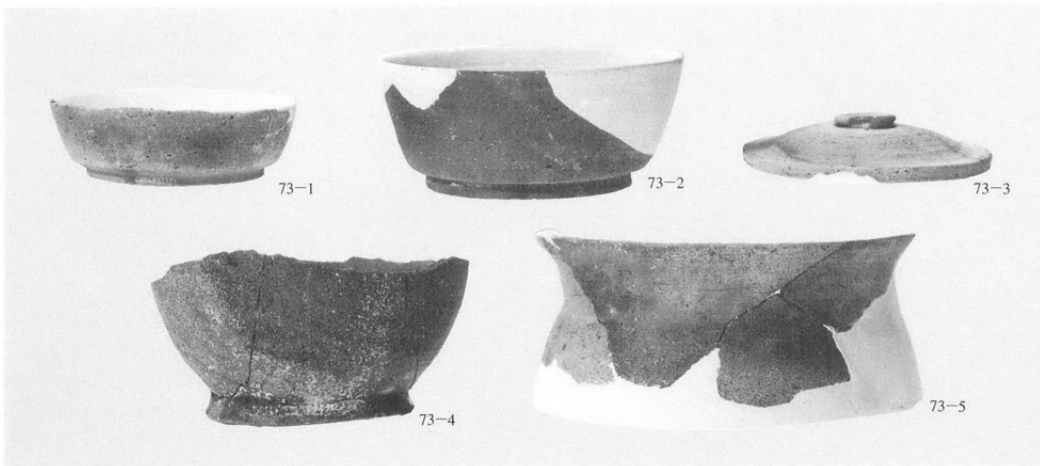


写267 H42号住居址出土遺物

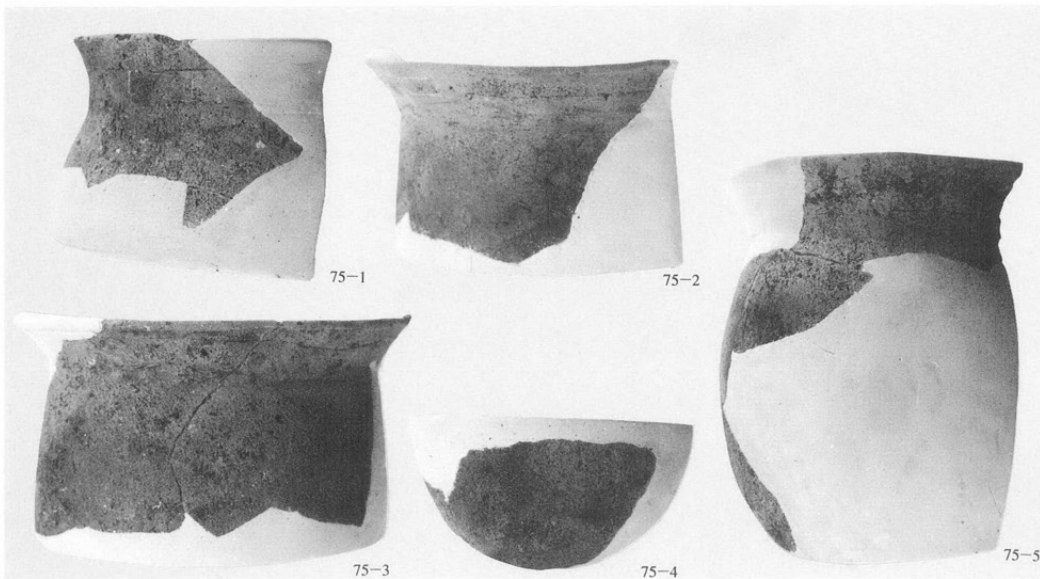




写268 H43号住居址出土遺物



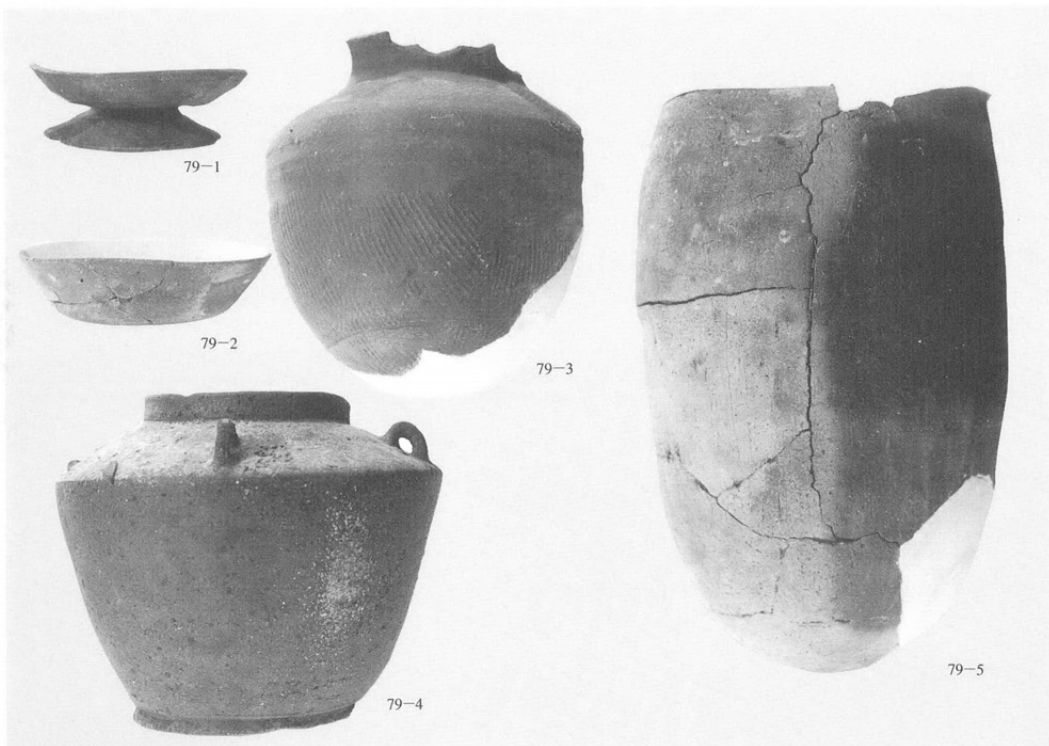
写269 H44号住居址出土遺物



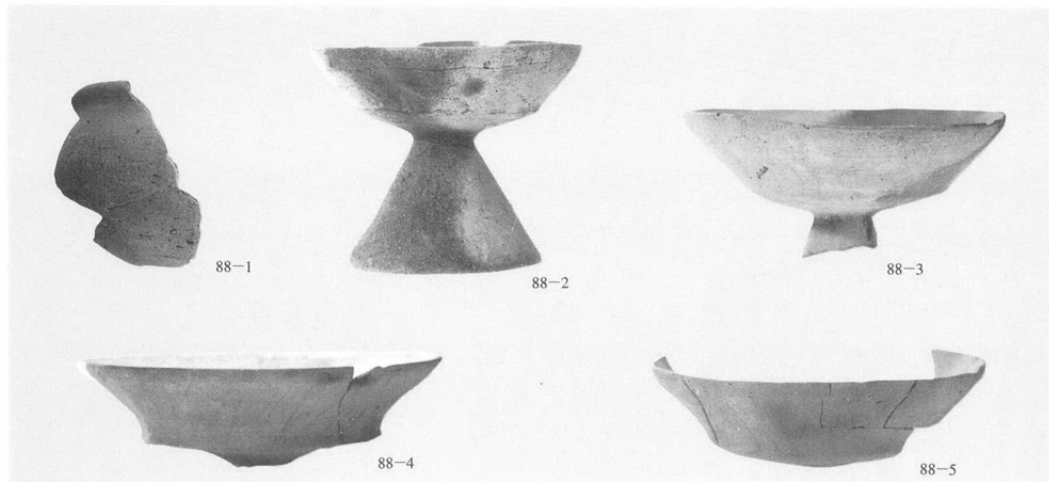
写270 H45号住居址出土遺物



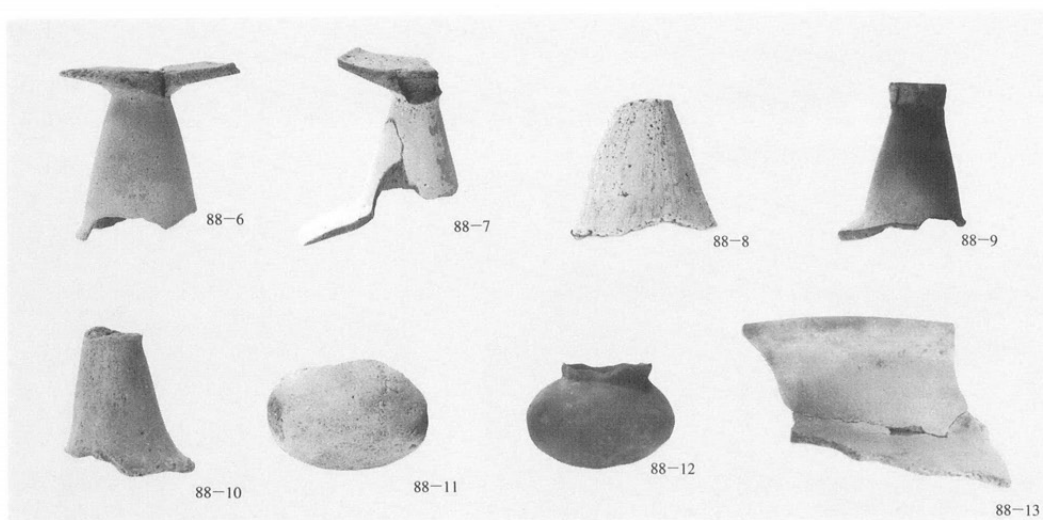
写271 H46号住居址出土遺物



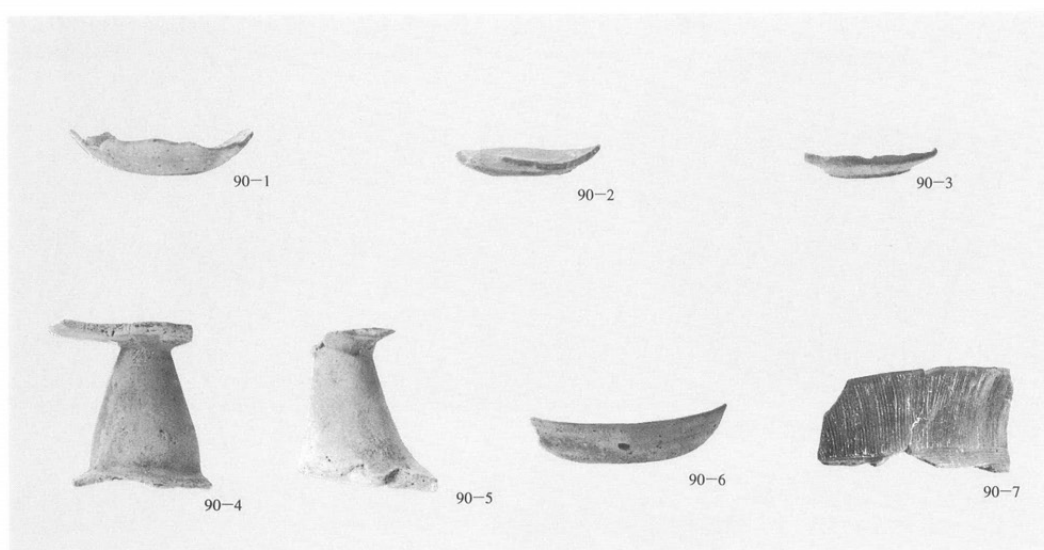
写272 H47号住居址出土遺物



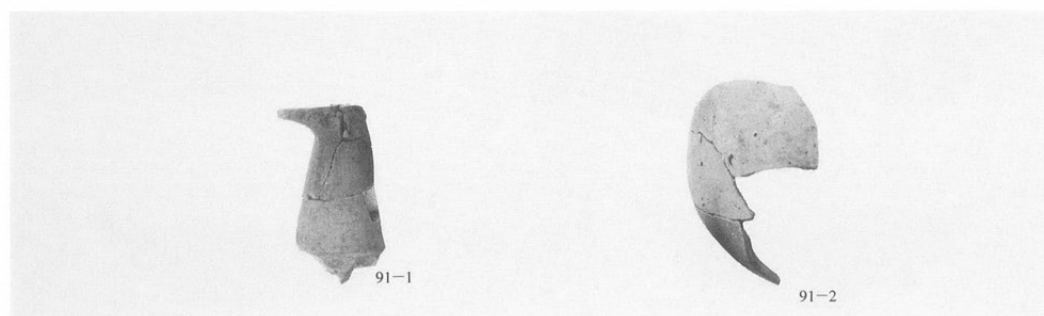
写273 M3号溝跡出土遺物(1)



写274 M3号沟迹出土遗物(2)



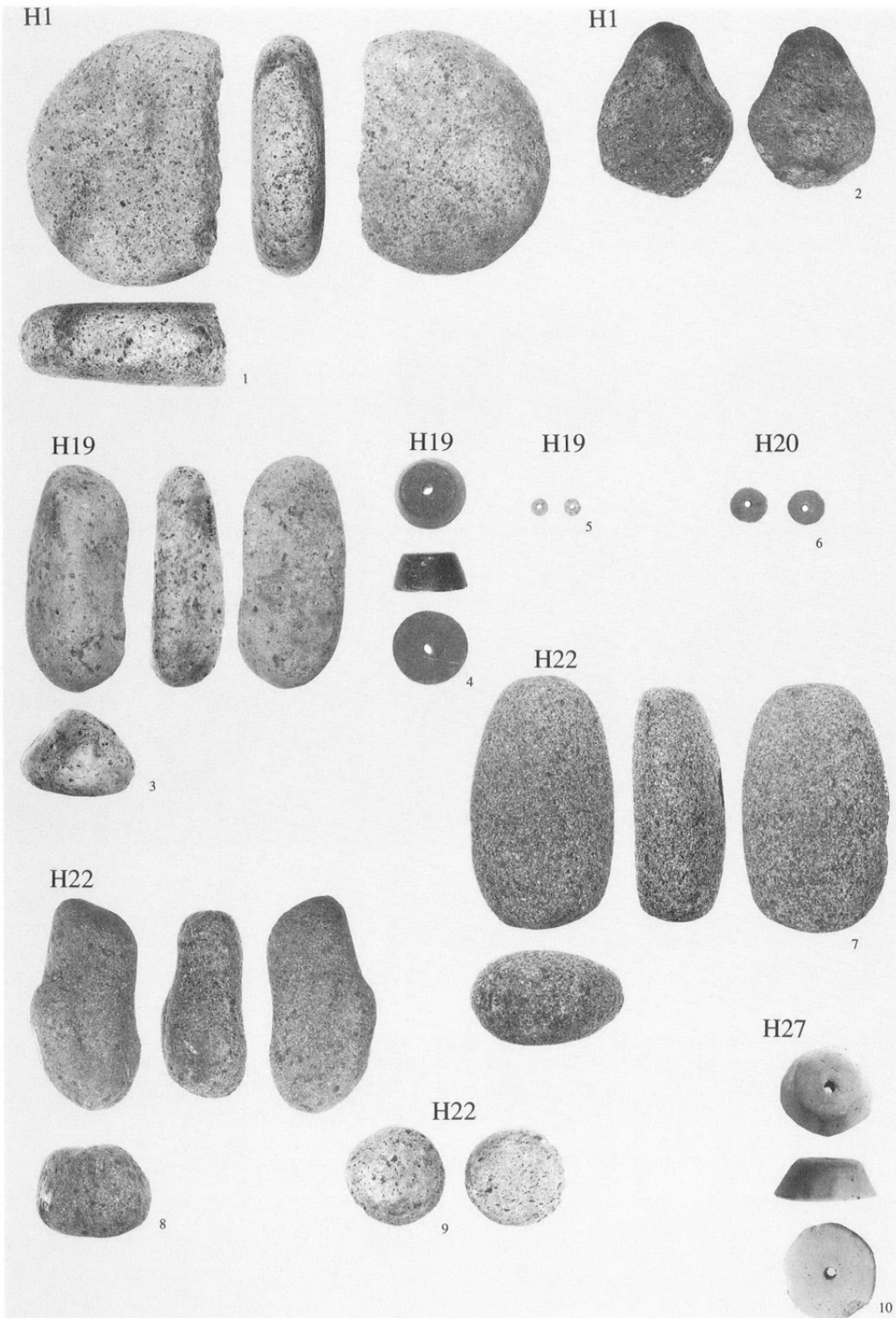
写275 M5号沟迹出土遗物



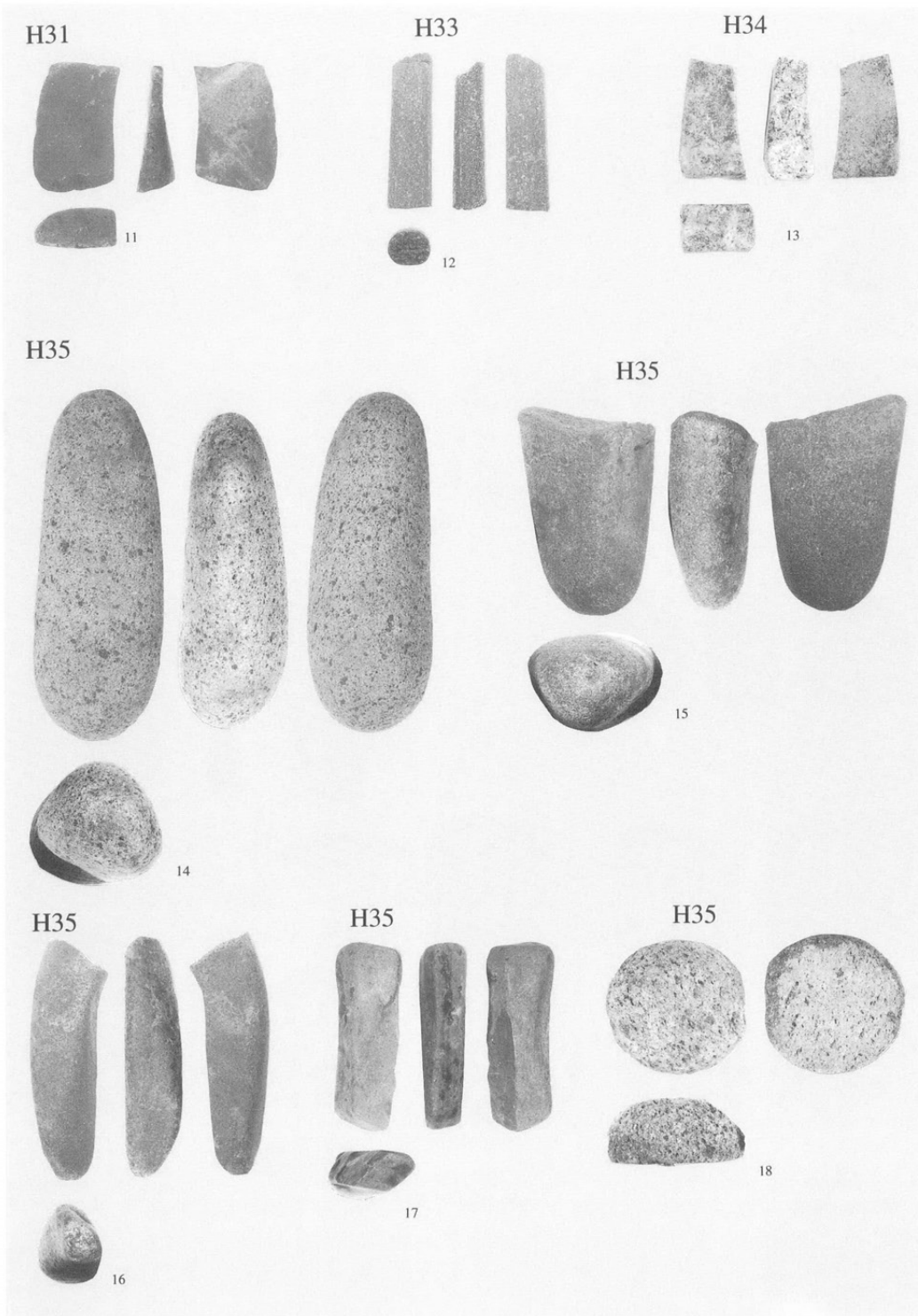
写276 M7号沟迹出土遗物



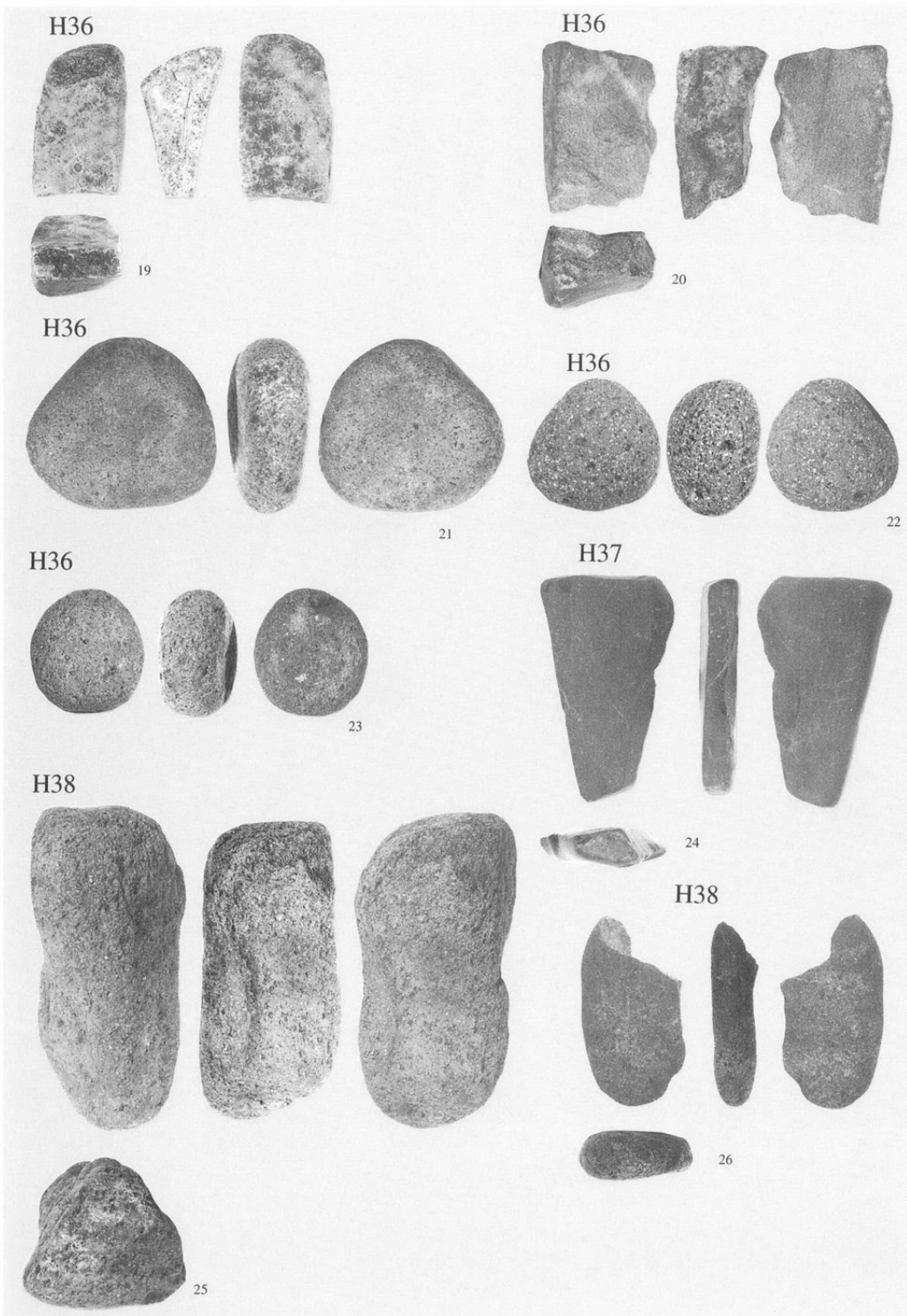
写277 遺構外出土遺物



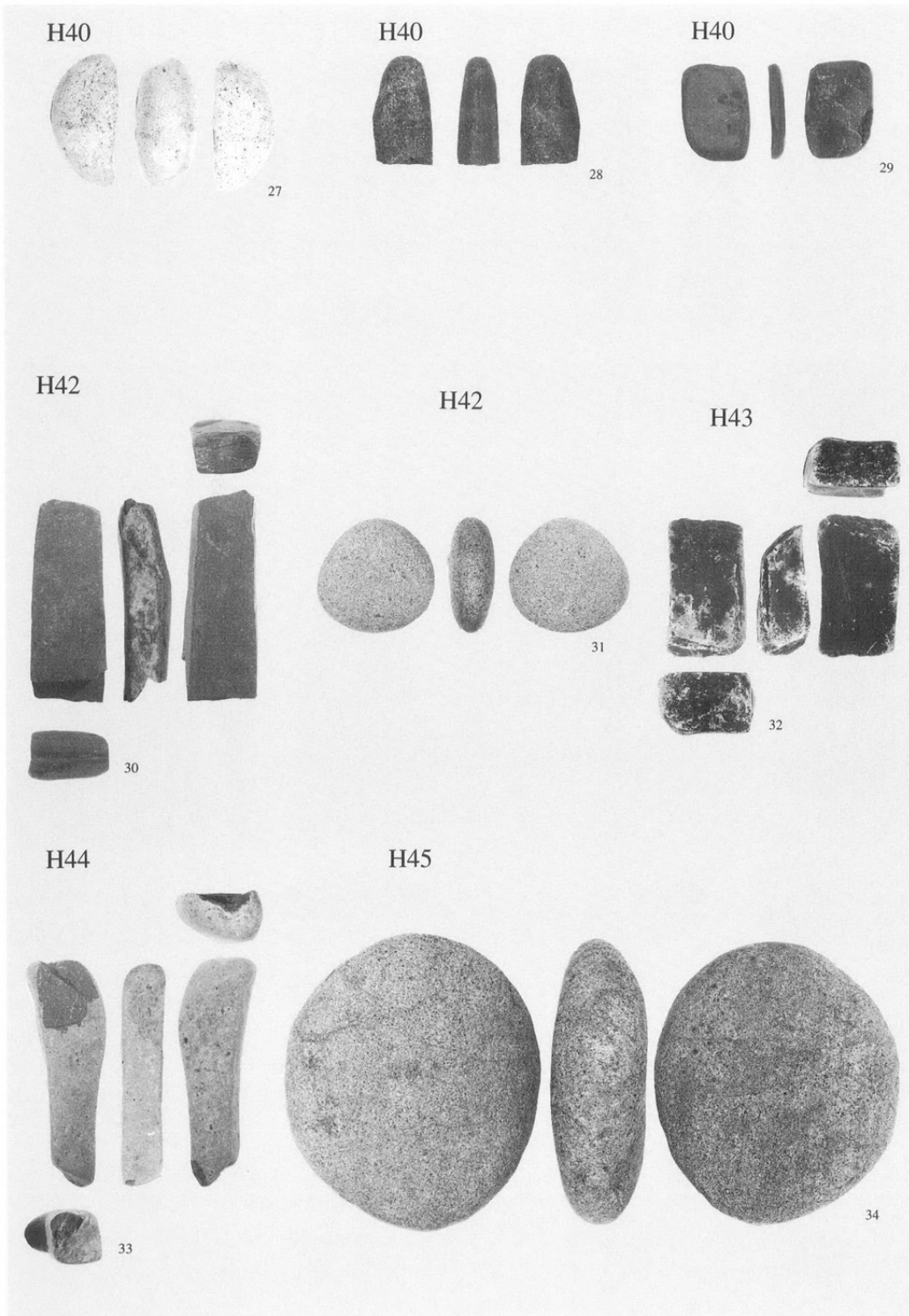
写278 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品（1） 表-P95



写279 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(2) 表-P95

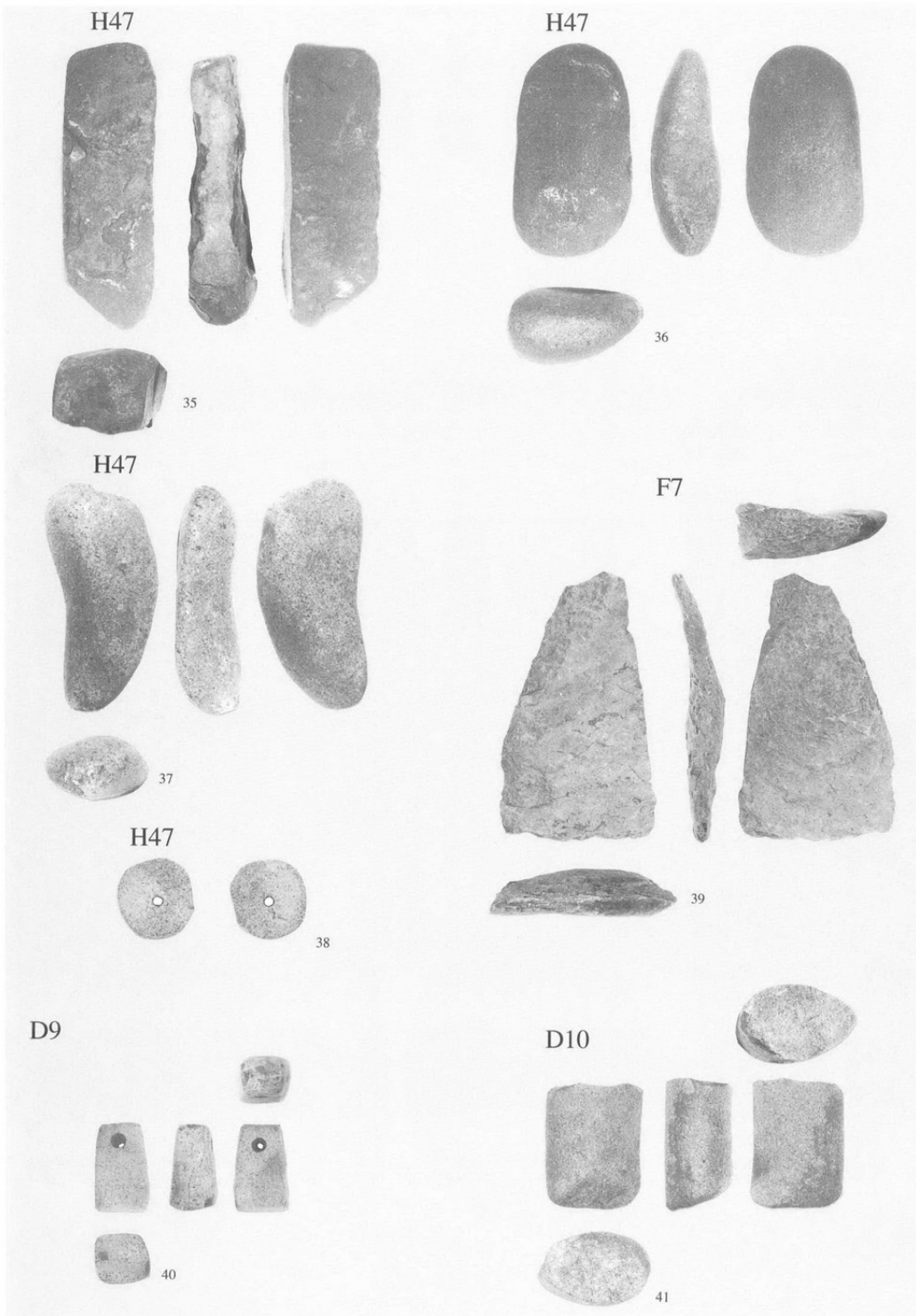


写280 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(3) 表-P95

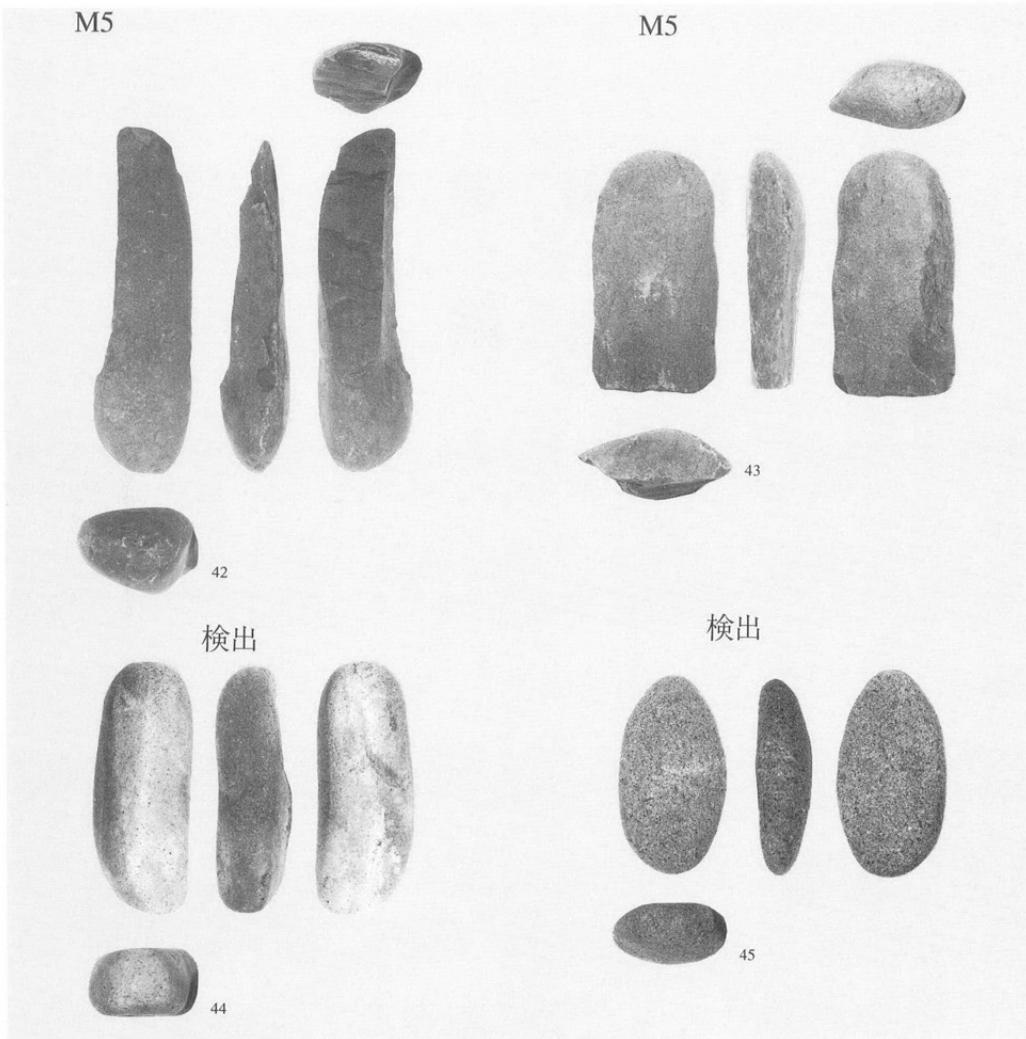


写281 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(4) 表-P95





写282 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(5) 表-P95



写283 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品（6） 表-P95



写284 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土耳環

仲田遺跡  
写真図版



写285 仲田遺跡H16号出土土器



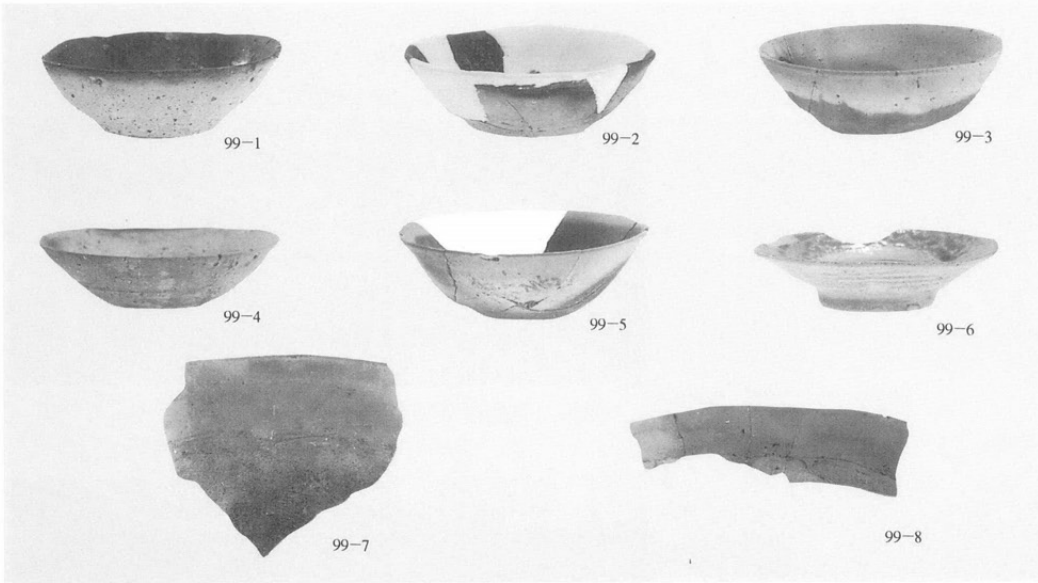
写286 仲田遺跡調査風景（1）



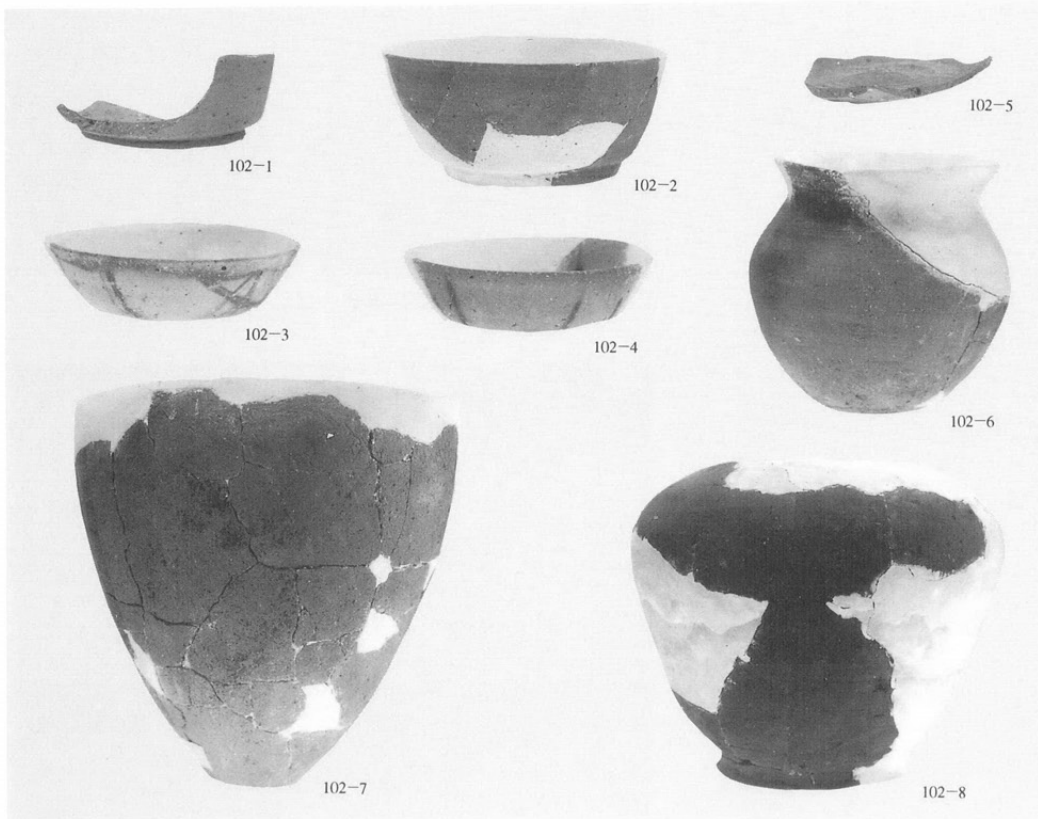
写287 仲田遺跡調査風景（2）



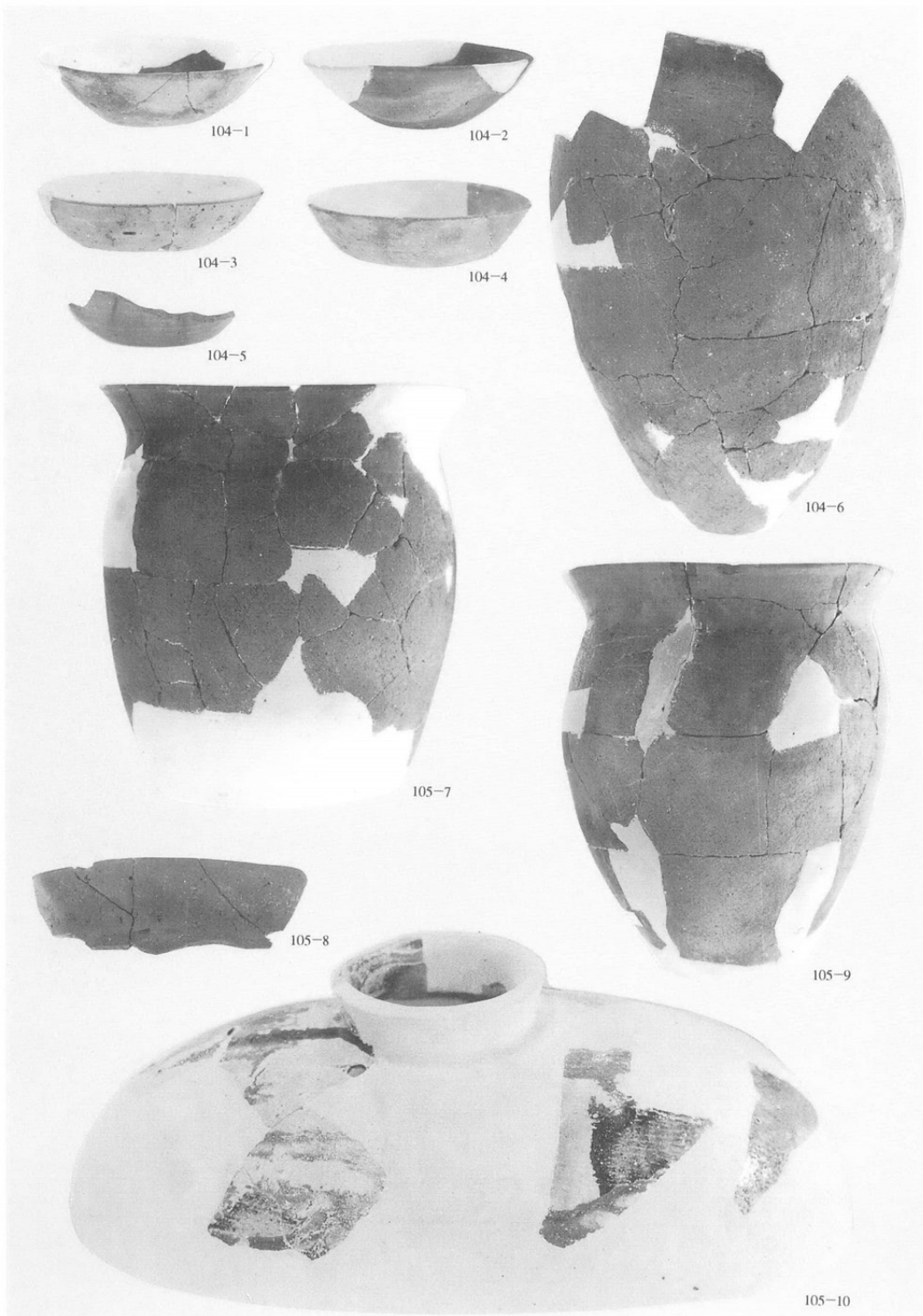
写288 仲田遺跡調査風景（3）



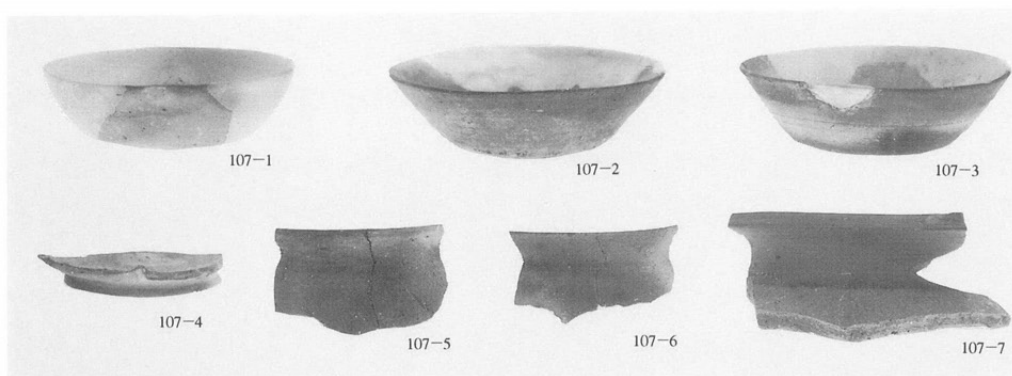
写289 H 1号住居址出土遺物



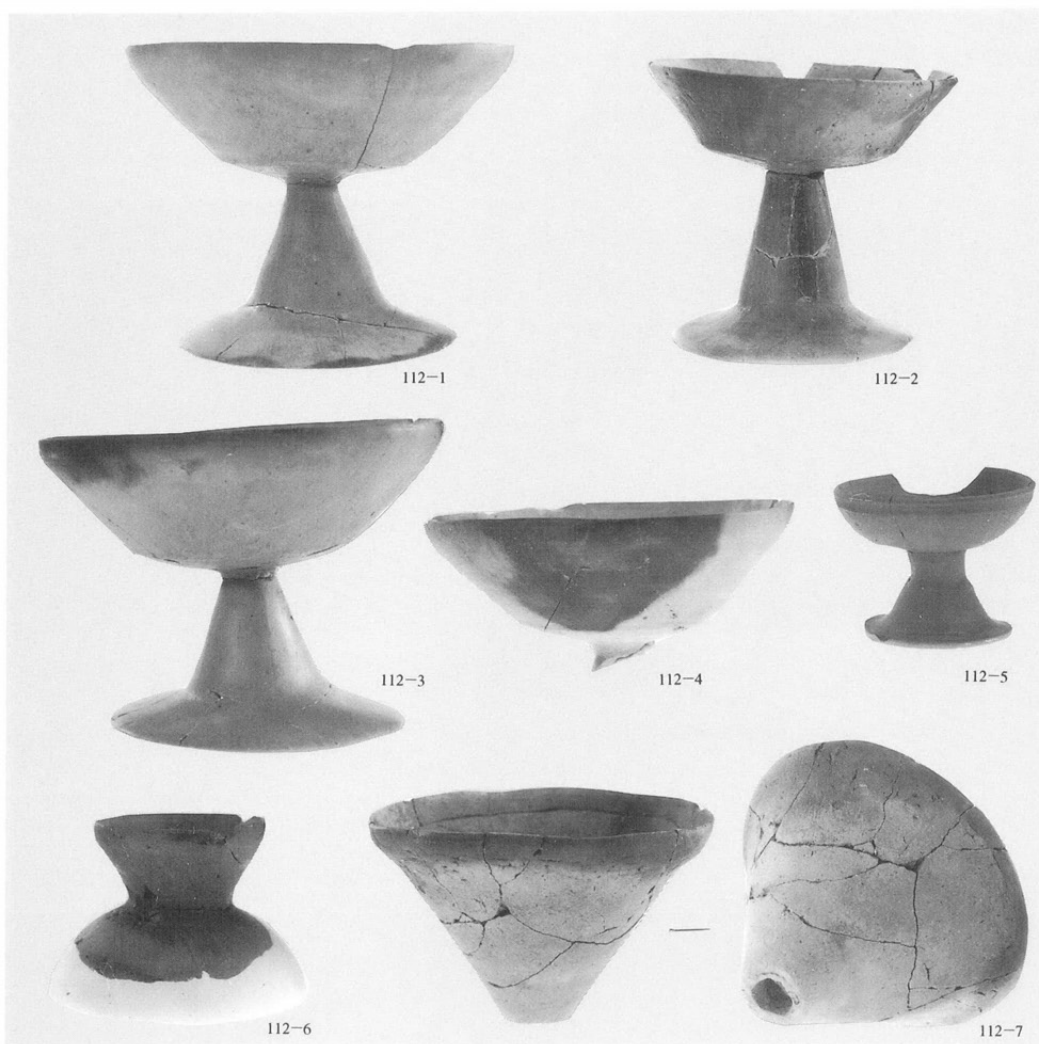
写290 H 2号住居址出土遺物



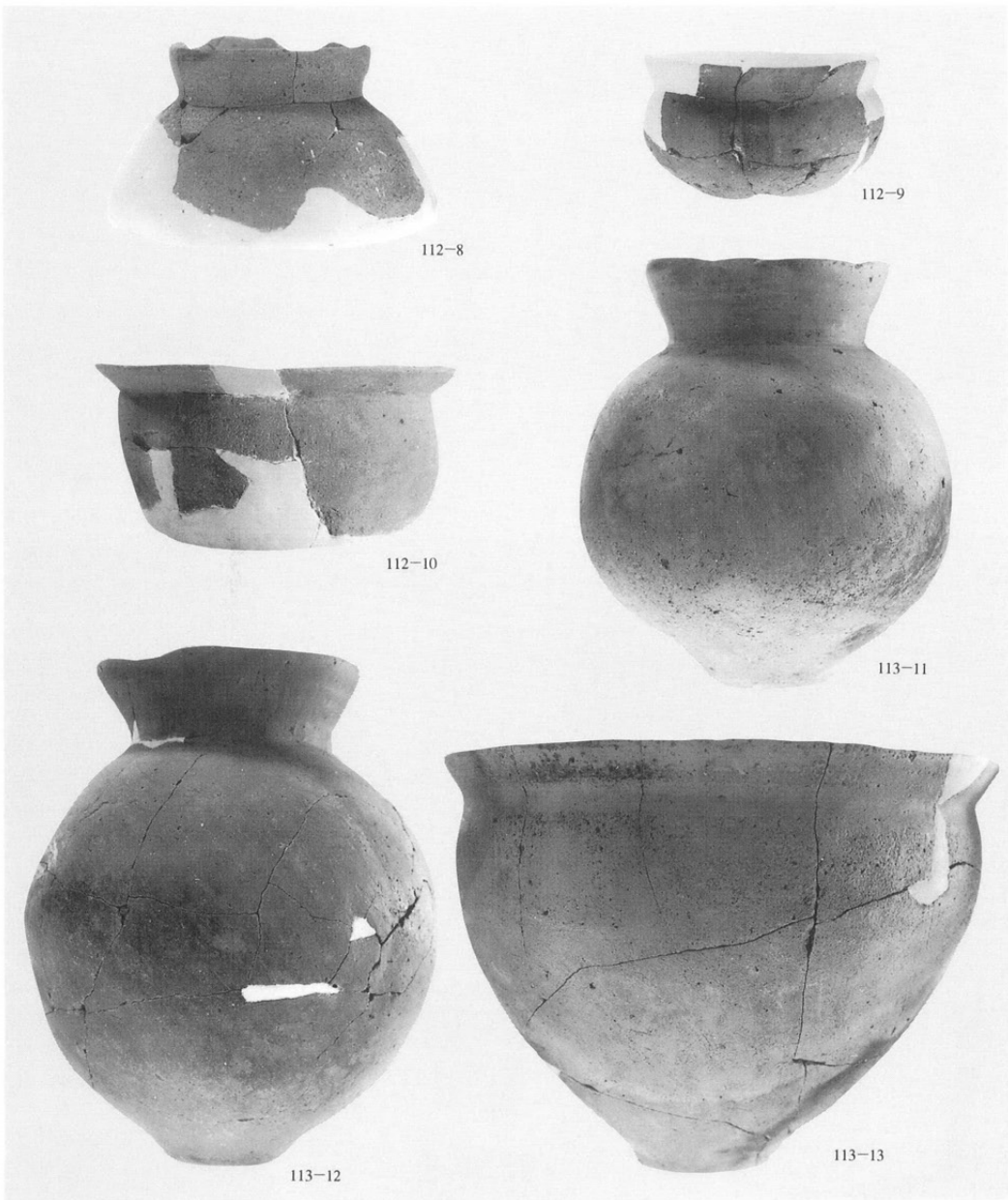
写291 H 3号住居址出土遺物



写292 H 4号住居址出土遺物



写293 H 6号住居址出土遺物 (1)

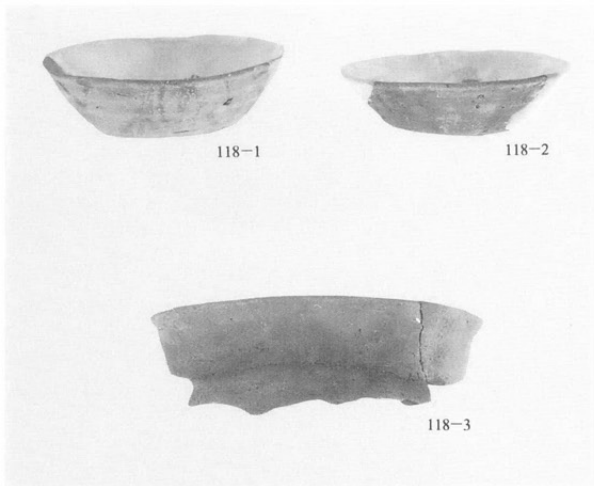


写294 H 6 号住居址出土遺物 (2)

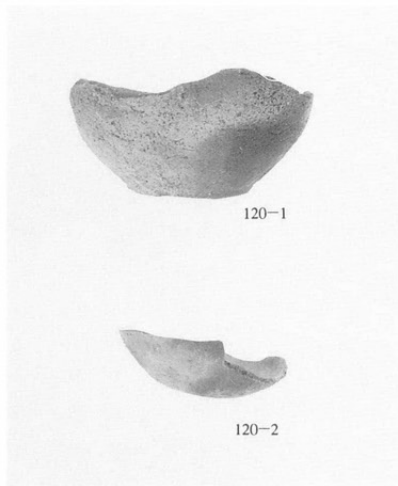


写295 H 8 号住居址出土遺物

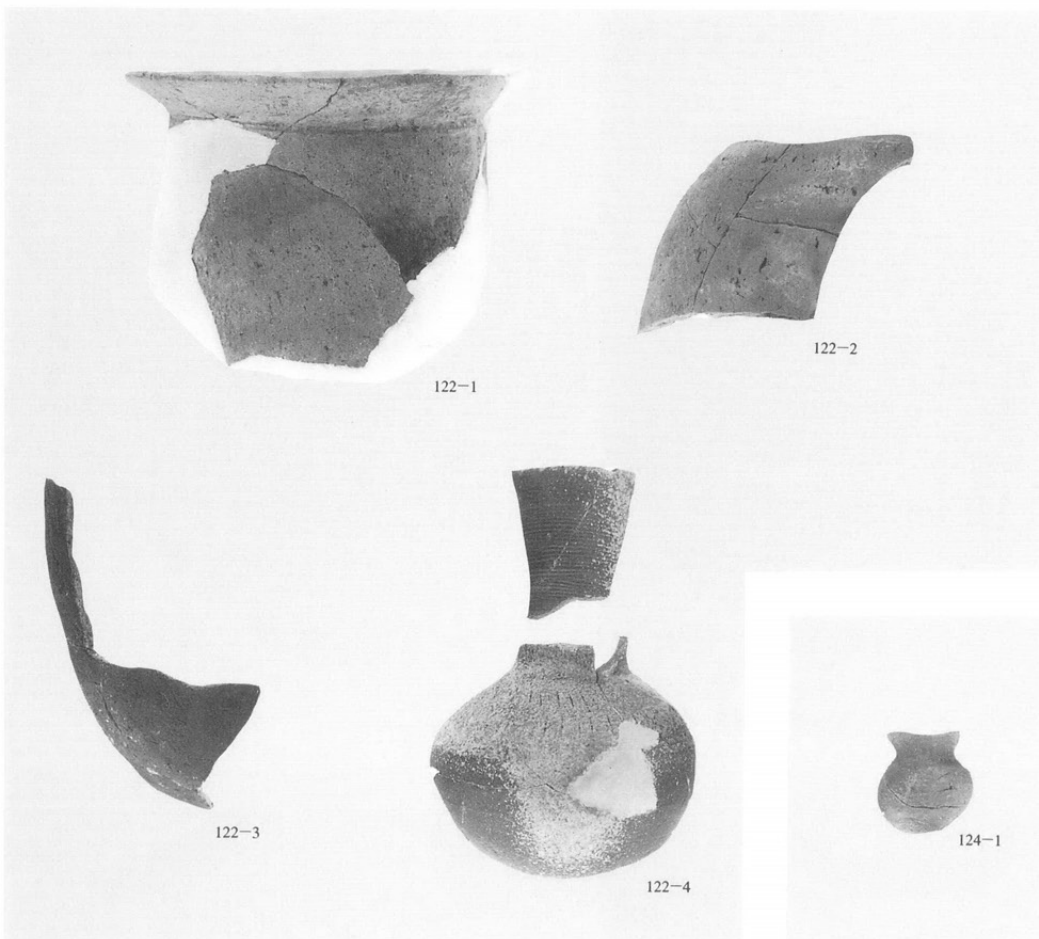




写296 H9号住居址出土遺物

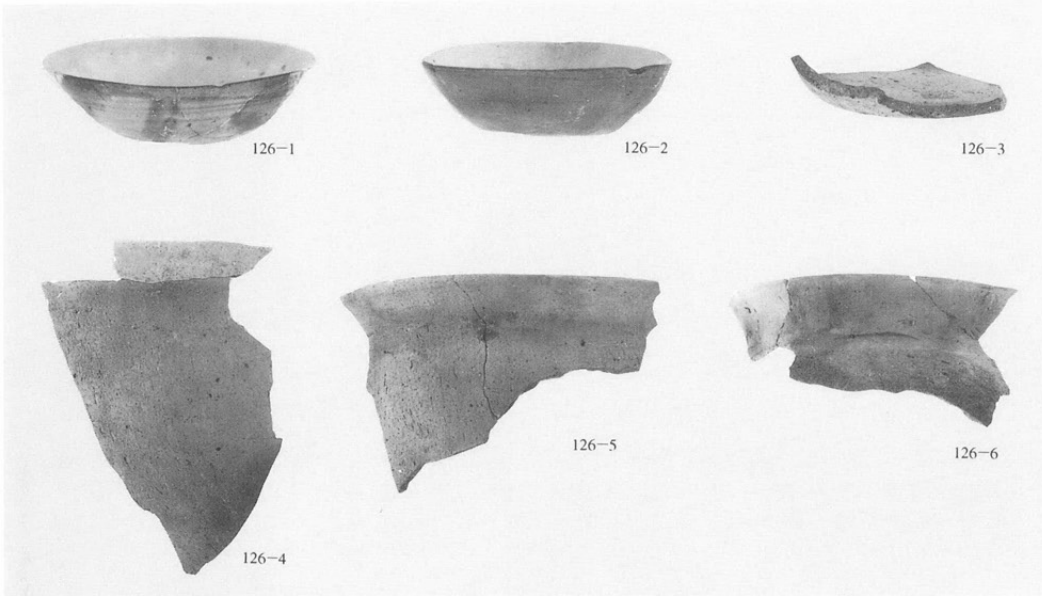


写297 H11号住居址出土遺物

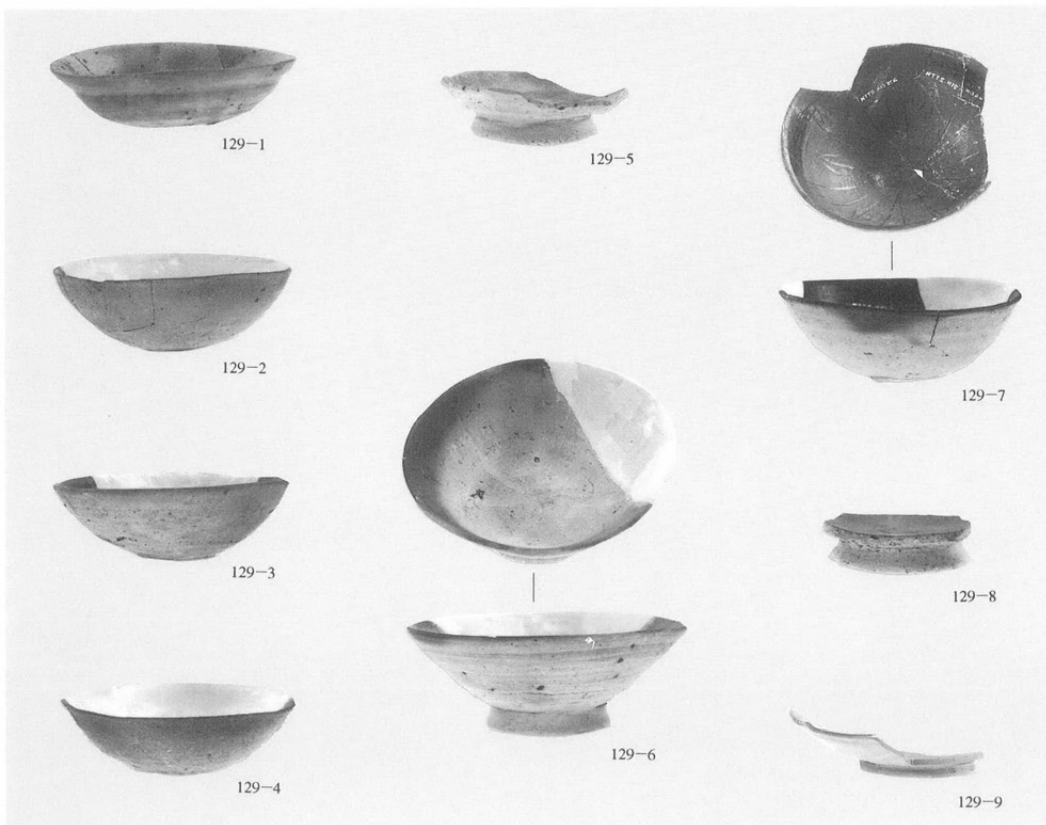


写298 H12号住居址出土遺物

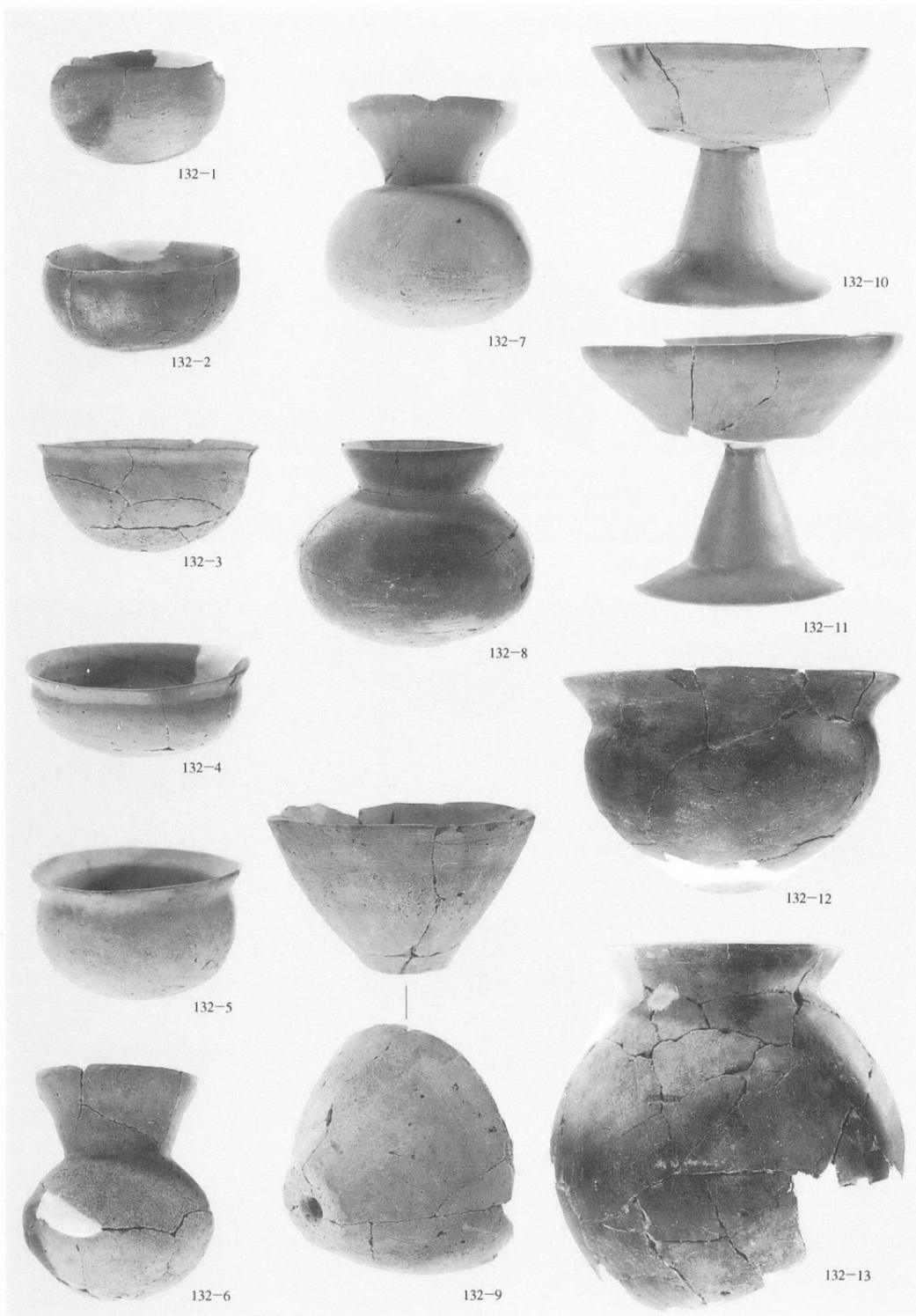
写299 H13号住居址出土遺物



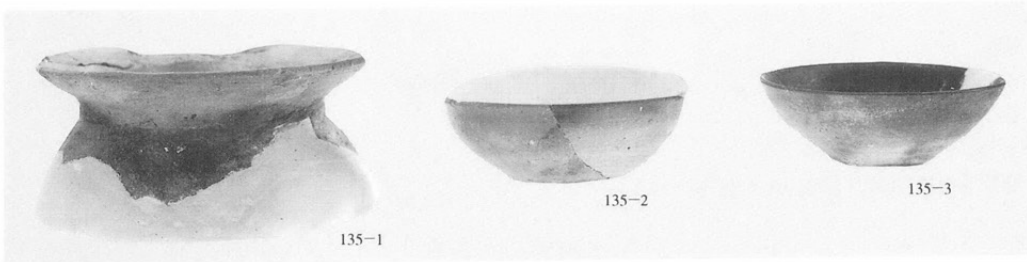
写300 H14号住居址出土遺物



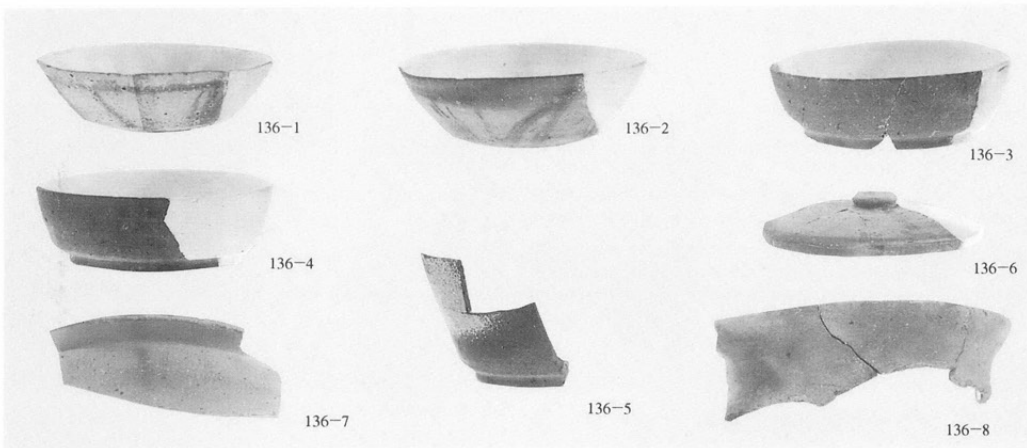
写301 H15号住居址出土遺物



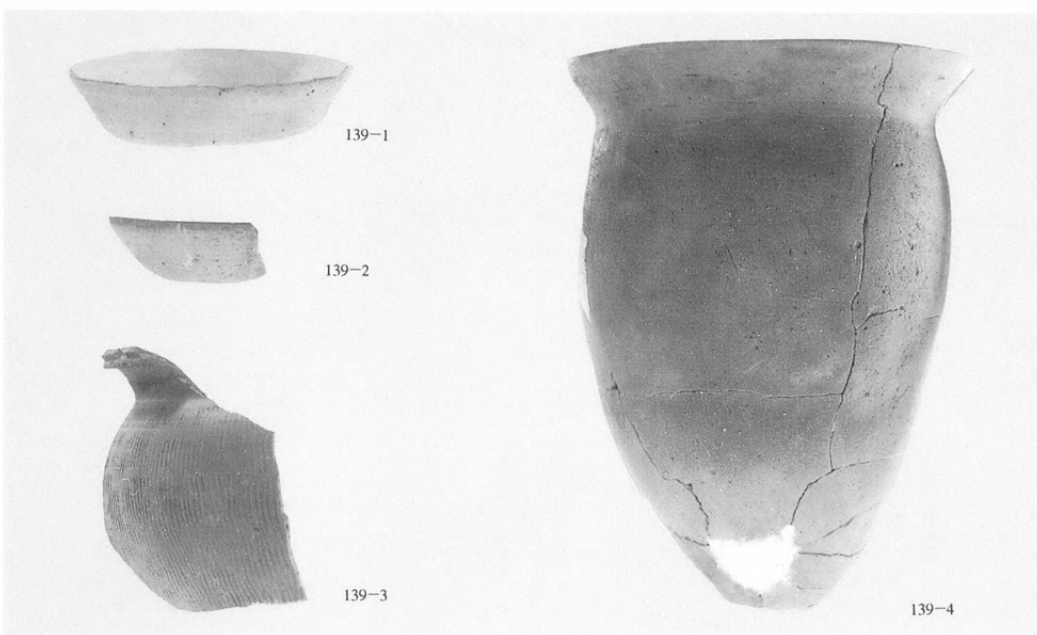
写302 H16号住居址出土遺物



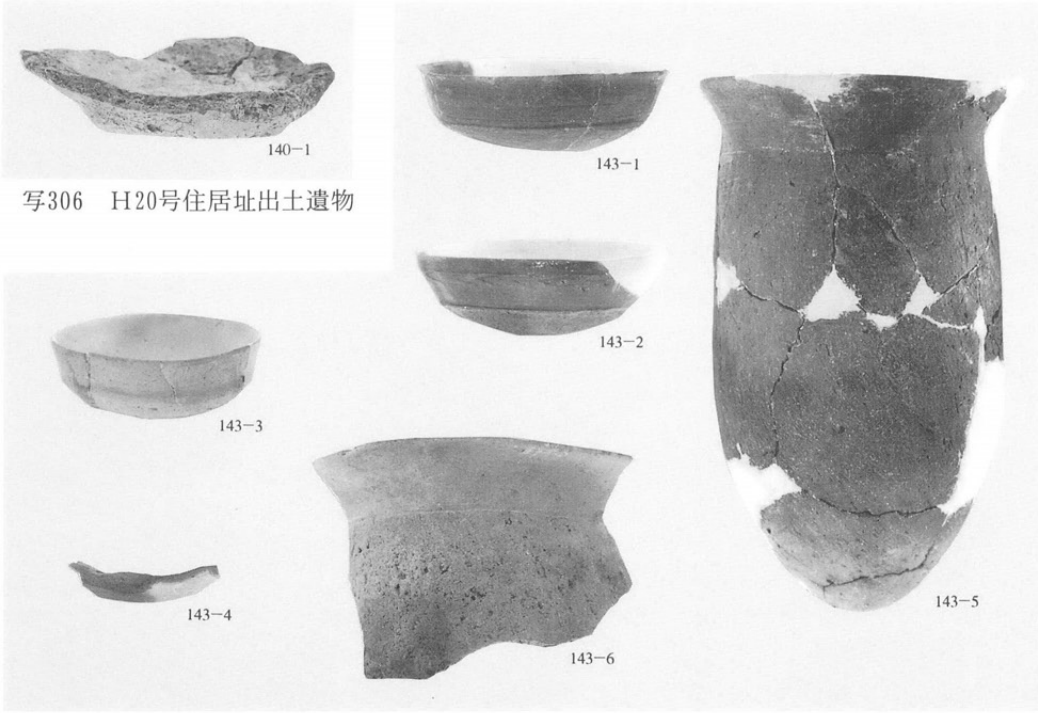
写303 H17号住居址出土遺物



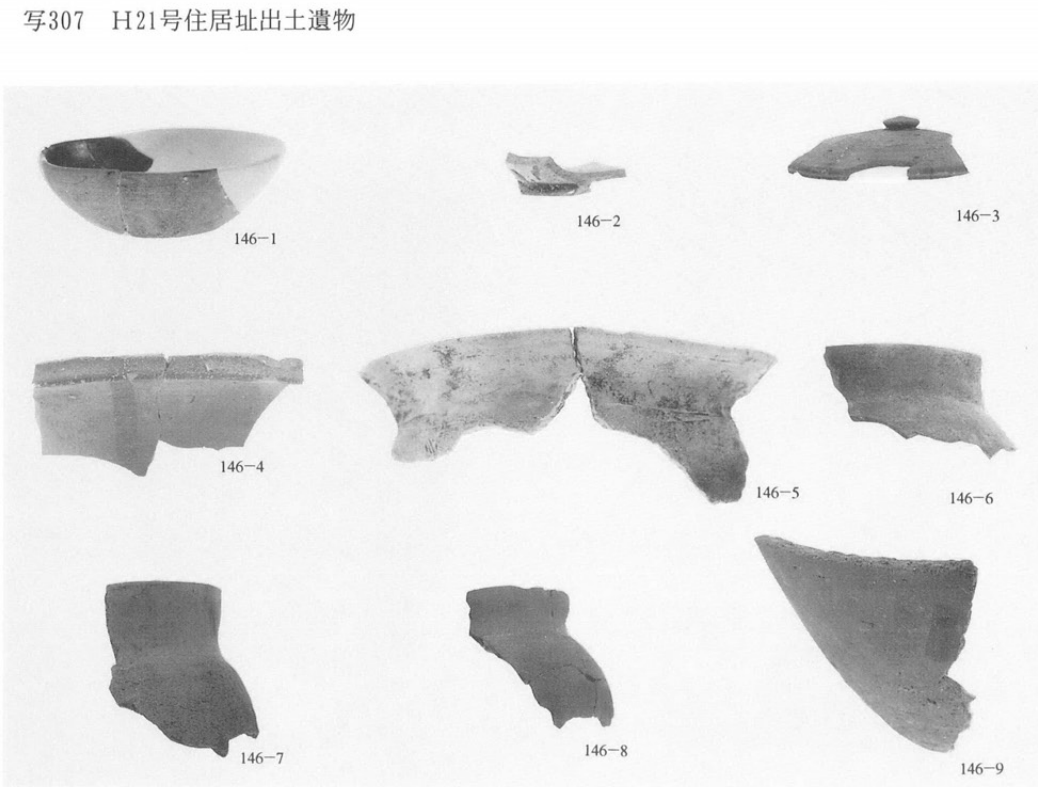
写304 H18号住居址出土遺物



写305 H19号住居址出土遺物



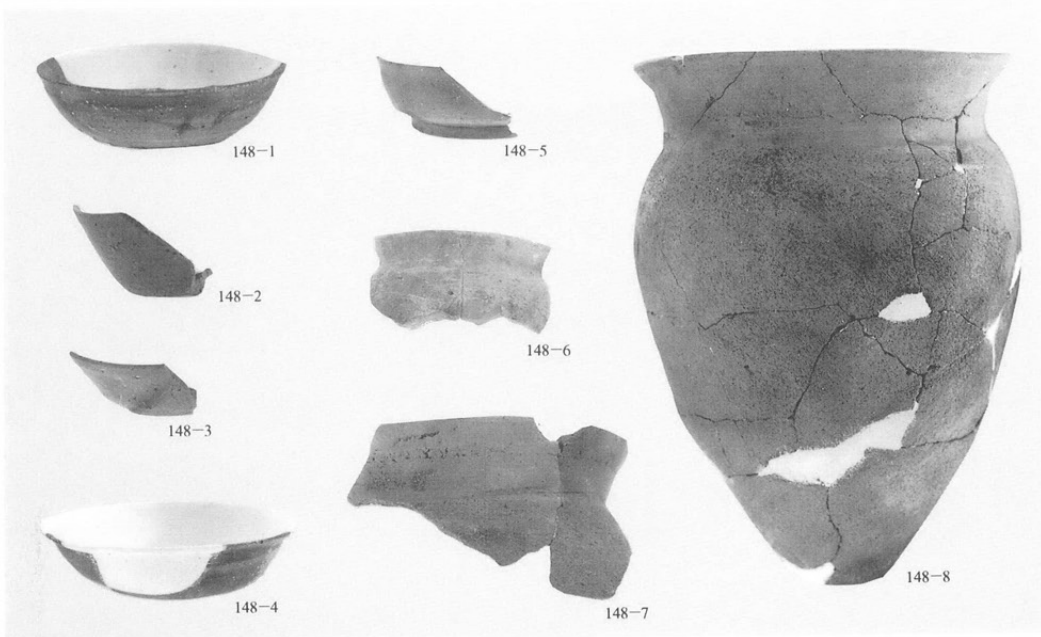
写306 H20号住居址出土遺物



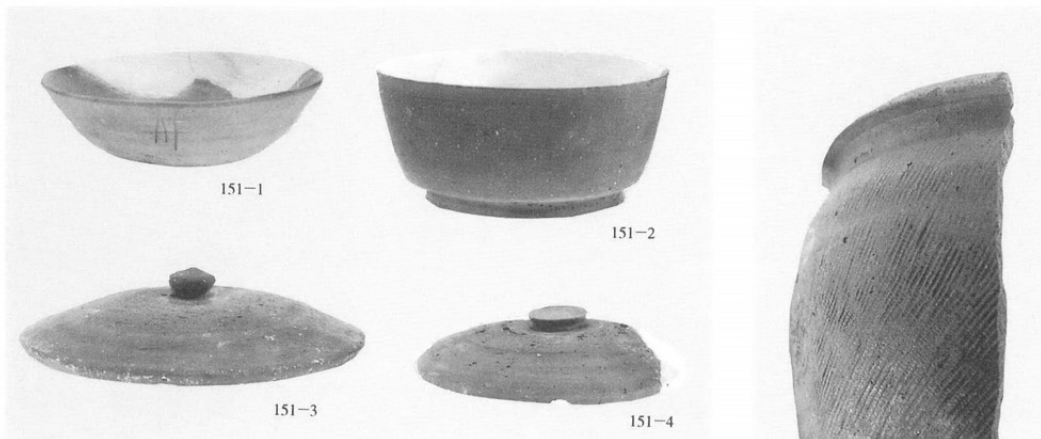
写307 H21号住居址出土遺物



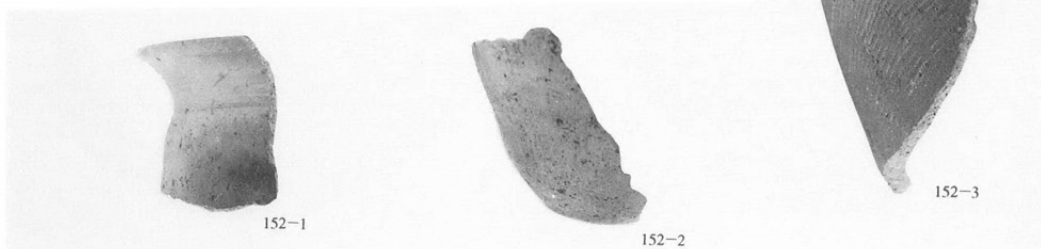
写308 H22号住居址出土遺物



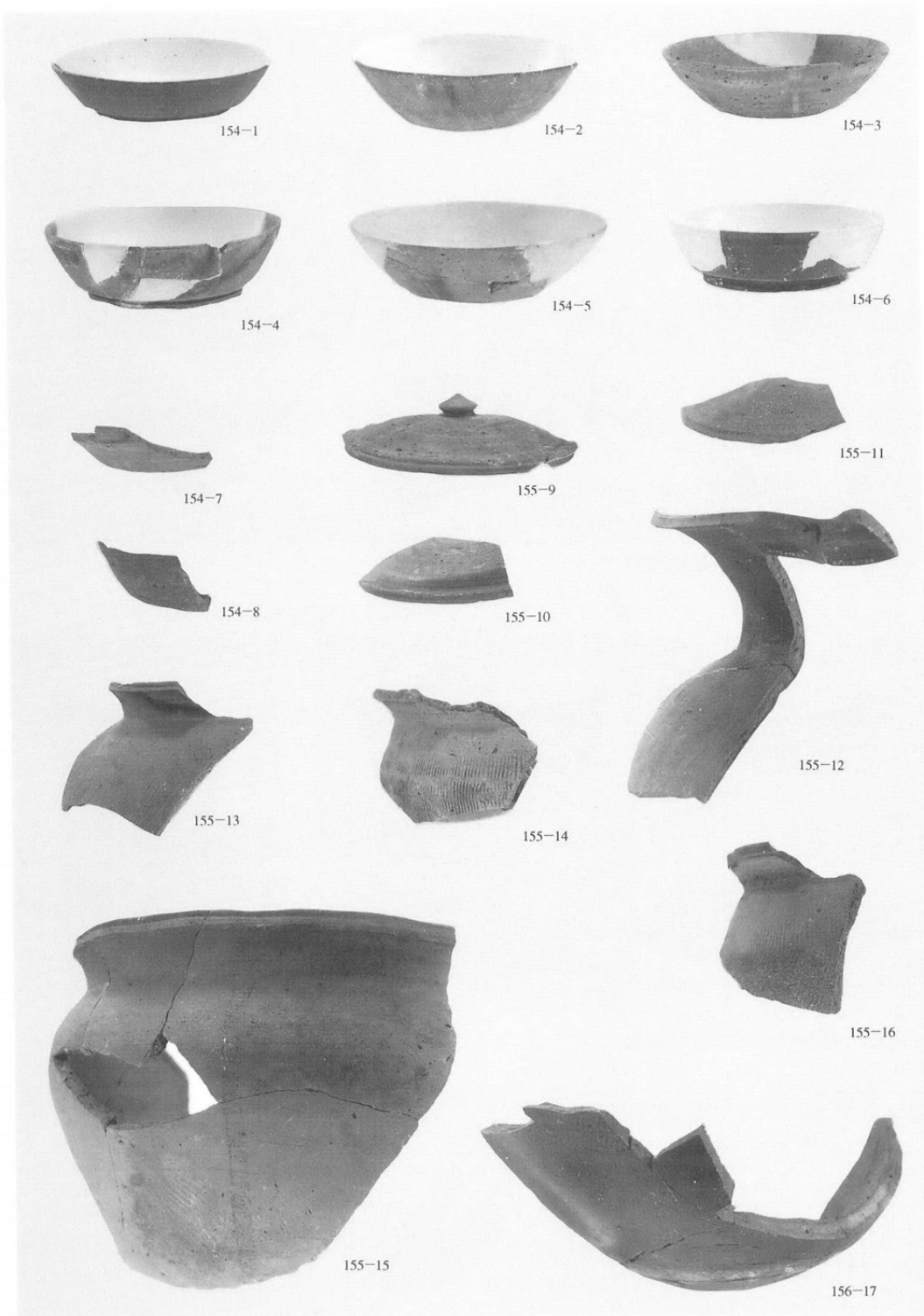
写309 H23号住居址出土遺物



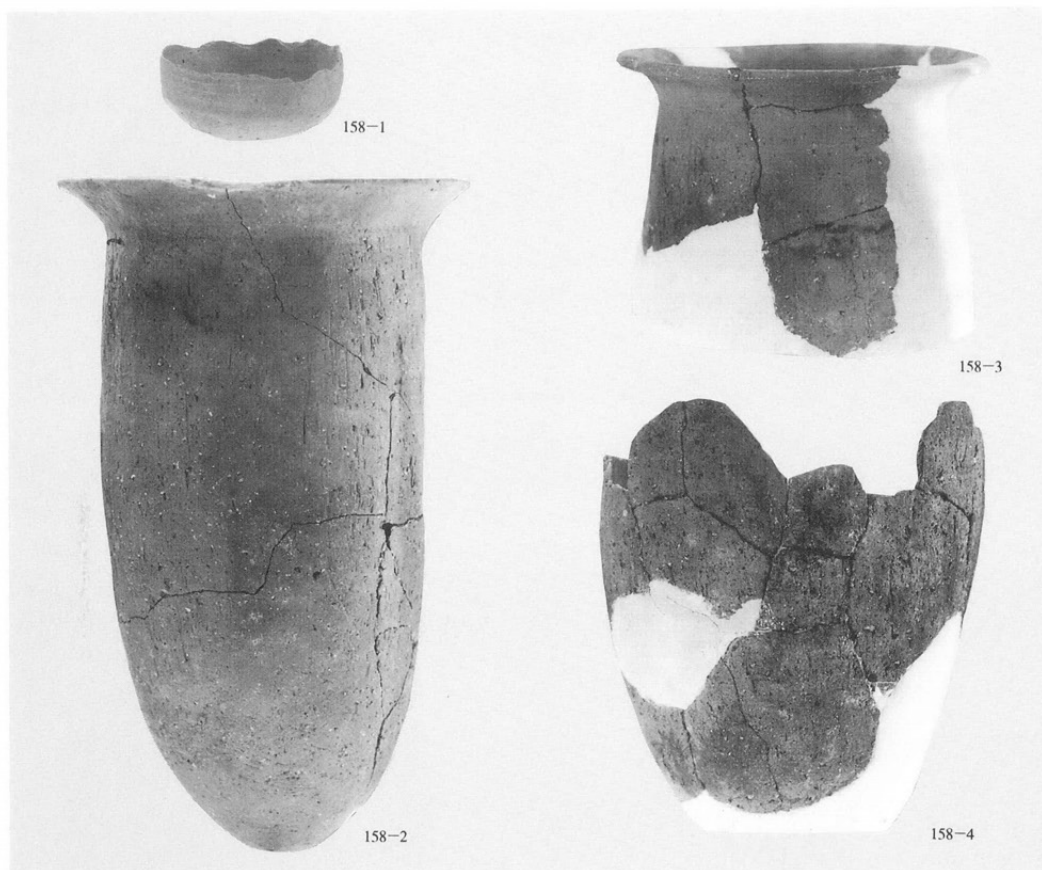
写310 H24号住居址出土遺物



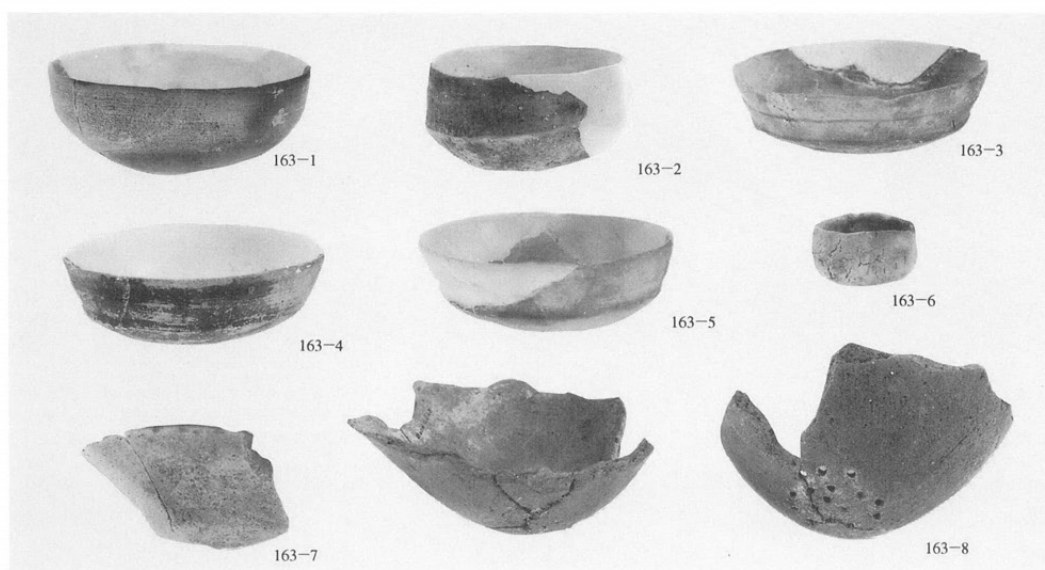
写311 H25号住居址出土遺物



写312 H26号住居址出土遺物

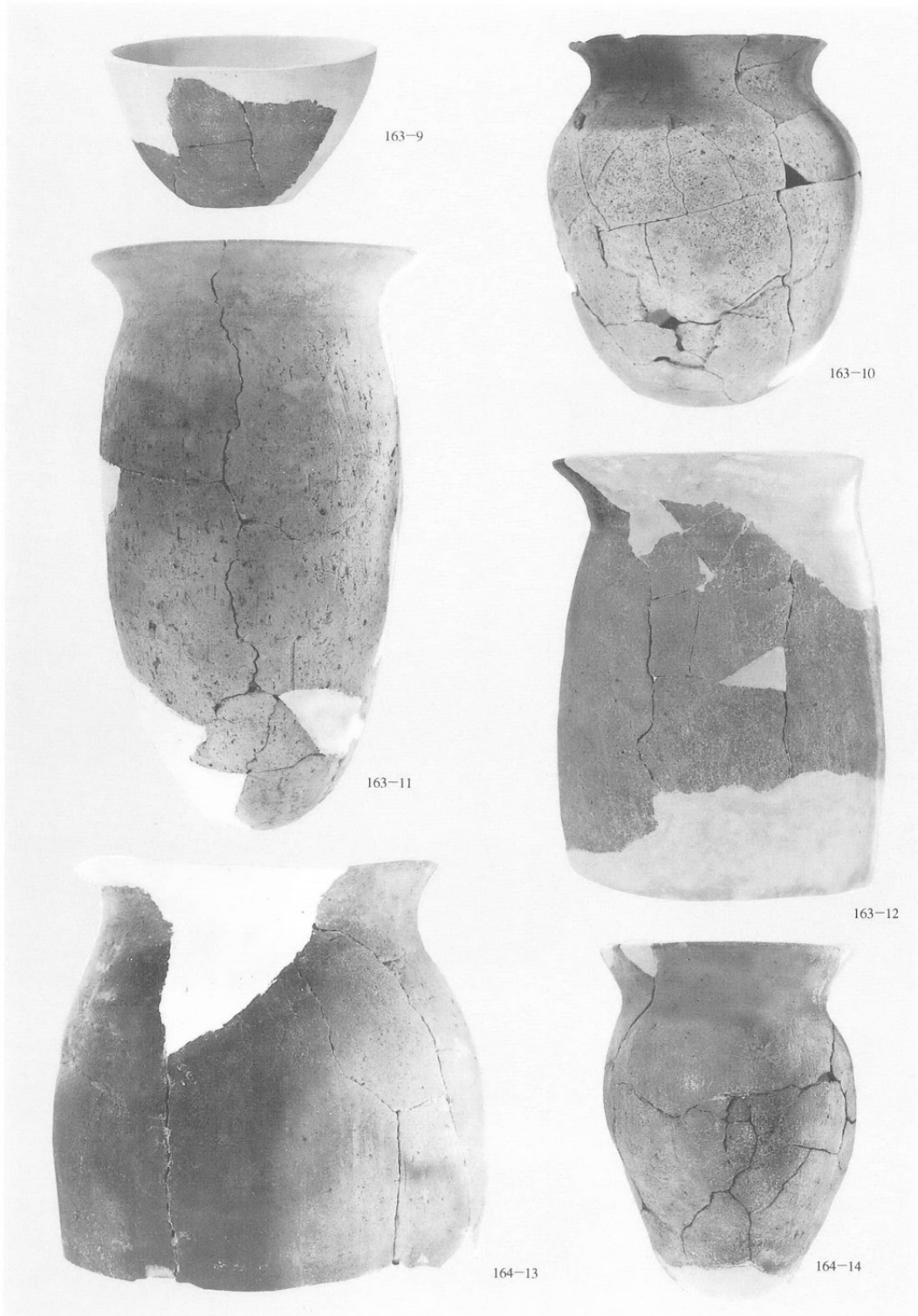


写313 H27号住居址出土遺物

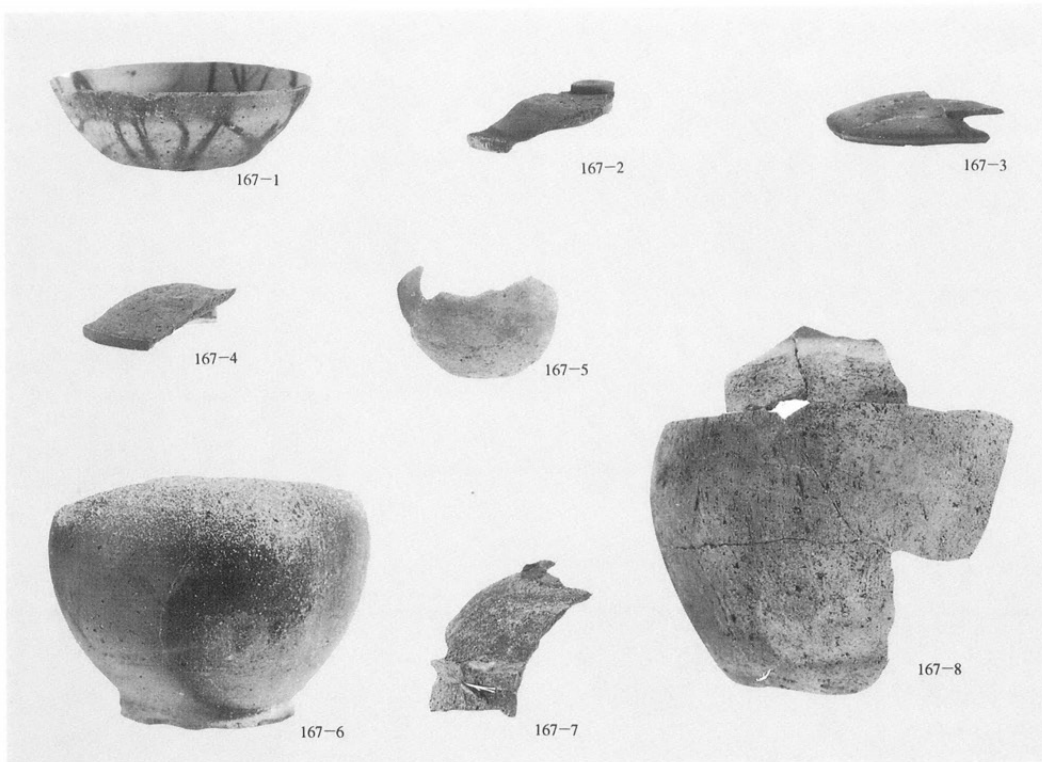


写314 H29号住居址出土遺物 (1)





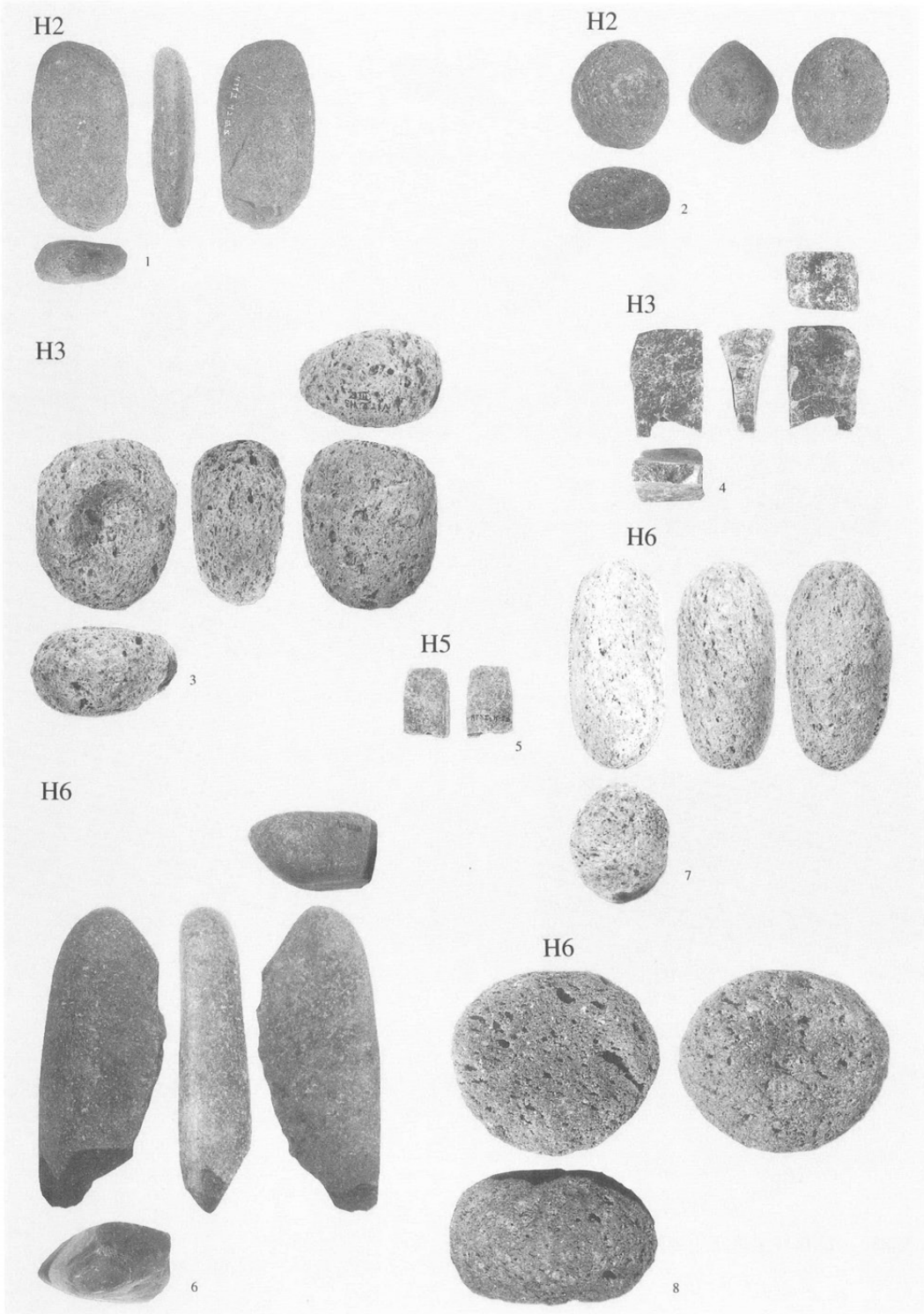
写315 H29号住居址出土遺物(2)



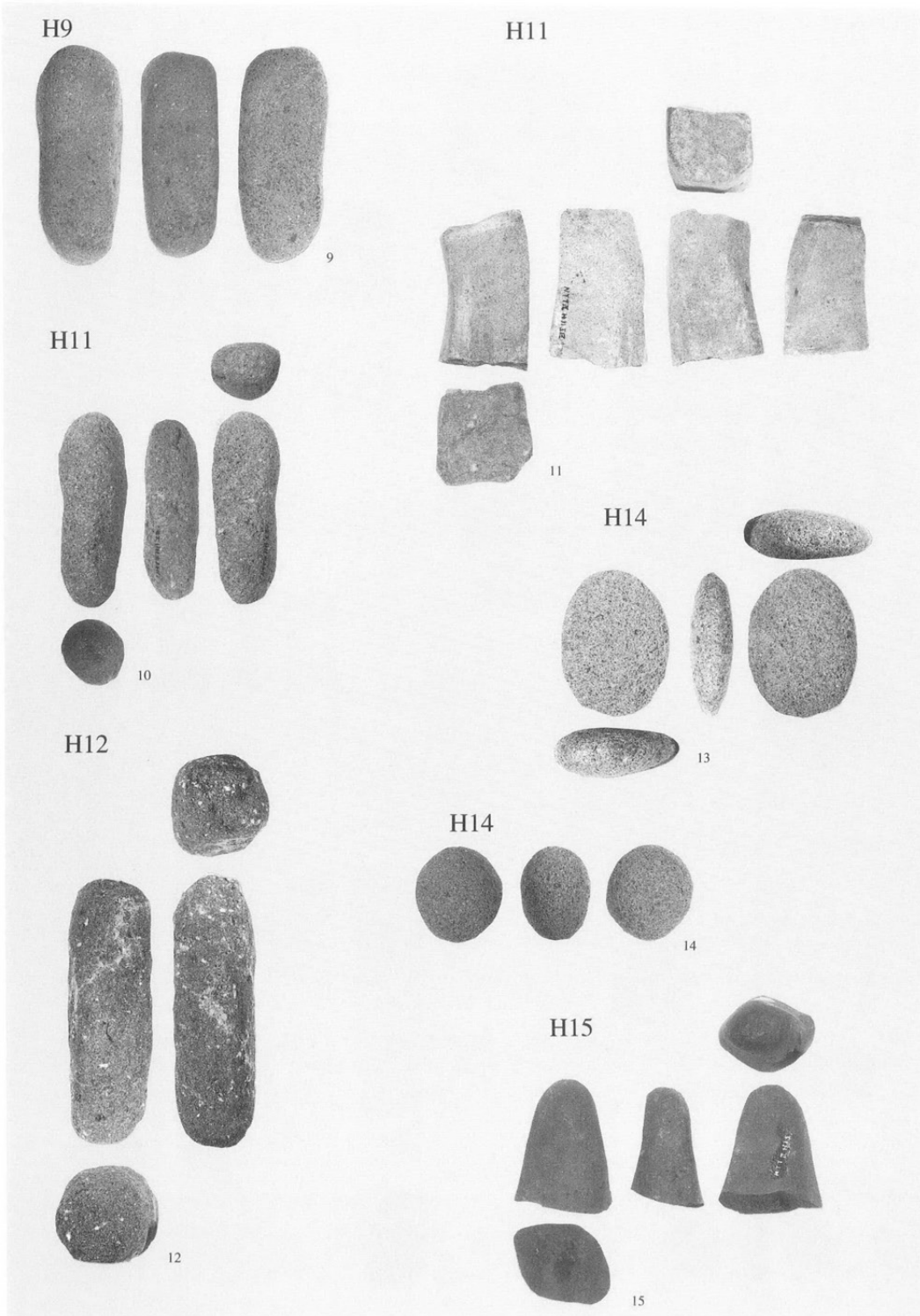
写316 H30号住居址出土遺物



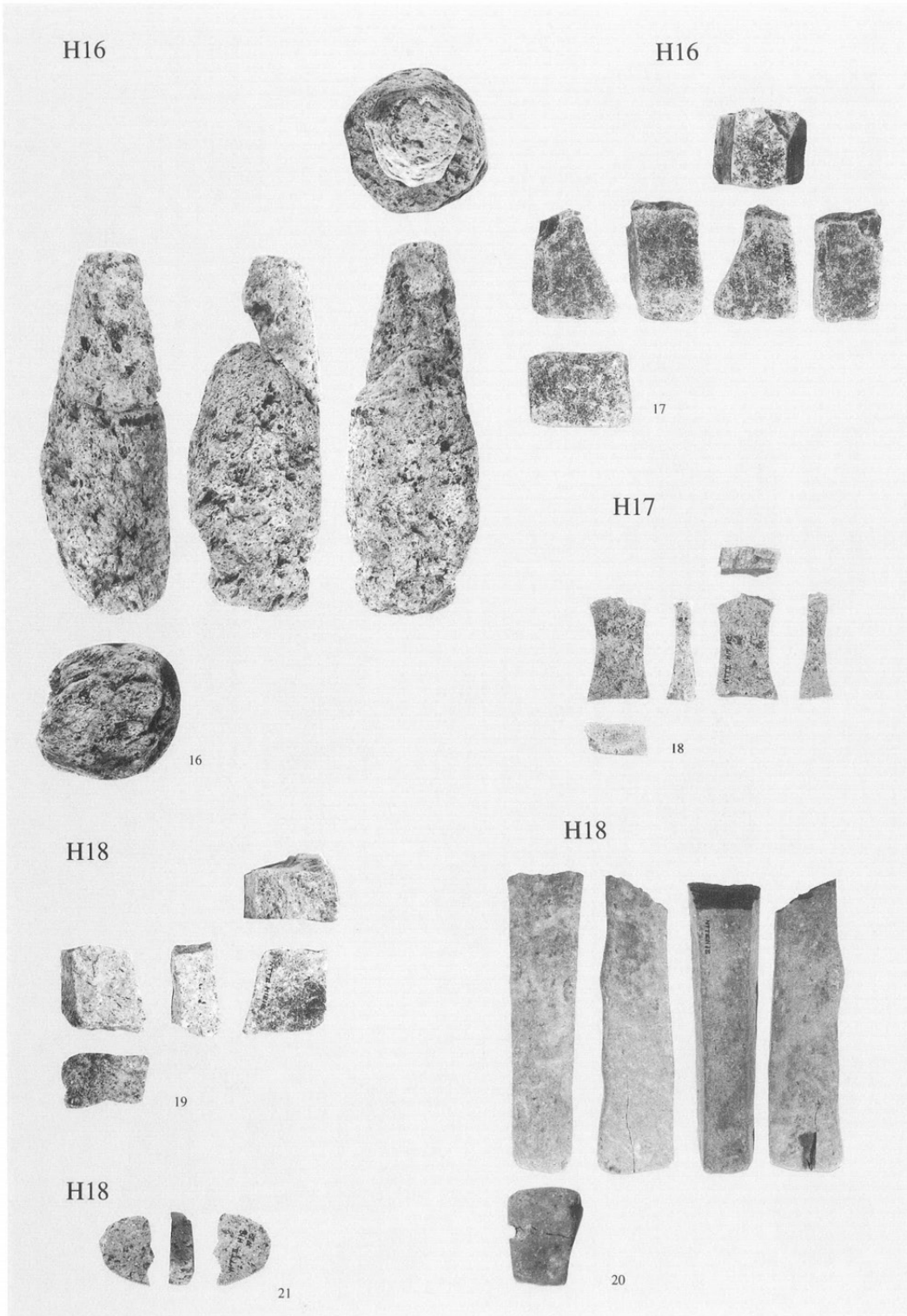
写317 D6号土坑出土遺物



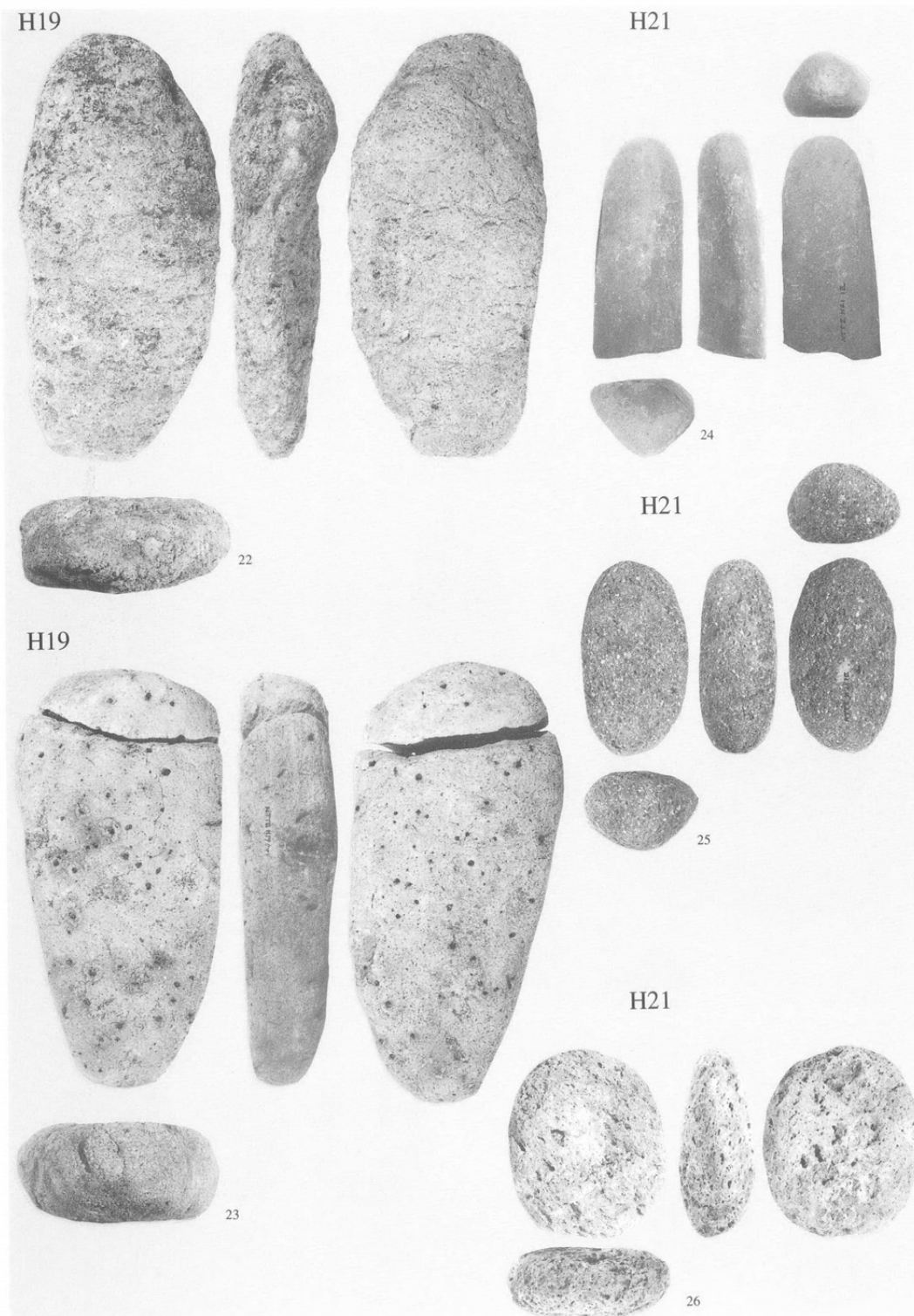
写318 仲田遺跡出土石製品(1) 表-P178



写319 仲田遺跡出土石製品(2) 表-P178



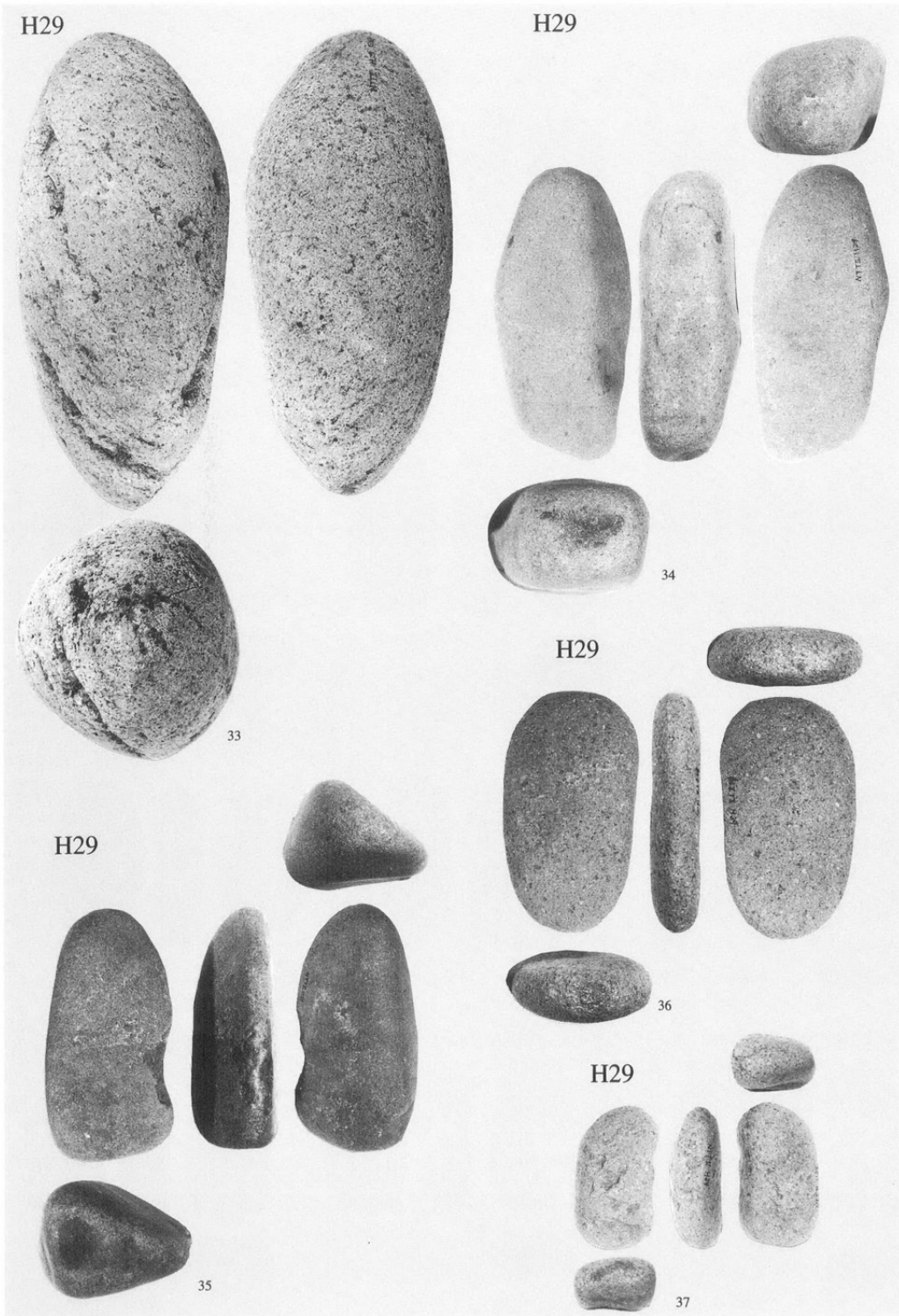
写320 仲田遺跡出土石製品 (3) 表-P178



写321 仲田遺跡出土石製品（4） 表-P178

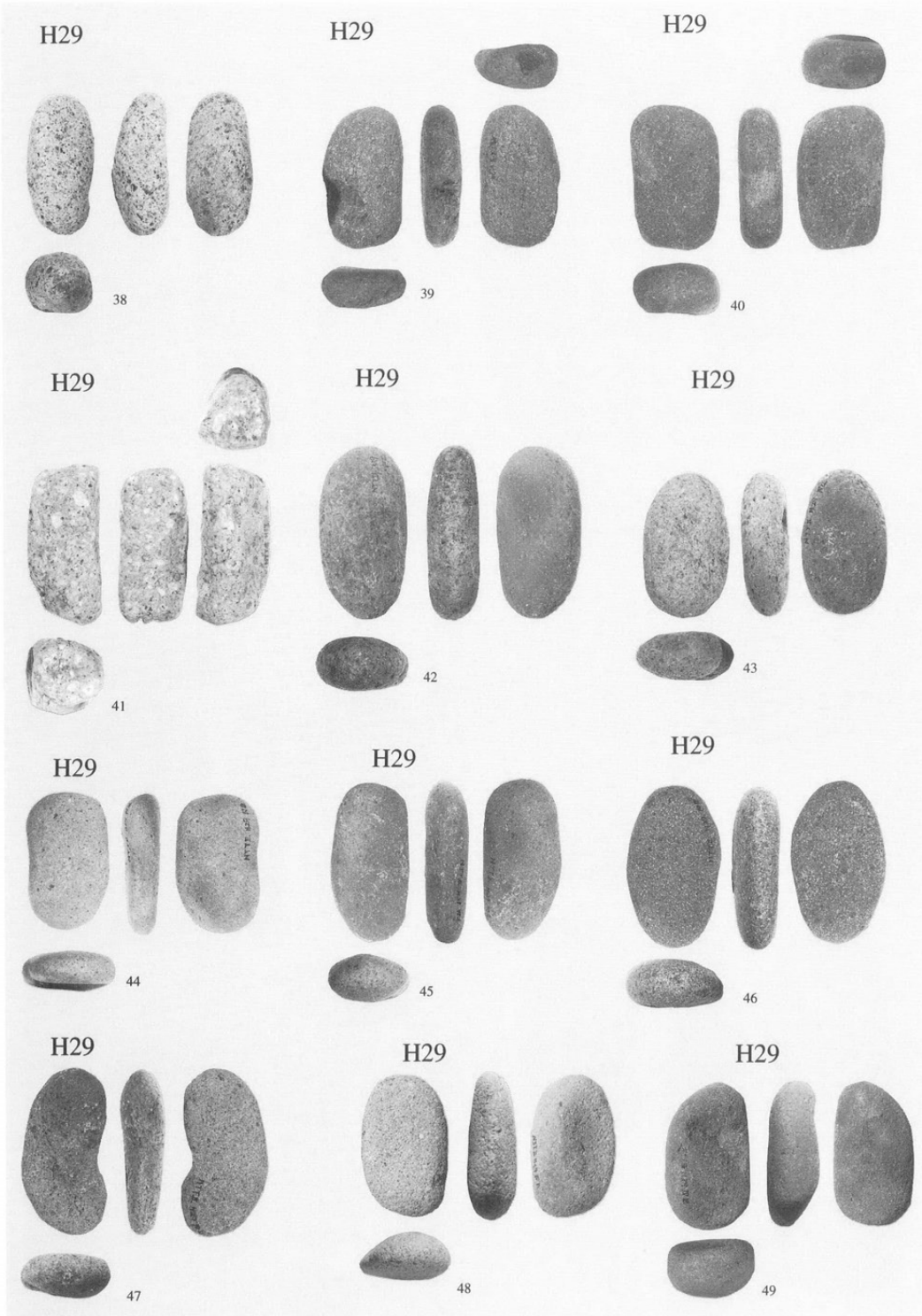


写322 仲田遺跡出土石製品 (5) 表-P178



写323 仲田遺跡出土石製品（6） 表-P178





写324 仲田遺跡出土石製品（7） 表-P178



写325 仲田遺跡出土石製品（8） 表-P178